

2 0 2 4年度
事業報告書

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2024年度 事業報告書 目次

2024年度事業報告	…	1
2024年度事業成績報告	…	6
聖隷三方原病院	…	8
聖隷おおぞら療育センター	…	11
三方原ベテルホーム	…	13
聖隷浜松病院	…	15
聖隷淡路病院	…	18
聖隷横浜病院	…	20
聖隷佐倉市民病院	…	22
浜松市リハビリテーション病院	…	24
聖隷袋井市民病院	…	26
＜保健事業部＞ 聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック 聖隷予防検診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka 聖隷静岡健診クリニック 地域・企業健診センター	…	28
高齢者公益事業部	…	32
浜名湖エデンの園	…	34
宝塚エデンの園	…	36
松山エデンの園	…	38
油壺エデンの園	…	40
浦安エデンの園	…	42
横浜エデンの園	…	44
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞ 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢	…	46
奈良ニッセイエデンの園	…	50
松戸ニッセイエデンの園	…	57
明日見らいふ南大沢	…	59
在宅・福祉静岡ブロック		61
＜和合せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みんとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	…	63
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	…	67
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	…	69
聖隷コミュニティケアセンター	…	71

【 対応する拠点区分（会計） 】

聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院
聖隷淡路病院
聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院
保健事業部 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka
高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 入園金会計 宝塚エデンの園 入園金会計 松山エデンの園 入園金会計 油壺エデンの園 入園金会計 浦安エデンの園 入園金会計 横浜エデンの園 入園金会計 藤沢エデンの園一番館 入園金会計 藤沢エデンの園二番館 入園金会計
浜名湖エデンの園 施設有料 浜名湖エデンの園 施設診療
宝塚エデンの園 施設有料 宝塚エデンの園 施設診療
松山エデンの園 施設有料
油壺エデンの園 施設有料 油壺エデンの園 施設診療
浦安エデンの園 施設有料
横浜エデンの園 施設有料
藤沢愛光園 藤沢エデンの園一番館 施設有料 藤沢エデンの園二番館 施設有料
－
－
高齢者公益事業部
和合せいれいの里（介護） 和合せいれいの里（児童） 和合せいれいの里（障害）
聖隷ケアセンター初生
聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業（公益）
聖隷コミュニティケアセンター

2024年度 事業報告書 目次

＜聖隷厚生園信生＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	… 73	聖隷厚生園信生寮
＜聖隷厚生園讃栄＞ 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ	… 76	聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園障害在宅事業（浜松）
聖隷厚生園ナルド工房	… 78	聖隷厚生園ナルド工房
＜浜松学園＞ 聖隷チャレンジ工房浜松学園 聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート	… 80	浜松学園
もくせいの里	… 83	もくせいの里
＜いなさ愛光園＞ 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	… 85	いなさ愛光園
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷リハビリプラザいなさ	… 87	聖隷リハビリプラザいなさ 引佐地区在宅複合事業
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 89	聖隷デイサービスセンター三方原 三方原地区在宅複合事業
＜三ヶ日地区在宅複合事業＞ 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日 聖隷ケアプランセンター三ヶ日	… 91	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日
浜松市生活自立相談支援センターつながり	… 93	浜松市生活自立相談支援センターつながり
＜浜北愛光園＞ 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北 障害者相談支援事業所浜松東	… 95	浜北愛光園
＜森町愛光園＞ 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 97	森町愛光園（介護） 森町愛光園（障害児者）
＜聖隷びゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター 磐田市地域活動支援センター	… 99	聖隷びゅあセンター磐田
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 102	浅田地区在宅複合事業
聖隷こども園わかば	… 104	聖隷こども園わかば
聖隷こども園桜ヶ丘	… 106	聖隷こども園桜ヶ丘
聖隷こども園ひかりの子	… 108	聖隷こども園ひかりの子
聖隷こども園めぐみ	… 110	聖隷こども園めぐみ
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 112	聖隷浜松病院ひばり保育園
聖隷のあ保育園	… 114	聖隷のあ保育園
こうのとり保育園	… 116	こうのとり保育園
聖隷こども園こうのとり東	… 118	聖隷こども園こうのとり東
聖隷こども園こうのとり豊田	… 120	聖隷こども園こうのとり豊田
＜聖隷こうのとり富丘＞ 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	… 122	聖隷このとり富丘

2024年度 事業報告書 目次

在宅・福祉関東ブロック	124
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター＞	
浦安市特別養護老人ホーム	… 126
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター	
浦安市ケアハウス	
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	
浦安愛光園	… 129
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	
浦安ベテルホーム	… 131
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 133
浦安市高洲地域包括支援センター	… 135
＜松戸愛光園＞	
特別養護老人ホーム松戸愛光園	
松戸愛光園デイサービスセンター	… 136
聖隷ケアプランセンター松戸	
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	
＜横須賀愛光園＞	
特別養護老人ホーム横須賀愛光園	
横須賀愛光園デイサービスセンター	… 138
西第二地域包括支援センター	
聖隷ヘルパーステーション横須賀	
聖隷訪問看護ステーション横須賀	
聖隷ケアプランセンター横須賀	
聖隷看護小規模多機能横須賀	
在宅・福祉関西ブロック	140
＜宝塚せいれいの里＞	
特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園	
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	… 142
聖隷ケアプランセンターすみれ	
宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	
ケアハウス宝塚	… 145
結いホーム宝塚	… 147
宝塚栄光園	… 149
＜聖隷ケアセンター宝塚＞	
聖隷ヘルパーステーション宝塚	
聖隷逆瀬川デイサービスセンター	… 151
聖隷ケアプランセンター宝塚	
聖隷訪問看護ステーション宝塚	
逆瀬川地域包括支援センター	
聖隷逆瀬台デイサービスセンター	… 155
聖隷デイサービスセンターあゆむ	
聖隷デイサービスセンター結い	… 157
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 158
＜花屋敷せいれいの里＞	
特別養護老人ホーム花屋敷栄光園	
花屋敷デイサービスセンター	… 159
花屋敷地域包括支援センター	
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	
聖隷訪問看護ステーション山本	
聖隷ケアプランセンター花屋敷	
ケアハウス花屋敷	… 161
＜北神戸地区在宅複合事業＞	
聖隷訪問看護ステーション北神戸	… 163
聖隷ケアプランセンター北神戸	
＜聖隷カーネーションホーム＞	
特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム	
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター	… 164
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ	
聖隷在宅介護支援センター淡路	
＜淡路栄光園＞	
特別養護老人ホーム淡路栄光園	… 166
デイサービスセンター淡路	
＜聖隷ケアセンター津名＞	
聖隷訪問看護ステーション淡路	
聖隷ケアプランセンター淡路	… 168
聖隷ヘルパーステーション淡路	
聖隷ライフサポート津名	
聖隷こども園夢舞台	… 170
野上あゆみ保育園	… 172
野上児童館	… 174
逆瀬川あゆみ保育園	… 176
御殿山あゆみ保育園	… 178
御殿山児童館	… 180

浦安市特別養護老人ホーム（特養）
浦安市特別養護老人ホーム（短期入所）
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市ケアハウス
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安愛光園
浦安ベテルホーム
聖隷訪問看護ステーション浦安
浦安市高洲地域包括支援センター
松戸愛光園
横須賀愛光園
宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚
宝塚栄光園
宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福）
宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター結い
聖隷コミュニティケアセンター宝塚
花屋敷栄光園
ケアハウス花屋敷
北神戸地区在宅複合事業（公益）
聖隷カーネーションホーム
淡路栄光園
淡路地区在宅複合事業（社福）
淡路地区在宅複合事業（公益）
聖隷こども園夢舞台
野上あゆみ保育園
逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園

2024年度 事業報告書 目次

在宅・福祉奄美ブロック	182
＜奄美佳南園＞	
特別養護老人ホーム奄美佳南園	
奄美佳南園デイサービスセンター	
奄美佳南園在宅介護支援センター	… 184
奄美佳南園ホームヘルプ事業所	
奄美佳南園訪問入浴事業所	
聖隸チャレンジ工房カナン	
春日保育園	… 187
のぞみ園	… 189
聖隸かがやき	… 191
法人本部	… 193
法人の概要	… 198
実施する事業の概要	… 199
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 211
附属明細書	… 212

奄美佳南園
春日保育園
のぞみ園
聖隸かがやき
法人本部

2024 年度 事業報告

理事長 青木善治

2024 年元旦に発生した能登半島地震の災害支援を継続する中、2024 年度はスタートした。結果として派遣した支援団体は DMAT 等計 10 団体、出動職員の実人数は 69 名、支援した延べ日数は 325 日となった。全国の施設から派遣を行ったが、派遣された職員だけでなく、職場に残り、通常の業務を支えた職員の理解により、法人全体で継続的な災害支援ができたことに深く感謝したい。

事業面では 2024 年度は、6 年ぶりとなる医療・介護・障害福祉のトリプル報酬改定が実施された。改定内容は医療（+0.88%）、介護（+1.59%）、障害（+1.12%）と微増ではあったが、一方で改定内容を大きく上回る（人事院勧告に伴う）大幅な人件費の上昇、円安並びに世界的な物価高騰により、食材費、委託費、水光熱費などが上昇し、事業環境が急激に変化した年度となった。また、報酬改定についても速やかな加算取得等、報酬改定に迅速に対応することができた。事業別ではエデン事業と、在宅・福祉事業において、堅調な成績を残すことができた。一方、医療事業においては、コロナ補助金が終了し、さらには長引く受診控えの影響で、大変厳しい経営状況となった。保健事業もいまだ回復途上にあり、法人全体でも黒字は維持できたものの非常に厳しい結果となった。

医療事業では厳しい事業環境にあっても最高の質の追求を行い、聖隷三方原病院では静岡県で初となる手術支援ロボット「Mako（メイコー）システム」を導入し、これにより人工股関節や膝関節の手術において、更に安全かつ正確な手術が可能となった。また、聖隷浜松病院では静岡県内で唯一となる JCI の認証を 2012 年から 5 回目の取得をし、世界水準の医療体制を継続した。聖隷淡路病院では高齢者の救急医療を充実する為 2024 年度に新設された地域包括医療病床を兵庫県で 5 番目の取得を行った。横浜エデンの園では、聖隷横浜病院泌尿器科や、聖隷三方原病院皮膚科とのオンライン診療が開始され、ご入居者の移動負担を軽減し、診療の拡充が始まった。

4 月からは浜松市より「浜松市医療的ケア児等相談支援センター」を、浜松市発達医療総合福祉センター（はままつ友愛のさと）を運営する浜松市社会福祉事業団と共同で受託した。増加している医療的ケア児者の地域生活を支援する為、相談支援機関の中核的機関として、適切な支援が受けられるよう関連機関につなげる。

5 月には法人内で一番歴史ある特別養護老人ホーム奄美佳南園（1974 年）の開設 50 周年記念式典が行われ、多くの関係者にご参加いただいた。2 代目園長加納八輝氏に特別講演いただき、開設時のご苦労や理念に基づく実践をお話しいただいた。

聖隷 DX も継続して推進した。介護施設で導入してきた見守りシステムは、直営施設では 100% を達成し、聖隷アプリにおいても登録者数は 27,800 人を超え、更なる利便を追究する。法人全体で業務の効率化や、新たな価値を生み出す横断的な DX として、電子契約や AI 議事録の導入準備を行った。今後は市場に多くのシステムが販売されるようになるため、費用対効果の評価をしっかりと行い、生産性の向上を徹底的に追求する。また官庁、大企業、病院でも、サイバー攻撃が頻発しており、更なるセキュリティ強化の為、新

たに各端末等全体を監視し、感染を即座に特定、対応できるセキュリティサービスも導入した。これにより安全で信頼性の高い対策を確立する。

7 月には、近年の法規制の強化、企業等による不祥事の多発、社会の倫理観の向上により、コンプライアンス経営の重要性が一層増す中、法人本部では健全に透明性ある事業を継続・発展させるために法務室を設置し、まずは内部通報窓口の強化、職員の啓発活動を実施する。

2030 年の創立 100 周年に向けて 2022 年度より開始した「聖隷みらい創造プロジェクト」では、聖隷のあるべき姿を改めて探求し、聖隷の原点である基本理念を、職員がどのようにとらえているのか調査（理念浸透調査）を初めて行った。聖隷の基本理念の理解率は 64% と思っていたより低く、年代や職種、地域等によって多くの課題が発見できた。今後は職員一人ひとりが原点に立ち戻り、法人に対する共感や、誇りを感じられるような活動を継続し取り組んでいきたい。

社会情勢が激しく変化する中でも、社会課題、事業課題に向き合い、質の高いサービス提供を続けることで聖隷は 94 年の歴史の中、何度も難局を乗り越えてきた。これは地域の社会のニーズに真摯に応えることと、職員一人ひとりがご利用者に向き合い、活躍を続けた結果と考える。今後も全職員が力を合わせ、理念に基づく運営を行い、課題を一つずつ解決し、安定した経営基盤づくりを推進する。

最後に地域の皆様をはじめご支援、ご指導をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

聖隷福祉事業団が事業を行う上で
根底にある考え方

使命

聖隷福祉事業団の
存在意義

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

Vision2025

2025年聖隷福祉事業団はこうなっている

地域連携体制の強化・デジタル改革・
経営基盤の安定化を実現し
未来につなげる地域共生社会をつくる

中期事業計画2021-2025

各事業中期事業計画

Vision2025へ到達するために
7つの重要課題およびテーマを
提示し5年間かけて達成を
目指す計画

事業団年度目標

各事業年度目標

事業団および
各事業の毎年度の
目標

職員行動指針

使命をもとに職員が共有し
実践する具体的な行動を示した指針

わたしたちは、ひとりひとりの命と尊厳を守ります

わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に仕え、その自立を支援します

わたしたちは、「保健・医療・福祉・介護」サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます

わたしたちは、先駆的・開拓的精神で新たなニーズの発見に努め、常に課題に挑戦します

わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りを持ち、最高の技術を提供します

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化
を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025 年、聖隷福祉事業団はこうなっている

B 重要課題

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができています。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）

D 中期事業計画 2021-2025 における 聖隷福祉事業団と SDGs の関わり

事業 組織 運営 財務



事 生活困窮者支援などが当たります。



事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。組 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。組 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくと共に女性の経営職の増加を目指します。運 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。財 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



運 医療福祉の領域での DX をはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。財 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。財 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

2024 年度 事業成績報告

常務執行役員 井上英樹

(1) 事業の経過及びその成果

2024 年度は、6 年に一度の公的報酬のトリプル改定が行われた。介護報酬は 1.59%、障害福祉サービス報酬は 1.12%の改定だったのに対し、診療報酬については 0.88%の改定にとどまり、医療事業にとっては大変厳しい経営環境となった。事業団全体の費用面においても、物価高による診療材料費、医薬品費、給食材料費等の増加に加え、最低賃金引き上げや人事院勧告プラス改定の影響により、人件費、業務委託費も大幅に増加し、事業団全体の経営を圧迫した年であった。

(2) 医療事業

聖隷三方原病院では、入院期間の適正化、緊急入院におけるユニット活用等、経営改善に取り組んだが、入院・外来共に患者数が伸びず、税引前当期活動増減差額は 2.1 億円となった。

聖隷浜松病院においては、新規がん患者受入れ、重症・中等症救急患者受け入れ等を積極的に行った。電子問診の導入を進める等、医療環境の充実にも努めたものの患者数が伸び悩み、税引前当期活動増減差額は 0.6 億円となった。

聖隷淡路病院においては、「地域包括医療病棟」の基準取得による単価増等に努めたが、結果的に税引前当期活動増減差額は▲3.6 億円となった。

聖隷横浜病院においては、病床管理センターによる入院患者確保を最優先し過去最高の入院患者数を達成し、ドック・健診事業においても受診者が増加したが、人件費はじめ費用増を賄いきれず、税引前当期活動増減差額は▲7.7 億円となった。

聖隷佐倉市民病院においては、救急、紹介、がん診療の強化に取り組み、放射線治療装置の導入に当たっては患者数増の取り組みを行ったが、患者数が伸び悩み、税引前当期活動増減差額は▲2.7 億円となった。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院では、入院・外来共に患者数が好調に推移し、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等介護保険事業も著しく利用者が伸びた。聖隷袋井市民病院では、回復期リハビリテーション施設基準の上位取得、訪問リハビリテーションの地域拡大等、経営の安定に努めた。

(3) 保健事業

保健事業においては、積極的な営業活動により 4～5 月閑散期をはじめ期中を通して人間ドック・一般健診の受診者が増加した。システムの安定により人員の適正化を始めることができたが、今後も DX による業務効率化が必須である。税引前当期活動増減差額は▲1.6 億円となった。

（４）在宅・福祉サービス事業

在宅・福祉サービス事業においては、静岡、関東、関西、奄美の各ブロック共に安定した経営を継続することができた。各ブロックの取り組みとしては、静岡ブロックにおいては引佐中山間地域における福祉と医療の連携に関する協議が始まり、関東ブロックにおいては2年目を迎える「聖隷看護小規模多機能横須賀」の安定稼働に努めた。関西ブロックではケアハウス花屋敷の介護保険対応施設への移行や聖隷淡路病院との連携による特別養護老人ホームの稼働率向上に努め、奄美ブロックにおいては奄美佳南園と春日デイサービスの運営統合を実施し経営改善に努めた。在宅・福祉サービス事業全体の経営成績は、税引前当期活動増減差額 10.3 億円となった。

（５）高齢者公益事業

エデンの園事業においては、自然災害時の BCP 対策に力を入れ、シミュレーション訓練等を実施した。入居者募集については、コロナ後初めて大規模募集セミナーを開催し、個別見学会・相談会を組み合わせた募集活動を継続した。その結果 117 件のご契約を頂き、契約金額は約 42.3 億円を計上した。税引前当期活動増減差額は 1.6 億円となった。

（６）財務の状況

現預金は、設備投資時の自己資金活用等により、期首より 29.9 億円減少し、期末残高は 169.3 億円となった。設備投資については、事業団全体で 47.3 億円の固定資産整備を実施した。有利子負債は期末残高が 253.9 億円まで減少し、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 19.6% まで向上した。純資産比率も 48.4% となり、経営基盤の安定を図ることができた。

《2024 年度 事業区分別事業活動計算書》

（単位：百万円）

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	収益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス活動収益	71,234	62,306	2	133,542	▲546	132,997
サービス活動費用	71,641	61,333	2	132,976	▲591	132,385
税引前当期活動増減差額	623	76	0	699		699

《中期事業目標の進捗状況》

指 標			2024 年度
サービス活動収益成長率	【年】	2.0%	1.4%
当期活動増減差額	【年】	15 億円以上	7 億円
総資産税引前当期活動増減差額率（ROA）	【年】	1%以上	0.4%
純資産比率	【2025 年度末】	45%以上	48.4%

総合病院 聖隷三方原病院

2024年度は当院で初めてBSC(Balanced Scorecard)を導入し、幹部を中心に多くの職員を巻き込んで、医療の質の向上と安定した経営基盤の構築に取り組んだ。DPC期間による入院期間の適正化や、緊急入院におけるユニットの活用などは経営改善の重要なポイントであった。一方で医療安全・感染管理・病院機能など医療の質に関してはTQMセンターが院内全体をまとめる活躍を見せ、当初の想定通り順調に発展している。また、三方原地区再開発計画の立案に向けて建築準備室を設置し、将来に向けた検討の枠組みを整えた。

2025年度は「聖隷三方原病院の令和における分岐点」になると予想している。今まで以上に職員全員の覚悟と一致団結が必要であり、将来にわたって当院が選ばれ続ける、かつ厳しい環境の中でも走り続けられる病院となる第一歩を踏み出したい。

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	630名	588名	93.3%	99.4%	外来患者数	950名	916名	96.4%	99.1%
入院単価	73,500円	76,141円	103.6%	104.4%	外 来 単 価	22,600円	23,502円	104.0%	102.6%
職 員 数	1,547名	1,520名	98.2%	98.8%	病床利用率	82.4%	76.9%	93.3%	100.2%

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者から信頼され選ばれ続ける病院

(ア) 利用者満足度の向上	①新入院患者数	1,350人以上/月(実績:1,330人)
	②患者満足度調査実施回数	4回以上/年 (実績:4回)
	③病床稼働率(おおぞら除く)	81.8%以上 (実績:76.9%)
	(おおぞら・精神・結核除く)	88.7%以上 (実績:84.9%)
(イ) 断らない医療の推進	①救急車の重症症例応需率	95.0%以上 (実績:96.5%)
	②不応需救急車の緊急度調査	調査実施 (実績:実施済)
(ウ) 地域連携の推進	①紹介初診患者数	1,100件以上/月(実績:1,067件)
	②退院時共同指導料算定数	13件以上/月 (実績:16件)
	③紹介率・逆紹介率	85%・107%以上 (実績:88%・132%)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域から求められる専門性の高い医療の提供

（ア）ブランディング活動の強化

①プレスリリース数・メディア掲載数	2件・1件以上/月	（実績：1.4・2.2件）
②HP閲覧数	40,000回以上/月	（実績：48,640件）
③LINE登録数	12,000人以上	（実績：16,243件）
④市民公開講座参加者数	平均80人以上/回	（実績：94件）

（イ）聖隷浜松病院との連携推進

①病院連携グループの構築	検討会年4回	（実績：0回）
--------------	--------	---------

（ウ）三方原地区再開発計画の検討

①三方原地区再開発計画の検討開始	建築準備室稼働	（実績：定例会実施）
------------------	---------	------------

（エ）高度救命救急センターの機能充実

①C3病棟47床の稼働率	60%以上	（実績：75.1%）
算定率	80%以上	（実績：50.5%）
1日算定患者数	23人以上	（実績：17.4人）

（オ）手術室の効率的活用

①手術件数	660件以上/月	（実績：641件）
②全麻手術件数	310件以上/月	（実績：307件）
③手術室の稼働率	63%以上	（実績：58.3%）
④デイスার্ジェリーの設置検討	検討実施	（実績：調査実施）

（カ）専門性の高い医療機能の充実

①院内がん登録件数	1,810件以上/年	（実績：1,037件）
②がん遺伝子パネル検査症例数	21件以上/年	（実績：36件）
③高難度新規医療技術（手術件数）	95件	（実績：100件）

（キ）聖隷おおぞら療育センター連携推進・三方原ベテルホームの機能充実

①ベテルの受診依頼に対する応需率	100%	（実績：92.9%）
②おおぞら受診まで1時間以上要した件数	10%以下	（実績：15.3%）

（ク）精神科入院機能の効果的活用

①C6病棟の稼働率・算定率	65%以上	（実績：55.0%）
	90%以上	（実績：72.6%）
②C5病棟の稼働率・平均在院日数	50%以上	（実績：33.1%）
	40日以内	（実績：46.0日）

3. 安全で質の高い医療の提供

（ア）災害対応の強化

①DMATチーム数	チーム数5	（実績：チーム数5）
②非常時通信環境整備	通信機器1台増	（実績：導入検討）
③防災訓練参加人数	延3,000名以上	（実績：3,408名）

- (イ) 医療の安全と質の向上
- | | | |
|----------------|---------|-------------|
| ①患者誤認件数 | 前年比20%減 | (実績:12.0%増) |
| ②IA件数 (3b以上) | 前年比20%減 | (実績:3.0%減) |
| ③患者あたり1日手指衛生回数 | 20回以上/人 | (実績:17.7回) |

「成長と学習」の視点 (人材確保・成長のために)

4. 働き方改革の推進

- (ア) 医師採用の強化
- | | | |
|------------------|-----------------|-----------|
| ①医師不足科の医師確保 | 救急・産婦・内科各1名以上確保 | |
| | 3名以上 | (実績:3名) |
| ②専攻医の確保 | 5名以上 | (実績:2名) |
| ③研修医のフルマッチ | 100% | (実績:100%) |
| ④初期研修医～専攻医の残留率向上 | 2名以上 | (実績:3名) |

(イ) タスクシフトの推進

- | | | | |
|------------|-----------------|------------|---------|
| ①必要な専門職の確保 | 薬剤師・看護補助・施設員の採用 | 必要数 | (実績:6名) |
| ②看護師の採用 | 新卒55名以上 | (実績:54名) | |
| | 中途25名以上 | (実績:14名) | |
| ③タスクシフトの件数 | 32件以上 | (実績:20件) | |
| ④超過勤務時間 | 12.5h以下 | (実績:13.6h) | |
| ⑤有休消化日数 | 12.0日以上 | (実績:12.8日) | |

5. 働きがいのある職場環境づくり

- (ア) 教育体制の充実
- | | | |
|----------------|--------|------------|
| ①職員満足度調査実施回数 | 4回以上/年 | (実績:1回) |
| ②「教育への支援」4段階評価 | 75%以上 | (実績:77.0%) |

(イ) ハラスメントのない職場環境づくり

- | | | |
|-----------------------|--------|------------|
| ①ハラスメント防止の体制整備 | 委員会設置 | (実績:設置完了) |
| ②職員満足度調査実施回数 | 4回以上/年 | (実績:1回) |
| ③「ハラスメント防止活動・支援」4段階評価 | 60%以上 | (実績:60.7%) |

「財務」の視点 (経営・運営の安定のために)

6. 安定した経営基盤の確保

- (ア) 予算の達成
- | | | |
|---------------|----------|-------------|
| ①サービス活動収益伸び率 | 103.5%以上 | (実績:101.6%) |
| ②サービス活動費用伸び率 | 104.4%以下 | (実績:103.4%) |
| ③税引前当期活動増減差額率 | 0.8%以上 | (実績:0.4%) |

《医療保護施設・無料低額事業・入院助産》

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。
引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所 ショートステイ」

2024 年度の利用実績は、4 月時点の入所者は 122 人であったが、年度内の入所者 18 人(期間限定 14 人含む)、退所者 16 人(期間限定 16 人・逝去 0 人)で、2025 年 3 月末では 124 人となった。

重心医療及び小児リハビリ医療に専門性を持つ医療者の育成、チームとしての多職種連携の強化、生活支援員の研修などを通じて利用者生活支援の質の向上を図った。また、在宅支援について、特にショートステイ、レスパイト入院の要望に答えられるような人的配置、病院全体としての連携体制の強化等、おおぞら療育センターの多様な人材を生かし、質の高い医療、生活を提供するように努めた。

障害児医療の専門医師の育成では、新たに療育神経科を設立し、施設内に医局を設置した。小児科と連携し、医師が定時常駐して利用者の主治医を担えるよう、勤務ローテイトを定めた。

多職種・多職場の対話による連携強化では、共同カンファレンスや、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)勉強会を継続実施して知識や情報共有ができた。

総合病院の実施する障害福祉サービス施設として、新興感染症のまん延防止対策に注力した。

中長期的な施設運営計画の検討では、障害児・者を取り巻く様々な社会情勢の変化や課題に取り組む上で既存の制度や体制における限界も見えてきた。事業の将来像を描くために、現状を正確に分析し、職員一体となって課題に取り組む必要がある。

ICT 活用の更なる推進では、障害から意思表示できない利用者の本人認証として顔認証システムの職員向けデモンストレーションを複数回実施し、患者誤認防止対策の検討を継続している。

地域から求められる施設機能の整備では、ショートステイ、レスパイト入院のサービス利用前の家庭訪問により状態変化等様々な確認ができ、利用者と施設の信頼構築に一定の成果を感じている。また、退所時支援として共同カンファレンスや退院支援カンファレンスのオンライン開催を定期的に行い、かかりつけ医療機関や事業団内他施設との連携強化や情報共有が図られている。更に、地域の在宅利用者の家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは 2024 年度 14 人であり、利用者が安心して地域生活を継続できる施設として役割を果たすことができた。

あさひ(生活介護)

2024 年度は、利用登録者数 44 人でスタートし、年度内の利用開始者 2 人、利用終了者 1 人で、45 人で年度を終了した。利用実績は、1 日平均利用者数 27.5 人(定員 35 人)となった。重度の医療的ケアの必要な方への対応と、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。新興感染症対策等徹底しながら事業を継続した。

職員教育の充実では、職種別のラダーの継続した実施により、取り組むべき課題を明らかにして職員の技術向上を図った。

ICT 活用の更なる推進では、電子記録システムを活用しての個別支援計画作成やタブレット端末の記録による業務効率化が一定の効果を上げている。また利用者の予定オーダー登録の活用により情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2024 年度は、利用登録者数 10 人でスタートし、年度内の利用開始者 3 人、利用終了者 0 人で、最終的には 13 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 7.0 人(定員 15 人)となった。新興感染症対策を徹底しながら事業を継続したが、保護者が参画できるサービス提供も立案し、施設の見える化も図った。

2027 年度より児童発達支援センターには地域の中核的役割を担う事が義務化される。行政に確認を取りながら、施設の機能と求められる役割を再確認し、運営方針の検討を進めたい。

放課後等デイサービスは、特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象として事業を継続した。2024 年度は、利用登録者数 27 人からスタートし、年度内の利用開始者 0 人、利用終了者 1 人で、最終的には 26 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.0 人(定員 5 人)となった。新興感染症対策等徹底しながら事業を継続した。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2024 年度は、新規契約者 12 人、契約終了者 14 人で、最終的な登録者数は 176 人となった。

ICT 活用の更なる推進では、電子記録システムを活用しての個別支援計画作成やタブレット端末の記録による業務効率化が一定の効果を上げている。また利用者の予定オーダー登録の導入により情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2024 年度は、経営管理の面で BSC (Balanced Scorecard) を取り入れて事業計画を遂行した。4 月には介護保険の報酬改定により、歯科・栄養・リハビリテーションの一体的サービスが開始され多職種協働によるサービスの質の向上を図った。入所においても入所前後訪問を積極的に実施し、退所後の生活を意識したリハビリテーション、ケアを提供した。7 月には浅井八多美前所長より松島秀樹所長への所長交代があり新たな体制で事業を行うこととなった。働きやすい職場づくりでは介護助手の採用やトロミサーバーの導入を行い職員の業務負担軽減を推進した。また非常用発電機設備の更新を行い利用者・職員共に安心して利用できる設備を整えた。年度末には 2025 年度に向けて通所リハビリテーションの強化を目的に当該事業をリハビリテーション課の管轄とした。また地域共生型社会の実現に向けて障害福祉サービスの指定を受け今後利用者を受け入れていく。2025 年度も地域から介護老人保健施設に求められる役割を果たすとともに、ICT の積極的活用や業務改善につながる機器の導入・検討を推進して職員がより働きやすい環境を整えていく。

「利用者価値」の視点

() 内は実績

1. 地域社会に貢献できる事業の実施

- | | |
|-----------------------------|---|
| (ア) 利用者、家族の満足度の向上 | 利用者、家族の平均満足度 70%以上 (83%) |
| (イ) 地域における公益的な取り組みの実施 | ①介護予防教室等年 4 回以上開催 (5 回)
②2025/4/1 付障害福祉サービス事業者指定取得 |
| (ウ) 生活困窮者や身寄りがない人等に対する支援の推進 | ①無料定額事業利用率 10%以上 (11.0%)
②身寄りがない人等の受け入れマニュアル作成中 |

「価値提供行動」の視点

2. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| (ア) 地域関係機関からの受入体制強化 | 緊急(短期)入所受入率 80%以上 (70.6%) |
| (イ) 在宅復帰・在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供 | 在宅復帰・在宅療養支援等指標80点以上 (82.3 点) |

3. 安全・安心・快適で質の高いケアの提供

- | | |
|------------------------------|---|
| (ア) 聖隷グループとの協働によるシームレスなケアの提供 | ①事業団内ケアマネジャーからの相談件数
年間 90 件以上(122 件)比率 17%以上(21.7%)
②聖隷三方原病院からの受入 75 件以上(71 件)
③通所リハビリテーションから事業団内
通所介護への移行支援 2 名以上 (3 名) |
| (イ) ICT の活用推進 | ①職員 ICT 活用アンケート回収率 100%(100%)
②見守りシステム活用取り組み 3 件以上(3 件)
③転倒・転落 IA 報告各 120 件以下
(転倒 98 件)(転落 95 件)
④ホームページ更新回数月 2 回以上 (2 回) |

4. 安定的に事業継続ができる体制の構築

(ア) 感染・災害対策の強化

①感染対策研修への参加率 100% (100%)

②災害対策訓練への参加率 100% (100%)

「成長と学習」の視点

5. 医療と介護の視点を持った人材の育成

(ア) 老人保健施設の専門性を強化できる 職員教育の実施

①疾患、薬剤のケースカンファレンス実施

②せん妄や不穏に関するアセスメントツールの運用開始

(イ) 理念、経営方針、経営参画意識の浸透

①事業計画説明会参加率 100% (88.3%)

②理念における講演会参加率 100% (91.3%)

6. 働き続けられる職場環境づくり

(ア) 働きやすい職場づくり

①職員が交流できる機会 2 回以上実施 (1 回)

②職員満足度調査実施 (1 回)

③定着率 95%以上 (83.3%)

「財務の視点」

7. 利用者の期待に応えられる経営管理

(ア) 介護保険報酬改定への対応

①サービス活動収益 837 百万円以上

(860 百万円)

(イ) 年度予算の達成

①税引前当期純利益 5 百万円以上 (36 百万円)

②人件費率 65.5%以下 (65.5%)

③減価償却費率 6.1%以下 (6.1%)

入所(短期含)利用状況 (定員 150 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	126.9	120.4	119.6	128.6	129.1	125.5	114.5	120.9	126.4	129.4	135.7	128.5	125.4
稼働率(%)	84.6	80.3	79.7	85.7	86.1	83.7	76.3	80.6	84.3	86.3	90.5	85.7	83.6
平均要介護度	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2	3.1	3.1	3	2.9	3	3	3.1

通所リハビリテーション利用状況 (定員 50 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	27.4	27.4	25.7	25.3	24.1	25	26.6	25.6	26.1	25.5	25.7	25.8	25.9
稼働率(%)	54.8	54.8	51.4	50.6	48.2	50.0	53.2	51.2	52.2	51.0	51.4	51.6	51.8
平均要介護度	2.3	2.3	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3

訪問リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数(人)	4	4	2	6	8	8	14	5	2	1	3	4	61
平均要介護度	1	1	1	1.7	2	1	1	1	1	1	1	1	1.2

総合病院 聖隷浜松病院

2024 年度は職員がお互いを尊重し感謝の気持ちをもってチーム医療を推進する精神となる「Respect」をテーマに取り組んだ。2023 年度に続き 2 回目となる職員交流イベントの開催や、部署・職種の垣根を越えてお互いの仕事に敬意を伝える Respect キャンペーンを実施し、チーム力の向上や日頃の頑張りを認め合うことができた。そして、あたたかみのある接遇を強化することで患者だけでなく職員にも選ばれ続ける病院を目指した。また、聖隷アプリを活用した動画説明や電子問診の導入が進み、DX を活用した業務改善が進んだ。同時に生成 AI 等の業務活用検討も進められており、更なる業務改善による負担軽減と質の向上が期待される。

人口動態の変化に伴う医療需要と労働力への影響、物価や賃金の上昇に対応して診療報酬が上がっていないなど非常に厳しい事業運営となった。新 S 棟開設により紹介患者数の増加や外来手術の増加など一定の効果を得つつも、医療リソースの有効活用は更に進める必要がある。現状をより良いものへと進化させる努力を続けながら、絶えず変化する環境に対応し、これからも地域の医療ニーズに応え続ける。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します ■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

- | | | |
|-----------------------------|-------------|--------------|
| ①紹介初診患者数 | 2,000 人/月以上 | (実績：1,949 人) |
| ②患者満足度調査 | | |
| 「病院に満足している」肯定回答率 | 85%以上 | (実績：89%) |
| ③職員満足度調査 | | |
| 「BSC のテーマを知っている」肯定回答率 | 70%以上 | (実績：68%) |
| ④職員満足度調査 | | |
| 「この病院で働くことにやりがいを感じている」肯定回答率 | 70%以上 | (実績：69%) |

(イ) あたたかみのある接遇

①患者満足度調査

「職員から安心感のある応対を受けた」肯定回答率 70%以上 (実績：89%)

②職員満足度調査

「職員同士で気持ちの良い挨拶をしている」肯定回答率 70%以上 (実績：65%)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 高度・急性期医療の提供

(ア) 地域ニーズに応える医療提供

①新規がん患者数 150 件/月以上 (実績：137 件)

②救急車搬送件数 重症・中等症件数 330 件/月以上 (実績：322 件)

③緊急入院患者の DPCⅡ期以内比率 55%以上 (実績：54%)

(イ) 診療スペースの有効活用

①中央ケア室の利用人数 50 件/日以上 (実績：59 件)

②8:30-17:00 の中央手術室の稼働率 66%以上 (実績：66%)

③平日の予定入院数の差異 月～木 18 人/週以下 (実績：16 人)

3. 医療環境の充実

(ア) 業務プロセスの可視化と改善

①患者支援センターの滞在時間 平均 40 分以下 (実績：23 分)

②紹介患者の予約時間 15 分前までの案内率 80%以上 (実績：91.8%)

(イ) DX を活用した業務改善

①電子問診の導入診療科数 年度末時点 30 科以上 (実績：31 件)

②コンテンツの聖隷アプリ実装件数

動画掲載件数 年度末時点 55 件以上 (実績：67 件)

うち、運用活用動画件数 年度末時点 10 件以上 (実績：21 件)

③生成 AI 等検討件数 年度末時点 6 件以上 (実績：8 件)

4. 医療の質と安全の保証

(ア) 安全で質の高いチーム医療の推進

①患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.3%以下 (実績：0.31%)

②麻薬・ハイアライト薬品関連の IA 発生率 事象レベル 1 以上 0.3%以下 (実績 0.34%)

③転倒・転落による負傷発生率(入外含む) 事象レベル 2 以上 0.85%以下 (実績：1.02%)

④職員満足度調査

「コミュニケーションに関する指標」肯定回答率 70%以上 (実績：59%)

⑤手指衛生実施率 医師 50%以上・看護 82%以上・事務・医療技術 80%以上

(実績：医師 49.5%、看護 85.9%、事務・医療技術 83.4%)

⑥職場防災訓練（実践型）実施率 100% (実績：100%)

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 魅力のある職場環境

(ア) 働き続けたい職場環境づくり

①職員満足度調査

- 「心理的安全性を評価する指標」肯定回答率 70%以上 (実績：56%)
- ②職員満足度調査
- 「職員のやりがい」を評価する指標」肯定回答率 70%以上 (実績：66%)
- (イ) 働き方改革
- ①超勤時間(医師) 80 時間超え 7 名/月以下 (実績：8 名)
- ②超勤時間(看護・事務医療技術) 30 時間超え 40 名/月以下 (実績：38 名)
- ③長時間労働医師に対する面接指導実施率 100% (実績：100%)

「財務」の視点(経営・運営の安定のために)

6. 安定した財務

(ア) 年度予算の達成※

- ①収益(サービス活動収益) 36,793 百万円以上 (実績：未達成)
- ②変動費率(全職員超勤費用/サービス活動収益) 3.3%以下 (実績：3.6%)
- ③S 棟関連事業収益(眼科・眼形の診療収益増収額) 2022 年度比較 134 百万円以上 (実績：77.8 百万円)
- ④医師一人あたりの収益比率(医師の人件費(非常勤含)/診療収益) 16.4%以下 (実績：16.6%)

※詳細数値は事業団本部決算書参照

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患 者 数	690 名	672 名	97.4%	100.1%
入 院 単 価	94,400 円	93,893 円	99.5%	101.3%
外 来 患 者 数	1,625 名	1,582 名	97.4%	99.6%
外 来 単 価	24,400 円	24,286 円	99.5%	101.1%
病 床 稼働率	92.3%	89.7%	97.2%	100.1%
職 員 数	2,217 名	2,192 名	98.9%	100.7%

(注：病床稼働率は歯科を含む)

【地域における公益的な取組】

患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんや脳卒中に罹患した長期療養者に対しハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、がん罹患した従業員の対応に困難を抱える事業主に、浜松商工会議所と連携し当院の「がん相談支援センター」を相談窓口とした取り組みを継続した。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2024 年度は社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方 3 名が利用した。

聖隷淡路病院

2024 年度は“自立”を病院運営のキーワードとして掲げた。6 年に一度の医療・介護・障害福祉サービスの「トリプル改定」と呼ばれる大幅な診療報酬改定が行なわれたが、今回の改定は高齢者救急への対応強化や医療・介護の連携促進など当院が最優先に取り組むべき課題が盛り込まれた。当院が提供する医療機能と淡路医療圏の地域性を考慮し、よりマッチングする診療報酬を算定することが求められており、診療報酬を適正かつ最大限に得ることで必要な医療収益を確保し、“自立”した病院経営行うことを目指した年度であった。

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する

4 階病棟（51 床）は 2024 年度の診療報酬改定により新設された「地域包括医療病棟」の施設基準を早期に取得することを目指した。平均在院日数や在宅復帰率など、基準を満たすことが難しい条件が複数あり、全国的にも基準取得を諦める病院が多数ある中、12 月に無事に取得となった。地域包括医療病棟は増加する高齢者の軽症～中等症の救急患者の受け入れを想定しており、淡路医療圏において当院が地域医療に貢献するために必須の基準であり、取得後も基準を維持していくことが必要である。3 階病棟（50 床）はこれまで通り地域包括ケア病棟としての届出を継続し、5 階病棟（51 床）は在院日数が長い患者の受け入れを想定して「地域一般入院料 3」の届出に変更を行った。これらの届出により救急患者を受け入れた後、必要な急性期治療やリハビリを提供し、患者個々の状況や条件に合わせて適切に在宅復帰を支援することが可能となり、当院の病棟機能を活かした入院療養の流れを確立することができた。

在宅療養支援病院として訪問診療を含む在宅医療を積極的に推進するために「在宅医療室」を新規に立ち上げ、専従看護師の配属を行った。また「患者支援センター」を新設し、「在宅医療室」「地域連携・医療福祉相談室」「入退院支援室」の院内連携により入院前から退院後まで患者支援を切れ目なく継続して行う体制を構築した。

「健診事業室」に専従の「室長」（医師）を配属し、健診事業を拡充する体制を強化した。その結果、健診事業は前年比で件数・収益を伸ばし、2024 年度の予算目標を達成した。一方、健康診断実施後の要精密者に対し当院の外来受診を促すフローを検討したが、期待した外来患者数増につながることができず、2025 年度に持ち越す継続課題となった。

救急・総合診療科は新たに常勤医師 2 名を加えた 3 名体制となった。日勤帯の救急患者受け入れの窓口を担い、非常勤の当直医師の勤務前後の隙間勤務を担うことにより救急車の受け入れ件数を大幅に伸ばすことができた。一方で非常勤医師が中心となる夜間・休日の救急車応需率が低いことが課題であり、2025 年度に向けてさらなる受け入れ増を図るための対策が必要となった。

2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する

日本人間ドック学会の健診施設機能評価の受審結果が 2024 年度内に通知され正式に認定された。また日本医療機能評価機構による病院機能評価は次回更新前の期中評価を実施した。

初期研修医に対する地域医療研修は 2024 年度も毎月 2～3 名の研修医を受け入れた。また明石医療センター（社会医療法人愛仁会）・神戸掖済会病院（公益社団法人日本海員掖済会）・神

戸百年記念病院（医療法人社団顕鐘会）の総合診療専門研修プログラムの連携施設として後期研修医（専攻医）の受け入れを行い、年度を通じて計4名の専攻医が当院にて3～6ヶ月の総合診療研修を行った。常勤医師の体制は整形外科が神戸大学の医局人事により新たな医師が赴任し、新体制となった。内科は内視鏡検査の経験が豊富な医師1名を採用し、2025年1月に着任した。医師以外では認知症認定看護師が院内外での活動を正式に開始したほか、特定看護師を目指す看護師を輩出するために病院として育成支援を行った。

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

淡路市内の聖隷福祉事業団が運営する施設との連携においては2024年度も人材育成を目的とした人事交流計画により看護師と理学療法士の人事異動を行うことができた。診療報酬改定で盛り込まれた医療介護連携を推進するため、法人内外の3施設と協力医療機関契約を結び、介護施設利用者に関する医療情報の共有など定期的な会議の開催により、顔の見える連携を行うことができた。さらに当院のベッドコントロール会議に聖隷内の介護施設の相談員が参加することによって、双方の空床対策や高稼働維持のための具体的な調整や検討を行うことができた。

4. 経営基盤の確立

外来患者数は常勤医師の交代や非常勤医師の退職等の影響が大きく、患者数の予算目標を大きく下回る結果となった。入院患者数は対前年を上回ったが予算目標人数に未達となった。入院単価は12月からの地域包括医療病棟の基準取得により、当該病棟の単価は大幅に上昇したが、年間の病院全体の目標予算には届かなかった。単価増のためには入院診療報酬において出来高算定となるリハビリテーションの診療報酬を効果的に算定するためのさらなる工夫が必要である。

材料・食料品等の物価高騰や人件費増に対して前年比から僅かに伸びた収益増では採算が合わず、大きな赤字決算となった。2025年度は新院長体制のもと、本業である医療事業の大幅な収益増が課題であり、人件費を中心とした費用削減にも積極的に取り組んで行かなければならない。

5. 地域における公益的な取り組み

無料または低額診療事業を行う施設として、行政や医療機関・施設の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を受けられるよう医療費減免を行った。無料低額診療事業は2023年度も国が定める減免基準10%以上を超える実績となった。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	130 名	100 名	77%	85%
外 来 単 価	11,500 円	11,330 円	99%	104%
入 院 患 者 数	131 名	125 名	95%	102%
入 院 単 価	33,800 円	33,336 円	99%	100%
病 床 稼 働 率	86%	82%	95%	102%
職 員 数	207 名	208 名	100%	101%

聖隷横浜病院

2024 年度は、診療報酬のマイナス改定、医師の働き方改革の新制度施行、物価高と人件費の高騰など、病院経営は極めて厳しい一年であった。特に、人事院勧告による人件費の増加が診療報酬上の増収を大きく上回り、経営を圧迫した。

しかし、このような状況下においても、病床管理センターが中心となり、入院患者の確保を最優先課題として取り組み、開院以来過去最高の入院患者数を達成した。また、病病・病診連携においては、地域に開かれた顔の見える医療機関を目指し、積極的に開業医への訪問を重ね、過去最高の紹介数を獲得した。さらに、救急車の積極的な受け入れ体制の構築や、救急隊からの意見を取り入れる仕組みをつくり、前年度を上回る救急車の受け入れを実現した。

経営的には依然として厳しい状況ではあるが、各種の指標が前年度を上回る結果を残せたことは、病院が丸一となって前に進む体制を構築できた証である。

次年度は、地域社会に貢献する医療機関として更なる発展を遂げながら、収益と費用のバランスをとり、生産性を向上させ、多様な人材の確保、救急医療体制のさらなる充実、各医療機関との連携強化、地域の健診業務拡大に注力する。併せて、関東地区事業団施設との連携を強化し、地域から愛され続ける病院づくりを職員と共に推進していく。

1. 安全で良質な医療の提供

(ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の充実

依然として新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクが発生する状況下ではあったが、感染対策を徹底し、日常診療を継続するとともに、入院患者を積極的に受け入れた。また、転倒・転落を減少させる取り組みとして、転倒軽減マットの導入に加え、外部講師を招聘し、職員全体の転倒・転落対策意識の向上を図った。

(イ) 救急診療体制の強化と充実

横浜市内の救急隊向けに、救急フォーラムの開催や訪問活動を継続的に実施した。また、横浜市救急隊傷病者情報共有システムの実証実験にも参加した。さらに、日々の救急車応需詳細を確認し、問題事例については病院管理者間で共有し、個別に対応することで、病院全体の救急車受け入れ意識の強化に努めた。結果、4,690 件（昨年：4,484 件）の救急搬送を受け入れた。

(ウ) ドック・健診事業の充実

新規受診者の獲得に向け、WEB 予約システムを導入および常勤の女性医師を配置した。また、衛生委員会と連携し、職員ドックの実施率向上にも注力した。その結果、延べ受診者数は 116% 増加、売上は 124% 増加を記録した。

(エ) 外来診療科体制の充実

消化器内科では、初診外来枠の増加と直来患者の受け入れ体制強化により、迅速な診断・治療を可能にするとともに、内視鏡検査の実施枠拡大により、早期発見・早期治療を推進した。また、脳神経外科では、認知症に対する新たな治療を開始し、患者様の QOL 向上に貢献した。さらに、通院心大血管リハビリテーションの対象範囲を拡大し、より多くの患者様がリハビリテーションを受けられる体制を整えた。

2. 多様な人材確保と育成

耳鼻科の常勤確保に向けた取り組みを行い、2025 年度には常勤医師の確保が出来た。

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、取り組みを推進した。人件費率単月 56.1%を目指し、収入確保、費用削減に取り組んだが、物価上昇、人件費の高騰により費用過多となった。一方で、看護師不足により、入院基本料の変更を余儀なくされたが入院患者の確保については予算を達成した。

4. 最適な環境づくりの推進

電子カルテの更新を滞りなく完了させ、日々の診療業務を円滑に進めることができた。また、職員の働きやすい環境整備として、病児保育を開始し、子育て世代の職員が安心して働ける体制を構築した。さらに、院内レストランを再開し、職員の福利厚生を充実させた。加えて、慣例にとらわれない業務手順の見直しやスリム化の一環として、一括同意書を導入し、業務効率化を図った。

5. 地域包括ケアシステムの構築と推進

(ア) 地域完結型医療の実践

入院患者の積極的な受入れにより、急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニット、地域包括ケア病棟は 90%を超える稼働率となった。また、回復期病棟、緩和ケア病棟、一般病棟については 80%後半となった。

(イ) 地域連携及び広報活動の強化

紹介状に対する即日返信を推進し、即日返信率 99.9%を達成した。また、病院長をはじめ各診療科医師と協働でクリニック訪問を行った。これらの取り組みにより、病・診連携強化を図り、紹介件数は 11,407 件(昨年：10,071 件)となった。併せて、市民公開講座を対面で 4 回、医療従事者向け講演会 5 回実施し病院の情報や魅力の発信を強化した。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 12.1%であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	595 名	575.8 名	96.8%	102.2 %
外来単価	19,033 円	18,488 円	97.1%	99.6%
入院患者数	318 名	327.8 名	103.1%	106.9%
入院単価	58,059 円	55,530 円	95.6%	98.7%
病床稼働率	87.1 %	88.9%	102.1 %	105.3 %
職員数	791.1 名	792.3 名	100.1 %	101.5 %

聖隷佐倉市民病院

2024 年度は医師の働き方改革への対応、空調設備の更新に伴う稼働病床数の減少、電子カルテ更新や物価高騰、人事院勧告によるベースアップ等の費用の増加など、病院運営、経営ともに厳しい一年であった。特に稼働病床数の減少においては実働 333 床と限られた病床数であったが、時間単位でベッドコントロールを行い、12 月以降、病床稼働率 95%以上を維持することができた。

2024 年 3 月 1 日に当院は開院 20 年を迎えることができた。2024 年度は地域へ感謝を伝えるために、せいれいフェスティバルの開催をはじめとして様々な取り組みを行った。これらの取り組みにより、当院の強みである職員間のタテ・ヨコのつながりをより強固にすることができた。

1. 地域医療に貢献するための医療の提供

地域の救急医療に貢献するために救急隊への訪問や頭部疾患の受入体制構築などに取り組み、年間 2,236 台の救急車の受け入れを行った。紹介受診重点医療機関として、近隣医療機関への訪問や緊急要請の受入強化を行った。シームレスながん医療の取り組みとして、千葉県がん診療連携協力病院（肺がん、前立腺がん、乳がん、胃がん、大腸がん）の認定を更新することができた。高齢者に必要とされる医療としては、リハビリテーション科によるリフレッシュ入院の受け入れや、地域包括ケア病棟への直接入院の受入強化に取り組んだ。

2. 安全で質の高い医療の提供

医療安全への取り組みとして IA レポートの共有を行った。また、管理者対象のチームステップ研修や院内 BLS インストラクター育成研修を実施した。継続的な改善活動として、IT-BCP の策定や災害備蓄品のリスト化、配置図作成に取り組んだ。また、佐倉市と連携し、災害発生時の医療救護対応に関する役割分担の検討を行った。

3. 利用者に信頼され、選ばれる医療サービスの提供

広報委員会を新たに立ち上げ、病院インスタグラムの開設や病院ホームページの更新に取り組んだ。また、せいれいフェスティバルや市民公開講座、わくわく健康教室、腎臓病・糖尿病教室などを開催し、当院の強みをアピールすることができた。利用者に優しい病院づくりとして、外来予約枠の見直しによる待ち時間対策の実行や、利用者の声を活用した改善活動に取り組んだ。

4. 将来を見据えた人材確保と育成

人材確保が当院の最重要課題と位置づけ、多職種による採用チームを立ち上げた。大規模就職説明会への積極的な参加やインスタグラムの活用による求職者向けの情報発信などに取り組んだ。耳鼻咽喉科、リハビリテーション科の常勤医赴任や外科の増員など診療体制の強化を図ることができた。働きやすい環境づくりとして、心理的安全性に関する講演会を開催した。開院 20 年とともに 40 名の職員が勤続 20 年を迎えた。

5. 経営と運営の両立に向けた取り組み

診療報酬改定対応として、身体拘束最小化委員会立ち上げや、新規加算の算定に取り組んだ。入院、外来の患者数減少に対し、経営改善プロジェクトを立ち上げ、救急、紹介、がん診療の強化に取り組んだ。放射線治療装置の更新に向け、院内連携、近隣医療機関連携を強化し、患者数の増加に向けた取り組みを行った。

6. 地域における公益的な取り組み

市民公開講座や腎臓病・糖尿病教室等の開催により、病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。

【数値指標】〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	822 名	777 名	94.5%	95.8%	入院患者数	310 名	303 名	97.7%	100.3%
外来単価	15,300 円	15,191 円	99.3%	101.4%	入院単価	56,500 円	58,463 円	103.5%	104.1%
職員数	785 名	759 名	96.7%	96.6%	病床稼働率	82.2%	77.0%	93.7%	96.0%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	198 名	189 名	95.5%	89.2%	単 価	18,920 円	18,402 円	97.3%	108.9%

〈せいのけい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	474 件	451 件	95.3%	106.9%	利用回数	203 件	123 件	60.8%	85.6%
単 価	8,000 円	7,629 円	95.4%	98.8%	単 価	10,550 円	10,687 円	101.2%	99.5%

〈せいのけいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	147 件	129 件	87.6%	96.1%	単 価	13,790 円	12,153 円	88.1%	100.4%

聖隷佐倉市民病院 健診センター

2024 年 4 月に健診システムの変更を行った。受診者の受け入れを止めることなく、当センター単独の健診システムとして、1 年をかけて細かな調整や運用の見直しを行いながら運営を行うことができた。

せいのけい訪問看護ステーション佐倉 / せいのけいケアプランセンター佐倉

2024 年度は診療報酬、介護報酬、福祉障害サービス等報酬の「トリプル改定」をきっかけに実習生の受け入れを強化し、人材育成や働きやすい職場作りとして宅直体制の見直しを行った。また、研修参加や近隣住民向けの講座を開催するなど、地域貢献に取り組んだ。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は 21.7%であった。

浜松市リハビリテーション病院

2024 年度は浜松市指定管理受託後 17 年が経過し、5 期目のスタートとなる 5 年契約の 1 年目を終えた。

浜松市における当院の存在意義は「リハビリテーションを通じ後方病院の HUB（ハブ：拠点）として地域医療に貢献すること」であり、急性期医療が円滑に進むように効率的に急性期病院からの患者を早期に受け入れ、良質の回復期のリハビリテーションを提供することで、自宅退院、社会復帰あるいは慢性期への療養環境に繋ぐことである。2024 年度は、その使命を果たすため、調和により生み出された自由な職場風土から職員各人がユニークな発想を展開し、もって医療の質向上と病院経営について能動的かつ主体的に取り組むとのコンセプトから事業テーマを「発想」とし、病院をあげて時代のニーズに合わせた新しい取り組みが「発想」された年であった。

喫緊の課題である人材確保においては、看護職員再就業支援プログラム「hana」の開始や、カンファレンス時間のメリハリを調整できる運用の確立、医療と福祉の狭間の就労支援「momo」による就労ボランティアの活用等、時代にあった働き方や体制を職員の「発想」により実現した。

経営的には、病床管理を確実なものとするため、地域連携・患者サポートセンターが急性期医療機関の稼働状況を注視し、通常期と異なる入退院コントロールを行う等、強化された権限を最大限に行使し、経営層の指示でなく現場が主体的に「発想」し、安定した収益の確保を実現した。

1. 利用者や職員に選ばれる病院

医師、看護師をはじめとした医療従事者不足が深刻化する中、看護職員においては 2024 年度 121 名でスタートし、3 月末日においても 121 名と年初から看護職員が減少することなく 1 年間運営することができた。ナースセンターやハローワークとの良好な関係性を構築したことにより採用流動性の高い看護職員採用において安定的な通年採用を実現。また、潜在看護師の定着を図ることを目的とした看護職員再就職支援プログラム「hana」が奏功し、離職率低下につながった。こういった取り組みの効果もあり、日本医療機能評価機構職員満足度調査において「この病院を職場としてすすめようと思う」の回答は 3.28 と 2023 年度の 3.18 を上回った。

2. 質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承

当院の強みを活かした「ここでしか受けられない医療」を提供するため、7 月に脳神経外科を新設。地域ニーズの高い、自動車運転評価、認知機能評価、就労支援等、高次脳機能センターへの紹介患者が増加した。また、認知症治療薬レカネマブのフォローアップ施設として聖隷浜松病院 MCI 外来と協働し 11 月より治療を開始した。ボツリヌス療法においては 2023 年度比 15% の患者数の増加。2026 年 5 月更新予定であった電子カルテシステムについては、2027 年 5 月への延長を決定。準備期間を長くすることで、当院が希望するシステムの開発と職員の更新にかかる負担の軽減が期待される。

3. 地域連携の強化

スムーズな入退院支援を実現するため、看護部、リハビリテーション部を中心に入院時業務の

適正化に取り組み、患者 1 名の受入れに要する時間において 30 分の短縮を実現。これにより、当日の勤務状況にもよるが、回復期 1 病棟で 1 日複数名の受入れが可能となる日が増加した。入院前からの情報取得を ICT 化、仕組み化することによりスムーズな転院を受け入れることを目的とし、聖隷浜松病院と当院との間で基幹システムを相互設置し、検証を行った。

4. 持続可能な経営基盤の確立

年度当初より病棟スタッフを中心に人員不足の状態が続く中、年間 3 回の新型コロナウイルス感染症等の感染拡大があったものの、地域連携・患者サポートセンターの権限強化、病床管理の見える化等により年間の平均入院患者数 216.1 人と予算の 216 人を超えることができた。療法士一人あたりの実績はほぼ予算通りであったが、産育休が予算人員以上であったこともあり、リハビリテーション全体の収益は予算未達であった。対して介護保険事業では引き続き需要が高く、訪問リハビリテーションでは言語聴覚療法において月 118 件（2023 年度：77 件）、通所リハビリテーションの稼働率も 89.1%（2023 年度：79.6%）と高い伸びを示した。

5. 地域における公益的な取り組み

2011 年より実施している「市民いきいきトレーナー養成事業」では、経験を積んだ上級トレーナーであるアドバンストレーナーを 10 名育成した。和合・泉自治会との地域防災連携連絡会及び防災訓練に 2024 年度も参加、災害時の地域避難所との連携を確認できた。「momo」においては就労ボランティアを拡大。新たな取り組みとして障害者のコミュニティ醸成のためのグループ訓練、茶話会を開始した。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	145.0 名	151.6 名	104.6%	104.0%
外 来 単 価	10,200 円	10,789 円	105.8%	102.7%
入 院 患 者 数	216.0 名	216.1 名	100.0%	102.5%
入 院 単 価	41,500 円	40,781 円	98.3%	100.6%
病 床 稼働率	96.0%	96.0%	100.0%	102.5%
職 員 数	437.0 名	413.0 名	94.5%	101.1%

〈介護保険事業〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
通所リハビリ利用回数	916 件	906 件	98.9%	112.1%
単 価	4,770 円	5,144 円	107.8%	107.0%
訪問リハビリ利用回数	411 件	450 件	109.5%	109.8%
単 価	8,400 円	8,716 円	103.8%	105.4%

聖隷袋井市民病院

2024 年度、袋井市から指定管理を受託し 12 年目であり、利用者の尊厳や権利を守りながら医療の質を向上させることを目的として「共感力と協働」をキーワードとして取り組んだ。開設当初からの成長や時代の変化を踏まえ病院理念や基本方針を改定したり、利用者向けには「患者の権利と役割」を平易に見直したりした。振り返りながら新たな一歩を踏み出した 1 年であった。

【病院理念】 2024 年 9 月改定

『私たちは、利用者の視線に寄り添い、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【基本方針】

1. 患者の権利を尊重した、良質な医療を提供します
2. 医療施設や介護事業所、行政と連携し、切れ目のない支援をします
3. 資源を最大限に活用した健全経営を確立します
4. 職員はお互いを尊重し合い、心理的安全性の高い職場をつくります
5. 職員は自らの専門性を高めるとともに、病院として地域に貢献できる医療人の育成に努めます

【事業・運営計画】 キーワード： 共感力と協働

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

- (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進：認知症患者に生活情報を聴取しレクリエーションやデイケア等に活用した。終末期患者への緩和医療やケアについて、学びを深め、カンファレンスを開催したり緩和リハビリテーションの評価指標を作成したりした。
- (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供：医療安全管理や感染管理を継続した。
- (ウ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実：回復期病棟では、リハビリテーション効果を高めるため、対象患者に対し自主訓練を推進（64%実施）した。摂食嚥下機能検査は、造影前年比 110%、内視鏡 150%となり、必要な患者に速やかに提供できた。高次脳機能障害に対しては、事業所や家族会を招いた研修を 2 回開催し、職員の認識を高めた。

2. 地域共生社会への貢献

- (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化：2 年目となる「ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会」は、年 2 回の開催を通じて院内外多職種の互いの専門性の理解を深めた。訪問診療ではボツリヌス療法を実施、訪問リハビリテーションでは対象地域を拡大し、より利用されやすい体制に変更したことにより 999 回/月（前年 949 回）となった。
- (イ) 後方支援病院としての機能の強化：急性期病院に、地域連携室職員とともに医師が訪問（8 回）したことにより、当院の専門性や役割の認知が高まった。
- (ウ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援：職員の認知を高める研修会を継続、市民を対象とした院外講座に 8 回出向いた。また、院外講師を務められる職員を 4 名増やすことができた。市職員からも分かり易いと評価されている。

3. 人材の確保・育成の推進

- (ア) 人材の確保と育成：採用について、新たに高校2校、専門学校や大学は5校に訪問した。また、病院で働く専門職を知る“お仕事リサーチ”や“ナース体験”の実施など、中高生向けのイベントを開始した。看護補助者教育については、ラダーの活用100%、協働推進のための看護師向け研修の受講も100%とした。
- (イ) 専門性向上の支援：職員のやりがいを高めるための認定資格等の取得促進や取得後の活躍を支援した。感染管理認定看護師1名、特定看護師（感染、創傷管理）2名取得。

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

- (ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備：職場ごとに効率化に取り組んだ。11月より全職員を対象とした腰痛予防体操を導入。腰痛アンケートでは“問題なし”54%（目標57%）。
- (イ) 両立支援制度の普及啓発、活用：男性職員への育休取得の情報提供100%、介護休暇取得のための手順書を完成させた。育児・介護・治療を理由にした離職は0であった。

5. 経営基盤の安定化

- (ア) 病床稼働の安定化：回復期45.5、一般42.3、療養45.1床/日（目標46、45、47床）。院内外のコロナやインフルエンザ感染による影響も受けたが、3月には過去最高の95.5%の稼働となった。病棟課長や連携室が全病床を活用する運用が定着した。
- (イ) 回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得：2月より算定開始。新規入院患者の重症度割合を高める取り組みを職員一丸となって行った成果である。
- (ウ) 災害対策の強化：BCPを更新。発災から72時間取るべき行動を可視化したため、2025年度の訓練へと繋げていく。

6. 地域における公益的な取り組み：袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画を継続しつつ、新たな評価方法を提案し運用を開始した。「こころのノート」普及啓発には、職員が地域に出向き8回講師を務めた。認知症初期集中支援活動では、袋井市が対応に苦慮する住民宅への訪問に職員も参画する取り組みを開始した。

【数値実績】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	46 名	51 名	110.8%	110.8%
外 来 単 価	8,190 円	7,746 円	94.5%	92.7%
入 院 患 者 数	135 名	133 名	98.5%	99.2%
入 院 単 価	29,149 円	28,913 円	99.1%	104.3%
病 床 稼 働 率	90.0%	88.6%	98.5%	99.2%
職 員 数	204 名	195 名	95.5%	102.0%

〈訪問リハビリテーション〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
利用回数（月平均）	949 件	999 件	105.2%	113.7%
単 価	3,372 円	3,316 円	98.3%	99.9%

保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック
聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 聖隷静岡健診クリニック

2024年度は、人間ドック・健康診断を受託している契約団体および利用者のニーズを改めて見つめ直し、顧客からの信頼回復に努めた年度であった。健康保険組合、企業、市町への営業活動については、営業契約課のみならず、各事務長、予約課、コメディカル等が積極的に顧客のもとに出向き、ニーズの聞き取り、出張予約の実施等をさせて頂いた。また、施設内や巡回健診会場においても、利用者のニーズに合わせたオプションの追加案内等、職員が一丸となって事業部経営に携わり、事業部全体で対前年比1.2億円の増収を図ることができた。課題であった4～5月については利用者数を増やすことができたが、12～3月においては前倒し受診の傾向もみられたため、次年度は下半期における新規利用者増の対策をスピード感をもって実施していきたい。

運営面においては、3年目を迎えた健診システムの安定と定着、現場における業務改善が図られ、超過勤務の低減にもつながった。

経営面においては、サービス活動収益が対前年度では101.4%の増収となったものの、対予算では97.4%に留まり、さらには人件費、諸費用の高騰によりサービス活動費用が対予算98.6%まで達したため、税引前当期活動増減差額は予算未達となり、昨年度並みの▲1.6億となった。次年度はさらなる増収と効率化に努め黒字化を図りたい。

未来への投資としては、2025年度より本格的に開始する「Web化3事業（予約・問診・結果請求）」の運用構築、聖隷健康診断センター内視鏡室増設工事、一般財団法人恵愛会からの健診事業の事業譲渡に関する準備を行った。

2024年度に実施したCSアンケートにおいては95%の利用者から「大変満足」あるいは「満足」という評価を頂いている。次年度においては、利用者のさらなる満足度向上と契約団体のニーズにお応えできるよう、経営の安定と運営の安定、それを支える職員の健康を守る対策を積極的に実施していきたい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者本位の業務遂行

○何事も顧客本位に考え、契約内容および期日を厳守し顧客に対してきめ細かい対応を図る

（1）契約団体

（ア）契約団体管理体制の再構築

・営業日報をシステム化（S-WORKS 導入）し、営業情報の課内共有を図った

（イ）請求書・結果報告書の電子化およびWeb化の実施

・システム改修及び契約団体への意向を確認、2025年4月分より一部電子化を開始する

(ウ) 市町との協働による巡回住民健診受診勧奨の実施

- ・市町との協働により、事前予約枠増枠、受診勧奨を実施した

(エ) 法改正への確実な対応(第4期特定健診・特定保健指導制度、HPV 公的検診、労働安全衛生法改正、特殊健診法令改正等)

- ・第4期特定健診・特定保健指導は問題なく開始でき、HPV 公的検診は市町の動向待ち、労働安全衛生法改正については省令待ちとなっている

(2) 利用者

(ア) 健診システム改善および運用改善による待ち時間の短縮

- ・健診システム通過管理機能による空き検査ブース誘導等、待ち時間短縮を図った

(イ) Web 予約枠拡張による利便性の向上

- ・ドック Web 枠拡張により、Web 予約比率は 32.6% (目標 16%) となった

(ウ) Web 問診の導入検討

- ・Web 問診プロジェクトにて運用構築が完了し、2025 年 4 月より開始する

(エ) 滞在時間短縮サービス (スピードドック等) の拡張 <健康診断センター、予防検診センター>

- ・利用者数：健診 793 名 (対前年 137%)、予検 3,226 名 (対前年 102%)

(オ) 滞在時間短縮型ドックの展開 <東伊場クリニック>

- ・平均滞在時間：2 時間 46 分、東伊場利用者数：14,868 名 (対前年 126.6%)

2. 質の高いサービスの提供

○サービスの質を追求し、利用者に対して最高品質の保健サービスを提供する

(ア) 挨拶、丁寧な説明、臨機応変を旨とした接遇の実施

- ・巡回健診部門の顧客サービス研修をはじめ、各施設において接遇研修を実施した

(イ) 正確な技術力、課題発見力、問題解決力を備えた人材の育成

- ・手技の標準化、認定技師取得、精度管理調査への取組等により人材育成を図った

(ウ) オンライン保健指導の積極活用によるハイリスク者への早期介入の実現

- ・ドック当日特定保健指導実施率 78% (国の指標 45%)

(エ) 組織的な連携体制と各種専門職等による産業保健支援活動の展開

- ・労働衛生コンサルタント事務所と営業契約課の顧客管理を一元化した

3. コンプライアンスの遵守

○法令を遵守し、健康経営の実現および情報漏洩の防止に努める

(1) 労働基準法

(ア) 健診システムの改善、運用の抜本的な見直しによる長時間労働の是正

- ・超過勤務時間人員換算 13.3 人減

(イ) 巡回健診における健診日程、人員配置の適正化による長時間労働の是正

- ・巡回コントロール会議を発足させ、健診日程、人員配置、配車の見直しを図った

(ウ) 職場環境・作業環境の改善

- ・営業契約課事務室を移転し、巡回健診用冷却ファン付き空調服を整備した

(2) 個人情報保護法

(ア) 契約マスタの精緻化による誤送付防止

- ・結果処理・請求事務課と営業契約課の協力体制により誤送付防止を図った
 - (イ) ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）手順書遵守による個人情報漏洩防止
 - ・ISMS 内部監査を実施し、ISMS 更新審査の準備を通して標準手順書の確認を実施した
4. システム改修の継続とデジタル化の推進
- システム改修を継続し作業の効率化と精度向上を図り、業務のデジタル化を推進する
- (ア) 健診システム改修による省力化
 - ・契約詳細複写機能により 1,000 時間、予約機能改善により 600 時間の省力化を図った
 - (イ) 業務の電子化および Web 化による効率化
 - ・Web 予約比率拡大、静岡県職員ドック等の Web 予約化により受電業務効率化を図った
 - (ウ) 健診事前準備システム導入検討
 - ・巡回健診事前準備システム（スマート J1）の導入に向け、検討を継続している
5. 職場運営体制の充実
- 職場における業務分掌、指揮命令系統を明確にし、運営管理の徹底を図る
- (ア) 管理規定および組織図に則った職場運営管理の徹底
 - ・経営戦略課の経理業務を予検建屋内に集約し業務の効率化を図った
 - (イ) 運営管理センターミーティングによる相互連携強化
 - ・4～12 月まで週次開催しコミュニケーションの強化を図った
6. 経営数値の改善
- 事業継続と、将来の設備投資計画を念頭に置き、必要なサービス活動収益及び増減差額を確保し、予算を達成する
- (ア) 「保健事業部経営再建計画」に則った経営再建
 - ・増収と業務効率化による人員の適正化を図ったが、計画数値は未達成であった
 - (イ) マーケティング（将来需要予測、契約団体の動向等）に基づいた戦略的経営の実施
 - ・巡回住民検診利用者減傾向により大規模巡回企業健診契約、施設内のドック・健康診断の利用者増にシフトチェンジした
 - (ウ) 初回利用者リピート率向上による継続的な収益確保
 - ・ドックリピート率：79.1%
 - (エ) 巡回健診契約団体および実施エリアの見直しによる経営効率の改善
 - ・契約及び実施日数見直しによる配車、人員出動の効率化を図った
 - (オ) 事業継続に向けた費用コントロール
 - ・効率化による人件費の適正化、問診表同封物の簡略化による郵送料低減等を図った

【各施設の取り組み】

1. 聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック
 - ・内視鏡室 7 ライン化工事を実施した（2025 年 4 月オープン）
 - ・東伊場クリニックの営業強化を図った
2. 聖隷予防検診センター
 - ・当日追加検査パネル設置によるオプション検査勧奨を強化した

- ・タスクシェア（放射線技師による眼底検査、看護師による採血）を積極的に実施した
3. 地域・企業健診センター
- ・巡回健診時の接遇向上、危険予知、運転技能向上に関する研修を実施した
 - ・「ふくけん（静岡多目的コホート事業袋井健康長寿研究）」に参画した
4. 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*、静岡健診クリニック
- ・健保営業、当日追加検査等積極的な増収策に取り組んだ
 - ・静岡健診クリニックのエコー室増室及びマンモグラフィーの更新をした

【地域における公益的な取り組み】

- ・浜松商工会議所主催「いきいき健康フェスタ」における女性のがん検診啓発活動
- ・浜松ウェルネス推進協議会参画団体としてフレイルをテーマとしたお弁当の開発及び子供の食育をテーマとした惣菜パンの開発

【数値実績】

■ 聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
32,206 名	269 名	49,029 名	10,730 名	23,866 名
特殊健診	精密外来	合計		
2,993 名	17,279 名	136,372 名		

■ 聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
20,863 名	0 名	320,343 名	3,861 名	49,044 名
特殊健診	精密外来	合計		
44,972 名	12,328 名	451,411 名		

■ 聖隷聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*、静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
17,916 名	0 名	90,964 名	2,821 名	18,662 名
特殊健診	精密外来	合計		
7,684 名	10,761 名	148,808 名		

■ 保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
70,985 名	269 名	460,336 名	17,412 名	91,572 名
特殊健診	精密外来	合計		
55,649 名	40,368 名	736,591 名		

高齢者公益事業部

2024 年度の介護報酬改定で感染症や自然災害が発生した際の継続的なサービス提供体制の構築が求められるなか、2024 年 8 月に日向灘の地震により初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された。当事業部では 2023 年度に外部の専門家を招聘して全施設長が参加し BCP（業務継続計画）のシミュレーション訓練を実施したが、2024 年度は浜名湖エデンの園、松山エデンの園、横浜エデンの園でより実践的な訓練を行った。今後も BCP の実効性、有事の際の想定力と対応力を高めるため、全施設で訓練を継続する。

2024 年 4 月に宝塚エデンの園が開園 45 周年を迎えた。人手不足、人件費上昇、物価高騰などの厳しい経営環境のなか、エデンの園の経営の安定、永続性の確保に努めた。入居率 96%（宝塚エデンの園を除く）を目指した入居者募集では、コロナ禍後、初めて大規模セミナーを開催することができた。広告出稿、中小規模のセミナー、個別見学会・相談会等を組み合わせた募集活動を継続し、直営施設では契約件数は予算未達だったものの、契約金額は予算を達成できた。2023 年度から東京都住宅供給公社より受託し 2 年目となる明日見らいふ南大沢の入居者募集業務は、予算以上の契約件数を達成した。

人材の採用・育成・定着では、各施設の運営管理課長が中心となり、採用活動量の増加と対応のスピードアップをはかった。また、職員の身体的負担の軽減とケアの安全性向上のため、ノーリフトケア®を推進した。

サービスについては、すべてのエデンの園で見守りシステムの導入が完了し、データを活用したケアを実践した。外部の専門家による接遇研修は、新たに宝塚エデンの園、油壺エデンの園、藤沢エデンの園一番館で実施した。2024 年 10 月に聖隷藤沢ウェルフェアタウンで 100 名以上が体調不良となる食中毒事故が発生した。被害に遭われた方々に重ねて深くお詫び申し上げる。全職場、全職員が原理原則と根拠に基づき安心安全なサービスを提供し、再発防止を徹底する。

介護ロボット、AI（人工知能）を活用した新しい働き方を創造するテクノロジー導入検討会議は、各施設の共創を促進し、職員の負担軽減をはかる計画的な取組みにつながった。2025 年度着工予定の宝塚エデンの園の建替え工事は、計画的に準備を進めた。

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

聖隷の理念、事業部の運営方針の浸透をはかり実践につなげるため、事業部長が各施設の役職者とは対話形式による意見交換会を継続実施した。

2025 年度は松山エデンの園が開園 45 周年、横浜エデンの園が開園 15 周年を迎える。引き続きエデンの園の価値の継承と進化に取り組みたい。

2. 経営の安定と永続性の確保

2024 年 10 月から横浜エデンの園を除く直営施設の特別介護金、生活支援金を改定した。また、入居時期により異なっていた浜名湖エデンの園の管理費を 2024 年 4 月から同一金額に統一した。

入居契約は、契約件数 117 件、契約金額 42.3 億、入居率 91.3%（宝塚エデンの園を除き 94.6%）となった。

2024 年 10 月以降、外部の専門家を招聘し、浜名湖エデンの園、松山エデンの園、横浜エデン

の園の各施設で BCP のシミュレーション訓練を実施した。役職者で構成する災害対策本部を設置し、大地震発生後に生じるさまざまなトラブルや課題にどのように対処するか、訓練した。2025 年度末までに全施設で同様の訓練を実施する。

運営管理部で新たに 3 施設の給与・社会保険業務を受託し、全施設の労務業務の集約が完了した。当該業務は、2025 年度中に法人本部シェアードサービスセンターに移管する予定である。

3. 人材の採用・育成・定着の強化

各施設の運営管理課長が採用活動量の増加策を策定し、求職者の希望に応じて柔軟に施設見学、採用面接を実施できる体制を整えた。

働き方改善を目的とした DX（デジタル技術を活用し、業務改革等を推進すること）、介護ロボットの導入は、ほぼすべての施設で新たな取組み、目標とする 3 つ以上を実行できた。

健康経営の推進では、職員の定期健康診断の再検査受診率の向上に引き続き取り組んだほか、法人本部健康推進室、聖隷健康保険組合保健師の訪問指導による支援を得ることができた。

4. サービスの質・安全・効率の向上

特定施設入居者生活介護の相互監査を 5 施設で実施し、2024 年度の介護報酬改定、法令に基づくサービスが提供できているか監査するとともに、監査対応を通じた役職員の育成につなげた。

ETS2020（業務基幹システム）は、記録業務の負担軽減と効率化をはかるため、現在のタブレットに加え、スマートフォンでも入力できるよう改修した。また、2025 年度の次期システムの開発のため、各部門から選出した担当で構成するプロジェクトで検討を重ねた。

喫食率を高める取組みとして、統一献立、食堂 PR、食堂の環境改善を実施した。浦安エデンの園ではレストランを大規模に改修した。

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

宝塚エデンの園では、2025 年度の大規模建替え工事に備え、2025 年 3 月から準備工事に着手した。また、建替えに伴う仮住まい居室確保のための戸別訪問を実施した。

6. 地域における公益的な取り組み

SDG s としての活動を念頭に置き、介護フェスタ、認知症講演会、地域の清掃活動、共同防災訓練等を継続している。

【数値実績】

(直営施設)		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		22	10	14	31	13	20	10	2	122
募集実績		22	6	15	26	19	15	12	2	117
入居率	期首	96.7%	82.6%	91.1%	95.3%	93.3%	88.0%	98.1%	80.0%	92.1%
	期末	96.3%	78.7%	95.2%	94.3%	93.8%	80.0%	97.6%	88.0%	91.3%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2024年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が続いたが、日常生活やイベントにおいて概ね平穏な一年であった。感染前に実施されていた多彩なイベントが復活し、特に納涼祭は完全な形で開催された。また、入居者の要望を反映した新たな試みとして「釣り企画」や「リユース会」などの催しを実現した。

感染対応としては、入居者に共用部でのマスク着用を任意としたが、9割以上の入居者が共用部での着用を続けており、入居者の感染リスクへの高い意識が見られた。

サービス面では、見守りシステムの本格稼働により巡視回数が減少し、入居者の睡眠の質向上に寄与した。また、ノーリフトケアの重点施設として施策を推進し、対象入居者への介助量軽減という目標を達成した。さらに人材確保の取り組みとして、EPAによる外国人介護職員2名の採用を実現した。新たな障がい者雇用については動き出しをしていたものの実現には至らず、次年度に持ち越す課題としたい。加えて、身元引受人同席のもとで入居者参加型のカンファレンスを積極的に開催し、その人らしい生活を支える取り組みを進めた。

経営面では、物価高騰や人件費上昇が続き、非常に厳しい年度であった。4月から管理費の統一化を図ったが、物価高騰の影響を相殺するには至らず、2024年度末の入居率は96.3%に達し高齢者公益事業部の目標数値は達成したものの、大きな黒字転換には至らなかった。

入居募集については、入居時の対象年齢を65歳に引き上げた年であったが、年齢引き上げによる大きな影響を受けることはなく、静岡県内を中心とした広告展開と、小セミナーを中心とした丁寧な募集活動によって契約予算件数を達成することができた。

公益事業では、例年通り地域清掃ボランティアや自治会等への会議室無料提供を継続したほか、中学生の体験学習の受け入れや放課後児童クラブへの入居者手作り雑巾の提供など、地域団体との絆を深める活動を実施した。

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

- (ア) 個人フォルダを作成し、情報入力を進めることができた。
- (イ) カンファレンスを定期的に行い、積極的な声掛けにより身元引受人の参加が高まった。
- (ウ) 見守りシステム導入により過度な対応の削減と、睡眠の質の向上につながった。

2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり

- (ア) 朝礼、基礎研修、園内研修での理念の確認を行うことができた。
- (イ) 職種に沿ったラダーの設定とスキルマップを活用した人材育成に取り組んだ。
- (ウ) ノーリフトケア、シフトメーション等の導入により業務軽減を図ることができた。
- (エ) EPAによる外国人介護職員の採用を行うことができた。

3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保

- (ア) 基礎研修及び園内研修にて事業計画の詳細な説明を行うことができた。
- (イ) 全職員参画の入居者募集活動を唱え、年度末96.3%の入居率とすることができた。
- (ウ) 食事の配膳対応を課跨ぎの協力連携により対応することができた。
- (エ) 新旧契約者の管理費の統一を図ることができた。

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

- (ア) 感染管理認定看護師による実地指導を受け、感染対策の確認と向上を図ることができた。
- (イ) 全職員に対してコンプライアンス研修を行い、意識向上に努めることができた。
- (ウ) 管理者による BCP 訓練及び、職員向けに BCP についての研修を行うことができた。
- (エ) 段ボールベッドの整備を行い有事に備える体制を整えた。

5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり

- (ア) 近隣の大学と協同し入居者向けの体力測定を行った。
- (イ) 入居者から要望のあった釣り企画など新たなイベントを開催することができた。
- (ウ) 地域の清掃ボランティアを継続実施することができた。
- (エ) 将来的に住替えの可能性のある介護棟の見学会を行い、80 名の参加をいただいた。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	413 戸（84 戸）	174 名	323 名	497 名

表 2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1 名	2 名	56 名	419 名	15 名	1 名	0 名	3 名	497 名
構成比	0.2%	0.4%	11.3%	84.3%	3.0%	0.2%	0%	0.6%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	40 名	72 名	81 名	109 名	90 名	59 名	37 名	9 名	0 名	497 名
構成比	8.0%	14.5%	16.3%	21.9%	18.1%	11.9%	7.5%	1.8%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.9 歳	79.9 歳	82.9 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（内死亡退去）
男性	13 名	15 名	13（名）
女性	14 名	14 名	12（名）
計	27 名	29 名	25（名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	118 名	22 名	11 名	31 名	17 名	15 名	16 名	6 名
期末人数	114 名	19 名	9 名	25 名	26 名	15 名	8 名	12 名
月平均人数	122.1 名	21.9 名	10.0 名	32.0 名	18.5 名	16.2 名	11.8 名	11.8 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	131.4 名
-----------	---------

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2024 年 4 月に開園 45 周年を迎え、入居者と職員皆でこの長い歴史の中で培われてきた風土や文化を改めて確認し、宝塚栄光園との合同記念式典の挙行を皮切りにたくさんの記念行事を入居者とともに実施することができた。

建替え計画の推進にあたり、2 回目の戸別訪問を実施し入居者の住替え・仮住いの要望や不安・心配事などをお聞きし、2025 年度の計画実施に向けて課題を明確化した。C 棟外壁のリニューアル工事については、工事の遅延などにより長期間入居者に迷惑と心配をお掛けした。建替え工事を含む今後の工事においては、十分な情報提供と入居者に寄り添った対応を行っていく。

サービスを深化させるため「全員コンシェルジュ」の浸透を図り、入居者が園のことをより「知る」ことで安心をもたらせるよう宝塚エデン放送をはじめとした情報発信の強化を行った。また、職員の働きがいを高めていくため、職員間でのコミュニケーションの「量」と「質」を上げるための取組を行った。

自然災害や感染症への対応については、専門的な知見を活かしたより実践的な訓練等を行うことができた。依然として物価や人件費の高騰は続き、費用の最適化を図る取組等を行ってきたものの施設経営に大きな影響を与えた。今後も、インフレの継続や労働力不足など厳しい経営環境が見込まれる。2024 年度の取組を各部署・各職員がしっかりと振り返り、入居者の協力のもと職員一丸となりこの厳しい経営環境を乗り越えていきたい。

1. 入居者満足度の向上

- (ア) 「全員コンシェルジュ」の浸透を図る取組を実施した。
- (イ) 見守りシステム等によるデータを活用したサービスの提供を開始した。
- (ウ) 「食べたくなる」「健康になる」食事の提供を目指し、PR 動画やベジチェックの活用を充実させた。
- (エ) 情報発信を強化するため宝塚エデン放送のプログラム内容を充実させた。
- (オ) 建替え計画に伴う不安事等軽減の取組として 2 回目の戸別訪問を実施した。

2. 職員満足度の向上

- (ア) 職員間の「対話」の総量を増やす、職場・職員間の連携強化への取組として事務所リニューアルとフリーアドレス化（席を固定せず自由に席を選択）を実施した。
- (イ) 人材戦略委員会を発足し、園全体での人材定着・確保への取組を実施した。
- (ウ) ICT（情報通信技術）の活用による業務効率化の取組として服薬管理システムを導入した。

3. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 費用最適化を図るため業務委託契約等の見直しを図った。
- (イ) 整形外科医師の確保により診療所標榜の外来体制を継続できた。
- (ウ) 他法人との合同見学会の継続やデータ分析による戦略的募集活動を行った。

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 入居者及び近隣住民参加型の実践的防災訓練を実施した。
- (イ) 専門家指導のもと不審者対応訓練を実施した。
- (ウ) 防災訓練時に入居者への防災情報の提供や売店での防災備品の販売を行った。
- (エ) 虐待、身体拘束等研修の全職員への確実な実施とリスク、苦情の職員間での共有及び対策立案の迅速化を図った。

5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

- (ア) 文化教養講座やコンサート、婦人科検診、介護予防講座に加え、5年ぶりに地域住民を招いた夏祭りを開催した。
- (イ) 宝塚フードドライブと職員間でのリサイクル交流企画を実施した。

【数値実績】

表1：契約状況

(2024 年度期末)

	戸数（複数入居）	男性	女性	一般居室	介護居室	計
人数	321 戸（42 戸）	84 名	279 名	282 戸/324 名	39 戸/39 名	363 名

表2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	313 名	22 名	15 名	2 名	5 名	1 名	2 名	3 名	0 名	363 名
構成比	86.2%	6.0%	4.1%	0.6%	1.4%	0.3%	0.6%	0.8%	0%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	30 名	75 名	87 名	75 名	48 名	27 名	14 名	7 名	0 名	363 名
構成比	8.3%	20.7%	24%	20.7%	13.2%	7.4%	3.8%	1.9%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.3 歳	82.5 歳	84.8 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(内死亡退去)
男性	3 名	10 名	(10 名)
女性	5 名	15 名	(15 名)
計	8 名	25 名	(25 名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	110.4 名	23.0 名	8.0 名	34.3 名	16.7 名	17.7 名	8.0 名	2.7 名
期末人数	101.8 名	14.8 名	6.0 名	26.7 名	23.0 名	19.9 名	11.4 名	0.0 名
月平均人数	108.5 名	19.5 名	9.0 名	28.7 名	21.3 名	18.0 名	11.5 名	0.5 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	128.8 名
-----------	---------

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2024 年度、松山エデンの園の運営は積極的な募集活動により目標の 95%を達成することができた。また食費改定や介護保険請求者数の増加により施設会計の収支改善にも繋げることができた。設備環境面では入居者が快適な生活が送れるよう、クラブ室の改修やトレーニング機器、ナースコールシステムの更新などを行うことができた。サービス面では新たな ICT 機器を 3つ導入し、その内の 1つ DFree(排泄予測支援機器)は聖隷横浜病院泌尿器科とのオンライン診療時のデータとして活用することができた。人材の育成では一般居室でも介護居室でも入浴介助ができる職員を育成し、急な欠員の際にどちらでも入浴業務が行える体制を整えた。また、安心安全な施設環境作りでは入居者も参加した防災訓練の振り返り内容を活かし、松山エデンの園版の防災のしおりの更新と事業部の支援の元、BCP 訓練を行い BCP マニュアルの見直しに繋げることができた。

2025 年度は物価高騰や人件費の UP も見込まれるため、引き続き入居率の向上を目指し、施設会計の安定をめざしたい。サービス面では認知症予防、介護予防を目的としたデイサロンのカメラを開始する。また、新入職員の定着とノーリフトケア、接遇、施設間交換研修の機会を活かして人材育成を推進していきたい。

1. 入居募集と経営の安定化

- (ア) 新規契約 15 戸 18 名 入居率 95.2%となり目標達成した。
- (イ) 入居率向上と介護保険収益の UP、食費の値上げの効果もあり施設会計の収益改善を行うことができた。

2. 人材の育成

- (ア) 多様な働き方を推進し、現場が必要な時間とパート職員が働ける時間をマッチングし採用活動を積極的に行った結果、7名の採用に繋がった。
- (イ) EPA 職員 1 名を初採用し育成する中で、改めて OJT の重要性を認識することができた。
- (ウ) マニュアルや各種チェック表の点検と更新は計画的に行えなかった。

3. よりよいサービスの提供

- (ア) トルト(歩行分析 AI)の導入により、歩行状態の分析と個々に合ったリハビリの内容を AI が行う事で職員の業務負担の軽減と入居者の満足度が上がった。
- (イ) 介護予防機器の更新を行い、新規の利用者も増え介護予防活動に繋がっている。
- (ウ) 食事サービス課は慢性的な人員不足であったが、生産性向上を意識した業務改善を行い喫食率が上がっても以前通りの食事提供を継続できた。

4. 安心安全な施設環境作り

- (ア) 年間計画に沿った防災訓練と BCP 訓練を行い、振り返り内容を入居者向け「防災のしおり」に活かし改定することができた。
- (イ) コロナウィルス感染者が発生したが、予防訓練を生かし拡大させることなく対応できた。

5. 地域における公益的な取組

(ア) 山田地区、聖愛会と一緒に合同防災訓練を行う事ができた。

(イ) ペットボトルキャップの回収と「古着で障がい者のサポート」として入居者からの提供してもらった古着 16.5Kg を提供することができた。

(ウ) 松山市の認知症高齢者 SOS ネットワーク事業に登録し、地域の搜索協力体制を整えた。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	139 戸（20 戸）	50 名	109 名	159 名

表 2：地域別契約状況

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	133 名	9 名	6 名	7 名	1 名	3 名	159 名
構成比	83.6%	5.7%	3.8%	4.4%	0.6%	1.9%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	12 名	37 名	30 名	37 名	16 名	14 名	11 名	2 名	0 名	159 名
構成比	7.5%	23.3%	18.9%	23.2%	10.1%	8.8%	6.9%	1.3%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
83.96 歳	82.82 歳	84.48 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（内死亡退去）
男	9 名	3 名	（3 名）
女	10 名	7 名	（6 名）
計	19 名	10 名	（9 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	54 名	13 名	6 名	12 名	8 名	6 名	4 名	5 名
期末人数	62 名	18 名	4 名	15 名	6 名	7 名	5 名	6 名
月平均人数	59.8 名	15.3 名	5.4 名	13.2 名	7.5 名	8.2 名	4.3 名	5.9 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	49.9 名
-----------	--------

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2024年度は、改めて施設理念に立ち返り、入居者一人一人のその人らしさを大切にしたいと思ひから、そのためにできることを考え、サービス内容を共有し実践につなげた。年間を通し、四季折々の行事開催からも入居者との関わり大切さを再認識することができた。一方、物価の高騰、環境の変化の中で、入居者サービスを維持するために、園バスの運行変更、食費改定、水道料改定を行った。園バスの運行は、ルート変更や予約方法の変更など、入居者に協力をいただくことで改定することができた。接遇力向上のために外部の専門家を講師とした研修を8ヶ月間実施し、職員の姿勢に変化をもたらすことができた。この学びを継続しながら、今後も接遇力向上に取り組んでいきたい。ノーリフトケア、服薬管理システムの導入、機械浴槽の更新により、提供する側も受ける側も安全を重視した介護サービスへ繋がった。食事サービスは、美味しい食事の提供を目標に取り組んだが、喫食率アップには至らなかった。継続的な課題である人材確保、及び定着のため、入職前後の丁寧な対応、採用ホームページの更新、個々のライフスタイルに合わせた勤務形態の見直しなどを行った。入居募集活動では、ワンコイン見学会、丁寧な個別見学対応により、検討者の増加を目指し取り組んだが、目標件数を達成することができなかった。物価の高騰、自然災害等、私たちを取り巻く環境の変化は益々速度を増していくことが予測されるが、2025年度も入居者と共に歩んでいきたい。

1 安心、安全を基盤としたサービスの質向上

- (ア) 全課参加の月2回のケア会議や各検討会により、入居者個々の生活の質の向上を目的としたサービス提供を行った。
- (イ) 基本的感染対策と情報提供の継続、発生時の各課連携で必要なサービス提供を行った。
- (ウ) 見守りシステム、ノーリフトケア®、服薬管理システム、歩行分析AIを導入した。
- (エ) クリスマスパティーを一部制にするなど、入居者同士の交流が深まる行事を行った。
- (オ) ご当地メニューの継続、他エデンのメニュー、リクエストメニューを取り入れた。
- (カ) 外部講師による接遇研修を通し、フロント職員の接遇に関する意識が向上した。
- (キ) 事故再発防止のための対策の立案、実施、評価の体制を強化した。

2 人材の確保と定着

- (ア) 職員一人一人がやりたいこと（目標）を支援した。
- (イ) 役職者がスタッフへの声かけを意識することで、風通しの良い職場環境づくりに努めた。
- (ウ) 勤務表作成ソフト導入により、均一した勤務、及び業務の効率化につなげた。
- (エ) 専門職の外部研修参加への機会を設け、キャリアアップの一助とした。

3 安定した施設運営・経営

- (ア) 新入居26件33名、退去30件43名、入居率94.3%で予算未達であった。
- (イ) エレベーター更新工事、介護浴槽の更新等の計画修繕を実施した。
- (ウ) 状態に合わせた介護サービスへの移行は行ったものの、介護保険収益は予算未達だった。
- (エ) 基本チェックリストを実施し、介護予防活動参加への理解と、促しを継続した。
- (オ) 附属診療所は、病状に合わせ積極的な入院受け入れを行ったが、運営については今後の

課題である。

4 SDGs を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域における公益的な取組み

(ア) 猛暑続きと燃料費の高騰により、省エネには至らなかった。

(イ) 入居者に協力いただきワクチン 44 個分のエコキャップ回収ができた。

(ウ) 三浦市ほかの協力のもと介護フェスタを開催、162 名の方に参加いただいた。

5 災害時の対策、防災教育の徹底

(ア) 自然災害発生時の BCP 机上訓練を役職者、園内委員会メンバーで行った。

(イ) 防災訓練の実施と三浦市担当者による災害対策に関する説明会を開催した。

(ウ) 三浦市との地域防災協定を継続している。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	400 名（84 名）	169 名	315 名	484 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	437 名	13 名	17 名	1 名	8 名	0 名	2 名	2 名	3 名	1 名	484 名
構成比	90.3%	2.7%	3.5%	0.2%	1.7%	0.0%	0.4%	0.4%	0.6%	0.2%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	38 名	84 名	97 名	89 名	83 名	50 名	38 名	4 名	1 名	484 名
構成比	7.9%	17.3%	20.0%	18.4%	17.2%	10.3%	7.9%	0.8%	0.2%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
82.6 歳	80.7 歳	83.5 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（内死亡退去）
男	11 名	13 名	（13 名）
女	22 名	30 名	（25 名）
計	33 名	43 名	（38 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	137 名	19 名	23 名	39 名	15 名	11 名	19 名	11 名
期末人数	125 名	22 名	18 名	35 名	12 名	15 名	17 名	6 名
月平均人数	128.9 名	18.8 名	19.5 名	37.9 名	12.3 名	12.8 名	17.4 名	10.2 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	140.0 名
-----------	---------

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2024年度は、健康二次被害（コロナフレイル）の拡大を防ぎ、コロナ前の生活を取り戻すことを目標に、様々な活動及び施策を講じた。その一つとして、レストラン利用率向上と入居者間のコミュニケーションの場の提供を目的とし、全面リニューアル工事を実施。居心地の良い空間づくりのため、細部にわたるまで十分に話し合いを重ねて完成させた。今後、レストランは、食事をする場所のみならず、憩いの場としてイベントや家族会等、用途を広げて活用していく。新たな介護予防活動として、音楽プログラムを開始。自立から介護支援が必要な方まで、一緒に楽しめるプログラムとなっている。コミュニケーションの場としても、今後、拡大を予定している。また、施設理念にある『入居者を真ん中においた生活の創造』を念頭に置き、入居者一人ひとりに寄り添い、入居者の声に耳を傾けることに尽力した。昨年度同様、外部の講師を招き、職員の接遇力向上に努めた。聞き取る能力を向上させることは、入居者の生活を支えることにつながると強く認識し、全課、全職員が取り組んだ。また、認知症ケアについても、職員のスキル向上のため、研修会を実施。表現できない入居者の気持ちに寄り添うための研修となった。

入居者の安全な生活のために、BCP（業務継続計画）の研修や、感染症対策訓練、防災訓練等、災害や非常事態に対応できる職員の育成にも注力した。生産性向上のため導入した介護機器を活用し、職員の経験によるスキルの違いを埋め、入居者及び職員に負担の少ない介護の実践にも努めた。入居者の生活リズムを把握し介護支援を行うなど、入居者を中心とした考えを根付かせ、QOL 向上に向けた安心して生活していただく為の基礎作りを行った。

1. 良質なサービスの追求

介護予防プログラムを新たに開始、全課で行うこのプログラムは、入居から介護支援が必要になるまで、園全体でシームレスな介護を行うための連携の強化に繋がった。見守りシステムを利用し、睡眠状況に合わせた支援の実践やリフト導入により、経験値の差を埋め、入居者及び職員への負担の少ない介護を実践した。

2. 働きがいのある職場風土の醸成

有給休暇の取得できる職場環境を整えるため、適切な職員数の確保と、量的負担の偏りが無いように業務の見直しを行った。また、内外問わず研修の場を積極的に準備し、職員のスキル向上のための支援を行った。職員は目標参画システムを利用し、個々の目指すべきものを可視化し、共有することができた。

3. 安心・安全な施設づくり

感染拡大時の行動確認や自然災害に備える実践的な訓練を実施した。また、防犯カメラの増設や、パトライトの設置、園外の照明新設、防犯マニュアルの大幅な見直しなど、防犯対策に努めた。食事については、衛生管理を徹底し、レストランリニューアルに伴い、食器や器具等も新調し、安全に食事を提供できる環境を整えた。

4. 安定した施設経営の実現

第三者評価を受審したことで、サービス内容の確認と見直しの機会となった。また、退去

や住み替えの手続きを迅速に行い、新たな入居者を迎え入れるための連携を強化。新規契約は目標の13件を上回る19件となった。世界的な問題にもなっているフードロスを担当園においても解消するため、残食調査を行い、結果を踏まえた献立の作成を行った。介護保険新規申請と区分変更については、入居者の変化をとらえ迅速な対応ができたことにより、介護保険収益向上につながった。今後も、職員全員が、経営の視点を持ち、全員募集の意識を高めて安定した施設経営に努めていく。

5. 地域における公益的な取り組み

保育園との合同津波・高潮時避難訓練を実施。また、近隣の保育園や学童クラブとの季節ごとの交流や、地域イベント（認知症の方とともに暮らす街づくり）への参加、近隣大学からの学生実習の受け入れ、地域の子ども食堂への消費期限間近の災害備蓄食品の寄付を継続し地域貢献に努めた。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	210戸（38戸）	86名	162名	248名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	232名	7名	2名	0名	0名	6名	1名	248名
構成比	93.6%	2.8%	0.8%	0.0%	0.0%	2.4%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	24名	30名	62名	52名	53名	22名	2名	3名	0名	248名
構成比	9.6%	12.1%	25.0%	21.0%	21.4%	8.9%	0.8%	1.2%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
83.8歳	81.7歳	84.9歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（内死亡退去）
男	10名	7名	（7名）
女	14名	13名	（13名）
計	24名	20名	（20名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	71名	15名	14名	16名	7名	6名	5名	8名
期末人数	71名	8名	18名	21名	10名	3名	7名	4名
月平均人数	72.2名	11.2名	15.3名	17.0名	10.0名	5.1名	6.8名	6.8名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	68.3名
-----------	-------

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2024 年度は介護報酬改定が行われ、加算算定に係る書類の整備や体制の構築に取り組むことができた。サービス提供においては、サービスの質を保ちつつ業務効率化に向けた介護テクノロジーを導入した。また、その他の業務においても、各職員がアイデアを出し積極的に業務改善を行えたことは大きな成果であった。医療連携においては、入居者の負担軽減のためオンライン診療を導入し、入居者の通院負担軽減や待ち時間の減少につながった。

人材育成・採用・定着においては、入職後短期間での退職も散見したため、採用後の教育体制を再検討することや業務標準化など、定着に向けた取り組みが急務となっている。

入居募集では平均入居率 80%と目標数は未達成となった。新規契約者数が目標達成できなかったことに加え、看取り期の入居が多く短期間での退去が続き、入居率を維持することができなかった。入居率向上のため資料請求や見学後のフォローアップへの積極的な取り組みが課題である。

【事業・運営計画】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進

- (ア) 介護ロボット・見守りシステム等を活用し業務改善、業務効率化を図ることができた。
- (イ) オンライン診療を導入するなど医療機関との連携に取り組むことができた。
- (ウ) 多職種で入居者のリスクに応じた環境づくりを検討できた。
- (エ) 訪問歯科と連携し口腔機能や嚥下機能の維持に努めた。
- (オ) デジタル機器を活用した介護予防活動、アクティビティの検討については未導入。

2. 働きがい重視した人材の採用・育成体制の構築。

- (ア) 目標参画にて各職員にエデン版介護キャリアパスモデルを周知できた。
- (イ) プロフェッショナル領域の育成体系は構築できず、2025 年度継続課題とする。
- (ウ) 外部有識者等による訪問指導は、オムツメーカーや専門看護師に依頼し、実施した。
- (エ) デジタル技術を活用した教育・研修システムは動画マニュアルを導入し、教育に活用した。
- (オ) 多様な働き方に対する受入れ体制の整備（短時間介護別、高齢、障がい者、介護補助業務）介護補助業務と介護業務の整理は未実施。

3. 経営基盤の安定と永続性の確保を図る

- (ア) 平均入居率 96%を目標としていたが 80%と未達成であった。
- (イ) 園の強みをアピールするために現場職員がケアの実践事例を紹介し、広告媒体にすることができた。
- (ウ) 感染症・自然災害に関する BCP に基づいた実践的な訓練を行うことができた。
- (エ) 算定可能な加算については、すべて算定することができた。
- (オ) 平均入居率、新規契約者数ともに目標数を達成できなかった。入居相談員の教育計画を作成し、計画に沿って教育を行えた。
- (カ) 健康経営の推進については、検診受診率、再受診率 100%を達成できた。

4. サービスの創造と業務改善の推進

- (ア) 介護次世代技術として服薬支援システム、介護浴槽を導入した。
- (イ) 4月から完全調理品、7月にアラカルトメニューを導入した。
- (ウ) ペーパーレスシステムは導入できなかったが入居契約の電子化を検討することができた。
- (エ) ノーリフトケアの推進に向け、意識づけのための研修を全職員が受講した。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域防災連携の構築は感染症、食中毒、災害等に備え改めて協定を見直していく。
- (イ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座は実施できず。地元の祭りに聖隷横浜病院とブースを出展することができた。
- (ウ) 入居相談時に介護相談窓口の機能を果たす取り組みを見学や電話相談時に実践することができた。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	40 戸（0 戸）	9 名	31 名	40 名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	38 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	40 名
構成比	95%	2.5%	0%	0%	0%	0%	2.5%	100%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	8 名	14 名	10 名	5 名	2 名	1 名	0 名	0 名	0 名	40 名
構成比	20%	35%	25%	12.5%	5%	2.5%	0%	0%	0%	100%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
89.9 歳	90.4 歳	89.8 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(内死亡退去)
男	5 名	10 名	(9 名)
女	10 名	9 名	(6 名)
計	15 名	19 名	(15 名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	44 名	1 名	1 名	4 名	6 名	9 名	14 名	9 名
期末人数	40 名	1 名	2 名	5 名	9 名	8 名	7 名	8 名
月平均人数	44.1 名	1.0 名	1.5 名	5.5 名	10.5 名	10.3 名	8.1 名	8.9 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	44.9 名
-----------	--------

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2024 年度は開設 14 年目を迎え、藤沢エデンの園一番館入居者の後期高齢者比率が増加。一番館入居者から将来への不安の声もあり、介護保険制度ならびにサービス利用時までの流れの理解を深めていただくため、「介護が必要になった時」についての説明会をシリーズ開催した。

また、複合施設としての施設間の連携強化、聖隷藤沢ウェルフェアタウン版の地域包括ケアシステムの構築に取り組んだ。この取り組みでは、生活サービス課および在宅事業所が連携し、一番館入居者へのアプローチを早めたことでスムーズなサービス提供へと繋がった。

ICT の導入では、藤沢エデンの園二番館に車いす洗浄機や汚物処理機等を設置し、よりケアに集中できる職場環境を整えた。また、二番館・藤沢愛光園の全居室への見守りシステム設置が完了し、機器から得られる情報を活用した「より個別性の高いケア」の実践へと繋がった。

また、10 月に発生した厨房内での食中毒は、入居者・利用者にとって生活の根幹である「食」の安全を揺るがす事態を招いてしまった。保健所指導のもと、施設内での衛生環境の改善を行い、第三者機関による評価を実施。2025 年度はこの評価を踏まえ業務の標準化を施設全体として推進し、改めて安心・安全の施設づくりに取り組む。

1. より良いサービスの追求

会議を通じ各事業所の役割や特性をお互いに理解し、情報連携の機会を増やしたことで一番館入居者へのより良いサービスへ繋げることができた。また、年間を通じた外部講師による接遇研修の受講は、職員にとっての自信となり、入居者への対応力向上へと繋がった。その他、ICT の導入では Air レジ導入によるキャッシュレス化に利用者の利便性が向上した。

2. 安心・安全の施設づくり

食中毒発生に伴い、衛生管理の見直し、職員向けの研修を実施。第三者機関による衛生調査を受けた。また、感染症や自然災害に対する BCP の机上訓練を行った。2025 年度も食中毒の再発防止、災害に備えた訓練を継続して行い、有事に対応できる職員の育成、環境整備に取り組んでいく。

3. 安定した施設運営と持続性の確保

勤務表作成ソフトや見守りシステムの導入は超過勤務の解消へ繋がり人件費抑制の一助となった。施設管理においては、開設して 10 年以上が経過 しており、計画的な設備更新・環境整備を引き続き進めていく。物価および水光熱費の高騰対策では、業者の見直しや藤沢愛光園全体を LED に切り替え、材料費・光熱費を抑えることができたが、引き続きの課題となる。

4. 人材確保と職員育成の強化

パート職員の賃金引上げ等を行ったが、必要な人材を確保することは年間を通して困難を極めた。全居室の見守りシステム導入が完了し、超過勤務の削減や身体的・精神的疲労の軽減が図れたことは職員の定着、離職率低下へと繋がったと考えられる。

5. 地域社会における公益的な取り組み

2021 年度より参加している『フードバンク藤沢』の活動を継続し、食品提供や運搬を行った。恒例となった大庭ふるさと祭では、訪問看護師による血圧測定等の健康相談の他、りんご飴を調理販売し好評を得た。地域住民を対象に家族介護者教室を、藤沢市より委託を受け 3 回開催することができた。

【藤沢エデンの園一番館】

2024 年度の新規契約戸数は実績 12 件であったが、二番館への住み替え者が多く入居率は 97.6% であった。しかし年払いから終身プランへの切り替えが進み契約金額ベースでは予算達成できた。生活サービス課では接遇の外部講師を招いて入居者への対応力向上へと繋がった。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	204（48 戸）	83 名	169 名	252 名
職員数（常勤換算）	50.4 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	四国	計
人数	218 名	9 名	19 名	0 名	3 名	2 名	1 名	252 名
構成比	86.5%	3.6%	7.5%	0.0%	1.2%	0.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	3 名	35 名	63 名	63 名	54 名	28 名	6 名	0 名	0 名	252 名
構成比	1.2%	13.9%	25.0%	25.0%	21.4%	11.1%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
82.4 歳	82.7 歳	82.1 歳

表 5：入・退去状況 *退去数には二番館への住み替え数を含む

	入居	退去	（内死亡退去）
男	2 名	9 名	（1） 名
女	11 名	7 名	（0） 名
計	13 名	16 名	（1） 名

【藤沢エデンの園二番館】

2024 年度は一番館からの住み替え者 15 名、直接入居 2 名を受け入れ、入居率は 88% であった。また、見守りシステムや介護サポート機器の有効活用により専門職が「人でなければできないこと」に注力できる環境作りと、業務改善活動による業務の効率化・負担軽減に取り組んだ。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	44 戸（0 戸）	9 名	35 名	44 名
職員数（常勤換算）	44.2 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	計
人数	37 名	0 名	7 名	0 名	0 名	0 名	44 名
構成比	84.1%	0.0%	15.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	12 名	13 名	11 名	5 名	3 名	0 名	0 名	0 名	0 名	44 名
構成比	27.3%	29.5%	25.0%	11.4%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
89.6 歳	89.1 歳	90.1 歳

表 5：入・退去状況 *入居数には一番館からの住替数を含む

	入居	退去	(内死亡退去)
男	7 名	2 名	(2) 名
女	10 名	10 名	(10) 名
計	17 名	12 名	(12) 名

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	41 名	0 名	1 名	7 名	10 名	10 名	7 名	6 名
期末人数	43 名	0 名	1 名	5 名	12 名	15 名	7 名	3 名
月平均人数	41.7 名	0 名	1 名	6.6 名	11.1 名	11.3 名	6.9 名	4.8 名

【藤沢愛光園】

2024 年度は入所の退去が 33 名、入院が多く稼働率は 94.9%、短期入所は 86.1%であった。ノ
ーリフトケア®の推進、見守りシステム全居室の設置、ペーパーレス化などにより職員の身体的・
精神的疲労の軽減を図ることができた。

	特養入所		短期入所		合計
	従来	ユニット	従来	ユニット	
利 用 者 定 員	—	100 名	—	20 名	—
利用者延べ数	—	34,626 名	—	6,284 名	—
稼 働 延 日 数	365 日		365 日		—
一日平均利用者数	—	94.9 名	—	17.2 名	—
稼 働 率	—	94.9%	—	86.1%	—
単価 (1 人 1 日当り)	14,350 円		14,572 円		—
職員数(常勤換算)	54.4 名		12.3 名		66.7 名

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2024 年度は職員の増員等で機能強化型 2 を取得できたが、介護保険の訪問件数比率増、訪問時間の減少により単価が下がった。業務改善としてはシステムによるスケジュール管理に取り組み効率化を進めることができた。

	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	単 価	職員数(常勤換算)
実績	111.5 名	641.8 件	7,701 件	8,972 円	8.2 名

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2024 年度は月平均 862 件の訪問ができた。しかし、一日複数回訪問利用者の終了が多くあり、下半期複数回利用の終了を穴埋めできず件数は伸び悩んだ。常勤職員の採用には至っていないが、登録ヘルパーを 2 名採用でき、人材の確保に取り組むことができた。

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単 価			職員数 (常勤換算)
	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護給付 (回)	予防総合 事業(人)	自立支援 (回)	
実績	35.1 名	398.5 件	4,782 件	104.8 件	1,258 件	269.6 件	3,235 件	4,323 円	21,773 円	4,129 円	5.1 名

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2024 年度は藤沢市の行うケアプランデータ連携の推進モデル事業所として、利用者へのサービス向上や業務の効率化に取り組んだ。また、新規利用者は受け入れを継続的に行い、安定した利用者数の確保ができた。一番館入居者に対しては、生活サービス課との連携を密にし、スムーズなサービス開始と適切なタイミングでのサービスの見直しに努めた。

	年間請求件数		単 価		訪問調査		職員数 (常勤換算)
	介護	予防・総合事業	介護	予防・総合事業	件数	単価	
実績	1,376 件	388 件	16,641 円	4,216 円	83 件	5,075 円	3.0 名

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2024 年度は利用者の在宅生活に沿った個別性の高い機能訓練を重視し、歩行分析 AI ソフト「トルト」の結果に応じた個別機能訓練プログラムを実施。また「トルト」の映像および分析結果表を確認することで、本人および家族に運動機能の向上効果を実感してもらうことができた。

	介護給付			予防・総合事業		単 価		職員数 (常勤換算)
	一日 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護給付(回)	予防総合 事業(人)	
一日	23.1 件	592 件	7,108 件	8.0 件	98 件	11,412 円	42,196 円	9.3 名
半日	3.7 件	94 件	1,131 件	—	—	6,900 円	—	

ウェル・エイジング・プラザ奈良ニッセイエデンの園

2024年度は医療・介護報酬の改定にあたり、特定施設、介護老人保健施設において医療機関との連携や生産性向上に係る加算・基準があらたに設けられた。要件整備にあたり、併設診療所を有する複合施設のメリットを活かしつつも、課題感が異なる事業所間で対策を検討せざるを得ないなど、煩雑な運用整備となった。BCPや虐待防止など研修、訓練の要件が濫立するなか、今後も出来るだけシンプルかつ実効性のある運用方法を継続して模索・検討する必要がある。

安定した経営基盤の確立においては、エデン入居者のご逝去が44名（予算25名）と例年の2倍に迫る実績となり、入居率維持が大きな課題となった。

また物価、人件費上昇が予算作成当初よりも大きな社会的トレンドとなり、ベースアップ、処遇改善加算等の影響もあり人件費は予算を大幅に超える上昇率となった。

電気、燃料費の単価助成および物価高騰への補助金交付が2年連続で実施されたものの、最終損益をプラスで維持することはできなかった。

開園30年を経過し顕在化した課題※への取り組みにあたり、経年による他施設との競争力低下への対策として、「独自の優位性について」年間をとおして管理会議で検討した。結果、「積極的介護予防の推進、緩和ケアの強化、健康・医療の付加サービス充実（遠隔診療、ウェアラブル機器）、虐待・不適切ケア防止の徹底」を知覚できるサービスとして整備推進する方針を見出すことができた。

関連して2024年9月には積極的介護予防の展開による特定高齢者への支援を目的として「フィジオスタジオ ステップ」を開設した。

自立～看取りまで介護保険制度の狭間に陥ることなくシームレスなサービス提供が可能になり、「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」のさらなる充実につなげていきたい。

クリニックでは、より地域医療のニーズに対応できる体制が醸成され、ベテルホームや在宅部門と連携し地域住民のレスパイト入院の受け入れをすすめることができた。

ベテルホームでは新型コロナのクラスター発生や通所部門の稼働減による予算比減収があったものの入所の稼働率は引き続き堅調で、最終損益は予算を達成することができた。

一方、在宅部門では訪問介護とケアプランセンターで非常に苦戦を強いられ赤字となった。また、近年堅調であった訪問看護においても利用者減少の傾向がみられ、超高齢化が進む近隣町村の社会情勢も一因と考えられる。

ICT化においては、介護居室、奈良ベテルホームにおいて見守りシステムの運用検討が継続されている。今後は業務効率化をケアの質向上へとつなげることが期待される。

職員教育においては、自職場の強みを職員自身が認識する機会創出を念頭に、引き続き職場間の交換研修を推進した。また、園内実践研究発表会においてフェイル・フォワード（未来ある失敗）表彰を導入し、「失敗を受容する風土醸成」に努めた。今後も継続して心理的安全性およびチャレンジする環境整備へつなげていきたい。

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ※①入居者・利用者の孤立防止 | ④職員年齢構成の偏在をふまえた採用・育成計画 |
| ②身元引受人等の高齢化への対応 | ⑤選ばれる施設であるための優位性の確立 |
| ③介護保険サービスの狭間の解消 | |

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) 聖隷理念の浸透と実践
- (イ) 「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」の推進
- (ウ) エデン包括ケアシステムの充実
- (エ) 食べる楽しみの追及と食堂の満足度向上
- (オ) SDGs の活動を念頭に置いた取組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設だからこそできる、入居者・利用者・患者・地域ニーズへの対応
- (イ) 光熱費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し
- (ウ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP（事業継続計画）に基づく実践対応力の強化
- (エ) 選ばれる施設であるための計画的な設備更新と環境整備
- (オ) 職員年齢構成改善にむけた計画的な人材採用

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 採用力強化と定着への取組み
- (イ) 多様性を受容できる職場風土づくりの推進
- (ウ) 職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成
- (エ) 交換研修の推進と職場への成果還元、専門研修受講、資格の取得支援
- (オ) 職員の心理的安全性への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
- (イ) 基本的な接遇の徹底による職員の意識向上と不適切ケアの防止
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組みの継続
- (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (オ) ICT 導入の推進と効率化の検証

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と地域の社会課題解決に向けた活動

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) 人生会議に対する理解の促進と、その人らしさを支えるケアの推進

(イ) エデン包括ケアシステムによる

「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」への取り組みと優位性の確立

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

①フィジオスタジオ「ステップ」を開設（9月）。潜在的な特定高齢者の把握と積極的介護予防の展開を目的とした、入居者の健幸生活に寄与する取り組みを開始することができた。

②人生会議を12件開催（目標12件）。ターミナルケアや医療、葬儀の意向や情報を共有し、その人らしさに寄り添えるよう努めた。

③自室での逝去・早期退去・要支援に係るタイミングの見落とし防止のため、日常接点の可視化の取り組みを継続。「接点無し」が61件→11件に減少した。（対象者約120名）

(エ) 食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率UP

①大食堂の年間平均食数は4月の価格改定（12%UP：279円/日）、ご逝去者数増（実績45名/予算25名）の影響により2023年度比で-21食となった。

②喫食数UPのための取り組みとして夕食時のミニコンサート（月1回：平均13.5%UP）、誕生日夕食無料チケット（72.2%利用）、食事体験会（定員20名参加）を実施。

2. 安定した経営基盤の確立

(ア) 燃料費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

①ボイラーやエアコンの運用基準（台数、期間、時間）を気温等により見直しを検討した。

(イ) 適切な住み替えによる安心・安全なサービスの提供

(ウ) 実質入居率100%を目指した入居募集活動への各職場間の横断的な取り組みの強化

①職場間、多職種連携により適切に要介護認定および住み替えを実施することができた。

介護保険の新規契約者は22名（予算20名）、住み替え10名（予算10名）であった。

②リフォーム工期を一般居室は3ヶ月以内、介護居室は逝去からリフォーム、住み替えまでの期間を2ヶ月以内とし、職場間連携によりスムーズな住み替えを実施することができた。

(エ) 防災・防犯対策および自然災害におけるBCP（事業継続計画）に基づく職員の実践力向上

①BCPの整備と見直し、かまどベンチを用いた研修・実践訓練を実施した。

②警察による侵入者対応訓練を実施。非常時における職員の実践能力向上に努めた。

(オ) “住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

①エレベーター更新工事を実施。工事中の大食堂利用不便等についても特別弁当の配膳など、入居者の利点と捉えていただけるよう取り組んだ。

3. 人財の育成・活用・定着の強化

(ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み

(イ) 障がい者・外国人など多様性を支える職場風土づくりの推進

①持続可能な人材採用スキーム構築を目指し、聖隷奨学金制度の適用を視野にいたした留学生就学元の法人との協議を、人事企画部も交えて開始した。

②外国人留学生の新卒正職員採用2名。賃貸物件の探しや保証人の設定について、総務担当者がサポートしスムーズな就労に寄与している。

- (ウ) 職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成
- (エ) 交換研修の推進と職場への成果還元、専門研修受講、資格の取得支援
- (オ) 職員の心理的安全性への取り組み

- ①フェイル・フォワード表彰（未来ある失敗）を創設し実践研究発表会で表彰。
失敗を受容し学びの素材、経験値として共有できる風土醸成に努めた。
- ②交換研修について有料部門から各職場へは15名実施（全職場より44名実施）。
職場間の相互理解と職員が自職場の強みを認識する機会を作った。

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症発生時BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
 - ①介護居室での集団感染発生時を想定したBCP訓練を実施した（2回）。また、加算要件である第二種医療機関による研修をクリニックと連携し実施体制を整備した。
- (イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み
- (ウ) 基本的な接遇の徹底による職員の意識向上と不適切ケアの防止
 - ①「虐待・不適切ケア0ミッション」を継続し、現状把握のアンケート分析により緊急性の高い事案把握に努めた。
- (エ) ICT導入の推進と効率化の検証
 - ①居室サービス課にて身元引受人への報告ツールとしてLINEを導入。（登録：43名/71名）
 - ②ノーリフトケアの取り組みとして「アシストスーツ」の共同開発・改良事業に取り組んだ。
 - ③シフト作成の労力軽減のため「シフトメーション」を導入。運営管理課による伴走支援を実施したが8職場中3職場が導入を中断。あらためて業者へサポート依頼し再チャレンジ中。
- (オ) サービス質の維持・向上につなげるための第三者評価の受審
 - ①5年ぶりに受審しオールA評価。積極的介護予防の展開から看取りまで一貫した医療、介護の提供体制を評価いただいた。
- (カ) 介護予防活動の積極的展開による潜在的特定高齢者のADL維持・向上
 - ①フィジオスタジオ「ステップ」を開設。（9月）

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC施設としての地域貢献・交流の継続的な取り組み
- (イ) 地域との災害時の協力体制の強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と社会課題解決に向けた活動の推進
 - ①世代間交流のため町立こども園園児にご入居者の手作りプレゼントを贈呈した（52名来園）
 - ②近隣4町で実施されたシェアサイクリングに設置協力と入居者向け説明会を開催した。
今後、新入居の自転車購入までの試走、移動手段としての利用を見込んでいる。
 - ③近隣3町の観光ボランティアや町職員のガイドによる歩こう会を実施した。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は23戸で、(2023年対比+2戸)その内、11戸が2人入居であった。また、退去が47名(一般32名、介護居室15名)、介護居室への住替えが10戸(同±0戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室343戸(同-8戸)、介護居室43戸(同-5戸)となり、入居率は一般居室94.8%、介護居室86.6%、全体で93.7%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は2025年3月31日現在で要支援1:25名(含介護居室0名)、要支援2:26(同0名)、要介護1:18名(同4名)、要介護2:18名(同8名)、要介護3:20名(同14名)、要介護4:14名(同12名)、要介護5:7名(同5名)、合計:128名(同43名)となった。

【数値実績】

■表1:契約状況

(3月末現在)

(3月末現在)

	居室数	契約数(内複数入居)	入居率	男 性	女 性	全 体
一般居室	362戸	343(115)戸	94.8%	166名	335名	501名
介護居室	50戸	43(0)戸	86.0%	33.1%	66.9%	100.0%
合 計	412戸	386(115)戸	93.7%			

■表2:地域別契約状況

(3月末現在)

	近畿	関東 甲信	中国	東海	北陸	四国	九州 沖縄	北海道 東北	合計
件 数	341戸	18戸	1戸	18戸	3戸	4戸	1戸	0戸	386戸
構成比	88.3%	4.7%	0.3%	4.7%	0.8%	1.0%	0.3%	0.0%	100.0%

■表3:年齢構成

(3月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人 数	2名	3名	21名	55名	96名	129名	88名	69名	38名	501名
構 成 比	0.4%	0.6%	4.2%	11.0%	19.2%	25.7%	17.6%	13.8%	7.6%	100.0%

■表4:平均年齢

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
82.0歳	82.8歳	82.6歳

■表5:入退居状況

(3月末現在)

	入居	退去(内死亡退去)
男性	13名	11(9)名
女性	20名	36(35)名
合計	33名	47(44)名

■表6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(3月末現在)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	132名	17名	29名	23名	20名	15名	15名	13名
期末人数	113名	24名	20名	15名	16名	19名	13名	6名
月平均人数※	119.7名	21.2名	22.3名	19.4名	15.8名	16.7名	14.8名	9.5名

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2024年度は、従来通りに講座を開催する事ができた。また、古代学講座の閉講に伴い、考古学講座の新規開講を行った。イベントは学生物や元 OSK のレビュー・アカペラコンサートを開催し、多くの地域住民の参加にもつながった。情報紙の手配り配布など、ふれあいプラザの認知度を上げる為に継続的活動に努めた。

◆ニッセイ聖隷クリニック

4月より入居者の定期健康診査に認知機能検査、生活チェックリスト、骨密度測定を追加し、健康管理増進に努めた。6月には診療報酬改定により、外来の主要な特定疾患療養管理料の算定要件が改定となり大幅な減収となった。7月からは第2種協定指定医療機関の指定を受けることで、外来感染対策向上加算の算定を開始した。入院は積極的にレスパイト入院の受入れを行い、過去最高の受入数となった。健診は特定健診対象者にDMを発行し、受診者確保に努めた。宝塚エデンの園の職員向け交通費キャッシュバックを継続することで、受診者数増に繋がった。新型コロナワクチンが定期接種へ変更となったが、接種体制を整え増収に繋がった。

◆奈良ベテルホーム

2024年度は在宅強化型老健としての体制を堅持するとともに、介護報酬改定に基づくサービスの見直しや効率化を図り安定した収益の確保に取り組んだ。また、見守りシステムプロジェクトチームが中心となって職員向け操作研修や運用方法の検討を行い、転倒・転落事故対策や夜間帯の訪室回数を試行的に削減するなど、システム活用による利用者の安心・安全と業務負担軽減の両立に向けた取り組みを開始することができた。

◆ニッセイせいいい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

介護報酬改定により基本報酬が引き下げられた影響もあり、収益は2023年度より減少傾向となった。介護保険サービスの利用回数や利用時間、保険外の単発やエデン入居者の利用時間や利用回数は伸ばすことが出来た。サービスの多い要介護の利用者の終了が多く、新規契約に結び付いた多くが要支援の利用者でサービスが少なく収益を伸ばすことが出来なかった。訪問看護との連携から、障害福祉利用者のサービスや重介護の利用者へのサービスを増やし収益に結び付いた。

◆訪問看護ステーション西大和

利用者の安心・安全と職員が生き生きと働き続けられる職場環境づくりを第一に考え、人材育成とチームとしての専門性向上に取り組んだ。医療ケアのニーズが高まる中、実践能力の高い看護師を育成するべく特定行為研修に1名参加させることができた。人員不足に対しては計画通り人員を確保することができたが、短期集中型の依頼増加により昼夜問わず対応する職員への負担は増加傾向にあり課題となっている。今後も将来を見据えた継続可能な事業であるために、質の高いサービスが提供できるチーム作りに注力し地域と利用者のニーズに応え続けたい。

◆ニッセイせいいけあプランセンター西大和

2024年度は、介護報酬改定があり居宅介護支援費の引き上げが行われた反面、要支援者の取り扱い件数が1/3となった。年間を通して要支援者の新規依頼が多く、新規を断ることがないよう職場あげて取り組んだが、入院や入所の影響により要介護者の件数が大幅に減るなど、収益に結びつけることができなかった。

◆その他公益的な取り組み

- (ア) 実習生受入(実人数 13 名 延べ日数 63 日)
- (イ) ボランティア受入(延べ 44 日、353 名)
- (ウ) 文化教養講座(開催数 41 回：参加者 834 名)
- (エ) 地域住民・入居者を対象としたコンサート・イベント等(開催数 10 回 参加者 1,230 名)
- (オ) 献血(実人数 25 名)
- (カ) こども園、小学校への入居者手作りプレゼントの寄贈：エデン
- (キ) 小学校4年生向け高齢者疑似体験(年1回)：ベテルホーム
- (ク) 古着回収によるポリオワクチン寄贈(古着 de ワクチン)：ベテルホーム
- (ケ) 使い捨てカイロの回収と利用企業への寄贈(土壌改良剤への転換)：ベテルホーム
- (コ) 使用済み切手回収と国際医療団体への寄贈(200 枚)：ベテルホーム
- (サ) 河合町主催の福祉交流会における認知症啓発活動(パネル展示、ブックスカフェ、ビデオ鑑賞、物忘れ相談プログラム機器のブース出展) 参加者/38 名：地域連携グループ
- (シ) 自治体による大和川一斉清掃への参加(職員・家族 18 名)

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2024年度は、入居者満足度を高める取り組みとして、コロナ禍で中止していた飲食を伴う催しであるエデンバーをはじめとした企画を実施することができた。また、介護職員をはじめとした人材の確保について、新卒職員3名の採用をすることができた。

業務においては、よいプロセスがよい結果を生むと考え、当園が取り組んできたエデン品質管理 Eden Quality Control (EQC) と5S の実施により、サービスの向上に努めることができた。業務の可視化に取り組み、職員のサービスレベルの向上に繋げることができた。

【2024 年度事業の振り返り】

1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

(ア) 顧客の視点「入居者も職員も尊重され、ここを選んでよかったと思える」

エデンバーやエデンいきいきカフェを開催し、コロナ禍で途絶えていた交流の場を復活することができた。また、入居者満足度調査結果による図書室改善計画、駐車場運用の見直しなど、入居者の要望に対する改善策を進めることができた。移乗用介護ロボットの導入により、転倒や入居者の身体的負担の軽減、介助時の安心感提供につながった。

(イ) 業務プロセスの視点「業務の可視化と情報発信を行う」

各職場の 5S について職員が考え取り組んだ結果、無駄な備品の洗い出しや職場環境改善ができた。業務プロセスの可視化をすすめ、マニュアルによる標準化を拡大することができた。防犯対策として入館管理強化のため、宅配業者をはじめ、すべての来園者を正面玄関総合案内で管理し、不審者の侵入を防ぐ体制を整えた。

(ウ) 学習と成長の視点「計画的な人材確保とプロセスで質を担保する仕組みの導入」

講師を招き 5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）研修を実施することができた。施設内で品質管理システム Quality Management System (QMS) の取り組みを実施できた。

(エ) 財務の視点「持続可能な経営に向けて」

外壁工事、大浴場改修工事により老朽化した設備を更新すると共に安心・安全な環境を提供することで、新規開設事業所との競争力強化に取り組んだ。

(オ) 地域における公益的な取組

社会福祉協議会へのフードバンク、地域清掃活動を継続できた。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

新型コロナウイルス感染症への対応として、入居者（348 名）および職員（13 名）に対する定期接種を実施した。感染症対策としての PCR 検査、抗原検査等の検査体制は継続して整備し、介護居室入居者新型コロナウイルス陽性者累計 24 名中 11 名の入院を受け入れた。千葉西総合病院と感染対応に関する医療連携を締結しカンファレンス、新興感染症対策の訓練を実施し、11 月より外来感染症対策向上加算を算定した。看護師の技術向上の一環として災害支援ナース研修に 1 名派遣、BLS 研修に 1 名派遣し、全職員対象の園内「BLS」研修で伝達した。看護師は病棟内の業務だけでなく様々な業務に対応できるよう育成を進めた。設備面では、PACS の更新および画像診断 AI の導入を行い、診断精度と業務効率の向上を図った。

また、電子カルテの更新により、医療情報の管理体制をより強化している。検査体制については、委託会社を変更し、より迅速かつ質の高い検査サービスを提供できる体制を構築した。

3. 高齢者総合福祉センター

コンサートについては、入居者自身が舞台に立ったり運営に関わったりするコンサートを開催したり、ジャンルも民族楽器、タンゴ、合唱などとバリエーションを豊富にしたことで、参加者数を大幅に増やすことができた。また、地域の子ども達も参加する卓球教室や工作教室を開催するなど、入居者のみならず地域住民の生きがいくりにも貢献できた。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

2023年度より在宅での看取り介護に携わり、2024年4月から特定事業所加算Ⅲを取得することができた。しかし、2024年度の介護報酬改定ではマイナス改定となり、加えて施設入居や逝去等の解約が相次ぎ、減収減益となった。障害福祉サービス事業では、2023年度末から介護保険への移行や逝去等により、最高12名だった利用者が徐々に減少し、2024年度末には8名となった。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	340 戸（85 戸）	134 名	291 名	425 名

表2：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	四国	合計
人数	404 名	9 名	1 名	4 名	2 名	2 名	2 名	1 名	425 名
構成比	95.1%	2.1%	0.2%	0.9%	0.5%	0.5%	0.5%	0.2%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	51 名	80 名	79 名	65 名	84 名	38 名	20 名	8 名	0 名	425 名
構成比	12.0%	18.8%	18.6%	15.3%	19.8%	8.9%	4.7%	1.9%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
83.6 歳	81.5 歳	84.6 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（内死亡退去）
男	18 名	13 名	（13 名）
女	23 名	15 名	（14 名）
計	41 名	28 名	（27 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	104 名	20 名	17 名	23 名	18 名	6 名	12 名	8 名
期末人数	106 名	17 名	19 名	24 名	16 名	8 名	15 名	7 名
月平均人数	103.8 名	18.5 名	17.3 名	21.0 名	18.0 名	6.3 名	14.8 名	7.9 名

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2024年度、明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社からの運営受託事業）は開設して28年が経過し、274世帯、入居者294名、平均年齢が88.4歳で終えることとなった。2024年度は特に高齢者虐待・身体拘束に対する職員への研修を強化し、入居者が安心・安全に過ごせる環境づくりに注力する1年となった。また、入居者募集については、2024年度上半期は苦戦を強いられたが、2023年度からの活動がようやく実を結んだ事とコロナ禍で休止していた5法人セミナーへの参加や、新規候補者の獲得を目指した“ふらっと見学会”を開催した事で21件23名の新規入居者の契約に至り目標を達成する事が出来た。2025年度はこの結果を更に上回る“25件”の目標設定を掲げているため、引き続き高齢者公益事業部、東京都住宅供給公社と連携した募集活動に努める。2024年度事業の結果・成果について、以下のとおり報告する。

【 事業・運営計画 】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供

- (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
- (イ) 生活利便サービスの更なる向上
- (ウ) 入居前からシームレスな情報活用の仕組みづくり
- (エ) 時代に合った福祉用具・ICT機器導入と運用の確立

D-Free や床走行式リフトの導入を行ない、質の向上と働く職員の負担軽減に努めた。

(オ) 食事サービス向上の推進

食事サービスの委託業者変更を行ない上半期は多くのご意見を頂いた。食堂業者、東京都住宅供給公社と打合せを重ね食事の改善に注力した。

2. 人材の育成

- (ア) 理念・ビジョンを継承する次世代の採用・育成と専門性の追求
- (イ) 入居者個々に合わせた接遇の実践
- (ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

職員の虐待防止に対する意識・知識向上を目的に外部講師による虐待防止研修を開催。

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 行事等を通じて開かれた施設づくりの実践
- (イ) 地域貢献活動への積極的な参画

夏の南大沢まつりの準備や、冬の南大沢クリーンデーに明日見らいふ南大沢職員が参加して地域貢献活動を継続した。

(ウ) ご入居者と共同・協働によるSDGsの実践

4. 防災・防犯対策の確立

- (ア) 防災対策・ハードの見直しと災害時における近隣企業との協力体制の構築
- (イ) 行方不明・離園防止・不審者対応の更なる強化

警察官による不審者対応の研修を開催。また、夜間を想定した搜索訓練を再開した。

5. 入居者募集

(ア) 入居検討時から全職員参加型の募集活動の実践

施設見学の際に介護棟の見学を組み込む事や、職員がセミナーの講師となり施設全体で入居者募集に関わることが出来た。

(イ) 入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの継続開催

入居検討者からのご要望に応える形で、直営エデンの施設長を招聘し『防災セミナー』を開催した。

(ウ) 東京都住宅供給公社・高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実践

○公益的事業について

- ・フードロス対策として、地域の NPO 法人へ備蓄食料の寄付を継続した。
- ・入居者とともにエリアを拡大して地域環境デー（ゴミ拾い）を継続した。

■2025 年 3 月 31 日時点

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男 性	女 性	計
人 数	274 戸（20 戸）	71 名	223 名	294 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人 数	278 名	5 名	6 名	1 名	1 名	0 名	2 名	1 名	294 名
構成比	94.7%	1.7%	2.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.7%	0.3%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	43 名	100 名	78 名	43 名	24 名	5 名	1 名	0 名	0 名	294 名
構成比	14.7%	34.0%	26.5%	14.6%	8.2%	1.7%	0.3%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

全 体	男 性	女 性
88.4 歳	87.9 歳	88.6 歳

表 5：入・退去状況

		入居	退去	（内死亡退去）
	男 性	6 名	9 名	（7 名）
	女 性	11 名	12 名	（10 名）
	計	17 名	21 名	（17 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	114 名	18 名	17 名	31 名	23 名	10 名	10 名	5 名
期末人数	124 名	19 名	18 名	36 名	18 名	12 名	14 名	7 名
月平均人数	119.8 名	20.6 名	16.3 名	33.8 名	20.0 名	11.6 名	12.2 名	5.5 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	99.0 名
-----------	--------

在宅・福祉静岡ブロック

2024 年は 1 月の浜松市行政区再編から始まり、4 月並びに 6 月の介護・障害福祉サービス・診療報酬の改定と施策的変容を課せられた 1 年間であった。また、我々が担う「地域」を鑑みると、その実情は日々刻々と変化を続けており、その内容も程度も地域により大きな差異が認められた。当ブロックに属する全事業所は、自らが対応すべき「地域」を今一度正確に把握し、今まさに発生している課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう事業のベストサイジングを効果的に実践していく必要性を感じた。更に、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供困難地域等への積極的な介入を推し進めていく必要性も等しく高いと考えた。そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピードを増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していくことと、有能な人材の発掘と育成に繋げ、静岡ブロックの管理体制がきめ細かいものとなるよう、エリア軸・職種軸・事業軸のマトリクスを更に発展させていく必要がある。そして、これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を養うとともに、地域実情に応じ介護・福祉と医療との事業を超えた連携をはじめ、法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを 2025 年度の主眼に置くこととする。

【在宅・福祉静岡ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2024 年度目標】

「社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践」

現在だけではなく未来を見据え、一手先の質の高い支援を実践する

【経営方針】

1. 現在だけでなく未来を見据えた地域課題を検証し、実現性のある計画を立案・実践する
2. 各事業の永続性を見極めた上で事業集約・分散等を図り、効果的な投資に繋げる
3. 専門職の働きやすさ、やりがいを追求したキャリア形成並びに業務革新を促進する

【事業報告】

1. 静岡ブロック管理・運営体制のアップデート
 - (ア) 浜松市の新たな行政区（中央区、浜名区）へ対応したエリアへ再編した。
 - (イ) 事業連動等に合致した再編を行い共有課題（事業再編・ICT 化等）の解決を図った。
 - (ウ) エリア軸・職種軸・事業軸の 3 次元的な管理・運営体制を構築した。
 - (エ) 部門会議の体制を再編し、専門職やマネジャーとしての新たな役割・機能を創出した。

2. 地域課題の抽出と実現可能な計画立案・実践

- (ア) 引佐中山間地域における福祉と医療の連携について関係機関と具体的な協議を重ねた。
- (イ) 森町愛光園・いなさ愛光園・もくせいの里における具体的な改修等計画の立案を図った。
- (ウ) 新たな食事提供体制（直営化、クックフリーズ、配食他）の検討を進めた。
- (エ) 無料低額宿泊所（日常生活支援住居施設）の開設に向けた協議した結果、一時生活支援事業（居住支援事業）を増室する計画となった。
- (オ) 保育、療育の双方向の協議が効果的に進むように「こども連絡会」を立ち上げた。
- (カ) 浜松市医療的ケア児等相談支援センターを新たに協同受託し、運営を開始した。
- (キ) 中山間地域対策や浜松市における権利擁護体制の構築に向けた検討が法人内外問わず進んだ。

3. 専門職のキャリアプランの構築と働きやすさ・やりがいの追求

- (ア) 特別養護老人ホームの ICT 機器は該当する全施設に配置が完了した。
- (イ) 意図的な人材の確保・登用の仕組みの構築については、対応策の検討に留まり、具体的な登用計画の実施までには至らなかった。
- (ウ) 施設職員が在宅事業所を把握するための職場説明会や体験会を試行した。
- (エ) 現任マネジャーの業務整理と新任マネジャーへの伴走型支援の徹底については、組織的な対応までには至らなかった。
- (オ) 中堅職員を対象とした「関西地区視察研修」、就労支援事業所のマネジャーを対象とした「海外視察研修」を実施した。

4. 多様な人材の有効活用とサービスの質向上

- (ア) 多様な人材が活躍できる仕組みについては、対応策の検討に留まり、具体的な計画の立案までには至らなかった。
- (イ) 突発的な欠員等による負担感を軽減するための対応策として「介護力起動向上部隊」を設置し、施設支援を実施した結果、年間を通して隙間なく支援が必要な状況が続いた。
- (ウ) 適切なサービス提供がなされているかのセルフチェック機能として、事業種別ごとの相互チェックの実施、並びに「介護力起動向上部隊」によるサービス評価を適時実施した。

5. 運営の安定化

- (ア) 各施設・事業所にて報酬改定の内容を精査し、適切な加算算定、人員配置に努めた。
- (イ) 老朽化による施設、設備に必要な大規模修繕等の中期投資計画を策定した。
- (ウ) 人件費や物価高騰等による経営への影響が大きかったが、ブロック全体では収支予算を達成することができた。

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2024年度は、浜松市行政区再編に始まり、介護・障害・医療の報酬改定等に伴う大きな変化の年であった。変化に伴う混乱は各事業所の運営努力のもと最小限に抑えられ、取り組むべき課題の検証も随時行えた。その中で見えてきた課題としては、我々が担うべき「地域」の再検証と再認識を改めて行い、その「地域」が抱えている課題の未来を推測した上での事業のベストサイジングを図ることと捉えた。あわせて、我々が社会福祉事業を担っている「目的」を今一度、施設理念と系統づけることで、専門職である我々の思いの向かう先を明確化させる必要性を強く感じている。その上で、事業の核となる専門職の獲得・育成にも注力していく。我々を取り巻く変化のスピードは加速度を増すことが予想されるため、和合せいれいの里の全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに適合するサービスが提供できるよう、地域実情を面的かつ立体的に把握していく必要性を強く感じるとともに、それら地域ニーズに応え得る質の高いサービスを提供できる組織へと成長を続ける。

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 浜松市中障がい者相談支援センターが浜松市行政区再編に伴う対象エリア拡大が発生したが、他機関との調整を都度行うことで大きな課題は発生しなかった。その他事業所においても大きな混乱なく事業が運営できた。
- (イ) 聖隷福祉総合相談センター和合は、関係事業所が都度協議を進め効果的な運用方法を導き出した。
- (ウ) 浜松市リハビリテーション病院他と利用者を中心とした具体的な連携が図られた。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) サービス担当者会議、地域ケア会議等を通して、利用者・家族・地域の方々のニーズの把握に努め、都度、ニーズに合致するように各種事業の軌道修正を図った。
- (イ) 各種 ICT 機器の活用も功を奏し、介護者が原因となる事故や重篤な事故の発生は抑制できた。また、これまでは介護者の想像の域を出なかった事故分析も、システムデータをもとに分析が進み、より現実的かつ具体的な再発防止策を立案できた。一方、停電等によるシステムダウンが生じた場合の対策が未設定であったため、早急に BCP と連動した対応策を立案した。

- (ウ) 支援困難な方等の緊急宿泊希望は、空床を活用しながら積極的に受け入れを行った。また、医療ニーズの高い方等の受け入れも関連職種と事前の協議を重ね、意欲的に受け入れた。結果、年度を通して高稼働率を維持できた。
- (エ) ICT 機器・介護ロボットの活用によって誕生した時間を、利用者の「やりたい」こと（趣味活動・外出等）の実現に還元できた。

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や研修に関する情報は都度発信し、資格取得の支援を行った結果、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の合格者を一定数輩出できた。
- (イ) 施設職員が在宅事業を把握するための職場説明会や体験会を企画・実施し、専門職としての多様な働き方の可能性を示した。
- (ウ) フロアリーダー等の役割を改めて見直し、配置人員も含め役割の整理を図った。
- (エ) 職員教育は指導者個人に任せるのではなく、インカムシステム等を活用しチーム全体で支えることで多角的な支援に努めた。また、OJT だけではなく各種 e ラーニング等を活用することで技術と知識との底上げを図った。
- (オ) ICT 機器・介護ロボットの活用によって業務省力は引き続き推進できた。併せて、誕生した時間を、利用者の「やりたい」こと（趣味活動・外出等）の実現に還元できた。

4. 運営安定化の推進

- (ア) みるとす第2単位（あすなろ）の利用者ニーズの多様化に応じた環境改修、老朽化設備更新は計画的に実施できた。
- (イ) 老朽化施設設備の計画的な更新、業務省力につながる新たな機器の導入等が計画的に行えた。
- (ウ) 積極的に新たな加算算定や取りこぼしがないように実践を続け、高単価の維持に努めた。
- (エ) 給食委託業者と業務省力・費用削減等につながる一体的な取り組みが評価され、委託費の急激な上昇は抑制できた。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡県災害派遣福祉チームメンバーが地域の避難訓練等に参加し役割理解を促した。
- (イ) 介護に対する情報発信を地域の団体等実践した。また、法人内医療機関に出向き、介護保険制度等の説明会を複数回実施し、理解促進、介護離職防止等に貢献することができた。
- (ウ) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭へ支援を継続した。
- (エ) 河川里親制度に登録を継続し、隣接河川の環境美化活動を実施した。

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき
	特養入所		短期		通所介護			生活支援ハウス
	従来型	ユニット型	従来型(障害)		ユニット型	一般型介護	予防	認知症対応型
利用者定員	62名	40名	20名	29名		50名		12名
利用者延数	22,456名	14,424名	6,715名	10,370名	7,769名	306名	2,273名	—
一日平均利用者数	61.5名	39.5名	18.4名	28.4名	25.1名	1.0名	7.4名	—
稼働率	99.2%	98.8%	92.0%	98.0%	52.3%		61.3%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日		309日	—
単価(一人一日)	13,032円	15,486円	12,998円	15,587円	11,239円	6,499円	14,004円	—
正職常勤換算数	43.7名	22.4名	9.4名	15.9名	6.9名		2.6名	0.3名
パート常勤換算数	13.1名	6.9名	2.0名	6.0名	11.5名		3.6名	1.2名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援くすのき	中障がい者 相談支援センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護 Ⅰ	生活介護 Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託
利用者定員	40名(午前・午後・1日)		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	12,192名	1,141名	7,231名	6,015名	1,159名	1,712名	—
一日平均利用者数	39.6名	3.7名	19.8名	19.5名	3.2名	—	—
稼働率	72.2%		99.1%	97.7%	158.8%	—	—
稼働延日数	308日		365日	308日	365日	—	—
単価(一人一日)	6,235円	9,297円	19,338円	15,201円	10,098円	—	—
正職常勤換算数	8.4名		15.1名	8.8名	—	5.2名	5.5名
パート常勤換算数	6.0名		4.5名	6.9名	—	0名	※2.5名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	放課後等デイサービス 学校日 休校日		児童発達支援
利 用 定 員	10 名	15 名	10 名	—	20 名		30 名
利用者述べ人数	1,651 名	3,929 名	1,436 名	167 名	3,151 名	678 名	7,641 名
一日平均利用者数	6.0 名	14.6 名	5.6 名	—	15.8 名		31.3 名
稼働率	59.8%	97.0%	56.1%	—	79.1%		104.4%
稼働日数(延べ)	276 日	270 日	256 日	—	242 日		244 日
単価(一人一日当り)	9,029 円	10,035 円	8,328 円	—	8,859 円	9,844 円	20,812 円
正職常勤換算数	8.7 名				5.4 名		14.0 名
パート常勤換算数	11.7 名(うち、A型利用者 4.9名)				2.2 名		6.0 名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数		月訪問件数		年訪問件数		単価		常勤換算職員数
	342 名		1,734 件		20,921 件		10,571 円		30.7 名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付				予防給付		単価		常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)	予防(時間)		
		月間	年間	月間	年間				
	49 名	541 件	6,497 件	18 名	216 名	4,462 円	4,124 円	10.0 名	
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数				平均単価				常勤換算職員数
	介護	予防	予防 A	介護	予防	総合 A			
	2,217 件	222 件	105 件	19,739 円	4,430 円	4,351 円	6.9 名		
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン 請求件数		うち 再委託件数		予防プラン 単価		常勤換算 職員数
	31,728 千円		3,776 件		3,337 件		4,471 円		6.3 名
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジメント 請求件数			うち 再委託件数		ケアマネジメント プラン単価		
	ケアマネジメント A	1,978 件			1,709 件		4,471 円		
	ケアマネジメント B	60 件			0 件		3,246 円		
	ケアマネジメント C	0 件			0 件		2,174 円		

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2024年度は、4月に行われた介護報酬改定に対して、今までの取り組みを深化する部分、新たな取り組みを必要とする部分など対応を求められる一年間であった。事業としては、デイサービスにおいて、栄養マネジメントの一環として持ち帰り食の検討、法人内デイサービスとの合同送迎の実施、法人内近隣事業所との連携強化を行った。特別養護老人ホームにおいても、利用者ニーズに応えるべく、担当職員による計画書立案、ショートステイ1床の開設などの整備を行った。在宅生活の支援から施設利用まで手厚く対応できる体制の基礎ができたと言える。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの推進と構築による質の向上

- (ア) デイサービスにおいて重度者の受入れを積極的に行い他事業所との連携を強化できた。
- (イ) 管理栄養士による栄養講座の実施、また在宅利用者宅への訪問指導を行い栄養マネジメント体制の深化を進めることができた。
- (ウ) 事業内容について動画を用いたパンフレットを作成し、関係機関との連携を図ることができた。
- (エ) デイサービスにおける持ち帰り食の体制構築、ショートステイベッドの稼働開始ができた。

2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進

- (ア) 記録システム、見守りシステム、福祉機器等の活用により、利用者への還元という視点を職員間で共有することができた。
- (イ) 介護支援専門員を中心として、職員全員が情報収集、分析、計画立案を行った。利用者の生活の質向上に向けた取り組みができた。
- (ウ) 目標参画システムの実施について、各職員が目標達成に向けて計画的に取り組むことができた。結果として、事業計画の達成につながった。
- (エ) 職員全員との面談を実施、思いの共有を行い心理的安全性の高い職場づくりを行うことができた。腰痛等の対象者に関しても始業前の体操実施など予防に向けた取り組みを実施できた。

3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する

- (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、年間を通して計画的に訓練や勉強会を実施できた。

- (イ) センターにおける BCP の定期的な見直し、地域の防災訓練への参加を通して地域との相互支援体制の検討ができた。

4. 安定した運営の推進

- (ア) 特別養護老人ホームにおいて日常生活継続支援加算を算定することができた。
 (イ) センター内の取り組みについて SNS を活用した広報活動を実施できた。
 (ウ) デイサービスにおいて業務の見直しを行い、参加者の少ない活動の業務契約内容の見直しを行えた。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 災害に関する BCP を定期的に見直し、実情に合わせた研修、訓練を実施できた。
 (イ) 地域包括支援センターと協力し、三方原小学校における認知症に対する取り組みを実施できた。
 (エ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供できた。

【数値実績】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 人	1 人	50 人	(50 人)
利 用 延 数	10,469 人	49 人	8,723 人	791 人
一日平均利用者数	28.7 人	1.6 人	28.0 人	2.5 人
稼 動 率 (%)	98.9%	32.4%	61.2%	
稼 動 延 日 数	365 日	151 日	311 日	
平 均 介 護 度	3.32	1.87	1.64	—
単 価	15,255 円/日	4,744 円/日	10,164 円/回	6,277 円/日
職 員 数 (正 職)	13.2 人		5 人	
職 員 数 (パ ー ト)	9.4 人		11.5 人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ I N 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

2024 年度は、センターとして地域の方とのつながりを大切にし、地域住民のフレイル予防を目的とした施設開放・相談会や 5 年ぶりとなる「ケアセンター高丘祭り」を計画、開催できた。今後も地域との関係を密にしながら、なんでも相談できる施設を目指していきたい。

1. 地域の利用者特性をつかみ、ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる

- (ア) 訪問看護ステーション高丘は心不全・肺炎のケースを通して学習を進めた。カンファレンスで認知症や困難ケースの事例検討を行いチームで対応する力を強化した。
- (イ) 聖隷リハビリプラザ I N 高丘は介護保険の入り口機能を果たすため、病院との連携、地域行事への参加を実施した。お試し利用を開始し、利用しやすい環境の整備と、専門性を活かしたケア、情報提供に努めた。
- (ウ) 地域包括支援センター高丘は認知症サポーター養成講座の開催、高丘地区での徘徊高齢者声かけ訓練等で認知症の啓発をした。また、支援に苦慮することが多い外国籍の方の支援では浜松市国際課や HICE（浜松国際交流協会）等様々な機関と地域ケア会議を開催し、課題解決の糸口を見出した。
- (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームで実践する力を高めるため、事例検討や事例共有、カルテチェックを定期的実施した。
質の高いケアマネジメントを行うため利用者アンケートを実施し 2 人体制の訪問強化に努めた。在宅看取りは 4 名を支援したが特定事業所医療介護連携加算取得には至らなかった。
- (オ) センター内事業所の共通利用者に対し、必要時事例検討や必要時の同行訪問など実施し連携を強化した。

2. 職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する

- (ア) AI ケアプランの運用や記録方法の統一等で質の高い情報共有や業務の効率化に取り組んだ。
- (イ) 家族介護教室や高齢者サロンでセンターの専門職が「フレイル予防」「消費者被害」などの講話を実施した。
- (ウ) 各事業所体制を整え、有給休暇 74%を取得することができた。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の方のフレイル予防のための施設開放「エクサポクラブ」や「ケアセンター高丘

- 祭り」など地域の方が立ち寄れるような行事を実施し、センターの機能について周知した。
- (イ) 定期的に施設周辺のごみ拾い活動を実施した。
- (ウ) 聖隷クリストファー大学各専門学科の実習・看護学生実習、病院看護師（聖隷三方原病院、浜松医大、医療センター）研修・職場体験等を積極的に受け入れた。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	職員数 （常勤換算）
176 人	928 件	11,133 件	9,617 円	13.52 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N 高丘）

介護給付			予防給付		障がい給付		職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	
22.4 名	576 名	6,912 名	87.1 名	1045 名	20.3 名	243 名	15.0 名
単価(円)	6,267 円		26,890 円		8,577 円		

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	職員数 (常勤換算)
42,456 千円	766 件	3,022 件	6,287 円	
日常生活支援総合事業の予防プラン				7.6 名
種別	予防プラン	うち	予防プラン	
	請求件数	再委託件数	単価	
ケアマネジメント A	626 件	1,581 件	4,830 円	
ケアマネジメント B	372 件	0 件	3,246 円	
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,929 件	363 件	17,607 円	4,436 円	2 件	5,005 円	4.8 名

聖隷コミュニティケアセンター

2024年度は、利用者が安全に在宅生活を送れるように福祉用具定期点検訪問（モニタリング）に力を入れ、6ヵ月毎の定期訪問を実施した。また、多様化するニーズに合致したサービスの拡充を図る為、施設向けのレンタルサービス開始、WEB販売サイト「Lea」及びQR決済を導入し、これに答えた。

経営については、報酬改定に伴い福祉用具定期点検訪問を実直に行い、介護報酬を確保するとともに施設販売にも力を入れ収支としては非常に堅調であった。

1. 利用者満足度の高いサービスの提供

（ア）利用者が安全に在宅生活を送れるようチーム支援と情報共有を強化

①福祉用具定期点検訪問（モニタリング）は、6ヵ月に1度実施し、利用者ニーズを把握できようになってはいるが、営業担当間での情報共有までには至らなかった。また、困難ケースは複数名で訪問を実施し、サービスの質の向上につなげるとともに職員の心理的負担を軽減した。

②職員単独での支援を回避するため、営業部門会議を用いて利用者情報の共有を図った。

（イ）店舗販売の充実と連携

①WEBサイト「Lea」を開設し、販売チャンネルの拡充を図った。

②病院ニーズは少しずつ把握出来ているが、店舗の方向性を決定するまでには至っておらず、自動販売機も未設置となった。店舗のあるべき姿は再考していきたい。

③高丘配送センターのショールームに、ベッド等の店舗に展示していない商品を設置した。

④障害のある方や利用者の待ち時間を軽減する為、聖隷浜松病院店の店舗レイアウトを変更した。

⑤店舗内で定期的な共有会を開催し、利用者情報を共有することが出来た。

⑥「PayPay」を導入し、キャッシュレス決済に対応した。

（ウ）福祉施設向けのレンタルサービスとして、エアマット・車椅子・ポータブル発電機の提供を開始した。

2. 事業運営安定化の推進

（ア）人員を配置し、フォロー体制の構築

①突発・緊急事案に対する応援体制を構築した。

②同部門内での研修は実施したが、貸与・販売・店舗の各部門を跨ぐ交換研修には至らなかった。計画的な交換研修を検討していきたい。

（イ）次世代を見据えた人材育成

①次期店長候補の育成を目的とした店舗実習を実施したが、育成プログラムの策定には至らなかった。

②事務部門の業務分掌を再構築し、業務ローテーションを実施した。貸与・販売部門でも同様に検討をしていきたい。

③熟練職員と中堅・新人職員の同行訪問の機会を設定し、業務継承を推進した。

(ウ) 専門職として質のスキル向上

①年間スケジュールを作成し、福祉用具・ビジネスマナー・関連法の研修を実施した。

②HCR や各種メーカーの展示会への参加により、新たな製品の情報を収集した。また、特定職員の住環境コーディネーター取得を目標としたが、資格取得には至らなかった為、引き続き支援を実施したい。

3. 健康経営の推進

(ア) 利用者ニーズに合わせたシフト勤務制を導入した。また、超過勤務の削減の為、訪問可能な時間帯を設定し、一定の効果を得た。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域包括支援センターと共同し、地域に向けて啓発活動を行った。また、行政からの依頼で展示会を開催した。

【数値指標】

レンタル 件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	常勤換算 職員数
14,759 件	194,996 千円	243,133 千円	12,376 千円	28.0 人

聖隷厚生園信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2024 年度も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指した。

聖隷厚生園信生寮では、「利用者の“やりたい”を支援する」「職員が定年まで心身ともに健康で働き続けることができる職場づくり」の2つを基本方針とし、利用者と職員がお互いの気持ちを理解し合える機会を作り、利用者・職員の心理的安全性が保たれるための取り組みができた。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択でき、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営ができた。

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う

- (ア)意思決定支援ガイドラインに基づいた、本人の意向を反映した計画作成と実践ができた。
- (イ)身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行った。
- (ウ)オムツメーカーと協働して、利用者負担の少ない排泄介助方法を検討、実施した。
- (エ)処遇困難ケースについて、グループスーパービジョンを行い、利用者理解を深めた。
- (オ)虐待防止セルフチェック表を刷新し、利用者の尊厳を守る取り組みを行った。
- (カ)社会資源を活用した新しい買い物支援のあり方を考え、訪問販売の定着に至った。
- (キ)パラスポーツへの利用者参加を推進し、地域社会とのつながりを創るため、e スポーツ機器の導入を行った。
- (ク)新型コロナ、インフルエンザの流行もあり家族会の開催には至らなかった。
- (ケ)宅直看護師とのビデオ通話においては、携帯機器の導入が出来ず実現できなかった。
- (コ)入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援し、食事の付加価値を向上させることができた。
- (サ)水光熱費、食材料費の価格高騰に対応できるよう給食委託業者と定例会を行い、給食のオペレーションや食事形態の見直しを行った。
- (シ)指定基準どおりに運営ができているか、施設間相互チェックを実施し改善を行った。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院と連携し、浜松市旧北区・旧西区を中心に活動し、高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入ができた。
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、ヘルパーセンターいなさと連携し、細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に地域ニーズを整理し、新規利用者の受け入れを増やすことができた。
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、学生やセカンドキャリアを目指す人材などが介護支援

専門員の仕事に興味を持ってもらえるように PR 活動に力を入れ、人材の発掘から育成までを行い、減少している引佐地区への介護支援専門員の輩出に寄与することができた。

(エ)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同で事例検討会を定期的に行うことで、支援困難ケースの課題解決の糸口を見出すことができた。

(オ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者に対して感覚刺激を促す新たな支援を導入して、利用者満足度を向上させることができた。

(カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案することができた。

(キ)老朽化したシオンハウスの閉鎖に向け、誠意をもって入居者 2 名への退居支援を行った。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

(ア)最新の介護機器を導入するため、福祉機器展等へ職員を派遣し情報収集を行った。

(イ)ノーリフトケア定着の一環として、移乗用リフトやスリングシートの見直しを行った。

(ウ)支援記録システム「ケアカルテ」の更なる活用を進め、ケアプランの書式を統合した。

(エ)カスタマーハラスメント防止のための仕組みを整備し、聖隷福祉学会で発表できた。

(オ)職員が利用者のためにやりたい企画を自発的に立案し実施できた。

(カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化できた。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

(ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図ることができた。

(イ)人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の学習支援の強化を図り 1 名合格に至った。

(ウ)福祉系学校等と連携し、将来の介護・福祉人材の育成に貢献できた。

(エ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障がい者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行うことができた。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)災害及び感染症 BCP を基に、BCP 研修、訓練の実施ができた。

(イ)聖隷厚生園を育てる会、プロギング静岡とコラボレーションし、利用者・地域を巻き込んだ公益的な清掃活動に取り組むことができた。

【数値実績】

■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家
	入所	短期	生活介護
利用者定員	60 名	10 名	20 名
利用者延べ人数	21,656 名	3,713 名	4,997 名
一日平均利用者数	59.3 名	10.2 名	19.5 名
稼働率	98.9%	101.7%	97.6%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	256 日
単価（一人一日当り）	18,965 円	11,174 円	15,501 円
職員数（常勤換算）	54.0 名		12.9 名

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
2,530 名	211 名	11,113 件	926 件	10,886 円	16.7 名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト(三方原)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間相談件数	
2,041 件	277 件	15,600 円	4,055 円	508 件	4.8 名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
月平均 利用者数	訪問件数		利用者数		介護	予防	
	年間	月平均	年間	月平均			
38 名	3,721 件	310 件	246 名	21 名	4,345 円	22,456 円	4.9 名

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド
地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド
福祉共同住宅ファーストステップ

2024年度、生活保護制度が改正され、救護施設ではこれまで以上に個別支援計画作成と実践に力を入れ、利用者個人ができる事に着目した1年となった。就労支援や地域活動など、積極的に地域に向けた動きを図ることができた。障害在宅部門では、利用者の目的・目標に向けて個別性を重視した。自事業所だけで支援するのではなく、利用者を取り巻く人と協働し、地域生活の充実を図ることができた。

1. 利用者の意思を尊重した自立支援の促進

- (ア) 救護施設で義務化された個別支援計画作成・実践は計画通り実施できた。管轄福祉事務所との情報共有については、行政間との認識に差があり、課題となっている。
- (イ) 地域移行支援については、アパート生活3名、グループホーム2名、高齢者施設1名の移行を実施できた。
- (ウ) 身体介助の必要な利用者の状況変化に応じて、リフトの機種変更を実施し、利用者・職員の負担軽減を図ることができた。インカムの導入に伴い、職員間の迅速な情報共有を強化することができた。

2. 「経験できた」「評価してもらえた」と実感できる利用者主体の個別支援を実施する

- (ア) 作業支援では、毎月作業評価を行い、利用者にとって適切な目標設定に繋げることができた。新たな役割を担うことで、利用者のモチベーション向上に繋がっている。
- (イ) 嚥下体操・口腔ケア講習・訪問歯科往診など嚥下機能の回復又は維持に働きかけ、窒息事故などはなくなっているが、日常的な口腔ケアが不十分で習慣化には至っていない。
- (ウ) 地域生活を目指したい利用者や就労を希望する利用者を対象に、居宅訓練事業についての説明会とグループワークの実施や就職セミナーに参加する機会を設けた。就職には至らなかったが、以降ハローワークへ通う利用者が増加した。
また、地域貢献活動として、プロギングや佐鳴湖清掃、新川清掃などボランティア活動機会を定期的に設け、利用者の自己肯定感を高めるきっかけづくりを行った。

3. 利用者の将来を見据えた支援体制と仕組みづくりに取り組む

- (ア) 生活訓練事業所ナルド（生活訓練）では、利用者家族や関係サービス機関を招き、モニタリングや活動中の様子を直接見てもう機会を設けた。自宅の様子と生活訓練中の様子が違うことを確認してもらい、双方の生活が繋がるよう支援展開できた。
- (イ) 生活訓練事業所ナルド（生活介護）では、利用者の就労継続支援B型への移行実績はなかったが、就労に向けての支援は継続して行っている。

4. 利用者にとって最適な資源やサービスを提案する

- (ア) 北エリアこども部会に構成員として毎月参画し、地域課題や部会で取り組むべき事案や研修企画に取り組んだ。聖隷三方原病院精神科と連携し、事例検討会を通してネットワ

ークを構築できた。

5. 新たな地域ニーズを発掘し、関連するサービス提供事業と協働する

(ア) 地域活動支援センターナルドでは、浜松市北障がい者相談支援センターの利用者に対して、復職を目的に生活リズムをつくるための居場所を提供し、創作活動などに継続して取り組み、復職に繋げることができた。

(イ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、地域移行1名実施できた。移行後は退去後の利用者支援として3ヶ月間介入し、他の障がいサービスとのスムーズな移行を図った。空床受入れについて、関係サービス機関に働きかけ体験利用を2件受け入れた。

6. 地域貢献など公益的な取り組み

(ア) 浜松市生活自立相談支援センターつながりと協働し、生活困窮者支援の居住支援について協議を行い、4床増床した。また、ケース共有会や実地研修の受け入れなど、生活困窮支援との連携強化を図ることができた。

(イ) 災害派遣として、能登半島地震の復興支援として12月に職員1名を派遣した。

【数値実績】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	22,415名	3,285名	679名
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
一日平均利用者数	61.4名	9.0名	1.9名
稼働率	102.4%	90.0%	46.5%
単価(一人一日当り)	10,978円		7,250円
職員数(常勤換算)	28.5名		

	生活訓練事業所 ナルド		相談支援事業所 ナルド		福祉共同住宅 ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	障害者	障害児	
利用者定員	10名	10名	—	—	13名
利用者延べ人数	2,027名	2,726名	2,302名	305名	4,523名
稼働日数(延べ)	252日	252日	—	—	365日
一日平均利用者数	8.0名	10.8名	—	—	12.4名
稼働率	80.4%	108.2%	—	—	95.3%
単価(一人一日当り)	10,617円	6,907円	19,818円	22,262円	4,624円
職員数(常勤換算)	5.0名		7.3名		3.9名

聖隷厚生園ナルド工房

2024 年度、喫茶スペースにおいて Café ナルドの営業を期間限定ではあるが再開することができ、利用者に接客等の新たな訓練の提供ができた。これにより、参加利用者の訓練参加時間が延び、意欲的に訓練に参加する様子が見られた。

また、企業と連携をし、企業見学・実習を行い、実際に働くイメージを付けることができた。

さらに、特別支援学校との連携では、進路担当者と情報交換をしながら、実習の受け入れやアセスメントの実施を行い、2025 年度に向けて 4 名の新規利用者を獲得することができた。

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、次のステップがイメージできる取り組み
 - (ア) 期間限定で Café ナルドの営業を再開し、利用者へ新たな訓練種目を提供できた。
 - (イ) カンファレンスにて、職員が利用者に対し、できたことや頑張ったことを伝え、一緒に考えながら自ら目標を立てる支援ができた。
 - (ウ) 作業場グループワークで 5S について利用者と一緒に考え、働きやすいように作業場内のレイアウトを変更することができた。
 - (エ) 月に 2 回の就労グループワークの中で、企業見学や職場実習を実施できた。
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
 - (ア) 生活訓練事業所ナルドと協働し、ナルド工房の見学体験会を実施できた。
 - (イ) 聖隷チャレンジ工房和合と協働し、就労継続支援 A 型へステップアップできる利用者の選定や職場見学を実施することができた。
 - (ウ) 相談支援事業所や訪問看護ステーションの担当者と利用者の様子を情報共有することで、健康管理等に課題のある利用者の支援に活かすことができた。
 - (エ) 「就労パスポート」を参考に自己紹介シートを作成し、利用者の自己理解や企業への情報提供をすることができた。また、就職者 1 名へジョブコーチ介入の調整ができた。
 - (オ) 特別支援学校の進路担当者と情報共有を行い、13 名の実習やアセスメントを受けることができ、2025 年度に 4 名新規利用者として受け入れた。
3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場づくりの取り組み
 - (ア) 延べ 14 回の外部研修や法人内研修に参加できた。
 - (イ) 支援記録入力ソフト（ケアカルテ）の操作方法に慣れ、業務の効率化ができた。効率化で生まれた時間をカンファレンスやグループワークの準備などに充てることができた。
 - (ウ) 年 2 回虐待防止セルフチェックを実施し、職場会議で対策の検討ができた。
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 厚生園内の BCP 訓練に参加したが、有事の際の具体的な体制づくりまで至らなかった。

【数値実績】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援 B 型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	30 名	20 名
利 用 者 延 べ 人 数	1,922 名	5,779 名	112 名
1 日 平 均 利 用 者 数	7.2 名	21.6 名	—名
稼 働 率	72.0%	72.1%	—%
稼 働 日 数	267 日	267 日	—日
単価（1 人 1 日当り）	8,632 円	8,480 円	40,906 円
職員数（常勤換算）	9.8 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2024 年度は「他者の幸せのために働く」「利用者サービスのさらなる向上」「新しいことへの挑戦」の 3 つを柱に取り組んできた。入園選考会では例年より多くの方にご応募いただき、2025 年 4 月には 29 名の新しい利用者を迎える準備ができた。

就労移行支援では 2024 年 3 月現在で 2023 年～2024 年度の 2 年間で 6 か月就職定着者が 32 名となり、過去 3 年間の就労定着率も 90%維持できている。また就労継続支援 B 型では、年間平均作業工賃支給が 28,556 円/月となり、目標工賃を達成することができた。これらは地域社会の方々のご協力の上に利用者と職員がともに励み、ともに成長した結果であると考えられる。

1. 「働く」平均工賃 25,000 円/月、6 か月就労定着者 15 名を目指す

- (ア)利用者リーダーを中心とした作業運営を基本とし、利用者の主体性を引き出す支援を行うことができた。
- (イ)全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化を図ることができた。
- (ウ)職場見学や体験実習先を開拓し、利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供できた。
- (エ)ケース担当者が中心となり、利用者、作業担当、就労支援員で共同して就労パスポートを作成し、利用者の能力や特性を相手先企業へわかりやすく説明できた。
- (オ)就労定着支援では就労支援員だけでなく、ケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者につながることで、離職防止につなげる支援ができた。
- (カ)浜松学園の敷地を活用した利用者とともに楽しめる斬新な作業活動を企画提案できていないため、次年度、プロジェクト会議にて提案する課題とした。

2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う

- (ア)特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援ができた。
- (イ)利用者の個別ニーズに考慮した生活講座を実施できた。
- (ウ)共用部や自室の清掃時間を決めて、身の回りの整理整頓が習慣化できる支援ができた。
- (エ)体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供ができ好評を得た。
- (オ)利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進することができた。
- (カ)利用者と職員がともに計画し楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築くことができた。
- (キ)就職後に暮らすグループホームの必要性とあり方について検討し、次年度は法人の部会にて協議検討を進めることとした。

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事をする上で大切なことは何か？”を考える機会を提供することができた。
- (イ) 職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練を行い、スキル獲得の機会となった。
- (ウ) パソコン検定やクリーニング師など資格取得の支援を行い、利用者の自信につなげる支援ができなかったため、次年度の課題として取り組む。

4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア) 新たに iPad や PC の初期設定作業の導入、filo では菓子製造の生産力アップやオープンカフェの開始がされ、利用者の雇用と事業収益の増収につながった。
- (イ) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値のさらなる向上がなされた。
- (ウ) 『filo きずなプロジェクト』として菓子箱やショップカードに障がい者アートを採用し、障がい者の地域社会とのつながりを支援する活動ができなかったため、次年度の課題とした。
- (エ) 下半期に 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出することができた。

(聖隷ステップサポート)

- (ア) 五感を刺激するレクリエーションやリハビリテーションを取り入れ、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させることができた。
- (イ) 利用者が安全で居心地のよい環境整備、車いすから降りて休めるスペースを整備した。
- (ウ) 地域の短期入所事業への送迎方法など組織間連携を強化して、利用者のサービスのつかいやすさにつなげることができた。

(短期入所)

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整えた。
- (イ) 中学・高校生に短期入所の定期利用を勧め、入園後の生活イメージを育む支援ができた。
- (ウ) 保護者と一緒に宿泊体験ができる取り組みができなかったため、次年度の課題とした。

(全事業)

- (ア) 新たに創設される就労選択支援の実施に伴い、今後の入園選考会の在り方について浜松市のワーキンググループにて検討する場に参加した。
- (イ) 障がい者虐待防止に関する研修会を行い、定期的な自己チェックを行い職場内で共有した。
- (ウ) オープンキャンパスを行い、新規利用につなげるための情報公開を実施し、新規利用者の獲得につながった。
- (エ) 保護者・関係者に対してインスタグラムやケアカルテ Live などを活用した情報発信を行い、フォロワー数も増加した。
- (オ) 地域社会への啓発と関係者が集うことを目的とした第 1 回浜松学園祭を開催し、多くの方に浜松学園の取り組みを知っていただく機会となった。
- (カ) パラスポーツ大会を推進し、利用者と地域とがつながる機会ができた。
- (キ) 給食では食材料費や人件費の高騰を鑑みて、献立やオペレーションの見直しを行い、費用抑制を図ることができた。

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い、非常災害時に備える計画訓練を実施した。
- (イ) 外部講師を招き、定期的に職員の倫理観を養う研修を行った。
- (ウ) eラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かした。
- (エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催し、聖隷福祉学会にて発表を行った。

6. 地域における公益的な取り組みを行う

- (ア) 民間企業への体験利用などを通じて社員研修の機会を提供し、障がい者就労支援の啓発につとめる活動を実施したが、宿泊体験は実施できず、次年度の課題となった。

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	入所	短期入所	就労移行	就労継続 B	就労定着
利 用 者 定 員	60 名	10 名	30 名	30 名	—
利 用 者 延 べ 人 数	12,275 名	772 名	7,845 名	8,328 名	277 名
一 日 平 均 利 用 者 数	35.0 名	2.7 名	29.8 名	31.6 名	—
稼 働 率	58.3%	35.7%	99.3%	105%	—%
稼 働 日 数（延 べ）	350 日	276 日	263 日	263 日	—
単価（一人一日当り）	2,281 円	8,096 円	7,925 円	7,123 円	33,741 円
常 勤 換 算 職 員 数	27.8 名				

	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房浜松学園
	生活介護	就労継続 A
利 用 者 定 員	20 名	15 名
利 用 者 延 べ 人 数	3,906 名	2,834 名
一 日 平 均 利 用 者 数	15.2 名	11.6 名
稼 働 率	76.0%	77.3%
稼 働 日 数（延 べ）	256 日	244 日
単価（一人一日当り）	12,587 円	8,481 円
常 勤 換 算 職 員 数	8.1 名	4.1 名

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里は1978年に軽費老人ホームA型として設立され、建築後46年が経過した。施設の老朽化や利用者の高齢化・虚弱化が進行していく中、2024年度は、①ハード面では老朽化した建物・設備の更新計画の検討、②ソフト面では現利用者に対する自立（自律）維持のための支援促進を主軸として事業活動を行った。ハード面の課題は、在宅・福祉静岡ブロックの大規模修繕プロジェクトの位置付けとして検討を開始した。法人内外のケアハウスの現地視察など情報収集も行い、既存施設の改修案など複数の可能性が見出されたが、今後も精査を重ねていく必要があり、2025年度以降も検討を継続する。ソフト面の課題は、近年退去者が増加傾向にある現状に鑑み、一日でも長く軽費老人ホームで生活できるようフレイル予防活動対策に重点を置いた。地元湖東地区の地域サロンには、入居者の参加促進を図るとともに、職員が地域サロン運営に参画するなど緊密な連携を行った。また、2025年度から外部セラピストによるロコモ教室の回数を増加するとともに、もくせいの里職員によるロコモ教室の開催、職員の参加機会を設けて職員の健康増進にも活用するなど、今後も充実させていく。

これら2024年度の事業活動を2025年度にも繋げ、将来にわたって利用者・職員・地域住民が共に幸せになれる福祉拠点を目指していく。

1. 質の高いサービスの追求と提供

- (ア) 施設理念を具現化していくため、外出行事の行先や日程、各種レクリエーション等、日々の生活場面において、入居者自身が決定していく機会を提供した。
- (イ) より有効なフレイル予防のため、外部のリハビリ専門職の活用を継続し、2024年度からは言語聴覚士による支援を新たに導入した。
- (ウ) 認知症の早期発見や進行確認のため、定期的に簡易認知機能検査等を活用して状態把握を行い、必要に応じて病院受診の推奨や地域包括支援センター細江に繋がれた。
- (エ) 食事について、嗜好調査や日々の聞き取りを行い、満足度向上に努めた。入居者と職員が協同して作る食事企画を提案したが、十分な理解が得られず検討継続とした。
- (オ) 配食サービス利用者の配食時（安否確認時）の状況について、家族や地域包括支援センター・担当介護支援専門員と情報共有を行った。

2. 健全運営の推進

- (ア) 物価高騰に対し、電気料は2023年度比110%以下、ガス代、食材料費については2023年度同程度を目指した。食材費は約9%の伸長となり、献立の見直しを行った。
- (イ) 短・中期的将来の配食サービスの在り方について、在宅・福祉静岡ブロックと共に検討を開始した。
- (ウ) 地域包括支援センター等関係機関に対し、定期及び随時往訪して情報交換・広報収集を行い、待機者及び新規入居者の確保に取り組んだ。
- (エ) 新型コロナウイルス等の感染症対策について、これまで同様に入居者の協力を得ながら継続しつつ納涼祭行事を再開するなど、ポストコロナ意識の定着に努めた。

- (オ) 南海トラフ地震への備えのため、消防・防火設備点検等での不具合の早期改善や、消防署員による防災講話を通じて入居者の防災意識の維持を図った。

3. 職員の質の向上

- (ア) 相談員・介護職員のソーシャルワーク実践力を高めるため、専門職ラダーの取り組みや外部研修に積極的に参加した。
- (イ) 入居者の将来の変化に対応していくために、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）に取り組んだ。
- (ウ) 各部署や職種間の業務内容の相互理解を促進し、連携力を高めた。
- (エ) 他の軽費老人ホームとの交流の機会を設け、支援の幅を広げる取り組みを行った。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託、実施した。
- (イ) 近隣幼稚園との定期的な交流を行い、隣接する高台幼稚園とは、「ふれあいニコニコデー」として年間7回の交流会を開催した。
- (ウ) 浜名区細江町湖東地域住民ともくせいの里入居者の交流を目的に、毎月開催される「湖東公民館サロン」の運営委員会に参画した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	—	—
利 用 者 延 べ 数	18,219 名	14,763 名	—
1 日 平 均 利 用 者 数	49.9 名	47.9 名	—
稼 働 率 （ % ）	99.8%	—	—
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	365 日	308 日	—
単 価 （ 一 人 一 日 当 り ）	6,366 円	700 円	—
職 員 数	13.1 名	1.2 名	14.3 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2024年度は、地域の医療・福祉の連携を強化し、地域の方々が安心して住み続けるための仕組み構築を目指した。特に中山間地域の医療については、先行きが不透明な状況である。そこで行政や医師会と連携し、いなさ愛光園内でのオンライン診療が開始できた。今後地域の方々が利用できる医療・福祉について検討を進めたい。事業運営については、職員のワークライフバランスを意識した業務改善を実施した。結果、超過勤務時間の大幅な削減ができた。収益についても、特に特別養護老人ホームでは、退所から入所までの空床期間を短縮し、高稼働が維持できた。年間を通じて、堅調な事業運営ができた。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する
 - (ア) ケアセンターいなさ・三ヶ日地区在宅複合事業との連携は構築できたが、さくまの里との連携強化には至らなかった。
 - (イ) 通所介護・訪問介護・介護支援事業所の代表者と定期的な連携会議が開催できた。
 - (ウ) 地域13か所のサロンに参画し、地域ニーズの発掘に努めた。
 - (エ) 短期入所生活介護でオンライン診療の仕組みができた。
 - (オ) 引佐地域の送迎システムを一元化することで、山間地域の利用者獲得ができた。
2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする
 - (ア) ケアプランに全利用者のなりたい姿を記載し、意向や尊厳を尊重するケアができた。
 - (イ) 特に認知症対応型共同生活介護では、毎月イベントを開催し利用者から好評を得ている。
 - (ウ) 年2回、全職員で大規模な清掃活動を実施できた。
 - (エ) 新規入所者に対して、今まで関わった在宅職員も参加しての担当者会議が開催できた。
3. 人材育成と職員が長く活躍できる環境づくりを推進する
 - (ア) 機器導入によって、職員の業務負担が軽減し利用者ケアに還元できた。
 - (イ) 全事業の業務改善をおこない、超過勤務が2023年度比73.5%削減できた。
 - (ウ) 係長登用3名、新リーダー1名が育成できた。
 - (エ) 全国老人福祉施設大会や静岡県高齢者福祉研究大会に参加し、人材育成に努めた。
 - (オ) 70歳以上職員13名が2025年度も雇用契約を更新することができた。

4. 安定した施設運営をする

- (ア) ICT 機器を活用した事で介護職員の全常勤換算数が 2023 年度比マイナス 4.2 人となった。
- (イ) 2026 年度の完全調理品導入を目指してプロジェクト会議を立ち上げ検討した。
- (ウ) 業務継続計画を見直し、備蓄やサポート体制の整備をした。
- (エ) 経年劣化による設備更新及び空調の更新を実施した。
- (オ) 認知症チームケア推進加算・生産性向上推進体制加算取得に向けた仕組みが構築できた。

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) いなさ愛光園主催のサロンを年 2 回、地域サロンに年 13 回参加し支援をおこなった。
- (イ) 2024 年 9 月に引佐地区子供絵画コンクールに参画できた。
- (ウ) 地域の防災訓練に参加し、地域防災の理解を図った。
- (エ) 道路寸断等を想定し、利用者や職員、地域避難者に対する備蓄の見直しをおこなった。

【数値指標】 高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援事業

	特養入所		短期入所	通常規模通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30 名	40 名	20 名	35 名	
利用者延べ人数	10,853 名	15,146 名	6,047 名	7,822 名	1,060 名
一日平均利用者数	29.7 名	41.5 名	16.6 名	25.3 名	3.4 名
稼 動 率	99.1%	103.7%	82.9%	82.2%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	309 日	
単価（一人一日当り）	14,285 円	15,672 円	14,207 円	10,240 円	
職員数（常勤換算）	47.7 名		14.5 名	14.2 名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9 名	—	—	12 名	
利用者延べ人数	3,280 名	1,928 名	769 名	2,738 名	0 名
一日平均利用者数	9.0 名	—	—	8.9 名	0.0 名
稼 動 率	99.9%	—	—	73.8%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	309 日	
単価（一人一日当り）	14,254 円	18,651 円	3,284 円	13,652 円	
職員数（常勤換算）	7.8 名	5.0 名		6.2 名	
	訪問介護		居宅介護 （障害）	配食 サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者延べ人数	1,813 名	991 名	589 名	1,109 名	—
一日平均利用者数	5.0 名	2.7 名	1.6 名	3.8 名	—
稼 動 率	—	—	—	—	—
稼動日数（延べ）	361 日	361 日	361 日	293 日	—
単価（一人一日当り）	4,895 円		4,093 円	743 円	—
職員数（常勤換算）			3.8 名	—	—

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江

聖隷リハビリプラザいなさ

旧引佐三町においては、高齢者が増加する一方で、支援の担い手の減少、医療機関の撤退などの影響があり、高齢者が介護を受けながら自宅で生活することがより困難になっている。高齢者が心身機能を維持し、住み慣れた自宅で生活できるよう地域住民への介護予防講座を行った。また、複合課題を抱えた世帯には、法人内外の病院、高齢者、障がい者の施設、サービス事業所と連携をとり支援することができた。三ケ日地区においては、法人外の事業所とともに防災対策についての情報を共有することができた。

1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

(ア) 各事業所での地域支援

① 地域包括支援センター細江

幅広い世代への周知や他分野機関との連携による家族課題の早期発見・対応を行った。

② 聖隷リハビリプラザいなさ

専門性を活かした心身機能評価、運動プログラムを実施し重度化を防止することができた。

(イ) 認知症の周知

認知症ケアについて学び、家族を含めた支援を行った。また、地域の小学校、高等学校、郵便局員に対し、認知症サポーター養成講座の実施や認知症独り歩き模擬訓練を実施した。

(ウ) 意思決定支援の推進

引佐郡医師会及び地域の関係機関との協働による意思決定支援をテーマとした市民フォーラムを開催した。

2. 運営の安定化

(ア) リハビリ特化型デイサービスの強みを生かした専門性を発揮できるフロア体制づくり

利用定員を 35 名から 40 名へ増員し、利用者の長期休みによる機会損失に影響を受けない運営ができた。

(イ) いなさ愛光園と連携した送迎の効率化

送迎システムを導入し、いなさ愛光園との合同送迎を開始した。

3. 拠点機能の強化

(ア) いなさ愛光園との連携強化

いなさ愛光園・聖隷ケアセンター三ケ日と連携し、地域に向けた健康講座と相談会を実施した。

(イ) 地域の支援者との連携強化

地域のサロンを訪問し、地域包括支援センターの周知や介護予防体操などを行った。

(ウ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

地域の支援者の事例検討会等への参加や地域ケア会議を開催する等、多機関協働で多問題家族へ支援を行った。

4. 地域における公益的な取組

(ア) ノルディックウォークの自主運営サークルの支援を行った。

(イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援を行った。

(ウ) ロコモサロンを実施した。

(エ) 地域住民のボランティアを受け入れた。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

予防支援/マネジメントA・B	内再委託件数	予防ケアマネジメント 単価（円）	職員数 （常勤換算）
予防支援 4,344 件	3,360 件	4,471 円	10.2 名
マネA 2,796 件	1,980 件	4,471 円	
マネB 1,068 件	— 件	3,246 円	
マネC 1 件	— 件	2,195 円	

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月 間 利用者数	年 間 利用者数	月 間 利用者	年 間 利用者	介護 （月）	予防 （月）	
26.6 人	107.8 人	1,293 人	106.2 人	1,274 人	7,234 円	25,467 円	13.7 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2024 年度は、介護・診療・障害福祉サービスの報酬改定や担当地域の他法人の同事業の増加、看護師の人員不足などが重なり、訪問看護事業と通所介護事業は、利用者数が減少し、センター全体の収益を下げた。一方、人員の欠員がある中でも効率的かつ質を下げないよう、利用者ニーズに沿ったケアの提供ができるよう業務改革を行ってきた。また、職員のキャリア形成を踏まえた人材育成に取り組むことができた。

1. 近隣施設との連携

(ア) 聖隷デイサービスセンター初生との連携

- ① 合同事例検討会を月 1 回、定期的に開催することができた。事例を通し、自分とは異なる視点で現象を捉える力を学ぶ機会となった。また、交換研修も実施し、スタッフ間で事業の違いを知ることができ、相互理解につながった。
- ② 合同送迎システムが開始となり、利用者はもちろんスタッフ間の交流を図ることができた。また、利用者がデイサービスセンター初生の機能や役割を理解できるように広報活動を行うことができた。

(イ) 近隣病院との連携

- ① 聖隷三方原病院や地域障がい者リハビリテーションセンターとの連携を図り、利用者の紹介や勉強会の開催ができた。
- ② 2023 年度から開始している浜松医科大学附属病院で行われている病棟退院支援カンファレンスへ参加することで、看護部と顔の見える関係が促進できた。事例検討会を開催することで、病棟看護師が在宅療養をイメージすることができた。

(ウ) 地域包括支援センターとの連携

地域包括支援センター三方原と情報交換を密にして、虐待ケースや多重課題ケースの対応をすることができた。

2. 3 事業所の強みを活かし、質の高いケアを提供する

- (ア) 利用者個々の心身機能を把握し、個別性と効率性を重視した運動・生活動作の支援を目的に、動作評価システムの導入を行った。訪問看護事業では、特定行為研修修了者の実践の場を拡大することができた。
- (イ) 認知症高齢者の増加に向けて、質の高い対応や知識を得ることに关してスタッフの意識を向上することができた。
- (ウ) 人生会議手帳の配布や啓発活動を積極的行い、意思決定支援を各事業所で活発に行うことができた。

3. 職員が生き生きと働くことができる環境作りと経営の安定化

- (ア) 各事業での課題である人員不足に対応できるよう業務の効率化を図るため、介護施設向けカラオケ機器を導入し、フロア業務の軽減を図った。センター内の帳票の見直し、ICT化を推進することができた。
- (イ) 専門職が働きやすさ、やりがいを満たすことができるようボランティアを活用できた。

4. 地域における公益的な取り組み

ロコモーショントレーニングサロン活動を継続することができた。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数 (常勤換算)
159 人	777 件	9,325 件	10,703 円	12.4 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,870 件	427 件	16,487 円	4,033 円	一件	一円	4.9 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
41.1 人	91.7 人	1100 人	70.3 人	843 人	6,646 円	28,430 円	12.2 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	職員数 (常勤換算)
1.4 人	5 人	60 件	8,607 円	1.0 名

三ケ日地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション三ケ日

聖隷ケアプランセンター三ケ日

2023年4月より三ケ日地区在宅複合事業を開始し、「住み慣れた地域で暮らしたい」という地域ニーズに貢献できる体制の構築を目指してきた。

聖隷訪問看護ステーション三ケ日では、三ケ日町において「望む療養が自己決定できる地域づくり」を目指し、意思決定支援の推進を図り、以前では難しかった在宅看取り件数の増加を認めることができた。

聖隷ケアプランセンター三ケ日では、病院やサービス事業所と情報交換を密に行い、スムーズな在宅移行ができるように努めた。利用者家族からの新規紹介件数も増加している。

2025年度も事業所間で協働し、地域のニーズに合わせた支援を継続していく。

【聖隷訪問看護ステーション三ケ日】

1. 地域への意思決定支援の推進

- (ア) 地域の居宅介護支援事業所や民生委員への勉強会を開催した。
- (イ) 利用者の体調が安定している維持期から人生会議手帳を活用し、望む療養の聞き取りを行った。90歳台の利用者に於いて、人生会議手帳の記載を基に在宅看取りに繋がったケースもあった。

2. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期から切れ目のない支援を行う

- (ア) 聖隷三方原病院の病棟ラウンドと退院支援看護師との情報交換会への出席を継続することで、顔の見える関係を構築し、スムーズな在宅移行ができるよう努めた。
- (イ) 聖隷ケアプランセンター三ケ日主催の事例検討会へ出席し、地域の居宅介護支援事業所との活発な意見交換ができた。

3. 職員が元気に、安心して働くことができる環境づくり

- (ア) 直帰の推奨、システムを利用した訪問スケジュール管理が定着しつつあり、超過勤務時間の削減に繋がっている。

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 聖隷ケアセンターいなさ、いなさ愛光園と連携し、地域住民に向けた健康講座を継続して行った。今後は、地域のサロンなどへの出張講座を検討している。

【数値実績】

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
1,264名	105名	5,940件	495件	9,670円	5.9名

【聖隷ケアプランセンター三ケ日】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制づくりの推進

- (ア) 地域の在宅療養体制の発信・強化のため、聖隷訪問看護ステーション三ケ日と連携し、聖隷三方原病院とのカンファレンスでの意見交換、情報共有を行った。
- (イ) 聖隷訪問看護ステーション三ケ日、聖隷リハビリプラザいなさとの定期的な共有会の開催を行った。
- (ウ) 三ケ日地区の居宅介護支援事業所との事例検討会の開催や地域包括支援センター主催の研修に積極的に参加する等、地域課題の共有、連携体制の強化に努めた。

2. 運営の安定化

- (ア) 病院からの新規の依頼は断らず、ターミナル期にある新規利用者の受け入れについても聖隷訪問看護ステーション三ケ日と連携し、積極的に受け入れた。また、新規依頼件数を増やすために、湖西市の病院、サービス事業所への営業活動を行った。
- (イ) 新たな担い手の確保のため、法人内のケアマネジャー試験対策講座の開催、ケアマネジャー魅力発信動画作成の協力を行った。

3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり

- (ア) 研修計画に基づき研修へ参加し、各職員が事業へのフィードバックを行った。1人1役を担い、事業所内での係・役割に沿って業務分担が出来た。また、職場会の中で職員からの意見をもとに職場環境や業務内容の見直しを行い改善した。

4. 地域における広域的な取り組み

- (ア) 聖隷ケアセンターいなさ、聖隷訪問看護ステーション三ケ日、いなさ愛光園と協力して聖隷健康講座を開催し、地域に向けた介護予防の啓発等情報発信ができた。

【数値実績】

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,924 件	362 件	16,470 円	4,451 円	27 件	4,400 円	5.2 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2024 年度はこれまでの積み重ねから見えた、制度の狭間に身を置く困窮世帯に対する支援について改めて検討する 1 年となった。重点目標としていた無料低額宿泊所の開設は見送りとしたが、居住支援のニーズに対応すべく、一時生活支援事業について 3 年間の運用実績をもとに拡充の必要性を行政に提言し、2025 年度からの増室につなげることができた。

全体の相談件数は 919 件となり、減少傾向から再度増加に転じた。離職に伴う減収や住居の喪失などに加え、背景に疾患や障がいといった複合的な課題を抱える相談者が見受けられるほか、特例貸付の返済開始や各種給付金などの終了により生活困窮の一步手前で生活を維持してきた世帯が生活困窮に陥る状況が確認されている。

2025 年度の生活困窮者自立支援法改正により、更なる支援対象の広がりが予測される。また、複合的な課題を抱える相談者は今後も増加すると考えられる。法人内外の関係機関と連携を深めることに加え、新たな支援機関や事業者との連携体制を構築していく。

1. 地域における公益的な取組

- (ア) ①相互の事業理解を促進するため、合同事例共有会を実施した。
②救護施設における自立支援を学ぶため、職員 2 名が讃栄寮で実施研修を実施した。
- (イ) 本部教室、市野教室の 2 教室で実施した。子どもの学習を入り口として世帯に関わり、関係機関との連携のもと世帯支援を行った。
- (ウ) 年間 913 食の食事支援を行った。一時的に教室に来られない子どもには、訪問支援時にお弁当として提供した。
- (エ) ①外国ルーツの子ども達の学習支援を実施している団体と交流機会を持ち、日本語支援の方法などについて意見交換を行った。
②外国籍職員を講師として職員が「やさしい日本語」を学ぶ機会を設けた。

2. 就労支援及び就労準備支援

- (ア) 就職実績は年間 120 名、就労希望者に対する就職率は 96.0%となった。
- (イ) 新規利用者 9 名、継続利用者 7 名の支援を実施した。うち 9 名が就職し、就労定着となった。
- (ウ) 協力企業を活用し、職場見学を実施。年間 7 名が就職につながった。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) ①新年のあいさつ等の定期的な案内に SNS を活用した。SNS を通じて子どもたちの近況を把握するとともに、つながりを維持することができた。
②対象者を教室利用中の中学生・保護者に拡大した。新たな相談ツールとしても活用できた。
- (イ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対し、年間 120 件の訪問支援を実施した。

4. 生活困窮者一時生活支援事業及び新規入所型支援の検討

(ア) 2025 年度の生活困窮者自立支援法改正による支援の拡充と経営上の課題を踏まえて協議した結果、新規施設の開設は見送りとした。

(イ) 住居喪失に加え生活支援や社会生活上の支援が必要な方を 7 名受け入れた。

(ア) で想定された対象者への支援に加え、地域ニーズの高まりを受け、事業拡充の必要性を行政に提言し、2025 年度より 5 室から 9 室への増室につなげた。

5. 職員が働きやすく、育まれる環境づくり

(ア) 自立相談支援事業、一時生活支援事業について、業務マニュアルを作成した。

(イ) ①社会福祉士を目指す学生 2 名の実習を受け入れた。

②社会福祉士実習指導者講習会受講により、新たに 1 名が実習指導者となった。

(ウ) 経験ある職員をリーダーとして小規模なチーム体制を構築、職員間の相談や意見交換が活発になり、職員個々の成長につながった。

【数値指標】

	生活困窮者 自立支援事業	生活困窮者 一時生活支援事業	学習支援事業	ホームレス 巡回支援事業	学習サポート 事業
利 用 者 定 員	—	7 名	60 名	—	—
利 用 者 延 べ 人 数	6,034 名	1,549 名	1,416 名	69 名	457 名
一 日 平 均 利 用 者 数	24.8 名	3.2 名	9.6 名	2.4 名	3.0 名
稼 働 率	—	64.4%	—	—	—
稼 働 日 数 (延 べ)	243 日	1,177 日	146 日	28 日	151 日
単価 (一人一日当たり)	—	—	—	—	—
職員数 (常勤換算)	17.6 名				0.6 名

浜北愛光園

介護老人福祉施設 浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンター浜北	訪問看護ステーション貴布祢
障害者相談支援事業所浜松東	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	

2024年度は、引き続き多様なニーズへのサービスと対応力の向上を目指し、各事業が総合的なサービス提供を意識した関りや新たな人材確保に努めた。年間を通し人材の確保が厳しい状況であったが、そのような状況にあっても利用者、家族に安心と安全を提供する取り組みを継続した。設備においては、長引く猛暑の対処とし居室空調を優先し更新を行った。その他、経年数に応じた福祉機器等の入替を行い、利用者が安全、安心して利用できるよう環境整備を行った。

運営については、障害者相談支援事業の利用者減少や担当地区の見直し等により、2024年度末をもって障害者相談支援事業所浜松東を閉鎖することとなった。人材確保の苦戦に加え、物価等の高騰から厳しい運営となる年度であった。

1. 複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を行う
 - (ア) カンファレンスだけでなく日常的な情報共有が図れ、ワンストップ支援体制が定着しており、スムーズなサービス提供に繋げることができている。
 - (イ) 情報シートの活用には不十分さがみられたが、利用者ニーズや想いを反映したケアプランの作成に努めた。
 - (ウ) 就労事業において、「地域とつながる新たな仕事」を模索したが、新たな仕事として確立させることができず、就労意欲を向上させるまでには至らなかった。
 - (エ) 認知症ケア等の専門研修受講者を増やし、実践を通して対応力の向上に努めた。
 - (オ) ICT機器等の導入からレクリエーション等の企画回数を増やすことができている。
2. 新しい働き方への創造力と質の高い専門性を備えた職員育成を行う
 - (ア) 新たな人材育成方針及び育成システムを再構築することができた。
 - (イ) 交換研修（職場体験）の企画構成を明確化し、柔軟に実施できるよう見直した。
 - (ウ) 職員個々に応じた資格取得や研修参加を促し、スキルの獲得を支援することができた。
 - (エ) 具体的な改善には至らなかったが、定型業務及び適正人員数を見直すことができた。
 - (オ) 新入職員や同じ役割を担う職員同士が集まり、現況を分かち合える機会を設けた。
3. 運営安定化の推進
 - (ア) SNS（HitomeQ コネクト・LINE 等）の広報活動により、入居待機者数の維持が図れた。
 - (イ) 事務係内のジョブローテーションを行い、事務業務の正確性・効率化の向上を図った。
 - (ウ) 予定されていた居室空調等の更新を計画的に行い、物価高騰等の影響から食費の見直しを行った。
 - (エ) 催事物品等の共有や事業の取り組みを協働して行い、連携を高めることができた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の清掃活動への参加を再開。地域包括支援センターと連携した出前講座を行った。
- (イ) 近隣事業所の災害時訓練の避難場所として協力するとともに非常食の見直しや防災機器の点検整備、防災訓練に注力した。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般形	予防	
利 用 者 定 員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		—
利 用 延 数	17,995 名	33,870 名	5,340 名	6,620 名	7,116 名	628 名	
一日平均利用者数	49.3 名	92.8 名	14.6 名	18.1 名	23.0 名	2.0 名	
稼 動 率 （ % ）	99.8%	96.8%	83.9%	86.8%	63.5%		
稼動延日数	365 日	365 日	365 日	365 日	310 日		
平 均 介 護 度	4.1	3.7	3.1	2.6	2.0		
単価（一人一日）	13,301 円	15,268 円	12,336 円	12,164 円	10,505 円		3 名
職員数(常勤換算)	34.49 名	60.33 名	8 名	10.78 名	13.82 名		

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
169名	844件	10,125件	10,233円	12.83名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,955件	399件	16,601円	4,329円	8件	4,400円	5.36名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	職員数 (常勤換算)
4,569件	3,127件	4,595円	6.26名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	職員数 (常勤換算)
就労移行	6名	1,284名	83.6%	256日	9,269円	11.3名
就労継続	24名	5,279名	71.6%	307日	10,894円	
就労定着	—	149名	—	—	32,409円	
生活介護	10名	2,308名	95.0%	243日	7,916円	3.1名

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルプステーション 聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園天宮サテライト 聖隷放課後クラブはなえみ森町

2024 年度、森町愛光園の運営は、感染症の影響を受けながらも利用者や家族、地域のニーズに応えるという福祉の原点に回帰し取り組み、物価の上昇など厳しい経営環境であったが安定して推移することができた。施設サービスにおいては、天宮サテライトへの見守り支援システム導入が完了し、園全体で ICT 活用による生産性向上に取り組んだ。業務改善だけでなくスタッフそれぞれが利用者の生活がより良くなるためにできることを考え実践することに努めた。在宅サービスにおいては、感染症の流行時期において各事業が連携しサービスの提供を継続し利用者の在宅生活を支えることができた。そして、今後の大規模修繕の計画立案や、地域の会議・防災訓練への参加、ゴミ拾い活動など、地域に必要とされ続ける施設であるための活動を実施した。

1. 「最高の質のサービス」の提供

- (ア) 見守りシステムのデータをアセスメントに活用するサービスを導入し、利用者の睡眠状況や居室での過ごし方をサービス計画に反映できるようになった。また、介護ロボットの活用推進により排泄動作など ADL の自立支援が図れた。
- (イ) ホスピタリティ力の向上を図り利用者・家族からのサービスへの苦情申出件数が 2023 年度の 5 件から 2024 年度は 2 件に減少した。
- (ウ) 公立森町病院と協力医療機関の協定を結び、病院と施設間の連携強化を図れた。また、入所事業にリハビリ職員を配置し、専門性と職種間連携を深めたケアを提供できた。
- (エ) 入所事業においては委員会が中心となり生産性向上活動を推進し、他事業においてはそれぞれ業務改善に取り組み、利用者へ提供するレクリエーション等の時間が増加した。
- (オ) 委員会を中心に ACP と看取りについての研修を実施した。施設で最後を看取った利用者の割合は 2023 年度の 67%から 2024 年度の 80%へ 13%上昇した。

2. 働きがいのある職場づくりと人材の確保と育成

- (ア) マネジャー層に施設理念とサービスを考える研修を実施し、各職場にてスタッフが理念について理解を深められるよう取り組みを行った。
- (イ) マネジャーへ人材マネジメントの OJT を実施した。退職者は 2023 年度の 10 名から 2024 年度の 7 名と減少し人材の確保につながった。
- (ウ) 各職場のリーダー層を対象にリーダー研修を実施し、問題解決力の向上を図った。また中堅職員を OJT 研修に派遣し施設内でスキル向上のための OJT を展開した。
- (エ) 在宅事業から入所事業へ職員を応援派遣して欠員状況への対応を行い職場間の協力体制と相互理解が深まった。
- (オ) 移乗用ロボットの活用を促進して職員の身体的負担を軽減できたほか、職員 2 人での介助が必要な利用者を 1 人でも介助できるようになり精神的な負担も軽減できた。

3. 健康経営の推進

- (ア) 訪問介護事業の掛川市、袋井市の総合事業の指定を受け、新規利用者を獲得した。
- (イ) 町外への PR はできなかったものの、地域密着型の申込者数は延人数で 2023 年度末 32 名から 2024 年度末 64 名と前年比で 2 倍に増加した。
- (ウ) 利用者の家族向けの SNS を利用した情報発信ツールを導入したが、施設での利用者の様子や取り組みを発信するには至らず、地域への発信は実施できなかった。
- (エ) 従来型フロアを中心に修繕計画を立案し、次年度の補助金申請を行った。
- (オ) 委員会を中心に感染、防災の BPC 訓練を重ねたほか、食料備蓄の増強を図った。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小中学校からの福祉体験、職業体験や福祉系高校の介護福祉実習を受け入れた。
また、地域住民による施設での清掃活動や奉仕活動のボランティアを受け入れた。
- (イ) 近隣自治会の地域ケア推進会議や自治会の防災訓練に専門職を派遣した。また、職員による施設周辺のゴミ拾い活動を年 2 回実施した。
- (ウ) 能登半島地震で被災した施設へ 1 名介護職員を派遣した。また静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）の要請に基づき登録員を BCP 関連の研修講師として派遣した。

【数値実績】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利 用 者 定 員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名		
利用者延べ人数	21,866 名	6,954 名	10,244 名	3,204 名	8,174 名	858 名	
一日平均利用者数	59.9 名	19.1 名	28.1 名	8.8 名	26.5 名	2.8 名	
稼 動 率	99.8%	95.3%	96.8%	73.1%	69.8%		
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	308 日		
単価（一人一日当り）	13,175 円	16,244 円	14,845 円	12,100 円	10,619 円		
職員数（常勤換算）	36.6 名	11.2 名	17.6 名	5.7 名	14.5 名		
	在宅介護	居宅介護支援		訪問介護			放課後等 デイサービス
	支援センター	介護	予防	介護	予防	障害	
利 用 者 定 員	—	—	—	—	—	—	10 名
利用者延べ人数	—	2,043 名	150 名	3,611 名	1,102 名	283 名	2,036 名
一日平均利用者数	—	—	—	—	—	—	8.3 名
稼 動 率	—	—	—	—	—	—	83.6%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日		359 日			243 日
単価（一人一日当り）	—	18,220 円		4,445 円	3,823 円	12,531 円	
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		5.7 名			5.5 名

聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

磐田市地域活動支援センター

2024年度は、利用者の想いを大切にした「利用者まんなか支援」を重点目標とし、利用者の想いを汲み取り、それを支援に反映することに力を入れた。日々の支援では、利用者一人ひとりの言動や態度の変化に気づくことを心がけ、ただ支援を提供するのではなく、利用者がどのような気持ちでいるのかを丁寧に汲み取り、それを職員間で共有しながら、より適切な支援に取り組んだ。また、地域の変化に対応するため、行政と意見交換を重ねながら、地域の現状を踏まえた支援を継続できるよう、磐田市子育て支援総合センターのびのび・磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障害者相談支援センター・磐田市地域活動支援センターの受託事業を継続することとなった。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① 会議や研修を通して「こどもの声」を捉え、想いに寄り添う支援を実践した。
- ② サービス担当者会議への参加や、就園サポートノートを活用からその子に合った移行支援を行った。
- ③ 動画や写真を活用し、こどもの強みについて保護者と共有できたが、家庭での汎化については課題が残る。
- ④ 磐田市と定期的な情報交換する中で、地域の施設間交流や園庭開放を実施した。

(イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① ICT を活用し、自分のことを知る機会をつくり、こどもの主体的な活動に繋がった。
- ② 親子体験型行事や見学会を通して、こどもと保護者が一緒に楽しめ、保護者同士が繋がれる機会となった。
- ③ 他事業所や異年齢との交流から、多様な価値観に触れることで他者理解に繋がった。

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 年間 9 名の就職者を輩出し、6 か月定着率は 100%であった。
- ② 目標平均工賃 30,000 円/月は達成したが、作業メニューの見直しには課題が残る。
- ③ 座談会形式にて相互理解を促進し、就労意欲維持に繋がった。
- ④ 他機関連携にてチーム支援を実践し、利用者を支える関りを実践した。

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 医療機関、園や学校等と連携し、こどもが自己表現できるよう支援した。
- ② 園や学校との意思疎通がスムーズに測れるよう、保護者や支援者に助言した。
- ③ 保護者が安心して子育てできるよう、こども家庭センターと役割を整えた。
- ④ 磐田市とこどもを支える連携方法について協議し、支援体制を強化した。

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 認知症サポーター養成講座や地域ケア会議を通じて、ネットワーク体制を整えた。
- ② 他機関との連携から、その方の望むタイミングで福祉サービスに繋がった。
- ③ 利用者や事業所職員から様子を聞くことで、現状に沿った計画作成を行った。
- ④ 医療機関や福祉サービス事業所と連携し、1 名の方の地域移行支援を行った。

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① こどもの年齢や状況に応じた遊びの提案や環境面の工夫から来館者増加に繋がった。
- ② 転入ママの交流会や外国籍向けの広報を行うなど、孤立予防の活動を実践した。
- ③ サロン団体等へ体操や遊び等の提案を行い、地域の子育て力向上を図った。

(キ) 磐田市地域活動支援センター

- ① 新たな創作活動を計画し、利用者のニーズに合わせた活動を提供した。
- ② 農業体験や磐田市社会福祉協議会の生活応援クラブの活動を通じて、働くことへの意欲向上に繋がった。
- ③ 自立支援協議会の参加やサロン活動を通してネットワーク体制の構築を図った。

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 様々な場面（送迎・散歩等）を想定した訓練と安全計画に基づいた研修を行い、安全意識の高揚を図った。

(イ) 計画的な虐待防止・権利擁護の研修実施と段階的にスキルアップできるよう発達支援リーダーの試行運用を開始した。

(ウ) 保護者、相談支援との三者面談を定期的に行い、安定したサービス利用に繋がった。

(エ) 園庭開放を通して待機期間中の親子への繋がれる仕組みを構築した。

(オ) システム活用の促進により業務簡略化は図れたが、効率化には課題が残る。

(カ) 職場会議等で職員の「やりたいこと」を共有し、ボトムアップ体制を整えた。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師派遣 2 件・施設見学 10 件・実習 20 件・ボランティア 383 件を実施した。
- (イ) インクルーシブイベント等の行事への参加、インスタグラムを通して情報発信を行った。
- (ウ) 行事や園庭開放（年 10 回・38 名参加）を通じて、相談しやすい体制を整えた。
- (エ) 障害者等の当事者や家族、支援者向けに「誰でもぴゅあ」を開催し 14 名の参加があった。
- (オ) 磐田市社会福祉協議会及び法人連絡会開催のイベント等に参画し、活動紹介や障がい者スポーツの企画・運営を行った。

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みな み(特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30 名	—	—	—	14 名	15 名	6 名
利用者延べ人数	7817 名	469 名	454 名	842 名	3060 名	4572 名	937 名
一日平均 利用者数	31.9 名	—	—	—	11.3 名	16.9 名	3.7 名
稼働率	106.4%	—	—	—	81.0%	112.9%	61.5%
稼働日数(延べ)	245 日	239 日	365 日	365 日	270 日	270 日	254 日
単価 (一人一日当り)	17,794 円	18,117 円	21,208 円	23,204 円	12,449 円	8,993 円	8,399 円
常勤換算職員数	22.7 名	1.9 名	4.0 名		4.4 名	6.3 名	1.0 名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利用者定員	20 名以下	20 名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	138 名	5547 名	—	—	—	—	3805 名
一日平均 利用者数	—	11.0 名	—	—	—	—	14.3 名
稼働率	—	109.4%	—	—	—	—	—
働日数(延べ)	270 日	254 日	243 日	307 日	365 日	365 日	265 日
単価 (一人一日当り)	26,389 円	12,676 円	—	—	—	—	—
常勤換算職員数	0.2 名	9.3 名	10.5 名	6.9 名	4.0 名	2.1 名	2.9 名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

コロナ禍以降「最期まで自宅で過ごしたい」という地域の利用者や家族のニーズが、コロナが落ち着いた 2024 年は自宅以外に最期の場所を希望することが増えた年であった。2025 年も引き続き訪問看護とケアプランセンターで協働しながら社会背景に合わせた地域のニーズに対応していく。

【訪問看護ステーション浅田】

1. 浜松市旧南区のニーズに沿ったケアを提供する

- (ア) ターミナルや治療方針などの意思決定の場面で訪問診療医と同行訪問したり、カンファレンスを開催することで利用者の思いに沿った関りができた。
- (イ) リハビリスタッフと看護師が同行訪問することで利用者の希望に沿ったリハビリが看護師も実施できるようになった
- (ウ) 困難事例に対して地域ケア会議に参加し他機関と連携することができた。また今年度は事例検討会に参加するだけでなく、問題提起や事例検討会を訪問看護の立場から開催することができた。(4 件)

2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、質の高い看護を提供する。

- (ア) 共通利用者のカンファレンスを月 1 回定期的に開催することでタイムリーな情報共有ができた。
- (イ) 新規依頼のうち聖隷ケアプランセンターとセットの依頼は断らず対応することができた。

3. 働きやすい職場環境を作り

- (ア) マニュアルや物品の整理、手順書の見直しを行うことで、ケアの質が統一できるようになった。
- (イ) 他のステーションやデイサービスなど外部の施設への見学や同行訪問を実施したことで自職場の強みや弱みを話し合うことができた。
- (ウ) 年 1 回防災、防犯訓練を開催し、マニュアルの見直しや変更を行った。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 包括支援センターと協力して地域の高齢者に対し、健康講和を開催した。
- (イ) 地域の防災訓練に参加し、地域住民と交流を図ることができた。

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	職員数 (常勤換算)
162名	905件	10,860件	医療 11,800円 介護 9,000円	14.0名

【聖隷ケアプランセンター浅田】

1. 担当地区の方達が障害や病気を持っていても安心して暮らせる地域作りへ参加し、介護保険のみならず、障害担当者とも連携し就労につながったケースがある。今後も若い世代の介護保険利用者に関して、就労等に繋がるように支援していく。
2. 訪問看護ステーションと協働することで、ターミナル加算を14件取得することが出来た。今後も訪問看護、病院等と連携しターミナル加算の取得を増やし、医療連携加算の再取得を目指す。
3. 研修会へ参加しスキルアップを図る。今年度は記録に関して研修に参加することで、F-SOAIIPの手法を取り入れ、誰が見てもわかりやすい記録の仕方と時間短縮の術を学んだ。来年度も継続して研修に参加し、更にスキルアップしていく。
4. ワークライフバランスの充実、業務の効率を図る。タブレットを活用し、記録の音声入力をした。空き時間に音声入力することで、記録に対するストレスの軽減が図れている。来年度もタブレットの更なる活用をしていく。事務職員と協同し、ペーパーレス化に努めている。
5. 防災や感染症への取り組みを実践する。訪問看護と協同し防災訓練を実施。より具体的な実践訓練を実施。災害時のイメージを持つことが出来た。来年度はさらにリアルな実践体験ができる訓練を実施していく。感染症に対して、事業所全体で意識し、感染症の蔓延等は見られなかった。今後も個々の意識を高めながら感染防止に努める。

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,842件	452件	17,104円	4,321円	7件	4,400円	4名

聖隷こども園わかば

2024年度は乳児、幼児合わせて189名の園児を受け入れることができた。職員の急な欠員もあり、0歳児は定員24名までの受け入れを予定していたが、実際には21名となった。1号認定の定員数を15名に増員したが、受け入れは6名であったため、今後は、地域の枠にとらわれず、多様化する保護者のニーズに応えていく必要がある。また、地域に信頼され、選ばれる園となる為にも子どもの育ちを継続させた保育を提供することができるよう今まで以上に保育の質の向上に力を入れていく。保育支援システム（コドモン）では、保育ドキュメンテーション等を通して子どもたちの様子や成長発達等を可視化して保護者に伝えることができた。更に保育者自身が保育の面白さを感じることもつながっている。また、コドモン内のオンライン研修を活用し、保育の専門性を高めることもつながっている。2024年度は園舎内の設備機器、遊具等の急な修繕が多かった。園舎の老朽化による修繕が今後も予想されるため、安全且つ安心して過ごせるよう計画的に整備をしていく。

【入所状況】

年間平均入所率は89.1%

途中入所は0歳児13名、1歳児1名、2歳児2名、3歳児1名、4歳児2名、転居により3名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. より質の高い教育・保育を実践する

- (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、それを基に歳児毎の計画を立てた。今後も歳児毎の発達を踏まえると共に子どもたち一人ひとりの発達に応じ、対応をしていく必要がある。
- (イ) 子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや面白さが実感できる機会を増やすためにも、日々の振り返りを丁寧にする事を意識できた。

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、実践しているか振り返りをし、教育・保育の実践を行った。
- (イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を通して、職員が自己の課題と役割を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につなげていった。
- (ウ) 職員一人ひとりの専門性の向上のため、キャリアアップ・外部研修等に積極的に参加できるような働きかけをした。働きかけ無くとも自らの意思で参加率を上げていくことが課題。
- (エ) コドモンでの記録等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感できるようになった。保育の充実を図るためにもPDCAサイクルの体制を今後も継続していく。

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。特に、厨房職員と保育者

が「絵本献立」や「全国の料理」の紹介をしたことで、子ども・保護者の食事への興味がさらに深まった。

(イ) 子育て、親育て支援

ドキュメンテーション、懇談会を通して保護者と子どもの成長発達を共有することができた。懇談会の内容を見直し、保護者同士のコミュニケーションを図ることに重点をおいた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。常設のひろば週5日・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援・講座、週1日は地域に出向いた出張ひろば等を行い、特に、相談事業に力を注いだ。

(イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の訪問等を通して利用者等との世代間交流を積極的に図った。

【数値実績】

歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	11	13	14	15	17	18	20	20	21	21	190	15.8
1歳児	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	359	29.9
2歳児	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	417	34.8
3歳児	33	33	33	33	32	32	33	33	33	33	33	33	394	32.8
4歳児	32	32	32	34	34	34	34	34	34	34	34	34	402	33.5
5歳児	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432	36
合計	173	176	176	181	181	182	185	186	188	188	189	189	2,194	182.8

保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3305	3329	3236	3492	2967	3332	3821	3455	3358	3226	3314	3471	40,306	3358.8
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	293	24.4
1日平均(名)	132	139	129	134	114	145	147	144	140	140	151	139	1,654	137.8
一時預かり(名)	0	13	7	13	8	10	8	4	5	5	9	5	87	7.3
病後児保育(名)	33	7	8	24	13	21	42	19	25	19	8	0	219	18.3
延長保育(名)	62	57	47	43	41	50	52	43	47	61	92	103	698	58.2

職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	23	23	23	24	24	24	23	23	23	22	22	22
保育教諭(パ)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	17	17
看護師(正)	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
看護師(パ)	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
調理師(パ)	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	53	53	53	54	54	53	52	52	52	51	52	52

聖隷こども園桜ヶ丘

2024 年度は、1.2.4 歳児は定員を満たした在園児数を確保してスタートし、乳児・幼児合わせて 162 名の園児を受け入れることができた。しかし、0 歳児は 18 名の受け入れを予定していたが、職員の確保ができず 16 名となった。女性職員数の多い職場である為、今後育休や育児短時間勤務のフォローができる職員体制を整えていきたい。

ゆるやかな育児担当制保育を取り入れ 2 年が経過した。一人ひとりの子どもをより深く理解して継続的に援助をしていくことにより、生活リズムや情緒の安定を促す保育の実践ができた。また、子どもの姿から発達を捉え必要な経験ができる環境構成を考え、コーナー遊びに取り入れた。幼児クラスは、オープン保育やランチタイムの継続により、異年齢交流が日常の中で行われ子ども同士のつながりが深まり遊びの幅が広がった。引き続き、定期的に振り返りを行い、質の高い教育・保育の提供ができるように努めていく。

【入所状況】

4 月の新入園児 20 名。年度途中入所は 0 歳児 9 名、3 歳 1 名の計 10 名であった。また、転居等家庭の都合で 1 名の途中退園があった。年間平均入所率は 93.1%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 保育者が施設理念や保育目標を理解し、一人ひとりを大切にする教育・保育を実践した。
- (イ) 全体的な計画、教育課程、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、クラス目標やねらいに対して振り返りを行い子ども主体の保育を実践した。
- (ウ) 浜松市の「保育所等巡回支援事業」を利用し、個別配慮の必要な園児の関わり方や専門知識を学び、保護者と共有した。また、障害のある園児の並行通園施設と支援目標を共有し、連携を図りきめ細やかな保育を実践した。
- (エ) 子どもの生活リズムを大切にし、健康で情緒が安定した生活や子どもの姿や発達段階を踏まえ自己発揮できる環境を整え、一人ひとりと丁寧に関わる保育を行った。
- (オ) 月 1 回の体操教室の指導を基に運動遊びを保育に取り入れ、子どもたちの体幹を鍛え運動遊びの意欲を育てた。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 年間計画に沿ってキャリアアップ研修を受講することで職員の資質向上や教育・保育の専門性を身につけることができた。
- (イ) キリスト教保育のテキストや保育の専門誌を活用して定期的に少人数で保育について語り合う時間を作り、職員のコミュニケーションを取りながらこども観を共有した。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 主幹保育教諭と副主任が中心となりそれぞれの業務内容を可視化して、業務内に仕事を行うように取り組んだ。しかし、年度途中から保育士不足から時間の確保が困難になってしまった。

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

(ア) 親子ひろばの園庭開放や企画を通して、地域の子育て家庭の支援する場を提供した。

(イ) 都田南小学校4年生と園児の交流やJAとぴあテクノ支店と幼児クラスの食育活動を通して近隣施設との相互理解や共助関係を構築できた。

(ウ) 中高校生の職場体験や実習生の受け入れを積極的に行い、子どもと関わる機会を作ることができた。引き続き地域福祉に貢献できるように取り組んでいく。

【数値指標】

歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	7	9	10	11	12	12	12	15	16	16	16	16	152	12.6
1歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
2歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
3歳児	25	25	25	25	25	25	25	26	26	26	26	26	305	25.4
4歳児	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	32	387	32.2
5歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
計	153	155	156	156	157	157	157	161	162	162	162	162	1900	158.3

保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数(名)	2794	2777	2770	3132	2409	2617	3348	2982	3009	2831	2632	2672	33973	2831
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	25	24	23	22	25	294	24.5
一日平均(名)	111	115	110	120	92	113	128	119	125	123	119	106	1381	115
一時預かり(名)	0	0	0	0	0	0	8	5	0	5	5	0	23	1.9
延長保育(名)	37	35	48	59	35	35	76	79	40	37	41	65	587	48.9

職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	18	18	18	18	18	18	18	18	19	18	20	20
保育教諭(パ)	9	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手(パ)	2	2	2	2	3	2	2	2	3	3	3	3
計	39	41	41	41	42	41	41	41	44	43	45	45

聖隷こども園ひかりの子

2024年度は、改めて聖隷の保育・教育理念を確認しながら、自園の保育をどのように展開していきたいかを職員同士で話し合うことを大切にしてきた。

また、子ども一人ひとりの発達を押さえ、多角的に子どもの姿を捉え、さらに専門性をもって保護者に発信するために園内勉強会を重ねたことは、職員同士の風通しの良さにつながった。

長年に渡り行ってきた異年齢でのクラス編成について、2023年度末から検討し始め、2024年度はそれを見据えた保育を考えながら行ってきた。過去の経緯を知るパート職員も交えたディスカッションを重ね、様々な職員が自分の意見や思いを発信できたことは非常に良かった。今後もひかりの子の保育の歴史を知り、守るべきこと、変えていくべきことを、時代や地域のニーズに合わせて考え続けていきたい。

【入所状況】

年間平均入所率は88.3%。

途中入園はほぼ在園児の弟妹であった。途中退園や認定変更、急な在園児の弟妹の入所取り消し等が目立った。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの自己肯定感が育まれる関りに視点を置き、経験年数やクラスにとらわれない園内勉強会を継続した。
- (イ) 子どもの非認知能力を培うための学びを深め、保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で子ども自身が考える経験ができるよう考えた。
- (ウ) 「子ども主体の保育」を実現するために、会議にグループワークを取り入れ、子どもを多角的に観る力を養った。
- (エ) コドモンカレッジを活用し、多くの職員が同じ内容の動画視聴ができるようにし、子どもを多角的に視る視点を学び合い、会議内で自身が作成したドキュメンテーションを持ち寄ってディスカッションを行った。
- (オ) 各種自己評価等のチェックリストを基に子どもの最善の利益について確認しあい、職員が共有して保育実践ができるよう工夫した。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや各種チェックリスト等を通じて、それぞれの課題を明確にし、経験年数に応じたキャリアアップ研修に計画的に参加した。
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、定期的な園内リーダー会が開催できたことで、組織的に役割を担える取り組みが実施できた。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への訪問、近隣園との行き来ができたことで、職員同士の連携につながった。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 職員がリスク管理の重要性を理解するため、園内研修を実施した。同時に有事の際の連携体制の整理を行い、共有した。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 親子ひろばでは、温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や親同士が顔見知りとなり継続的に子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

(イ) 積極的にボランティアや実習生の受け入れを行った。また近隣園との共催で養成校の学生のバスツアーを開催した。

【数値指標】

歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	9	10	11	14	16	16	17	19	21	21	21	23	198	16.5
1 歳児	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	419	34.9
2 歳児	35	36	36	36	36	37	37	37	37	37	37	37	438	36.5
3 歳児	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	38	38	466	38.8
4 歳児	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468	39
5 歳児	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	504	42
計	198	201	202	205	207	208	209	211	213	213	212	214	2,493	207.7

保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3756	3752	3674	4018	3523	3632	4233	3943	3785	3556	3470	3682	45024	3752
保育日数(日)	24	24	25	26	26	23	26	24	24	24	22	25	293	24.4
一日平均(名)	156	156	146	154	146	157	162	164	157	148	157	147	1850	154.2
一時預かり(名)	0	0	7	16	3	2	6	9	9	7	14	7	80	6.7
延長保育(名)	96	91	93	118	109	102	118	107	94	92	112	104	1236	103
学童保育(名)	303	277	273	384	369	269	287	263	285	235	227	229	3401	284
親子ひろば(名)	22	28	33	24	17	25	42	23	23	32	45	37	351	29.3

職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
保育教諭(パ)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助・アルバイト	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1
計	58	58	58	58	58	58	58	58	58	58	58	58

聖隷こども園めぐみ

子どもを取り巻く多くの課題を背景に、国レベルで子どもに関する施策に力を注ぐといった流れの中、子どもの最善の利益を第一に考え、保育の質の向上に重点的に取り組むとともに、保護者の子育てに寄り添った支援ができるよう努めた。発達に課題のあるお子さんの受け入れなど地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行った。隣接する聖隷こども発達支援センター和合との連携、子ども連絡会での施設訪問時のディスカッション、多職種での合同研修会開催等は、職員にとって多くの学びの機会となった。今後も連携強化に取り組み、保育の質向上につなげていきたい。

また、職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るよう人材確保・人材育成に取り組んだ。保育支援システム（コドモン）は職員の業務省力、利用者とのコミュニケーションツールとして有効であることが実感できてきたが、さらに有効な活用方法等試行錯誤している。その一つとしてドキュメンテーション作りを学び、職員間でディスカッションを重ねた経験は、職員個人の保育のスキルアップにもつながった。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を目指す。

【入所状況】

4月新入園 34名、年度途中の入園 9名 途中退園 4名 年間入所率は 91.6%。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア) 各クラスで課題と感じていることや、理想とする保育について職員間で共有し、職員皆で様々な意見を出し合い、アイデアを保育に取り入れ、実践報告を重ね、学びを深め保育の質の向上に努めた。
- (イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育や、発達の連続性を踏まえ保育が進められるよう年間計画表を作成するなど、職員間でディスカッションする時間を継続的に作った。
- (ウ) 聖隷保育学会への取り組みを継続し、保育の質の向上につながるよう取り組んだ。また前年度の保育学会での取り組みをさらに深め、静岡県保育士会で発表できたことは、根拠をもとにした研究の意義が認められ職員の意識向上につながった。
- (エ) キャリアアップ研修を中心に様々な研修への参加を通して保育力の向上を目指した。

2. 併設の聖隷こども発達支援センター和合との連携をすすめる

- (ア) 職員間の連携体制作りとして各施設の代表者間での話し合いの場を設け、両施設の園児が共に活動する取り組みを始めた。園児が互いの園庭で遊ぶ等日常的な交流が開始できた。
- (イ) 発達に課題のある子ども（特に並行通園児）について定期的に情報交換を行った。
- (ウ) 和合せいれいの里内で子どもに関わる施設の職員合同で災害時の対応をテーマとした研修会を開催した。今後も合同での研修機会を継続し、それぞれの専門性向上につなげたい。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭を支援するため、親子ひろばや園庭開放の実施によって安心して過ごす場と子育てに関する相談ができる環境を提供した。病後児保育についても継続運営した。

(イ) 中高生の職場体験の受け入れを行い、次世代を担う人材の育成の取り組みに貢献した。

4. 保育支システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育支援システム（コドモン）の活用が進み、職員の業務の省力化につながった。

(イ) 主任・副主任会を中心に職場内の問題解決に向けて取り組み、会議マニュアル作成による時間短縮、早遅番での職員体制の見直し、新人育成への取り組みが進んだ。働きやすい職場づくりに向けた取り組みを継続している成果として離職防止にもつながっている。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 91.2%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳 児	10	10	10	10	11	12	14	15	16	16	16	16	156	13.0
1 歳 児	34	34	34	34	33	34	35	35	35	35	35	35	413	34.4
2 歳 児	36	36	36	36	34	35	35	35	35	35	35	35	423	35.3
3 歳 児	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	492	41.0
4 歳 児	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	456	38.0
5 歳 児	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35	35	36	425	35.4
計	195	195	195	195	192	195	198	199	200	200	200	201	2,365	197.1

② 保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3560	3585	3602	3919	2893	3294	3890	3515	3563	3426	3348	3253	41,848	3487.3
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	25	24	23	22	25	294	24.5
1日平均(名)	142.4	149.4	144.1	150.7	111.3	143.2	149.6	140.6	148.5	149.0	152.2	130.1	1711.1	142.3
一時預かり(名)	0	0	2	14	4	25	0	2	0	1	3	22	73	6.08
病後児保育(名)	2	1	6	2	0	3	0	1	0	0	1	0	16	1.33
親子ひろば(名)	0	1	4	6	8	6	5	8	6	5	7	10	66	5.5
延長保育(名)	92	140	97	90	73	90	146	109	114	104	122	133	1,310	109.2

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
保育士(パ)	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
看護師(兼務・パ)	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	45	45	45	45	46	46	46	46	46	46	46	46

聖隷浜松病院ひばり保育園

2024 年度の入所率は、2023 年度と比較し若干下がったものの、聖隷浜松病院との連携は継続して密に取り、入所需要に応えられる体制を整えてきた。社会的に少子化が進む中、当園の需要は高く、また入園児の月齢は低月齢化している傾向にある。様々な保育ニーズを把握し、応えていく一方で、保育職として保護者支援と子どもの育ちの支援との両方を、併せて考えていくことが今後も継続して求められていく。引き続き入園希望園児の確実な情報収集、調整等を行い、運営の安定化も図っていく必要がある。

約 5 年前から取り組みを継続している構成論に基づいた保育実践は、直接的な指導者が身近に居ることがなくなり、職員自らが考え、学び合うことが必須となった。その中で、連続性のある保育・教育の提供のために、当施設の保育実践を言語化、可視化することを追求してきたが、今後はより具体的に保育・教育と結びつけていくことが課題である。

専門性の向上を図る一方で、働きやすい環境作りのための業務改善にも施設全体で取り組んできた。共通の目的に向かい、職員が主体的に前向きに関わる職場風土を今後も継続させ、職員が安心して、やりがいを持ち働くことができる環境を整えていく。

1. 入所状況

年間平均入所率は 70.7%。4 月は新入園児 12 名を迎え 130 名でスタートし、3 月末には 152 名の在籍となり、4 月から 22 名の増となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 質の高い保育の実践

- ①全体的な計画をもとに発達の連続性を意識した保育を提供するため、ピアジェの構成論を取り入れた子ども主体の生活と遊びを中心とした保育・教育のための指針を作成した。
- ②保育支援システムの機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続したことで、保護者の保育理解へとつなげることができた。
- ③保育学会への参加や他園への応援によって得られた学びや気づきを、自園の保育に生かすことができた。

(イ) 専門性の向上を図る

- ①研修計画に沿って研修への参加を促進し、学びの機会を増やすことができた。
- ②リーダー層の職員が主体的に園内研修を実施したことで、学びの機会が広がった。

(ウ) 職員の働きやすい環境づくり

- ①保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保護者の保育理解や参画へとつなげることができた。
- ②業務改善に向け各クラスにて業務改善担当者を任命し、課題に対しての振り返りを毎月行った。職員が主体的に取り組むことで園全体の業務改善に対する意識向上が継続している。
- ③2024 年度末の離職者が 7 名であった。職員の心身両面の支援が今後の課題である。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 住吉地区の文化展に園児の作品を出品することで地域との関わりの機会となった。また、祭典での駐車場貸与や納涼祭の同日開催等、交流を深めるための手段を模索していく。
- (イ) 近隣中学校との連携のきっかけが得られた。保育園が中学生の社会経験の場になることを目指し、実現に向けて関りを深めていく。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
0歳児	4	5	7	8	13	14	19	21	24	25	26	29	195	16.3
1歳児	31	31	32	32	33	33	34	34	33	33	32	31	389	32.4
2歳児	27	26	26	25	25	25	24	24	24	24	25	25	300	25.0
3歳児	22	22	22	21	21	22	22	22	22	22	22	21	261	21.8
4歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348	29.0
5歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204	17.0
計	130	130	133	132	138	140	145	147	149	150	151	152	1697	141.4

保育日数および延べ出席（利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
延べ人数（名）	2523	2499	2433	2731	2397	2438	2764	2701	2664	2536	2561	2645	30892	2574.3
保育日数（日）	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	294	24.5
一日平均（名）	101	104	97	105	92	106	106	113	111	110	116	106	1267	105.6
延長保育（名）	101	88	108	92	96	98	89	89	92	82	96	88	1119	93.3

職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25
保育士（パ）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/1	1/1	1/1	1/1
計	39	39	39	39	39	38	38	38	37	37	37	37

聖隷のあ保育園

2024年度は6年目を迎え、開設から安定した運営が続いている。地域性（転勤が多い）や少子化の影響から4月スタート時の人数予測が重要となるため、2024年度は全体数を考慮し、歳児別の人数にこだわらない受け入れを実施した。そのため9月以降は定員を上回る入所児童を確保できた。加えて年度前半は「余裕活用型一時預かり事業」を活用し運営の安定を図った。

地域性や小規模園の特性上、特定妊婦、要保護児童、要支援児童が多く在園するため、園児、家庭個々の支援を療育機関や行政と連携を図りながら支援することが継続してできている。

連携園である「聖隷こども園ひかりの子」とは、土曜日共同保育が円滑に行われている。地理的に遠いため2024年度は3歳児以降の転園児はいなかったが、保護者の意向に応じた支援を行うことができた。小規模園の利点を活かした保育が提供できるよう自園での保育研究を深めることとキャリアアップ研修への参加を促すことで職員のスキルアップを目指した。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供ができるよう人材育成に努め、保育内容の充実を図ると共に、働きやすい職場環境を維持していく。

【入所状況】

4月は16名でスタートし、9月に定員達成となった。年間入所率は97.4%であった。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質を向上し、質の高い保育と保護者支援を行う。

- (ア) キリスト教保育を基盤に自園の利点を活かし、子どもの最善の利益を考え、「一人ひとりを大切に教育・保育」を実践するという思いの統一ができた。
- (イ) 園内勉強会で「チームワーク」に焦点をあて研究を深め、スキルアップにつながった。
- (ウ) 子ども理解に努め養護と教育が一体となった保育を行うこと、また、少人数の乳児保育園の利点を活かした保育（個々に合わせた丁寧な関り、保護者支援）を意識できた。
- (エ) 「子ども一人ひとりの成長発達に合わせた丁寧な保育」「特定妊婦」「要保護児童」「要支援児童」への支援を行うことができた。これらは、自園の子育て支援の柱となった。
- (オ) 保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、常に見直し改善する基盤ができた。

2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す。

- (ア) レイバー表、仕事リスト等を用いて仕事の進捗状況を可視化し、職員個々が意識することで業務省力につながり、就業時間内での業務終了等、働きやすい環境となった。
- (イ) 職員間のコミュニケーションを図ることで、報告、連絡、相談が徹底できるようになった。職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努めた。
- (ウ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で、大規模園での保育の経験を通して、保育士としてどの園でも活躍できることを支援した。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 市との連携の中で地域の子育て家庭の相談に応じながら、要支援児童や特定妊婦を受け入れに努めた。

(イ) 「余裕活用型一時預かり事業」で地域の子育て家庭の支援を行い、入園にもつながった。

(ウ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校との交流を通して地域とのつながりが深まった。

(エ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備えている。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（名） 入所率 97.4%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	3	3	4	5	6	6	7	7	7	7	7	64	5.3
1歳児	10	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	118	9.8
2歳児	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40	3.3
計	16	16	16	18	18	19	19	20	20	20	20	20	222	18.5

保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	265	240	224	323	243	323	371	334	315	315	324	329	3606	300.5
保育日数(日)	25	24	25	26	25	23	26	24	23	23	22	25	291	24.3
一日平均(名)	11	10	9	12	10	14	14	14	14	14	15	13	150	12.5
延長保育(名)	3	4	3	5	4	3	4	4	7	6	6	5	54	4.5

余裕活用型一時預かり事業 日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	8	9	6	10	2	1	1	2	0	0	2	0	41	3.4

職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士(パ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11

こうのとりの保育園

こうのとりの保育園では、2024 年度に第三者評価を受審し保育所として必要なサービスや内容を種別ごとに知り、具体的な問題点や課題を把握することが出来た。子どもの育ちを保障し、安全・安心な保育を継続するために、取り組めることから一つ一つ明文化し、職員全体で共有し、保育に活かしていけるよう進めている。専門リーダーや主任・副主任等がリーダーシップだけでなく、コミュニケーション力、保護者対応能力、チームマネジメントなどのスキルを学び、組織作りに力を入れ、職員が成長し活躍できる環境を共に創り上げていきたい。育ちと学びの連続性を意識した教育保育を目指し、幼児教育において育みたい資質、能力を整理してきた。育ちの繋がりをイメージし、小学校との円滑な接続にもつなげていけるよう、遊びを通じて学ぶという幼児期の特性を再認識し、学びの教育的意義や効果の共通認識にも努めていく。

【入所状況】

4 月新入園児 13 名。年度途中新入園児 16 名のうち、育休明け 0 歳児が 14 名で、年間入所率は 116.3%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上への取り組み

子どもの生活リズムを大切にし、流れる日課を通して、一人ひとりが安心して落ち着ける生活空間を確保するだけでなく、「今何が育ちつつあるのか」という過程に注目し、子どもと共に創る保育の連続性を意識することが出来るようになってきた。危機管理マニュアルを見直し、事業継続計画を作成した上で感染症や事故、災害時の対応と安全確保について責任、手順等を明確にした。さらに対応と連携を職員周知し、強化していく。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

遊びを通して、何に気づき、何を試し、何ができるようになったのかをしっかりと観察し、「今何が育ちつつあるのか」という過程を大切に園内研究を進めてきた。子どもの育ちと学びを保護者に解りやすく伝えることで、園と家庭との相互理解ができ、信頼感、安心感にもつなげることができた。可視化することで、チーム、園全体で協力し合えるように一年間の見通しシートや保育の見える化シートを取り入れてきた。他のチームを参考にし、保育を組み立てることに繋がったが、コミュニケーション力、組織作りには課題が残る。

3. 統合保育の実践

障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う事ができた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア)「幼保小の架け橋プログラム」に取り組み、積極的に教育実践を見合うことができた。小

学校との接続を意識した他園での取り組みを参考にし、子どもと共に創る教育保育を意識することができた。交流回数が増え、小学校だけでなく他園との連携を図ることもできた。

- (イ) 体験学習を積極的に受け入れ、定期的な中高校生との交流が増えた。子育てに関わる機会をつくることができ、保育の仕事への興味関心につなげることができた。引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組んでいく。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕…雨漏り修理、園庭と園庭遊具の整備・修理、2階エアコン修理

(イ) 購入…ノートパソコン4台、LED照明更新

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	4	7	9	10	12	13	15	16	18	18	18	18	158	13.2
1歳児	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	286	23.8
2歳児	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	24	295	24.6
3歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
4歳児	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	311	25.9
5歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
計	129	133	136	137	139	140	142	142	144	144	144	144	1,674	139.5

保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,402	2,441	2,463	2,694	2,141	2,518	2,955	2,626	2,560	2,547	2,430	2,419	30,196	2516.3
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	293	24.4
一日平均(名)	96	102	99	104	82	109	114	109	107	111	110	97	1240	103.3
一時預り(名)	19	17	20	41	33	35	37	43	39	47	64	58	453	37.8
延長保育(名)	44	37	31	36	42	41	56	39	40	49	41	37	493	41.0
学童保育(名)	63	3	5	76	245	1	0	0	17	7	0	27	444	37.0
休日保育(名)	17	19	10	9	8	24	20	21	8	13	29	21	199	16.6
病後児(名)	4	2	10	5	2	2	2	3	3	2	2	4	41	3.4
支援センター(名)	260	334	307	410	291	335	310	272	180	286	263	324	3572	297.7

職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	16・23	16・22	16・22	16・22	16・22	16・22	16・22	17・23	17・23	17・23	17・23	17・23
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	53	52	52	52	52	52	52	54	54	54	54	54

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ “オリーブ”

2024 年度、前半は 0 歳児の入園希望が少なく、予算差異が生じたが後半は順調に受け入れることができ園児の年間延べ総数としては予算増となった。しかし、定員数に対する入園受入れが未達となっている為、園として利用者の希望を待つのではなく対策を講じていく必要性があった。そこで、0 歳児開放日を設けて広く地域の方に広報活動をし、地域の親子に気軽に来園する機会を設けたり、磐田市と連携を図りながら情報共有を行い、需要と供給が可能な限り一致できるよう働きかけた。教育・保育では、乳児はゆるやかな担当制保育を取り入れ一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な援助により保育教諭との情緒的な絆が生まれ、こどもに安心や心地よさを与えられるように環境を整えていった。幼児は主体性の育ちを保障するために、生活や遊びの中で、自分で考えて決める機会を多く持てるような日課や保育方法を考えて環境を整えていった。乳幼児共に保育の方法に変化をもたらした年であったが、職員同士の話し合いを定期的に行い、同じ目標に向けて邁進すること出来た。

放課後児童クラブについては、利用ニーズが高く定員を超えて受け入れを行った。落ち着いて生活できる環境を児童の姿を通して常に考えながら整えていくことができた。在園児との交流も積極的に行い、同施設内にある放課後児童クラブの良さを活かした温かな異年齢交流ができた。

【入所状況】

4 月に新入園児 20 名を迎え、181 名でスタートした。年度途中入所は 22 名、転居など家庭都合による途中退園が 5 名いた。3 月末には 202 名在籍となり、全体の年間入所率は 89.9%であった。

【年度事業目標・年度重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア) こどもの主体性を大切にした保育を実現するために、乳児はゆるやかな担当制保育、幼児は時間に幅を持たせた日課でのコーナー保育等を園全体で進めていった。この 1 年間の取り組みが 2025 年度へと引き継がれていくように保育の連続性を意識した振り返りを丁寧に行った。また、他クラスの保育を知る事でクラスの枠を超えた連携にも繋がっていった。
- (イ) 「共に創る保育」を目指し、こどもの声を聞きながら保育を展開し、保護者や地域の方への保育の可視化したもの（ドキュメンテーションや園だより等）を効果的に配信することで保育理念の理解や保育や子育てを共に考え思いを共有することに繋がった。また、保育参加後の面談や保護者の状況に合わせた個別面談を実施する等、丁寧な支援に努めた。
- (ウ) 外国籍家庭（利用園児数の 1 割程）への情報を保障する為、ドキュメンテーションやおたよりの翻訳、懇談会や面談の通訳等を行った。保育者とのコミュニケーションでは、写真を用いたり、身振り手振りやアプリ（翻訳）を活用したり等、信頼関係の構築に努めた。

2. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保育者が統合保育についての学びを得るために他機関（療育施設等）との定期的な連携を図り、互いの情報を共有しながらこども園としての施設の特性を活かした支援へと繋がった。

- (イ) 家庭（保護者）支援などの配慮が必要な場合には、磐田市の子ども未来課や幼稚園保育園課等と連携を図りながら、個別に丁寧に対応した。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とのつながり、世代を超えた交流の機会を持った。
- (イ) 看護師による地域の住民への健康管理（血圧測定・健康体操指導）の機会を設けた。
- (ウ) 月1回の園庭開放に加えて、ベビープログラムを開催して地域の子育て家庭が集う場や相談できる環境を提供することができた。

4. 放課後児童クラブ“オリーブ”

定員を超えて利用希望があり、地域のニーズの高さを感じた。長期休み期間は利用児童が特に増加した。児童が主体的に学習や遊び、生活スケジュール等を決めて行動することができるような環境を整え、職員の関わりを考えながら進めた。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	5	7	7	7	8	10	14	16	18	20	20	134	11.2
1歳児	26	26	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28	331	27.6
2歳児	33	34	33	34	34	34	34	34	34	34	34	34	406	33.8
3歳児	39	39	39	39	39	39	39	39	39	38	38	38	465	38.8
4歳児	40	40	40	40	40	40	41	40	40	40	40	40	481	40.1
5歳児	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	503	41.9
計	181	186	188	190	190	191	194	197	199	200	202	202	2,320	193.3

保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3373	3363	3479	3743	2638	3242	4015	3521	3616	3261	3230	3274	40,755	3396.3
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	293	24.4
一日平均(名)	134.9	140.1	139.2	144.0	101.5	141.0	154.4	146.7	150.7	141.8	146.8	131.0	1,672.1	139.1
延長保育(名)	8	7	7	13	9	21	21	11	12	11	14	4	138	11.5
学童保育(名)	535	484	508	603	600	450	530	476	501	491	452	537	6,167	513.9
病後児(名)	0	3	2	6	2	1	1	10	2	1	7	0	35	2.9
外国人保育(名)	15	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	208	1.73

職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16	22・16
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
計	50	51	51	51	51	51	50	50	50	50	50	50

聖隷こども園こうのとり豊田

2024年度は、選ばれる園となるために地域に根差し開かれた園としての歩みを進めた。園見学や入園説明会の機会を設ける他、磐田市や地域の子育て支援センター等と連携を図り情報を得ると共に地域子育て世代のニーズに応じた子育て支援「ベビープログラム」等を行い、家庭・園・地域が一体となって子どもの成長を支える環境づくりを進めた。また、地域の老人クラブの方々との交流の機会を持ち、手作り手芸玩具、四季を通した花や野菜の苗付け、行事への参加によって子どもたちや園との関係を深めることが出来た。職員の資質向上では、雇用形態に関わらず誰もが研修に参加できる場を設け、教育・保育の目的を理解し自分の役割を担いつつ互いに支え合う関係を構築する中で園児が安心して主体的に生活できる環境を整えることが出来た。

【入所状況】

4月に新入園児24名を迎えて156名でスタートした。年度途中の入園が14名、在園していた園児1名が広域通所に変更となり、退園3名。最終的には2、3号認定が定員140名に対して110%、1号認定が定員15名に対して86.7%の入所率であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

乳児保育では、「ゆるやかな育児担当制保育」を継続する中、副主任・専門リーダーを中心に担当以外のクラスについても事例検討を行い共に保育を考えた。そして、乳幼児の主体性を大切にしたい教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に見直ししながら保育環境や日課等を整えた。子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にしたい「こども会議」の手法も取り入れながらこどもの理解を深めることが出来た。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

保育支援システム（コドモン）を通して、子どもの学びの過程や育ちについて写真を用いて視覚的に伝えたことで保育の可視化に繋がり、保育や子育てについて家庭と共有することが出来た。年間を通じて保育参加を推奨し、日頃の保育の状態を見てもらった後の面談で園児について分かち合う機会を持つことが出来た。

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

副主任が主幹保育教諭と共に業務改善の為に仕事内容等について見直しを行い、担当の業務内容を園全体に可視化することで担当（クラスや行事）の枠を超えて役割を担うことが出来た。その過程において職員間の協同性にも繋がった。

3. 統合保育・専門機関との連携

ハンディのある子ども・ない子どもが一緒に生活し学び合い、子どもたちの発達に合わせた個別の支援と集団保育を両立させる取り組み（インクルーシブ保育）を行った。

また、磐田市こども発達支援センターからの巡回相談員の定期訪問を利用することで専門的な視点からアドバイスを受け、保育方法を検討する機会を持つことが出来た。

4. 地域に根ざした取り組み

地域の老人クラブの方を七夕やクリスマス会などの季節の行事に招待したり、子どもたち

が公民館や地域の夏祭りイベントへ行き、歌やダンスを披露する等交流の機会を多く持つことが出来た。また、地元の畑や田んぼを借りてどろんこ遊びや野菜作り、サツマイモ堀りなどを体験することが出来た。

5. 地域における公益的な取り組み

地域の乳児の子育て家庭を園に招き 9 月に子育て支援「ベビープログラム」を実施した。
子育て等についての相談に応じることが出来た。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	7	10	10	10	10	14	15	16	18	18	18	18	164	13.7
1 歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23
2 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27
3 歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
4 歳児	33	33	33	33	32	32	33	33	33	33	33	33	394	32.8
5 歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
(内広域)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6	0.5
計	156	159	159	159	158	162	165	166	168	168	168	168	1956	163

保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	2979	2882	2903	3109	2687	2986	3390	3154	3054	3091	2928	2833	35996	2999.7
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	293	24.4
一日平均(名)	119.2	120.1	116.1	119.6	103.3	129.8	130.4	131.4	127.3	134.4	133.1	113.3	1478	123.2
一時預かり(名) (内こひつじ)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	5 (2)	3 (2)	3 (2)	2 (2)	4 (2)	2 (2)	30 (19)	2.5 (1.9)
一時預かり(名) (幼稚園型)	59	65	69	54	47	34	45	48	37	34	31	37	560	46.7
延長保育名(名)	14	18	19	20	21	12	8	9	4	4	9	4	142	11.8
学童保育(名)	148	134	138	199	230	115	133	108	134	96	81	109	1625	135.4

職員の状況 (名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18
保育教諭(パ)	16	16	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師 (パ)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
調理師(正・パ)	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・子育て支援員(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	49	49	48	48	48	47	45	45	45	45	45	45

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

開設から5年が経ち、安定した組織運営のもと、各事業所が支援の質向上のために時間を費やしてきた。3事業所の相互関係の強化を図ることで、利用者のみならず地域のニーズに対しての支援が可能となり、地域とのつながり作りにも取り組むことができた。引き続きそれぞれの専門性を活かし、多様性の中で育ちあう教育・保育、療育を提供できるよう連携を図りながら、多様性を認め合い、だれもが人間らしく幸せに暮らせる社会を目指していきたい。

1. 施設運営

- (ア) 各職場で職員の意見を聞き取り、管理会議を通して安定した運営につなげることができた。
- (イ) 3事業合同のワーキンググループを通じ、多角的な視点と専門性を活かした支援を展開した。
- (ウ) 研修後に施設内で伝達研修を実施することで、施設全体の専門性の向上につながった。
- (エ) 職員配置や物品の購入、給食費の見直し等のコスト管理を行い適正な施設運営に努めた。

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 見合う保育の実践や意見交換を通して多角的に保育を振り返り、保育の質向上に努めた。
- (イ) 家庭教育講座を実施し、保護者と共に子どもの育ちについて再考する一助となった。
- (ウ) 会議内での意見交換や副主任主催の園内研修会開催等、職員が主体となる場を設けることで自己有用感を高め、業務への意欲へとつながった。
- (エ) 3事業ワーキンググループの取り組みや施設内での報告会を通して、社会福祉の視野が広がり、様々な角度から子どもの育ちや保護者支援を考えることにつながった。

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 利用希望の低年齢化を受け母子通所枠を開始し、個別ニーズに合った支援の提供を実施。
- (イ) ケアニーズの高い児童に対応するため、ナノミストバスによる入浴支援を開始した。
- (ウ) 家族・きょうだい児同士がつながる機会としていちご狩りや施設開放を実施。
- (エ) 医療的ケア児支援者ネットワーク会議や重心部会コア会議に参加し取り組みの発信を行った。
- (オ) それぞれの職種で勉強会を開催し、相互に学びあい支援力の向上につながった。

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 職員全員が個々の希望する研修に参加。職場内で伝達講習を実施し、看護の質の向上に努めた。
- (イ) 病院や相談員と連携し、障害児の訪問につながった。
- (ウ) 全員がターミナルの利用者へ訪問を行い、更なる学びへの意欲、やりがいにつながった。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 保健師を招き、地域の妊産婦向けの講話及び相談会を2回開催した。
- (イ) 地域の特別支援学校の分校との交流や、地域の中学生の職場体験の受け入れを行い、子

どもたちとの交流につなげることができた。

(ウ) 施設見学や実習・ボランティアを各事業が年間通して受け入れた。

6. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕と整備…ネット遊具・園庭の整備、テラスの修繕、職員玄関の鍵改修

(イ) 購入…ナノミストバス（入浴支援用）、園庭用フェンス、TV モニター、パソコン等

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

歳児別入所保育児童数（名） 定員 129 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	11	12	12	14	15	17	19	19	20	20	21	190	15.8
1 歳児	20	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	250	20.8
2 歳児	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	24	284	23.6
3 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	26	26	26	303	25.2
5 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
計	130	131	133	133	135	136	138	139	139	141	141	143	1,639	136.5

保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数（名）	2,455	2,312	2,414	2,584	2,158	2,407	2,797	2,654	2,469	2,383	2,347	2,422	29,402	2450.1
保育日数（日）	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	24	292	24.3
一日平均（名）	98.2	96.3	96.5	99.3	83	104.6	107.5	110.5	102.8	103.6	106.6	100.9	1209.8	100.8
一時預り（名）	0	6	6	14	16	27	12	11	4	7	10	10	123	10.2
延長保育（名）	23	18	12	4	8	10	7	8	10	11	6	13	130	10.8
病後児（名）	1	2	5	1	2	1	1	0	1	1	2	0	17	1.4

職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	24・14	24・14	24・14	24・14	24・12	22・12	22・12	22・13	22・14	22・14	22・12	22・12
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・9	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	1・0	1・0	1・0	1・0
計	51	50	50	50	48	48	48	49	50	50	48	48

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

■聖隷訪問看護ステーション富丘

利 用 者 定 員	10 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,704 名
一日平均利用者数	11.3 名
稼 動 率	113.6%
稼動日数（延べ）	238 日
単 価	20,506 円
常勤換算職員数	9.1 名

平 均 利 用 者 数	82.8 名
月 間 訪 問 件 数	402 件
年 訪 問 件 数	4,824 件
単 価	11,272 円
常勤換算職員数	6.4 名

在宅・福祉関東ブロック

2024 年度、在宅・福祉関東ブロックでは、見守りシステムやインカムの導入により利用者の安全確保とサービス向上を実現した。ICT 活用を含む現場改革で業務効率化を進め、職員の負担軽減にも貢献した。さらに、介護報酬の ICT 活用による加算を取得し、サービスの向上を強化した。

一方で、職員の採用計画が予定通り進まなかった。引き続き、職員が安心して長く働き続ける職場環境の整備を進め、ICT のさらなる活用と専門性向上のための研修を強化するとともに、魅力的な職場づくりを通じた採用活動を推進し、安定した事業運営を目指していく。

【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2024 年度報告】

1. 職員が考える時間を確保できる職員配置・ICT の活用
 - (ア) 業務優先とならない職場環境 「職員が互いに助け合う仕組み」について、取り組みを行い、職場の一体感を深めることができた
 - (イ) 「安心安全のサービス」から「期待されるサービス」へ、現場の職員が主体的に考える時間を生み出すことができた
2. 事業継続のための収支バランス
 - (ア) 聖隷看護小規模多機能横須賀は稼働率が安定し収益増となった
 - (イ) 浦安ベテルホームは稼働調整していた一部ユニットを再開した
3. 地域に必要とされる事業の選択
 - (ア) 継続すべき事業の優先順位を考え、中長期的な視点により人員配置、育成を行った
4. 地域ごとの課題解決に繋がる関係機関との連携の強化
 - (ア) 関東ブロック会議を行い、虐待防止策にカスタマーハラスメントの対応など検討した

【浦安市高州高齢者福祉施設及び猫実デイサービスセンター】

1. 個々のニーズに合ったサービスの提供
 - (ア) 認知症ケアの強化、ACP・嚥下プロジェクトを実施した
2. 長期入院にならない取り組みの実施
 - (ア) 嚥下プロジェクトを継続し、嚥下評価を実践した
3. 猫実デイサービスセンターの夕食提提供
 - (ア) 民営化を見据えた地域で ONLY ONE のサービスモデルを構築し、夕食提供を開始した
4. ケアハウス入居者への適切な対応
 - (ア) フレイル・閉じこもりについて予防の取り組みを継続して実施した
5. 送迎業務の一体化と効率化
 - (ア) システム導入による送迎業務の効率化を図った、また、導入システムし評価を行った

【浦安愛光園】

1. 介護と医療の連携強化
 - (ア) 協力医療病院と連携を開始、定期的な会議の開催を実施

2. 認知症対応力の向上

(ア) 実践事例集の作成・活用し、チームケアを推進した

3. 見守りシステムの効果的活用

(ア) 事故の発生状況の事実確認と具体的な対策の実施ができたことで再発防止につながった

4. 多彩な人材の確保・育成

(ア) EPA 候補生 1 名の受け入れ

(イ) ユニットリーダー研修の受講ができた

5. 排泄ケアプロジェクトの実施

(ア) 排泄に特化した研修を行い、入居者個々に合った排泄介助ができた

【浦安ベテルホーム】

1. 安心・安全な利用者本位のケアの追及

(ア) 個別ケアを重視し、介護職員のアセスメント能力向上に取り組んだ

(イ) 不適切ケアチェックシートを活用し、虐待を未然に防止する体制を構築した

2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成

(ア) 専門職として必要な接遇マナーについて、取り組みを行った

(イ) 介護 ICT 機器の活用によるケアの安全性向上と職員の負担軽減を図ることができた

3. 経営安定化

(ア) 在宅復帰・在宅療養支援施設として、「超強化型」を算定した

(イ) 2024 年 10 月から稼働調整していた 1 ユニットを再開した

【松戸愛光園】

1. 地域ニーズに合わせた個別ケアの充実

(ア) 口腔ケアを強化し誤嚥性肺炎の予防につながった

(イ) ACP についてマニュアルの作成や職員研修実施し理解を深めた

2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

(ア) デイサービス・入居・ショートステイの職員が協働で入浴介助を実施した

(イ) 補助金の活用により移乗機器とマッスルスーツを導入した

3. 経年劣化した設備等の更新と安定した事業運営

(ア) 外壁タイルの修繕工事や電話設備入替工事など、計画的に工事を実施した

【横須賀愛光園】

1. 地域ニーズに合わせた連携と切れ目のないサービスの提供

(ア) 介護報酬改定に伴う対応と加算取得ができた

(イ) 接遇向上の取り組みを実施し対応の質が向上した

2. 職員一人ひとりの資質向上と人材の確保

(ア) 介護職を対象とした研修や勉強会について企画および実施した

(イ) パート時給変更により、登録ヘルパーや看護師の採用につながった

3. 利用者一人ひとりに合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 介護技術の見直しのための勉強会やマニュアルの見直しを行った

(イ) 聖隷看護小規模多機能横須賀は課題整理を行い稼働の向上を図ることができた

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2024年度は、利用者が安心安全に生活できるよう、各職場やプロジェクトチームで役職者・職員が主体となって日々のケア向上を検討して具体的な取り組みを計画・実践できた年度となった。特に嚥下プロジェクトでは誤嚥性肺炎で入院する入居者数を大幅に減少することができ、猫実デイサービスでは栄養スクリーニング、夕食等の提供により在宅利用者の低栄養状態のリスク改善に貢献できた。また、浦安市内の虐待等による措置入所を継続的に受入れ、高齢者と家族が抱える多様な課題に対して浦安市からの指導をいただきながら、支援を必要とするお一人お一人に丁寧に対応することができた。2025年度も「利用者のために」を意識して取り組みを継続したい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
 - (ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 認知症プロジェクトを継続し、アセスメント力の向上を図ることができた。個々の認知症状態をアセスメントしプラン作成、実施、評価することができた
 - ② サービス担当者会議に参加いただける家族も増え、定期的に「もしもの時の話し合い」を実践することができた
 - ③ 嚥下プロジェクトの継続と定期的な嚥下評価を実践することができた
 - (イ) ケアハウス
 - ① クリーンデイ・たねまき隊・折り紙の会・買い物便などを継続し、閉じこもり・フレイル予防を継続した

- ② 体力測定結果が入居者自身の生活改善につながるよう結果資料を修正し、個々の状態に応じた動機につながる取り組みとした
 - ③ 入居者と生活安全に係るリスクを共有し、ケアマネジャーやサービス事業所、家族の協力を得ながら予防に努めた
- (ウ) 通所介護
- ① 利用者のニーズである自立支援・重度化防止のために、抵抗運動を取り入れた機能訓練を提供した
 - ② 個別機能訓練について生活相談員、看護職員、介護職員が共同で計画書作成に関わり、家族より伺った生活課題や、ケアマネジャーより得た情報を反映させながら訓練を進めることができた

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価と目標参画面談を実施した。若手職員がやりたいことを実現できるよう若手職員の思いを聴く会を定期的に実施した
- (イ) 認知症プロジェクトメンバーを中心に、各フロアで介護過程の勉強会を開催した。職員の理解度に差はあるが、入居者個々のニーズに沿ったプラン作成ができる職員が増えた
- (ウ) 職員個々の不安を取り除く「職員が互いに助け合う仕組み」を継続し、身体拘束廃止、虐待防止委員会にて、各職場の進捗確認を行った。定期的にカンファレンスの時間を設けることで、職員同士が相談できる機会が増え、不安軽減につながった
- (エ) 資格取得支援の結果、認知症介護基礎研修受講終了者 3 名、介護支援専門員合格者 3 名の成果があった
- (オ) 2024 年度中の ICT の導入には至らなかったが、生産性向上委員会にて 2025 年度のインカム導入に向けて、運用方法等の検討をすることができた

3. 経営の安定化

- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① 相談室マニュアルを作成し、新任職員の育成に活用した。OJT を通しマニュアル評価し、修正を継続していく
 - ② 退居後の空床日数は、平均 10 日であり、目標達成には至らなかった
 - ③ 多職種が連携し、日々の健康管理を徹底した結果、2023 年度入院件数 66 件であったが 2024 年度は 52 件に減少した
協力病院との定期的な会議の開催を実施、協力医療機関連携加算の取得にもつながった
- (イ) 短期入所生活介護
 - ① 新規契約者 116 名のうち、7 割は定期利用へつなげることができた
 - ② 多床室、夫婦部屋の稼働率は、6 割強と低稼働であった
 - ④ 緊急、措置利用の受け入れ件数は 6 名であり、延べ利用日数は 349 日であった。相談過程での課題はあるが、受け入れ体制は整備されており、スムーズな受け入れができた

(ウ) ケアハウス

- ① 退去が必要な入居者と家族との情報共有とサービス事業所等との連携で、入居者の状態に応じた対応となるよう努めた
- ② 入居者が安心できる生活の継続や建物設備の有効活用に向けて、浦安市との協議を継続している

(エ) 通所介護

- ① 居宅支援事業所との連携を強化し、利用日の空き状況を速やかに情報提供することにより、利用者増につなげることができた
- ② 栄養支援サービスを実施、栄養状態が高リスクの利用者に対して、管理栄養士による栄養スクリーニングにて、低栄養状態のリスクや課題を抽出し、夕食や栄養補助食品の支援により栄養リスクの低減につながった

4. 防災体制の確立

- (ア) 新型コロナウイルス感染症予防策を周知徹底することで、感染症発症時も拡大せずに終息することができた。また、全職員が外部講師による感染研修を受講することができた
- (イ) 防災・感染マニュアルの見直し、年2回の災害時及び感染対策のBCP訓練を実施した

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 各専門職の実習、職場体験の受け入れを行った
介護福祉士実習受け入れ2名、看護師実習受け入れ27名
歯科衛生士実習受け入れ6名、職場体験6名（中学生）
- (イ) ボランティアの受け入れを再開した
夏休みボランティア2名、環境整備ボランティア1名
- (ウ) 新規で障がい者雇用はできなかったが、2025年度以降の実習受け入れ等準備を進めた
- (エ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加を行った
- (オ) ケアハウスで緊急一時保護の受け入れについて相談対応を7件行った
- (カ) 社会福祉法人千楽の活動を年39回・延105名受入れた

【数値指標】

	特養入所	短期入所	ケアハウス	通所介護 (高州デイ)	通所介護 (猫実デイ)	総合計
利用者定員	100名	50名	50名	25名	25名	250名
利用者延べ数	36,237名	15,097名	7,909名	6,049名	6,345名	71,637名
稼働延日数	365日	365日	365日	306日	306日	—
一日平均利用者数	99.3名	41.3名	21.7名	19.7名	20.7名	202.7名
稼働率	96.0%	82.6%	43.4%	78.8%	82.8%	—
単価（1人1日当り）	—	—	—	—	—	—
常勤換算職員数	80.3名	33.3名	10.2名	10.7名	13.8名	148.3名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2024 年度は見守りシステムとインカムの本格導入を行った。夜間巡視を見直した結果、入居者の睡眠状況に変化があった。また、職員同士の連携を深めることができ、精神的負担の軽減に繋げることができた。その他のデータ分析については、2025 年度に継続する。

老朽化した機械浴槽とミスト浴槽の入れ替えを計画通り実施することができ、入居者の安全確保と入浴時間での超勤削減をすることができた。

1. 利用者一人ひとりに安全で質の高いサービスを提供する

(ア) 介護と医療の連携強化

- ① ケアマネ部会で職員研修を 3 回開催して、知識を深めることができた。
- ② 毎月の入居検討委員会にて、第三者からの意見もいただき、医療ニーズの高い方の受け入れについて検討することができた。
- ③ 浦安市の「わたしの手帖」が徐々に浸透し、多職種での連携が取りやすくなった。「その人らしい最期」への支援ができるようになってきた。
- ④ 看護部会を中心に協力病院等と必要な連携・相談、定期的な会議が開催できた。

(イ) 認知症対応力の向上

- ① 介護部会を中心に認知症実践事例集の周知と活用の検討を行った。
- ② 委員会を中心に職員研修や実践担当者・チームメンバーの役割を明確にして取り組むことはできたが、認知症ケアチーム推進加算取得には至らなかった。

(ウ) 見守りシステムを活用して、利用者の安全性とサービスの質を向上する

- ① 居室内での転倒・転落事故は、事実に基づいて具体的な対策が取れるようになり、再発防止に繋がっている。
- ② 夜間巡視時の訪室が大幅に減少し入居者の安眠に効果があったが、その他のデータ分析、活用までには至っていない。

2. 多様な人材の確保・育成の継続

(ア) EPA 介護福祉士候補生 1 名を受け入れた。

(イ) 係長 1 名、リーダー 1 名の計 2 名がユニットリーダー研修を受講することができた。

(ウ) 3 連休以上の休暇を年間通して計画的に取得することができた。

(エ) 職員配置上の課題について、インカムを活用することで単なる情報共有だけでなく、フロア間の OJT ができるようになった。

(オ) 浦安高洲地区全体で、介護職・ケアサポーターを中心に多様な人材雇用ができた。

3. 地域共生社会の実現

(ア) 障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行するケースはなかった。担当利用者から介護保険サービスの利用に関する相談は 3 ケースあり、地域包括支援センターや障がい事業課と連携を図りながら対応を行った。

- (イ) 聖隷訪問看護ステーション浦安と連携し、9 ケースの相談支援を行った。浦安ベテルホームについては1 ケース利用に向けて調整を行ったが、家族が希望せず利用には至らなかった
- (ウ) 基幹相談支援センター主催の事例検討会に3 回、研修会に3 回参加し、障がいを抱えた人等への相談支援技術について学びを深めた。

4. 経営の安定と業務改善の継続

- (ア) 計画通りの職員配置ができず、2025 年度への継続の課題とした。
- (イ) 千葉県補助金を利用してシャワー浴槽に入れ替えを行った。安全性の向上と入浴時間が短縮したことで、個別ケアの実践をすることができた。
- (ウ) 排泄に特化した研修を行ったことで、オムツの特徴を理解し、入居者個々に合った排泄方法が実施できた。
- (エ) 新設された加算取得に向けて、優先順位を決めて取り組むことができた。認知症チームケア推進加算は、2025 年度取得することとした。
- (オ) 生産性向上委員会を設置し、毎月働きやすい環境について検討した。ICT 導入後の分析・評価までには至らなかった。

5. 業務継続に向けた取組みの強化

- (ア) 浦安地区で年2 回の研修と訓練を実施した。
- (イ) BCP 訓練を通して、マニュアルの見直し、修正を行った。

6. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 新入職員、2.3 年目職員が中心となり、浦安地区の地域貢献プロジェクトに参加、毎月公園清掃等の活動を行った。

【数値実績】

	特養入所 (ユニット型)	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	—	—
利用者延べ数	26,191 名	444 名	—
一日平均利用者数	71.8 名	—	—
稼働率	97.0%	—	—
稼働延日数	365 日	243 日	—
単価(1 人1 日当り)	16,368 円	17,511 円	—
常勤換算職員数	49.1 名	1.0 名	50.1 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2024年度は、引き続き安心・安全な利用者本位のケアを提供するために環境づくり、人づくりに注力し再構築する1年として、超強化型の再算定、稼働調整ユニットの一部再開を目指した。

そして、改めて施設理念である「私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします」を実現するために、日々、目の前の利用者、家族に向き合い、失った信頼を再度克ち得ていけるよう、全職員が一丸となって今できること、やらねばならないことに真摯に取り組んだ。

1. 安心・安全な利用者本位のケアの追及

(ア) ケアの基本として、改めて「個別ケア」を重要視し、「生活歴、生活習慣シート」をアセスメント時のサブシートとして導入した。これにより、全ての職員が個々の利用者像への理解を深めるとともに、尊厳の保持、自立支援に向かう施設サービス計画書の立案と実施に取り組んだ。

(イ) 施設全体で不適切ケアチェックシートを活用することで、職員一人ひとりが自ら提供するケアへの気付きと内省する機会を共有し、虐待を未然に防止する体制を構築した。

2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成

(ア) 専門職として必要な接遇マナーを徹底する職場ルールを「介護施設における接遇マナー五原則」として定め、全職員がチェックリストを使用して出勤時のセルフチェックを行った。

(イ) 地区全体でのカスタマーハラスメントに対応するマニュアル整え、内外においてその対応が徹底されるよう取り組んだ。

(ウ) 「居室類型別」の勤務管理体制から「フロア単位」での新たな勤務管理体制に変更し、同一フロアの従来型、ユニット型の各職員が、介護 ICT(HIMVIT、インカム、見守りシステム)及び2024年度千葉県介護テクノロジー定着支援事業費補助金交付を得て各フロアに1台ずつ導入した移乗介助ロボットHUGを活用し、同一フロア内で相互の業務の手順、手間を軽減しつつ連携して、より効果的に利用者に対応できるように取り組んだ。

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

(ア) 在宅復帰・在宅療養支援施設として、求められる老人保健施設の機能を十分に発揮するため、超強化型老人保健施設の算定を進め、8月に再算定し以後継続算定した。

(イ) 10月には1ユニットの運営を再開したが、十分に活用されるまでには至らなかった。地域のニーズがどこにあるのかを見定めたアウトリーチ活動の取組みが必要である。

(ウ) 月平均2名の障がい短期入所対象利用者の定期的受け入れを実施した。必要に応じてさらに対応を広げていきたい。

(エ) 通所リハビリテーションは、長期間利用による減算対象の軽度利用者の利用卒業を進めた半面、介護職、運転手不足が解消できない中では、新規の利用者を十分に獲得することができなかった。送迎支援ソフトを活用した効率的な送迎体制の再構築と、本来のリハビリテーションを中心とする運営で、社会的要請に応じたサービス内容へのブラッシ

ュアップを通して、定員変更も含めた運営のあり方を見直しする必要がある。

4. 防災・防犯体制の強化

(ア) 防災委員を中心に、可能な限りシナリオをなくし、突発的な発災にいかにかに的確に動くかを意識した訓練を年間実施した。また、自然災害対応だけでなく防犯、感染対応についても同様の訓練を実施した。

(イ) 2025 年度は高潮等水害に対応する避難確保計画の早急な作成と訓練を実施する。

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

(ア) 地域貢献委員会を軸に、各施設より選出されたメンバーと希望する入所者で近隣公園での清掃と交流活動を定期的に実施した。

(イ) 専門職としてできる社会的な貢献活動として、2025 年 4 月に日の出地区に開設する高洲地域包括支援センター日の出支所と連携し、その活動へ職員が積極的に出向き、浦安市の地域のニーズに向き合う機会を増やしていく。

6. 社会福祉施設の役割遂行

(ア) 生活保護の利用者等の受け入れに対応し、常に無料又は低額老人保健施設の基準を満たす運営ができるように取り組んだ。

【数値実績】

	入所	短期	通所リハビリ	総計
利用者定員	100 名		50 名	150 名
利用者延べ数	22,117 名	1,776 名	9846.5 名	33,739.5 名
一日平均利用者数	60.5 名	4.8 名	31.9 名	97.2 名
稼働率	65.5%		63.9%	—
稼働延日数	365 日		308 日	—
単価（1 人 1 日当り）	16,637 円	22,885 円	13,349 円	—
常勤換算職員数	57.7 名		17.1 名	74.8 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2024年度は、利用者増加に伴う職員増加や、さらなる事業拡大を目指し7月に東京海上日動ベターライフサービスと共に事務所を移転した。移転後賃料等の増加のため黒字経営の維持が懸念されたが、2024年度の介護・医療の報酬がプラス改定であったことや、浦安市の地域区分が3級地になり、医療保険の機能強化型訪問看護療養費2と介護保険の看護体制強化加算の取得ができたことで、訪問単価アップによる収益の増加につながり、安定した経営を維持することができた。利用者数および訪問件数は、指示医との連携や東京海上日動ベターライフサービスとの協力により増加しており、これらの連携を強化し、より質の高いサービス提供を継続していく。

1. 理念に基づき、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続

- (ア) 利用者主体の自己決定支援は、自事業所が最も大切にしていることであり、引き続き職員の一人ひとりが心掛けて実践できた。
- (イ) カンファレンスは、利用者主体の看護やリハビリテーションについての検討やケアの質向上のための勉強会が充実している。
- (ウ) 東京海上日動ベターライフサービスとは、法人の枠を超えた連携が定着しており、勉強会やケース検討もできている。

2. 事務所移転後も聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が維持できる

- (ア) 地域の連携会議に参加しながら、病院・クリニック・居宅支援事業所と顔の見える関係を続けている。新規利用者受け入れの空き情報なども毎月送ることで依頼も来ている。
- (イ) 人員換算訪問件数を72件/月とし、目標達成することができた。医療保険は機能強化型2、介護保険は看護体制強化加算を請求できた。
- (ウ) 訪問看護の経験の浅い職員もチームで情報共有しながらケアの質の維持を目指すことができた。

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る

- (ア) 業務改善について他の訪問看護ステーションを見学し学び、超過勤務の削減につなげることができた。
- (イ) 各職員の看護の質の向上への意識が高く、各職員が学びたい分野の研修を受けることができた。看護ラダーに取り組むことが職員によって差があり、看護ラダーの推進が課題である。
- (ウ) 有給取得日数は、目標の正職員12日/年取得できた。ストレスチェックも転居により指標が改善している。

4. 地域における公益的取組

- (ア) 順天堂大学、SBC 東京医療大学の地域看護実習を受け、次世代の育成に努めた。
- (イ) 地域の連携会議に積極的に参加し、地域が目指す包括ケアシステムに貢献している。

【数値実績】

	介護（予防含む）	医療（有償含む）	合計
利用者数	510 名	619 名	1,129 名
訪問件数	3,030 件	4,050 件	7,080 件
単価（1 件当り）	10,323 円	10,814 円	10,603 円
常勤換算職員数	—	—	平均 9.5 名

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営報告】

1. 地域における機能と役割の強化

(ア) 近隣の大学や社会福祉協議会と共同でのサロン活動は、介護予防普及啓発のシニアウェルネスサロン、家族介護者支援の介護チャットルーム、仲間づくり・通いの場へつなぐシニアバスツアーを予定通り開催した。

担当圏域内の小・中学校への認知症講座や福祉の仕事講座、高校への認知症サポーター養成講座、大学への地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの役割の講義など教育機関へも出向き機会が多く、児童生徒への福祉教育だけでなく学校関係者にもセンターの役割を周知できる貴重な機会であった。

(イ) 出前講座は、介護保険制度や福祉用具に関する介護情報に加え、今後に備えるための情報として住まい・認知症・身元保証など全 10 回開催した。

出前講座後には「より多くの人に知ってもらいたい」「子供の世代にも知ってもらいたい」という声もあり、働く世代でも参加できるよう休日に講座開催も試みた。

2025 年度も引き続き、地域ニーズや課題にあった情報提供を行っていく。

(ウ) センターが移転したことで、あらためて挨拶回りや地域活動を通じて地域包括支援センターを周知したこともあり、総合相談件数が 2023 年度と比べ延べ件数 800 件ほど増加した。これまで年度ごとに約 200 件の増加であったため、大幅な増加である。

「ついでに」「気軽に」立ち寄れる相談先として定着してきている。

2. 職員の資質向上のための取り組み

(ア) 相談員スキルラダーでは対応ケースの振り返りから自身の現状理解を行い、意識的にケースに関わることができた。

(イ) 各職員の職種や経験年数に合わせ、浦安市主催研修や権利擁護や認知症等の研修への参加と伝達、処遇困難ケースの振り返りから制度理解や根拠法令の理解を深めた。

3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

(ア) 処遇困難ケースでは、センター全体での情報共有・支援方針決定はもとより、対応者を限定せずチームで支援にあたった。個々の職員の負担感の分散を図りながら、適切な支援のため、それぞれの専門職の視点を今後も活かしていく。

(イ) 年間の活動・地域ケア会議の目標回数の達成に向けた取り組み、総合相談の件数増と虐待対応、マイプランの増加に加え年度途中で職員体制の変更もあり、超過勤務の削減には至らなかった。業務の分担とサポート体制の構築は継続課題となった。

【数値実績】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	常勤換算職員数
41,150 千円	予防支援 1,200 件	170 件	4,800円	6.6名
	マネA 600 件	40 件	4,800円	

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園

松戸愛光園ショートステイ

松戸愛光園デイサービス

聖隷ケアプランセンター松戸

障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2024 年度は松戸愛光園全体でサービスの質が向上するよう働き方改革に取り組んだ。デイサービスのサービス提供時間の見直しによる超過勤務時間の削減や事業所の垣根を超えた OJT の実践を行うことで、同じ施設の職員としての一体感と他職場の理解を深めることができた。

また、ケアプランセンターと相談支援事業は地域の困難ケースへの対応を継続することができた。

一方、ICT 機器の導入と設備等の修繕・更新は計画通りにいかず、一部分は 2025 年度前半に持ち越すことになった。

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた個別ケアを充実し、地域で選ばれるサービス提供を行う

(ア) 排泄時の通知が見守りシステムと連携できず、ICT 技術を活用したタイムリーな排泄ケアには至らなかった。

(イ) 空床ショートステイの利用が安定した。(実績 実人数 13 名 延利用日数 1178 日)

(ウ) 介護職員を中心に口腔ケアを強化し、誤嚥性肺炎の予防につながった。

(エ) ACP についてマニュアルの作成や職員研修を行い、理解を深めることができた。

(オ) 個別機能訓練の継続はできたが、その他の個別ニーズが充実するようなメニューの検討は 2025 年度の課題となった。

(カ) 主任介護支援専門員の資格を 1 名取得したことで事業所が 2 名体制となり、地域の困難ケースに対応した。

(キ) 虐待ケースを基幹センターや地域包括支援センターと連携し対応することができた。

(ク) 松戸ニッセイエデンの園と共同での防災訓練や感染 BCP を企画したが、相互に感染があり未実施となった。

2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

(ア) 新たな働き方として寝台浴での入浴を、デイサービス・入居・ショートステイの職員が協働して行った。

(イ) 中途採用者や中堅職員を役職やユニットリーダーに抜擢した。

(ウ) 移乗機器とマッスルスーツを導入したが、使用定着までは至らず今後の課題となった。

(エ) デイサービスでのインカムの導入は 2025 年度となった。

(オ) 外国人材の受入れを EPA 候補生に加え、特定技能を採用することとなった。

(カ) 新卒で地方から関東への住み替えを検討している対象者はいなかった。

3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

(ア) 外壁タイルの修繕工事は緊急性の高い部分のみ実施した。

(イ) 老朽化した電話交換機の入替工事に着手した。

(ウ) 送迎車両の更新は 2025 年度再検討とした。

4. 社会貢献活動の実施

(ア) 松戸ニッセイエデンの園と合同で福祉学会と地域清掃活動（年 2 回）を実施した。

(イ) 松戸市と共同で無線を使用した被災時の報告訓練を実施することができた。松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会の研修委員会では防災倉庫の非常用物品の確認を行った。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用者延べ数	34,786 名	7,503 名	441 名	6,102 名	1,525 名	595 名
一日平均利用者数	95.3 名	20.6 名	1.2 名	19.9 名	5.0 名	2.0 名
稼働率	92.5%	103.8%		78.9%		
稼働延日数	365 日	365 日		308 日		
単価（1 人 1 日当り）	15,975 円	15,537 円	10,960 円	10,296 円	4,408 円	9,705 円
常勤換算職員数	66.8 名	10.5 名		13.6 名		

	居宅介護支援		障害者（児） 相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用者延べ数	2,068 名	321 名	302 名
一日平均利用者数	—		—
稼働率	—		—
稼働延日数	—		—
単価（1 人 1 日当り）	17,814 円	4,425 円	16,083 円
常勤換算職員数	5.4 名		1.0 名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
聖隷看護小規模多機能横須賀

2024 年度は利用者や家族、地域の方々に求められる質の向上に重点を置き、各事業における業務改革や職員育成の強化等の取り組みに注力した。各事業における業務効率化や職員の意識変革は進んできたと評価できるが、取り組んだ効果の可視化については継続課題であると考えている。また、開設から2年目を迎えた看護小規模多機能型居宅介護の運営も軌道に乗りつつあり、拠点全体として利用者の状況に応じた複合支援体制がより厚みを増したと実感できた年度となった。

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた連携と切れ目のないサービスの提供

- (ア) 『利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び負担軽減に資する方策を検討するための委員会』（生産性向上推進委員会）を開始することができた。
- (イ) 各事業において報酬改定への対応と加算取得が予定通り実施できた。
- (ウ) 障がい者日中活動の実習受け入れを行うことができたが、事業の試行までには至らず検討継続となった。
- (エ) 事業継続計画（BCP）の研修と訓練を実施したが、感染症拡大を防ぐことはできなかった。
- (オ) 各職場で接遇向上の取り組みを実施し対応の質が向上した。今後も取り組みを継続する。

2. 職員一人ひとりの資質向上と人材の確保

- (ア) 介護職を対象とした研修や勉強会について企画および実施ができた。
- (イ) パート時給の変更を実施し、登録ヘルパーや看護師の採用につなげることができた。
- (ウ) 属人化した業務の整理に着目したが、可視化や具体的な役割分担まで進められなかった。
- (エ) 送迎配車システムの試行ができた。2025 年度に効率化に向けた運用を行うこととした。
- (オ) 年間で 36 協定を超える時間外勤務の発生はなかった。有給休暇取得率も向上した。

3. 利用者一人ひとりに合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

- (ア) 特別養護老人ホーム、短期入所生活介護
業務効率化の推進を図ることをできたが余暇活動などの取り組みは不十分であった。また、介護技術の見直しのための勉強会やマニュアルの見直しに取り組むことができた。
- (イ) デイサービスセンター
高稼働の維持が達成できたが、提供サービスの変革については課題を残した。
- (ウ) 西第二地域包括支援センター
地域における意見交換の場や参加しやすいサロン作りの推進を継続することができた。
- (エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀
法人内事業所連絡会への参加を継続し情報交換や改善点の検討ができた。また、8 年ぶりに登録ヘルパーが採用でき、育成等の取り組みを開始した。

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

看護小規模多機能型居宅介護との連動体制について会議等の工夫に取り組むことができた。
また、ターミナルケアの質の向上に取り組み、年間を通じて高稼働を達成できた。

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

記録についての見直しを実施し、標準化と効率化に向けた取り組みを行うことができた。

(キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

フル稼働を見据えた運営を確立するために課題の整理を行い稼働の向上を図ることができた。
拠点内事業との連動協働体制について合同送迎の実施や夜間帯の連携など課題を抽出できたが具体策は検討継続となった。

4. 地域における公益的な取り組み

地域包括支援センター、看護小規模多機能型居宅介護を中心に地区社協やボランティアセンターと協働し、職員を地域のみかん狩り行事へボランティアとして派遣した。

【数値実績】

	特養入所		短期入所	通所介護	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	65 名	40 名	15 名	30 名	—
利 用 延 数	23,039 名	14,356 名	4,513 名	7,437 名	—
一日平均利用者数	63.1 名	39.3 名	12.4 名	23.8 名	—
稼 働 率	97.1%	98.3%	82.4%	79.2%	—
稼 働 延 日 数	365 日	365 日	365 日	313 日	—
単価 (1 人 1 日)	13,236 円	16,101 円	12,023 円	10,521 円	—
職員数 (常勤換算)	38.1 名	28.6 名	7.0 名	8.8 名	5.7 名

	訪問看護ステーション		訪問介護		
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援
利 用 延 数	8,020 名	3,154 名	6,700 名	666 名	2,318 名
一日平均利用者数	32.2 名	12.6 名	18.7 名	1.9 名	6.5 名
稼 働 延 日 数	249 日		359 日		
単価 (1 人 1 回)	9,894 円	11,988 円	4,418 円	3,995 円	5,871 円
職員数 (常勤換算)	12.4 名		4.9 名		

	居宅介護支援		看護小規模多機能型居宅介護		
	介護給付	予防給付	通い	訪問	泊まり
利 用 者 定 員	—	—	25 名		
利 用 延 数	1,728 名	277 名	2,660 名	3,168 名	627 名
平 均 利 用 者 数	144 名/月	23 名/月	7.3 名/日	8.7 名/日	1.7 名/日
稼 働 率	—	—	75.2%		
稼 働 延 日 数	249 日		365 日		
単価 (1 人 1 月)	18,103 円	5,037 円	382,056 円		
職員数 (常勤換算)	5.0 名		11.4 名		

在宅・福祉関西ブロック

これまでのエリア制におけるエリア内での完結だけでなく、相互がより連携を行い、事業を進めていくために、エリア長の担当施設、会議体制の再編を行った。職員自らが地域に必要なサービスは何かを考え、事業推進に向けて動きだした。会議体制については、宝塚・淡路の会議に相互出席をし、忌憚ない意見交換を行い、事業・職種の部門別会議は一体的に行っている。また、淡路エリアにおいては、聖隷淡路病院とも定期的に会議体を持ち、連携意識を高めている。

【2024 年度目標】

地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

【2024 年度重点目標】

1. 業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
2. 地域福祉の成長に貢献する
3. エリア間が連携・協力できる、組織・会議体制を構築する
4. 職員がやりがいを持って働きたいと思う職場環境、職場風土を醸成する
5. 地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

【宝塚第 1 エリア】

2024 年度の取組みとして、障がい者事業所の開設準備、訪問介護事業の経営改善、デイサービスの範囲変更を進めた。障がい者事業は行政と協議の結果、就労継続支援 B 型に加えて、就労移行支援の 2025 年 4 月開設に向けて進めた。訪問介護事業は事業スキームを変えるべく、宝塚市公募事業「定期巡回随時対応型訪問介護看護」に応募し採択された。ケアハウス花屋敷のケアシステムより介護保険対応への移行を受けるなどで、経営改善も進めている。

入居施設では、結いホーム宝塚と宝塚すみれ栄光園短期入所が予算稼働率を下回る結果となった。結いホーム宝塚は新規入居者、短期入所はリピーターの獲得が課題である。このほか、2025 年度より宝塚市基幹相談支援センターへの出向者調整を行うことができた。

【宝塚第 2 エリア】

引き続き、高齢者・障害者分野での複合的課題に対して、在宅・施設が連携して関わっていくことができた。導入した ICT 機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、多職種間で連携、情報の共有、支援をさらに強化することで、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる 1 年となった。ケアハウス花屋敷での聖隷訪問介護サービスの拡大や宝塚市第 6 ブロック西地域へのサービス展開を、宝塚第 1 エリアと協働し進めていくことができた。また北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）のテナントを拡張し事業強化を行うことができた。

【淡路エリア】

両特養（淡路栄光園、聖隷カーネーションホーム）に見守り機器を導入し、ご利用者の安全面・睡眠の質の向上、職員の業務効率化に向け取り組めた。移乗機器、入浴機器の更新は順次実施予定。聖隷淡路病院との連携を具体化し、スケールメリットを活かした食事提供業者の統一、長期入院者、高医療ニーズ者の受け入れスキームと特養待機者確保として定期的なベッドコントロール会議参加と具体的な受け入れができた。また訪問看護との在宅看取りや訪問診療での連携が図れ、在宅医療での広域的な支援に繋げることができた。保育事業においては、2026年度の児童発達支援センター開設に向け、県や市と計画的に協議を進めている。

【保育宝塚エリア】

各園、保育内容の充実を目指し一人ひとりの職員が考えられる職場づくりを意識した。9月に行っているあゆみ合同研修は、研修委員会を中心にねらいや研修内容を精査し、新たな研修にチャレンジした。聖隷こども園夢舞台内の児童発達支援事業開設に向け、淡路市と協議を開始する事ができた。

宝塚市との、御殿山児童館・野上児童館の運営、逆瀬川あゆみ保育園の事業継続については、引き続き協議となっている。

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター

2024年4月に宝塚すみれ栄光園、10月に宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター・聖隷ケアプランセンターすみれが10周年を迎えた。秋には記念イベントを開催し入居者と喜びを分かち合うことができた。家族の面会や対面でのコミュニケーション、施設内でのレクリエーション・イベントが増えたことで、施設が活気を取り戻した1年であった。

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザについては最小限の感染者で対応することができたが、2025年2月に発生した角化型疥癬では長期の対応を余儀なくされ、稼働にも影響を与えた。その中でも、部署間で連携・応援体制を敷き、施設全体として対応できたことは、2024年度から取り組んでいる1フロア2係長体制を軸としたユニット間・フロア間の連携体制構築の一つの成果であった。

ここ数年職員が定数に満たず苦しい運営が続いた中で、2024年度はある程度整った人員体制で運営することができたが、人件費の大幅な増加により収支は予算を大きく下回った。職員配置と勤務体制の再考と超過勤務削減が課題である。

また、短期入所はリピート率の低下を主たる要因とした稼働率の低下、デイサービスセンターは人員体制が整わなかったことによる稼働率の伸び悩み、ケアプランセンターはケアマネジャーが補充できず件数の予算未達となり、いずれの在宅事業も厳しい結果であった。入所3施設の待機者獲得のためにも在宅事業の復調・拡大が課題である。

宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センターでは、新任相談員の育成に注力した。また、成年後見制度利用促進計画のもと受任調整件数が増える中で、新たな受任体系を検討してきた。

地域自治会等との連携では、安倉小学校区だけでなく、小浜小学校区とも顔の見える関係を築くことができてきた。

1. 「安心と穏やかに暮らせる」 質の高いサービスの提供

（ア）利用者個々の「できる力」に視点をおき、日常の支援に努めた。

（イ）ACPの考え方を共有し施設にて13名を看取ることができた一方で、14名が療養型に転院・退所となっており、希望しながら最期を施設で迎えられなかった方のケアの振り返りを次に生かしていく。

（ウ）歯科医師等と協働したケア共有に努めたが、誤嚥性肺炎による入院者数は2023年度と同様であった。

（エ）各フロアが季節を感じられるイベントや食事・外出のレクリエーションを提供し、家族も含めて喜んでいただくことができた。

2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供

- (ア) 宝塚地区の聖隷デイサービス間でサービス提供地域を協議し、宝塚すみれ栄光園デイサービスセンターは宝塚市第1・3・4ブロックへ比重を移した。
- (イ) デイサービスとショートステイが情報の共有は行えているが、継続したサービス提供には至っていない。
- (ウ) 2024年度当初にプロジェクトを立ち上げ、2025年4月1日就労支援事業所を開設した。

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) 1フロア2係長とし、係長6名とリーダー6名の体制に変更した。縦横の連携は強化できつつあるが、職員への具体的役割の明示と動機づけには課題を残している。
- (イ) 職員の育成スキーム構築には至っていないが、プリセプター研修や階層別の座談会を行い、職員一人ひとりを大切にする意識は高まりつつある。
- (ウ) 数年受講できていなかった認知症の専門研修に5名が参加した。また、職員個々の成長に繋がると考えられる外部研修も意図的に活用した。
- (エ) 2023年度に導入した特殊浴槽による業務の負担軽減や効率化をまとめ、法人内学会にて発表した。2024年度末にインカムを導入した。準備にはリーダーが主体的に携わり、家族にもわかりやすく説明を行った。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 給湯設備の更新を実施し、水光熱費の低減を進めた。
- (イ) 法人本部総合企画室と連携しながら、GHPの更新準備等計画的に進めている。
- (ウ) 年間を通じた介護職退職者は1名。介護パートと非介護パートとの協働体制は検討の余地がある。
- (エ) 給食業務委託は現提供体制に対する交渉を継続しながら、業者選定・比較を行ったが、2025年度も継続協議となった。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) まちづくり協議会等の定例会議に継続的に出席した。
 - ①小浜小学校区まちづくり協議会の防災計画作成に福祉専門職として参画した。
 - ②第4地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。
 - ③地域向けの講座を開催した。
- (イ) 6階研修センターが多数を収容できる会場として地域に認知され、提供できている。
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護	合計
	ユニット	ユニット	一般	
利 用 者 定 員	100 名	20 名	30 名	—
利 用 者 ・ 請 求 延 べ 数	35,350 名	6,183 名	6,074 名	—
一 日 平 均 利 用 者 数	96.6 名	17 名	19.7 名	—
稼 働 率	96.6%	84.5%	65.7%	—
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	365 日	365 日	308 日	—
単 価 （ 一 人 一 日 ）	16,497 円	15,866 円	12,215 円	—
職 員 数 （ 常 勤 換 算 ）	74.9 名	13.2 名	14.3 名	105.9 名
	居宅介護支援		権利擁護支援センター	
	介護	予防		
年 間 請 求 件 数	2,852 件	200 件	—	
平 均 単 価 （ 円 ）	17,904 円	4,359 円	—	
職 員 数 （ 常 勤 換 算 ）	9.2 名		3.6 名	

宝塚せいの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2024 年 4 月に開設 10 周年を迎えた。秋以降、継続的に記念イベントを開催し入居者と喜びを分かち合うことができた。日々のアクティビティや季節感・特別感のある食事や外出のレクリエーション、ボランティアを活用したイベント等様々なことに取り組み、家族の面会や対面でのコミュニケーションの機会が増えたことも相まって、施設が活気を取り戻している。これらを入居者の暮らしぶりとして外部へ発信し、競合する他施設との差別化を図っていくことが重要である。

2019 年度より夜勤 1.5 勤務体制による柔軟な勤務体制構築を目指してきたが、職員の負担感が強まる結果となり、11 月より夜勤 1 勤務体制に変更した。また、ユニット・フロアにとらわれずフォローし合える体制構築に努め、職員体制は少しずつ安定してきた。特養に比べ幅広い介護度の入居者を受け入れる特定施設の特性に応じられる職員の育成に取り組んでいるが、個別性に富んだケアの提供にはまだ課題を残している。

LIFULL 介護導入後、問い合わせも増え、稼働は予算を上回ることができているが、待機登録者の増加には至っておらず、新入居の調整にも日数を要している。開設から 10 年を経過し、今後大規模な修繕も必要になってくる中で、待機登録者を増やし稼働をさらに上げていく必要がある一方で、開設以降見直しを行っていなかった職員加配値費用について、入居者・家族懇談会に諮り、2025 年度より価格改訂を行うこととした。

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供

- (ア) ACP の考え方を共有し施設にて 9 名（2023 年度比 3 名増）を看取ることができた。
- (イ) 毎日の体操を実施するだけでなく、パブリックスペースに出てくることを楽しめる設えにも取り組んだ。
- (ウ) 10 周年イヤーとしての継続的なイベントも含め、地域行事への参加・外出・施設内レクリエーションと非常に充実した 1 年であった。
- (エ) 体調変化の早期発見と迅速な対応を心掛け、入院者数・入院日数共に 2023 年度より大幅に減らすことができた。事故による入院者も減少している。

2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) 課長補佐・係長・リーダー体制とし、ユニット・フロアにとられない一体的な動きに取り組み始めた。
- (イ) 職員の育成スキーム構築には至っていないが、プリセプター研修や階層別の座談会を行い、職員一人ひとりを大切にする意識は高まりつつある。
- (ウ) 介護福祉士国家試験に 2 名が合格した。
- (エ) ICT 機器を導入し、業務の負担軽減や効率化に取り組み始めた。
 - ①2024 年度末にインカムを導入し、準備には職員が主体的に携わった。

- ②モーショントレーニングシステムを活用し、誰でも楽しくリハビリテーションを実施できている。
- ③勤務シフト自動作成ソフトを導入し、シフト作成の時間が短縮できた。

3. 運営安定化の推進

- (ア) 給湯設備の更新を実施し、水光熱費の低減を進めた。
- (イ) 法人本部総合企画室と連携しながら、GHP の更新準備等計画的に進めている。
- (ウ) 職員体制の安定にはもう少し時間を要すが、新たな勤務体制に取り組んだ。
 - ①縦横の連携構築に取り組み、ユニット・フロアを越えた入浴応援体制が構築できた。
 - ②宝塚市健康・生きがい就労トライアルからの採用者が定着し、業務分担を見直せた。
- (エ) 給食業務委託は現提供体制に対する交渉を継続しながら、他業者選定・比較を行ったが、2025 年度も継続協議となった。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) まちづくり協議会等の定例会議に継続的に出席した。
 - ①小浜小学校区まちづくり協議会の防災計画作成に福祉専門職として参画した。
 - ②第 4 地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。
 - ③地域向けの講座を開催した。
- (イ) 6 階研修センターが多数を収容できる会場として地域に認知され、提供できている。
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値実績】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70 名
利用者延べ数	24,690 名
稼働延日数	365 日
一日平均利用者数	67.6 名
稼働率	96.6%
単価（1 人 1 日当り）	14,462 円
常勤換算職員数	38.4 名

宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2023 年 11 月 1 日に開設 10 周年を迎え、2024 年度も 10 周年イヤーとして、入居者、家族に楽しんでもらえるイベントを多数開催した。これまで感染症対策で控えていた外出も多く企画を行った。動物園や大相撲宝塚場所などでは、家族も一緒に参加して貰い、入居者と家族の繋がりを持てる良い機会にもなった。家族の面会や食堂でのアクリルパーテーションなど、これまでの制限が緩和され、フロアでの企画も増え、入居者同士のコミュニケーションも良くなったと感じている。

運営面では、入居者確保が厳しい状況が続いた。4 月稼働率は 96%でスタートしたものの、年間を通しては、新入居者 16 名に対し、退去者 25 名と前年の 18 名を大きく上回り、3 月末には 90%まで落ちる結果となった。入居者紹介会社も活用することで、下半期の入退去者数はほぼ同数であったが、近隣に介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅が相次いで開設しており、開設 10 年を越えた結いホーム宝塚のアピールポイントを打ち出せる営業活動が必要である。また、コロナ禍で行えていなかった管理費・食費・職員加配値費用について、入居者・家族懇談会に諮り、2025 年度より価格改訂を行うこととした。

2022 年度後半に続いた介護職員の退職による影響は 2024 年度も続いたが、結いホーム宝塚の介護職退職者は出ず、職員体制が徐々に安定していくことで、必要な人事異動を行うことができた。インカムや見守りセンサーは早期より導入しており、1 月には勤務表自動作成ソフトの導入も行った。これらの活用と評価を行い、より働きやすい・働きたい施設としていく事が重要である。

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

- (ア) 面会や外出制限を段階的に緩和し、家族のゲストルーム宿泊を再開した。
- (イ) 記念イベントや敬老祭では家族も招き、ロビーでの集合イベントを多く開催した。
- (ウ) 感染症に対する標準予防策を徹底し、集団感染は発生することなく経過した。
- (エ) 泡シャワーやシャワーポッド導入により変化した浴室環境に合わせ、脱衣所にカーテンを設置するなど環境面の向上を行った。
- (オ) 定期的にイベント食を開催し、特別感のある食事を提供した。
- (カ) 地域開放のお祭りイベントの開催は見送った。

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) 体調不良で職員が休んだ場合、フロア間で助け合うなどの連携構築を行った。
- (イ) 職員自らがフロア環境の整備に取り組み、聖隷福祉学会にて研究発表を行った。
- (ウ) 育成スキームの構築には至っていないが、プリセプター研修や新卒・中途採用者座談会などを通して、職員がワークエンゲージメントを実感できる取組みを行った。
- (エ) ICT 機器の評価・分析は 2025 年度へ持ち越しとなった。

3. 安定した施設運営

- (ア) ブログ、インスタグラムを活用し、イベント情報を配信した。
- (イ) 稼働率は大きく予算を下回ったが、役職者が率先して危機感を持ち、営業活動を行った。
- (ウ) 地域の障がい者施設と連携し、障がい者雇用を促進した。
- (エ) 法人本部総合企画室と連携し、長期的施設運営、日常的維持管理について検討した。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会の定例会議への参加、地域向けの講座開催を行った。
- (イ) 第4地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、ガス・電気は使用量を削減できた。
- (イ) 地域清掃を地域住民と共に取り組んだ。

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100 名
利用者延べ数	33,749 名
稼働延日数	365 日
一日平均利用者数	92.45 名
稼働率	92.45%
単価（1人1日当り）	17,370 円
常勤換算職員数	60.65 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2024 年度、宝塚栄光園は、開設 46 年目を迎え、宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームとして、利用者の QOL の向上と業務改善による効率化に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症に対しては、日々の感染症対策を継続したことで、大きな感染拡大は防ぐことができた。運営については、新任施設相談員による新入居調整がうまくいかず、稼働率が伸び悩んだが、短期入所事業においては、利用者のニーズに合わせて受け入れを積極的に行った結果、高稼働となった。

1. 利用者のために

(ア) 導入した ICT 機器の活用及びデータの活用を行い、利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアの提供を行う。

①見守り機器（眠り Scan）については、データ解析方法の勉強会を行い、より睡眠や心拍数呼吸数などのデータを活用した根拠あるケアを実践した。また一部カメラとの連動を図り、利用者の ADL 確認、リスクマネジメントに活用できた。

②記録システム（HIMVIT）においても、全職員がフロアで入力を行え、記録時間の短縮により利用者に関わる時間が増えた。入力情報のタイムラグがなくなり、異常値が早期に発見でき、利用者の体調管理をタイムリーに行うことができた。

(イ) 新型コロナウイルス感染症対策で希薄になっていた利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOL 向上のためのレクリエーションの充実を図る。

①家族との面会時間の制限をなくし、夏祭りや敬老会などの行事に家族を招待し、飲食を共にしていただくことで、利用者と家族が貴重な楽しい時間を過ごすことができた。

②地域の中学生との交流や、外出レクリエーションなどを積極的に実施することで、利用者の QOL の向上に取り組むことができた。

(ウ) 利用者の自己決定支援や、心身ともに健康であり続けられるように、職員それぞれの専門性を生かし、職員同士、他機関（医療機関、セラピスト等）との連携を強化する。

①利用者の想い、家族の想いを確認し、カンファレンスで情報共有やケアの方向性を検討した。

②配属医師、訪問歯科診療所の変更を行い、利用者の想いに寄り添った治療や療養計画を利用者・家族に説明し同意を得ることができた。

2. 職員のために

(ア) 業務改善のために、ICT 機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れ、職員の心身の負担の軽減を図る。

①インカムは各機器との連動や職員間のコミュニケーションツールとして職員にとって不可欠なものとなった。

②ノーリフティングケアとして、スライディングボードは普及してきたが、介助用リフト使

用について、建物の構造上の問題や職員への周知が不足しており、活用できなかった。

(イ) アサーションスキルをもって、色々な意見を尊重し、多様性を認め、なおかつ自分の意見をしっかり発信できる職場風土をつくる。

①職員間でのアサーティブコミュニケーションが上手いかず、風通しの悪い職場風土になったことに対し、役職者が職員一人一人としっかりと面談することで、職員の想いを確認し、次年度に向けて組織改編を行った。

(ウ) 自身のキャリアプランを描く事ができ、聖隷でいきいきと働き続けることができる。

①キャリアプランのために自己研鑽を行ってきた職員に対し、希望する部署への異動を行った。

3. 施設を守る

(ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持し経営を安定させる。

①日々の異常の早期発見や利用者の自己決定を尊重し、医師と連携することで入院者数を減らすことができた。しかし退去後の入居調整を行う相談員育成ができず、入居の稼働率が達成できなかった。

(イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修を行う。

①劣化していた外壁を補修することで、過年の課題であった雨漏りを止めることができた。

②浴室や居室の劣化した床を張り替えた。

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域との関わりを深める。

①宝塚エデンの園と共同で、阪神淡路大震災における被害者の鎮魂と震災の風化防止のために、宝塚市の行事に炊き出しを行い活動した。

(イ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

①昨年に引き続き、地区の自治会連合の「福祉ネットワーク会議」に参加し、グループワーク等で意見交換を行い、地域住民や市役所職員と顔の見える関係づくりを深めた。

【数値実績】※特養・短期とも従来型のみ

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 名	17 名	87 名
利用者延べ数	23,888 名	6,628 名	30,516 名
稼働延日数	365 日	365 日	365 日
一日平均利用者数	65.4 名	18.2 名	83.6 名
稼働率	93.5%	106.8%	96.1%
単価（1人1日当り）	14,044 円	13,535 円	13,934 円
常勤換算職員数	44.74 名	8.92 名	53.66 名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚、聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2024 年度、「年を重ねても住み慣れた地域に最期まで過ごせる」「自分らしく生きる」地域で生活する方の想いを大切に、地域にとって聖隷が必要とされるための取り組みを行った。

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
 - (ア) 喀痰吸引、看取り、利用者の状態像に合わせたケア等の研修を行い、障がいをお持ちの方から高齢者まで、利用者の状態やニーズに対し個別に対応することができた。
 - (イ) デイサービスにおいては、利用者の平均介護度が低く、活力ある方が多く利用されている特色を生かし、本人の残存能力を生かしたレクリエーション等の余暇活動を実施した。また、職員が、利用者同士でつながりを持てるような関わりを意識し、デイサービスが社会参加の場となるような場づくりを実践した。
 - (ウ) デイサービスを利用される方への充実したケアの提供はもちろんのこと、宝塚第二ブロック内にあるデイサービス事業所との連携を強化。それぞれのデイサービスの特色や強みを共有することで、その方の心身状況に合わせた法人内のデイサービスを紹介し、宝塚第二ブロックの事業所全体で利用者を支えてく体制を構築している。
 - (エ) ヘルパーステーションにおいては、ケアピアノートを積極的に活用し、業務効率化を図ることで残業時間の短縮ができた。デイサービスにおいては、機能訓練評価アプリ（リハケア）を導入。アプリ活用の効果として、身体状況を評価する際の可視化とともに、自宅でできる機能訓練プログラムを提案し、デイサービス利用時を含めた在宅生活の中で、継続したりハビリができ ADL の維持、向上につながる取り組みを行っている。
2. これからも「宝塚地区」でサービス継続可能な体制づくり
 - (ア) 事業所内で定期的に利用者支援について考える機会（カンファレンス）を設け、職員自身が主体的に業務を行える体制を構築し実践した。
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの事業を展開するために、職員一丸となり準備を行い、宝塚市より整備法人として採択された。
 - (イ) BCP に沿って年 3 回防災訓練を実施。今年度は、職員の参加率が増加し、災害が起きた際の職員の動き方について再確認することができた。また、聖隷ケアセンター宝塚を利用している利用者の一覧表を充実させ、それぞれの事業所だけでなく全体でも利用者状況を把握し、災害時に事業所間の連携がスムーズに行なえるよう体制を整備した。
 - (ウ) ヘルパーステーションにおいて、ケアハウス花屋敷入居者に対し、個々の生活に対応できるよう従来のケアハウス花屋敷独自のケアシステムでは担えないニーズに対し、ヘルパー有償サービスの仕組みを整備した。このことによりケアシステムからヘルパーステ

ーションの有償サービスへ移行を行うことができた。

3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心できるよう、職員の育成を行う

(ア) 法人内外の多職種との研修会へ参加し、お互いの事業の理解を深め、顔の見える関係づくりを行った。自事業の強みや利用者状況等、報告する内容において、質の向上につながった。

(イ) ヘルパーステーションにおいて、登録ヘルパーを含む全職員が個々の目標に沿った研修を受講することができた。

デイサービスにおいては、事業所内から役職者（管理者）を輩出することができた。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 今年度2回「あい会いサロン」を実施。聖隷ケアセンター宝塚だけでなく、企業や障がい事業所にも出店を依頼し、子どもから高齢者まで多くの住民の参加につながった。ケアセンターが地域に根付いていく足掛かりとなっている。

また、今年度は障害者相談支援事業所と協同し、子どもから高齢者まで、障がいをお持ちの方、認知症の方等だれでも立ち寄れるサロンを住民とともに立ち上げることができた。地域において、「聖隷」の名を広めるとともに、住民にとって聖隷福祉事業団の専門職が身近な存在に感じてもらえる働きかけを実施している。

(イ) 高齢・障がい・児童分野、薬剤師、行政、社協、民生委員、自治会員など専門職と住民が参加する地域連携交流会（地域支援会議）を今年度3回開催した。防災をテーマにそれぞれができること、お互いに連携できることを話し合った。顔の見える関係づくりを通じて、日ごろからの利用者支援において包括的な支援体制の構築につながっている。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)	
110人	1,082件	13,995件	42人	499人	4,327円	10,275円	14.1名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)	
29.7人	765人	9,184人	101人	1,206人	9,868円	36,381円	17.5名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚、逆瀬川地域包括支援センター

2024 年度、「年を重ねても住み慣れた地域に最期まで過ごせる」「自分らしく生きる」地域で生活する方の想いを大切に、地域にとって聖隷が必要とされるための取り組みを行った。

【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築
 - (ア) 医療依存度が高い利用者や在宅看取りを希望される利用者など、本人が望む生活をおくることができるよう聖隷ケアセンター宝塚内の専門職が協働し、支援を行った。
訪問看護ステーションにおいて、職員体制の維持とともに年間ターミナルケースを 20 件以上対応できたことにより、機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを、ケアプランセンターでは医療介護連携加算、ターミナル加算をそれぞれ継続的に算定することができた。訪問看護ステーションでは、特定行為研修を修了した看護師が実務を開始している。宝塚市内における特定行為研修修了看護師との交流を図り、今後の在宅看護を充実させるための協議を開始している。
 - (イ) 聖隷ケアセンター宝塚内 ACP 委員会を中心に、自治会、民生委員、法人内施設職員への研修を開催した。ケアセンター全職員に対しても、住民が住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きる事ができるよう、職員一人ひとりが ACP についての理解を深める研修を実施した。利用者のみならず、住民への啓発ができるよう知識の向上を図っている。
2. 職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内の多職種との研修会へ参加やケース対応、適宜ケースカンファレンスを行い、質の高いチームケアができるように相互で働きかけを実施した。
 - (イ) 所長間で定期的に職員情報を共有し、ケアセンター全体で人材育成に取り組んだ。役職を担える職員の育成には届かなかったが、事業所の中核を担う職員の育成には一定の成果がでている。
 - (ウ) 訪問看護ステーションにおいて、緊急時利用者宅訪問の状況分析やタスクシェアを推進し、超過勤務時間が昨年度より 2.6%の減少につながった。
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) 訪問看護ステーションにおいて、多職種連携ツール MCS の活用が昨年度より進み、利用者の状態変化時における迅速な対応に繋がった。勤務表自動作成ソフト（シフトメーション）を導入し、勤務表作成時間の短縮と、バランスの良い人員配置が可能となった。ケアプランセンターにおいては、データ連携システムを活用して、一部事業所と予定表および実績のやり取りを実施している。システムを活用している事業所が少ないため、効率化については、今後の課題である。

(イ) 業務手順のマニュアル化、支援経過記録の標準化への取り組みは継続して実施した。さらに会議録、訪問スケジュールの管理を電子化し、業務の効率化を図った。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 今年度2回「あい会いサロン」を実施。聖隷ケアセンター宝塚だけでなく、企業や障がい事業所にも出店を依頼し、子どもから高齢者まで多くの住民の参加につながった。ケアセンターが地域に根付いていく足掛かりとなっている。

また、今年度は障害者相談支援事業所と協同し、子どもから高齢者まで、障がいをお持ちの方、認知症の方等だれでも立ち寄れるサロンを住民とともに立ち上げることができた。地域において、「聖隷」の名を広めるとともに、住民にとって聖隷福祉事業団の専門職が身近な存在に感じてもらえる働きかけを実施している。

(イ) 高齢・障がい・児童分野、薬剤師、行政、社協、民生委員、自治会員など専門職と住民が参加する地域連携交流会（地域支援会議）を今年度3回開催した。防災をテーマにそれぞれができること、お互いに連携できることを話し合った。顔の見える関係づくりを通じて、日ごろからの利用者支援において包括的な支援体制の構築につながっている。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	56 人	567 件	6,804 件	10,176 円	21.1 名
介護	151 人	754 件	9,053 件	9,090 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	2,883 件	4,500 円	15.6 名
3,481 件	108 件	19,458 円	4,200 円			

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		職員数 (常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）	
5,583 件	3,114 件	5,565 円	619 円	15.3 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター
聖隷デイサービスセンターあゆむ

2024 年度宝塚第二地区在宅複合事業は、地域の利用者層に変化が起きている中、重度の利用者だけではなく、軽度の利用者へのアプローチも行い、幅広いニーズに対応出来るよう、短時間サービスの開始、入浴リフトの導入など、幅広い介護度へのサービスが提供でき、認知症の利用者の家族の不安に寄り添う場を提供するなど、地域の在宅介護を支える役割を発揮した。

【経営方針】

- 1、利用者が在宅生活を継続できるよう、利用者の立場に立ったケアを提供する
- 2、多職種と連携を行い、利用者に最適なサービスを提供する
- 3、利用者、職員がともに心豊かな生活を実現できる事業所作りに努める
- 4、専門性を高める施設内教育・研修会を積極的に実践する
- 5、地域に信頼される事業所として、地域貢献活動に積極的に取り組む

【事業・運営計画】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ①中重度・医療依存度の高い利用者であっても受け入れることのできる体制の継続。
短時間利用導入により、体力的に 1 日利用が難しい利用者、軽度の短時間を希望する利用者の受け入れを行うことにつながり、サービスの幅を広げることができた。
 - ②利用者・職員ともにケアに安全性を高める介護機器を検討し、導入する。
入浴リフトを導入することで、個浴、機械浴、中間浴と ADL に合わせた入浴介助を行い、利用者・職員ともに負担の軽減、安全性の向上を行った。
 - ③職員への介護技術の OJT・OFF-JT 機会を創出し、人材育成に努める。
重度ケアに対応できるように、介護技術向上委員会でスキルアップを行った。
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ①ICT の活用を深め、在宅医師を含む関係機関とのタイムリーな連携を行う。MCS の活用を深め、前年度より多くの利用者に対し、医療とのつながりを深めることが出来た。
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ①利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める。
 - ②作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する。
作業療法士と協働し、機能訓練や生活環境へのアプローチを行うことで、在宅生活を長く続けることができたという実績となった。
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる

①介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する。

②事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」「家族懇談会」を定期的に設ける。

年 2 回運営推進会議・家族会を開催。また地域包括支援センターと共同で、認知症カフェを開催し、家族の不安を聞き取る場を設けた。

3. 地域における公益な取り組み

(ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する(助け愛デリ、ナイトサロン)。

(イ) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いきいき百歳体操等)。

施設の地域開放を行い、喫茶・いきいき百歳体操、保育活動、グループ活動の場として提供することができた。

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利用 者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
20 人	514 人	6,167 人	13 人	153 人	14,219 円	36,676 円	22.01 名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
6 人	161 人	1,934 人	0 人	0 人	19,445 円	0 円	5.5 名

聖隷デイサービスセンター結い

加齢等による活動量減少により身体機能が低下した利用者のニーズが増えた。利用者の期待に応えるべく、個別機能訓練を充実し、利用者の痛みや思いに寄り添えるように、個別化を図った援助を強化することで、在宅生活継続への支援を続けることができた。また、ICT 機器の導入を強化し、新たな歩行分析システムと口腔機能向上加算の算定ができる準備を整え、今後も自立支援と要介護状態の重度化防止の為に、より質の高いサービス提供を目指し、一体化サービスの提供を可能とする 2024 年度となった。

【事業・運営報告】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供

(ア) 利用者が、住み慣れた町、自宅で生活を続けたためにも、「自分でやりたい！」を促進できる取り組みができた。

(イ) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練を提供するため、セラピストを中心に多職種が連携して機能訓練を実施することができた。また、法人内のデイサービスと連携し、継続かつ必要なサービス提供を大事にし、地域包括支援センターや聖隷ケアプランセンターとも協議をしながら利用者のデイサービス移行を行い、聖隷で利用者が長く在宅生活を送ることができる事例数が 2023 年度より向上した。

(ウ) 歩行分析のシステムを一新し、分析結果を可視化することで、本人、家族、ケアマネージャーとも情報共有ができる仕組みが構築できた。

(エ) 口腔機能向上加算の取得準備を整え介護予防に必要なサービス体制を整えた。

2. 地域における公益的取り組み

(ア) 事業所の無料開放を地域包括支援センターと共同で数回実施し、運動機器で歩行・姿勢年齢の測定や、福祉施設を体感する場を作り、地域貢献活動に取り組むことができた。

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護 (日)	予防 (月)	
15.4 人	396 件	4,757 件	310.1 人	3,721 人	7,008 円	35,038 円	10.5 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与においては、新規契約数よりも利用者の施設入所やご逝去による契約解除数が上回る月が多く、2025 年度に課題を残した。各職員が課題として受け止め、具体的解決に取り組む。2025 年度は関係者からの期待に対してできることを実行できる事業運営を目指す。

【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

【経営方針】

1. 地域の方々を聖隷の在宅サービスの連携によって支える
2. 様々な要望に応えられるよう、知識・技術の向上に努める
3. 介護保険サービスに囚われず、必要なサービスに取り組む

【事業・運営計画】

1. 福祉用具貸与を柱とした経営の安定強化を図る
 - (ア) 福祉用具貸与の契約件数は 2024 年度当初 706 件から年度末 703 件と微減、住宅改修は兵庫県の助成金の予算削減が影響し予算対比マイナスとなった。福祉用具販売は配達、事務処理を分業化することにより効率化が図られ、増収につながった。
 - (イ) 事業所内の担当間連携は大きく状況が変わることがなく、チームとして動くことができなかった。2025 年度は共通目標と役割分担を明確化し、連携強化できる仕組みを構築する。
 - (ウ) 法人内の在宅サービスの要請を聞き、事業所内で共有することができなかった。2025 年度はエリア会議等で他事業所と意見交換を交わし、具体的な取り組みを提案することとする。
2. 貸与サービスの拡充
 - (ア) 2024 年度から導入された「福祉用具貸与、販売選択制」は、ご利用者へメリット・デメリットを説明し、合意の上で利用を進めることができた。
 - (イ) 卸業者の協力を得て、要介護認定前や区分変更後の利用者の費用負担の軽減が図られた。
3. 障がい事業開設に向けた取り組み
 - (ア) 聖隷チャレンジ工房すみれの新規開設について、作業提案をすることができた。
4. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 聖隷内在宅事業所と連携し、地域住民向けの福祉用具の相談会を行うことができた。

【数値指標】

レンタル 件数	レンタル 収益	販売 収益	住宅改修 収益	常勤換算 職員数
8,501 件	92,764 千円	69,644 千円	11,650 千円	11 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2024年度は、これまでに引き続き高齢・障害分野での複合的問題に対して在宅・施設が連携して関わっていくことができた。また ICT 機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる1年となった。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造することができた。
 - (イ) 通所介護は、ICT 機器を活用し利用者の積極的な受入れにつなげることができなかった。
 - (ウ) 短期入所生活介護は、緊急や医療ニーズの高い利用者の積極的な受入れを継続できた。
 - (エ) 高齢化率の高い中山地区に対し、必要なニーズを汲み取り聖隷の総合力で対応できた。
2. 利用者満足度の高いサービスの提供
 - (ア) ACP の考え方を共有し、ショートステイでの看取り対応を実践できた。
 - (イ) 多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制できた。
 - (ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントを実施し、利用者満足度の向上に繋がった。
 - (エ) 見守りシステムやインカムを活用し、安心・安全の定着に繋がった。
3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり
 - (ア) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行えた。
 - (イ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上に繋がった。

(ウ) 他法人と意見交換会等の場を開催し、役職者の知識を広げることができた。

4. 運営安定化の推進

(ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施できた。

(イ) 4S 活動の推進と BCP(事業継続計画)を見直し、職員間で共通理解が深まった。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努めた。

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組んだ。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

		特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護		
						通常	予防	
利 用 者 定 員		108 名		12 名		35 名		
利 用 延 数		37,931 名		4,598 名		7,484 名	1,322 名	
一 日 平 均 利 用 者 数		103.9 名		12.6 名		24.1 名	4.2 名	
稼 動 率 (%)		96.2%		105%		81%		
稼 動 延 日 数		365 日		365 日		310 日		
平 均 介 護 度		4.0		3.4		1.9		
単 価 (一 人 一 日)		16,258 円		16,732 円		9,996 円		
職 員 数 (常 勤 換 算)		70 名		8.8 名		10.3 名		
		地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		
宝塚市受託収入(千円)		37,886 千円		—	—	14,915 千円		
年 間 請 求 件 数	予防ﾌﾟﾗﾝ 請求件数	4,075 件		588 件	344 件	—		
	予防ﾌﾟﾗﾝ 委託件数	1,005 件						
平 均 単 価	予防ﾌﾟﾗﾝ 単価(円)	5,219 円		20,455 円	21,483 円	—		
職 員 数 (常 勤 換 算)		11.5 名		6 名				
	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター		
	平均 利用者数	月訪問件数	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	55 人	363 件	4,359 件	10,331 円	16.6 名	—	—	—
介護	101 人	535 件	6,416 件	9,636 円		3,615 件	19,443 円	10.9 名
予防	33 人	106 件	1,269 件	8,929 円		253 件	3,994 円	

ケアハウス花屋敷

2024 年度、ケアハウス花屋敷の運営は安定して推移した。SNS 媒体を使用し、確実に待機者確保につなげることができた。また聖隷ヘルパーステーション宝塚と連携した有償システムを構築でき、年々介護量が増加していく入居者のニーズに応えられる、対応力の向上につなげることができた。自立型のケアハウスとして、変遷していく社会状況、入居者・地域ニーズに対応する対策を構築していく 1 年であった。

1. 利用者サービスの質の向上

(ア) 状態が変わる入居者への対応力の強化を図る。

①独自の有償サービスは廃止とし、聖隷ヘルパーステーション宝塚へ有償サービスを移管、入居者対応の幅を広げることができた。

②入居継続支援会議を定着させ、ケアマネなど多職種と連携することで昨年より退去者数の減少に繋がった。

(イ) 認知症、アドバンスケアプランニング (ACP)、一次救命処置 (BLS) の研修に職員が参加し、スタッフ全員で共有できた。

①BLS は浴室でおぼれているケースに対して BLS を実施する研修を行うことができた。ACP については、入居者・職員に対し「痛くない死に方」の映画上映会を行った。

2. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイディアや入居者との協働により創っていく

(ア) 施設内の設えに心配りをする。

①失禁を繰り返す入居者も増え、ロビーのソファを新調、感染対策を考慮しアルコール清拭できるものを導入した。

②外出レクリエーションで参加者が撮影した写真を廊下に展示することで、参加できなかった利用者にも楽しんでもらえる工夫をした。

③食堂の各テーブルにポップを設置し、入居者への食育や情報発信に活用した。

(イ) レクリエーションの充実をはかり、楽しみを持っていただくとともに入居者間のコミュニケーションを促進する。

①演奏会、生け花教室、歌の会などのボランティアを再開できた。

②敬老会、クリスマス会、新年祝賀会は行事食の見直しを行い、普段提供していない食材を使用した華奢な食事提供が行えた。

③入居者との共同企画を意識し、カラオケ大会を開催できた。

(ウ) 入居者が社会に貢献できるようボランティア活動ができる仕組みを作る。

①仕組みづくりは行えなかったが、ケアハウス入居者が栄光園にお話しボランティアに行くことができた。

3. 人材確保と定着を図るための職場環境改善をはかる

(ア) 浴室掃除を業者へ委託し、職員の負担軽減と新たなサービス提供を行うための時間をつくることができた。

(イ) 宝塚ヘルパーステーションと連携を図り、職員の残業時間が大幅に減少・有休消化もすすめることができた。

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 地域サロンに「ケアハウスとは」をテーマに出張講習会実施し、地域からの入居希望者につなげることができた。

(イ) 中山台地区の拠点を活用し、花屋敷せいのりの里施設見学などを計画したが集客できず実施に至らなかった。

【数値実績】

	ケアハウス花屋敷	合計
利用者定員	100 名	100 名
利用者延べ数	36,376 名	36,376 名
稼動延日数	—	—
一日平均利用者数	—	—
稼働率	99.7%	99.7%
単価（1人1日当り）	4,483 円	4,483 円
常勤換算職員数	9.9 名	9.9 名

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2024年度、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように専門性、多職種連携を強化し、切れ目のない支援や在宅看取りにつなぐことができた。人員体制が整い地域活動へも積極的に参加し地域で求められる事業展開の拡充に向けて、人材育成や業務改善に取り組むことができた。

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じた質の高いサービスを提供する

(ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援できた。

① 小児専門病院の研修に参加し医療依存度の高い小児看護・小児リハビリテーションの対応力が向上した。

② 心不全療養者の再発重症化予防、精神訪問看護、血液悪性疾患の病態看護理解を深める研修に参加し適切な全身管理、精神的支援の知識を深めることができた。

(イ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有が図れた。

① アドバンスケアプランニング（ACP）に取り組み、意思決定を支援し、大切にしていることや、望む医療やケアについて支援できた。

② 退院時や発症直後の早期介入、多職種連携で要介護状態の改善や悪化予防に取り組めた。

2. 資源の効率的活用と生産性を向上する

(ア) ICTを活用し在宅医を含む関係機関とタイムリーな情報共有を図り、適切な対応ができた。

(イ) スケジュール作成ソフトの活用や、業務改善に取り組み、効率化をはかることで超過勤務の削減や有給消化率を上げる取り組みができた。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として派遣し初期対応に取り組めた。

(イ) 神戸市委託事業介護予防講座に講師派遣をし、地域住民の運動、社会参加へ協働できた。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数 (人)		月訪問件数 (件)		年訪問件数 (件)		単価 (円)		職員数 (常勤換算) (人)
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	15.2
74	60	417	499	5,006	5,991	9,228	9,841	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数 (件)		平均単価 (円)		職員数 (常勤換算) (人)
介護	予防	介護	予防	
1,454	511	17,872	3,670	5.1

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうつつこ
聖隷在宅介護支援センター淡路

2024年度の聖隷カーネーションホームは、近年の重要課題であるICT機器の導入により職場業務改革を推進し、ご利用者の安全と安心のサービス提供と職員が働きやすい体制づくりに注力した。利用者と職員にとって安全で快適な環境づくりに取り組み、利用者満足・職員満足・経営満足を高めることができた。業務の自動化や見守りシステムなどテクノロジーを効果的に活用していく一方で、理念に基づくケアの提供がご利用者と職員の双方に提供できた。また、聖隷淡路病院との医療福祉連携による待機者、新規利用者の具体的受け入れと食事提供業者の変更協議等スケールメリットを活かした事業展開ができた。

しかし、2025年年初よりインフルエンザ感染症、感染性胃腸炎、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、利用者、家族、地域に多大なご心配をおかけしたことは否めない。しかし、エリア内、ブロック内における各施設との連携、応援、協力体制を行えたことは大きな成果である。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 安心で楽しみのあるサービスを提供するとともに、障がい者2名、高い医療ニーズ1名、重度認知症3名と困難ケースの受け入れにも積極的に取り組めた。
 - (イ) 利用者の重度化・寝たきり化の防止・QOL向上のため、カンファレンスやサービス担当者会議の中で介護員・看護師・セラピスト・栄養士の職種間連携と情報共有ができた。

(ウ) 見守りシステムとインカムを効果的に活用し、巡視業務の効率化とコミュニケーションエラーの削減に繋がった。ミスト浴やリフト等の機器導入計画は2025年度に繰り越す。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

(ア) 定期的な目標参画面談と職種別ラダーを活用し、各職場や職員一人一人の目標達成への支援に努めた。係長心得、課長補佐登用への選任と準備ができた。

(イ) 職員の安全確保及び身体的負荷軽減のために、ノーリフトケアの推進と居室設置型移乗機器の導入を行い、より働きやすい介護環境が整備できた。

(ウ) 介護福祉士実務者研修、認知症介護実践リーダー研修への受講と、階層別研修に紐づくOJT推進リーダー研修、ラダーⅣ研修を通して、専門性向上と職場内の内部強化が図れた。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

(ア) 勤務表自動作成ソフト導入により作成時間の短縮とストレス負担軽減に繋がった。

HitomeQコネクト利用登録者は70名以上となり、コミュニケーションツールとして活用できている。

(イ) 報酬改定に応じた関連病院との新たな加算算定と協力体制の構築、医療福祉連携に伴う特養・病院とのベッドコントロールにより待機者確保と経営の安定化が図れた。

(ウ) 感染症発生時には、計画的にBCP（事業継続計画）を実施したが、感染拡大に至った経緯と対策は2025年度も継続的に見直し、更新していく。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

(ア) 在宅介護支援センター淡路の実績として、278件の電話相談と400件以上の訪問より、28件の介護保険や地域につなぐケースの掘り起こしができた。

(イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を計画的に実施し、近隣地域の町内会長、民生児童委員との繋がりができた。

(ウ) 淡路地域全体の福祉の向上のため、聖隷淡路病院と他法人特養との体験型介護技術講習会の開催、医療・福祉間連携会議の定期的な開催による地域情報共有ができた。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利 用 者 定 員	54 名	18 名	25 名		12 名
利 用 者 延 べ 人 数	19,306 名	6,435 名	5,628 名	722 名	2,392 名
一 日 平 均 利 用 者 数	52.8 名	17.6 名	18.2 名	2.3 名	7.7 名
稼 働 率	97.7%	98.6%	81.7%		63.9%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	308 日		311 日
平 均 介 護 度	3.9	3.2	2.3	—	2.9
単価（1 人 1 日 当 り）	12,771 円	12,174 円	8,962 円	6,145 円	12,355 円
常 勤 換 算 職 員 数	36.0 名	7.9 名	9.2 名		5.5 名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
常 勤 換 算 職 員 数	1.0 名				

淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2024 年度の淡路栄光園は「利用者ケアの質向上」に重点をおき、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援ができる体制づくりに注力した。これまでの重要課題であった見守りセンサーの設置が 2023 年度に完了し、見守り機能を活用した利用者の安全に繋がる「新しい介護」を実践できるよう現場改革を実践できた。聖隷淡路病院との連携を強化し、近年ニーズが高まっている看取り・高い医療ニーズ・重度認知症等の入所受け入れにも積極的に取り組めたことで、地域に必要とされる施設として活動ができたと感じている。また連携を通じて専門職としてのスキルアップも重ねることができ、介護と医療の橋渡しができる職員が育ってきたことも大きな成果であると感じる。今後も専門職として職員それぞれがやりがいを感じられる仕事ができる施設運営を続けていきたい。

淡路市では冬季よりインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症が流行していた中、日々の消毒等標準予防策を徹底できたことで施設内での感染症発生なく穏やかに 1 年を終えることができた。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 愛情と思いやりのあるサービスの実践
2. 地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
3. 利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

【事業・運営計画】

1. 介護ロボットを活用した、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援の実践
 - (ア) 睡眠状況、呼吸状態を感知できる見守りセンサー機能を活用し、夜間訪室回数を減らし、も見守りできる業務改善ができた。
 - (イ) インカムを活用し常に職員同士が繋がることで、介護員・看護師・相談員の職種間連携を強化することができた。
 - (ウ) 看取り期利用者の心拍、呼吸、体動を見守りセンサーで感知し、変化を家族にタイムリーに報告することで、逝去までの時間を家族で過ごせる看取りケアが実践できた。
2. 利用者、家族の期待に応えられるサービスの提供
 - (ア) 歯科医・歯科衛生士と連携し、口腔ケアを実践することで口腔衛生管理加算の取得を開始した。誤嚥性肺炎での入院についても 3 件と抑制につながった。
 - (イ) 聖隷淡路病院と連携し、膀胱カテーテル、褥瘡、胃ろう、酸素吸入等医療ケアを必要とされている利用者を 6 件受け入れすることができた。

(ウ) 加算計画書の送付方法を電子送付及び電子同意へ変更を検討したが未実施、2025 年度に繰り越すこととする。

(エ) 食事の楽しみを感じられるレクリエーション企画を定期的に開催することができた。

3. 職員が働きやすく、生き生きと仕事ができる職員体制の構築

(ア) 認知症介護に関する専門研修へ 2 名の職員の受講調整でき、研修での学びを現場に還元し認知症ケアの質向上を図ることができた。

(イ) 介護負担の軽減につながる「入浴機器」「移動式リフト」の導入を検討したが未実施、2025 年度に繰り越すこととする。

(ウ) 浴室の壁・床張り替え、防災盤更新と老朽化した設備の更新工事を予算通り実施できた。

4. 住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供

(ア) 通所介護と短期入所の施設内連携を強化することで、通所介護と短期入所の併用利用者が 40%となった。「何かあっても栄光園が助けてくれる」と在宅利用者からの声も頂く。

(イ) 利用者が入所以前に通っていた地元サロンに参加する等、「サービスを利用しても地域に回帰できる」施設と地域との共生に繋がる活動を実践することができた。

(ウ) ホームページの情報更新を重ね、インターネット入所申込みについて広報活動を実施した。利便性の向上に繋がっているかについては 2025 年度に効果検証する。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 週 1 回移動販売を誘致し、在宅生活を送る独居高齢者や買い物困難者への支援を実施した。

(イ) 岩屋地域のイベント「はぴくる祭り」、聖隷淡路病院「健康フェスタ」に利用者・職員が参加した。今後も地域ケア会議、民生委員協議会等を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働していく。

(ウ) 兵庫県認定地域サポート型施設の活動として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施した。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,208 人	6,999 人	4,020 人	387 人
一日平均利用者数	58.1 人	19.4 人	13.0 人	1.25 人
稼働率	96.8%	102%	79%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	309 日	
単価（一人一日当り）	12,391 円	12,050 円	9,698 円	5,522 円
職員数（常勤換算）	36.6 人	4.6 人	8.1 人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

淡路市では、高齢化率 39.1%、独居や高齢世帯が増加し、地域課題や個人課題が潜在化し、サービスに繋がった時点で心身機能の低下や重度化が顕著となっているケースが多い。2024 年度の聖隷ケアセンター津名は、行政や地域の開業医、急性期病院との連携により早期介入し、適切なサービス提供を行うことのできる職員と支援チームの育成を最重要課題として、職場内外教育の更なる充実と共に、働きやすい職場環境の推進を図る事で人材確保と育成に注力した。また、地域医療の総合拠点である聖隷淡路病院や関連施設との協働体制を充実させ「安心の聖隷サービス」を地域に提供し拡大させることができた。

【事業・運営計画】

1. サービスの質が担保できる人材育成

- (ア) 各事業所において理念、経営方針を踏まえ運営計画を作成し、職員に周知することで、職員個々が経営に参画する意識を持つことができた。
- (イ) 同行訪問は充実できなかったが、手順書の作成やカンファレンスでの情報共有を行い、職員全員が統一したケアを提供することができた。
- (ウ) クレーム・要望は施設全体で 3 件発生。必要時内容を職員と共有し対策を実施した。
- (エ) センター内事業所の事例検討会を年 8 回開催し、ケアの振り返り・方向性を確認できた。

2. 充実した職場環境

- (ア) 職場会で職員が不安や困りごとを出し合い、皆で解決していく職場風土が構築できた。
- (イ) 有給取得がしやすいよう業務の見直しと業務調整を行った。宅直については緊急訪問の検証と対策実施を毎週行い精神的負担軽減を行った。
- (ウ) ICT（ウインケア、ラインワークス）の活用を積極的に行い職員間での情報共有ができた。
- (エ) 年間を通じ感染症が続き職員が交流できる機会は作れなかったが、職場内での事例検討会、看取りの振り返り等を行うことでコミュニケーションは良好になった。

3. 経営の安定化

- (ア) 聖隷淡路病院との連携を図ることで入退院支援、レスパイト入院が円滑にできた。
- (イ) 通所介護の土曜日営業は職員確保困難により未実施、定員変更は次年度実施予定とする。
- (ウ) 聖隷淡路病院のサテライトを活用することで移動・業務負担軽減を図ることができた。
- (エ) 新規依頼は断らず受け入れ、継続した利用者確保と地域での信頼獲得に繋がった。
- (オ) 各事業で収支バランスを意識した経営と新たな事業展開を検討する機会が増えた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 市内の「福祉祭り」等にボランティア参加し、健康相談を25件行った。

(イ) 在宅介護支援センターが行う家族介護者教室等の地域支援活動に参加した。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付		職員数 (常勤換算)
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	
341 件	10,765 円	875 件	8,707 円	48 件	8,150 円	20.8 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
259 件	40 件	17,791 円	4,744 円	2 件	9.6 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害 (自立支援)		障害 (移動支援)		職員数 (常勤換算)
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	
1,016 件	4,202 円	77 件	2,838 円	195 件	4,532 円	11 件	4,408 円	7.7 名

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付		職員数 (常勤換算)
25 名	延べ利用者数	5,846 名	延べ利用者数	2,352 名	
営業日数	1 日平均数	22.9 名	1 日平均数	9.5 名	9.8 名
255 日	単価 (1 人 1 日)	6,988 円	単価 (1 人 1 日)	5,122 円	

聖隷こども園夢舞台

岩屋地区の出生者数の減少が 2023 年度よりも大きく、校区内の園を選ぶ傾向のある淡路市の中で、入園児数も予測通り減少した。2023 年度の卒園児が 41 名だったため入園児数の大きな落ち込みはあったが、広い園舎や雰囲気の良いに加え、保育内容について校区外より高い評価を得たことにより、16 名の途中入園児を受け入れることができた。また、地域の子育てセンターとの連携や入園説明会など地域に向けて広く発信したことで、2025 年 4 月の入園児決定数は 2024 年 4 月を上回った。2024 年末に行った利用者アンケートでは、職員の保育に対する思いや園の理念への理解も深まり、年々よくなっているとの声も多くいただいた。

1. 入所状況

定員 120 名のところ、0 歳児 3 名、1 歳児 10 名、3 歳児 4 名の新入園児 17 名を 4 月に迎え 101 名でスタートする。また、途中入園児を 16 名受け入れ、2 名退園したため 2024 年度末には、115 名となる。

2. 質の高いサービスを提供する

- (ア) 乳児期から成長にあった保育環境を整え、個別的に丁寧に関わっていくことで安定した子どもの発達が見られるようになった。昨今見られる現代の子どもたちの成長発達の中での大きな課題となる姿勢保持やボディイメージなどの分野に焦点を当て、園全体で取り組んだ。
- (イ) 園だより、クラスだよりだけではなく保育ドキュメンテーションを取り入れることで、より子どもの日常がわかりやすく保護者に発信することができた。
- (ウ) 防災訓練も様々な状況に合わせた訓練を行い、津波を想定し高台の企業の敷地まで避難する訓練を行うことができた。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 中学生や高校生のインターンシップの受け入れを行う。実際、経験することで、将来保育士を目指すきっかけとなったように思う。また、多くの専門学生や大学生も積極的に受け入れた。他職種（口腔保健学科）の実習生も受け入れ、次世代育成に広く貢献した。
- (イ) 一時預かり
年間延べ利用者数は 102 名で、新規登録者 16 名と 2023 年度よりも大幅に登録者数が増えた。里帰り出産のための利用や、就労のための慣らし保育が難しい家庭などにも利用してもらうなど、利用者のニーズに臨機応変に対応した。
- (ウ) 淡路市の子育てセンターとの連携を図り、子育てセンターのイベントとして園庭開放利用してもらい、広くこども園夢舞台を知ってもらうことができた。また、子育てイベントなどを充実させ、子育てで孤立しないように居場所や遊びの提供を行った。

4. 健康経営

職員の精神衛生を守り、業務の生産性を上げるために 5 日連続休暇取得を今年度も勧め、2023

年度よりも多くの職員が連続休暇を取得することができた。子育て世代の職員は、連続での休暇取得が難しく、家庭の事情で休暇を取ることが多いが、互いに理解しサポートし合っている。

【数値実績】

歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	6	9	45	3.75
1歳児	16	16	17	17	17	17	16	16	17	17	17	17	200	16.6
2歳児	12	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	15	166	13.8
3歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18
4歳児	32	33	34	34	35	35	36	36	36	36	36	36	419	34.9
5歳児	20	20	20	20	20	21	21	21	20	20	20	20	243	20.3
合計	101	103	106	106	108	108	108	107	108	110	111	115	1289	107.4

保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数(名)	1754	1907	1858	1973	1527	1834	2219	1896	1855	1828	1639	1885	22175
保育日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	21	22	19	18	20	246
日平均(名)	83.5	90.8	92.9	89.7	72.7	96.5	105.6	90.3	84.3	96.2	91.1	94.3	90.1
一時預り(名)	1	17	6	23	0	4	3	13	13	3	13	6	102
一号預り(名)	138	133	134	141	105	141	142	147	132	140	131	139	1623
延長保育(名)	97	99	98	98	117	93	106	110	92	72	70	84	1136
病後児育(名)	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	5

職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主幹保育教諭	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
保育教諭(パ)	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
保育士(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
保育助手	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	31

野上あゆみ保育園

野上あゆみ保育園 のがみっこくらぶ／にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

行事は職員間で内容を検討した上に、子どもから意見を吸い上げ一緒に作りあげていくことを意識して進めた事で、意欲的に行事に参加し次の活動の意欲へと繋がった。職員間は連携を大切に、クラスを越えて子どもを観る目が養われつつある。

異年齢保育を定期的実施してきたが、内容を設定することはなるべく避け、子どもの主体性を尊重しながら自由に交流できるようにした。日々の園庭遊びでも自然な形で異年齢交流が生まれている。

小学校の校庭を借りて実施してきたのがみっこひろばを園庭で実施するべく大型遊具を移設した。広くなった園庭で子どもの運動発達がより育まれるために、職員間で活用法を検討していく。

1. 入所状況

4月に0歳児9名、1歳児5名、系列園4歳児14名、計28名の新入園を迎え108名でスタートし、定員90名に対して119.4%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

- ①統合保育…3歳児1名・4歳児1名・5歳児2名が加配対象であった。行政からは精神科医や臨床心理士による年間5回の巡回指導と職員知識向上の研修を受け、発達に悩まれている家庭をフォローする等の配慮を行った。加配児に対して個別指導計画を作成し、きめ細かな支援を行った。
- ②交流…聖隷の通所介護事業所を含め、他施設と交流を図った。のがみっこくらぶとは、なつまつりごっこやハロウィン仮装披露等で関わりを持った。在園児の祖父母を定期的に招き、伝統音楽あそびを通じて園児との交流を図った。
- ③保護者に向けて…懇談会では保護者同士が交流できる内容とし、保育士お勧めの玩具の紹介をした。乳児クラスは個人懇談を実施し子どもの姿を共有した。クリスマス祝会は全クラス開催し、幼児クラスの開催回数を増やすなど、保護者と共にクリスマスを祝う機会を大切にした。
- ④動植物…土作りから野菜栽培に取り組み、クッキングに活用するなど各クラスで楽しめていた。2～5歳児が枝豆のさやもぎを体験し、食物への興味が高まった。
- ⑤防災…防災委員会を中心に、様々な状況を想定して訓練を行った。引き取り訓練では、32家庭の参加があり、保護者の防災意識を高めるために防災食の試食を配布した。

（イ）地域のニーズに対応

- ①一時保育…職員の急な欠勤等で、職員1名体制で保育を行う月があった。療育に通いながら利用する家庭が増えている。出来る限り受け入れ、保護者の子育て支援につなげていく。
- ②延長保育…19時まで平均2名の申請があり、20時の申請は一年を通してなかった。
- ③行政との連携…養育力の弱い家庭に対して、家庭児童相談課とケース会議を行い連携のうえ支援を行った。いずれの家庭も徐々に安定して登園できるようになっている。

（ウ）職員研修

①9月のあゆみ合同研修は学びたいweb研修を自分で選択するという新しい形式を取り入れた。その後のグループディスカッションでは園を超えて活発な意見交換が行われた。

②第11回宝塚保育学会は、分科会形式で開催し、それぞれが興味あるところでグループワークを行い、発表内容を深め、自分の学びにつなげることができた。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、季節の製作、保護者向けの体験、積み木、伝統芸能・楽器を楽しむプログラムを取り入れ、在宅子育て世帯のニーズに対して幅広い内容で対応した。

(イ) 地域に学ぶ中学生の「トライやる・ウィーク」、宝塚西高等学校の保育実習、その他中高生のボランティアを随時受け入れ、園児との交流を図った。

4. 学童保育

西山小学校対象の2つのクラブは、定員19名と25名に対して待機児童がいる状態で始まる。

にじっこクラブは、4年生が複数名在籍した。いずれのクラブも土曜日の利用はなかった。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	14	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	165	13.8
2歳児	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	176	14.6
3歳児	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	169	14.1
4歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348	29.0
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
合計	108	106	106	106	108	108	108	108	108	108	108	108	1,290	107.5

保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	1,964	1,887	1,980	2,097	1,710	1,908	1,650	1,904	1,867	1,867	1,827	1,938
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25
一日平均(名)	78.6	78.6	79.2	80.7	68.8	83.0	63.5	82.9	79.3	81.2	83.0	77.5
一時保育(名)	35	45	47	70	46	47	65	61	63	68	74	52

職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	14	14	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	14	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14
計	31	32	33	33	33	32	32	32	31	31	31	31
調理(委託)	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

野上児童館

職員の交替がある中だったが、大切にすべき児童館の「役割」をきちんと伝えあいながら個々の思いも組み取りつつ、同じ方向を目指せる組織作りを意識した。小学生の参加や中高生タイムが充実したものとなるよう、夕方の時間に簡単な遊びを取り入れる、食育としてクッキングを行うなど、通常とは違うプログラムを取り入れた。

1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は定着し、安定した来館者数がある。中高生の利用につながる方法として中学生の興味を引くデザインのチラシを用意し、毎月の利用者数増を目指したが定着までには至らなかった。

2. 活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

未就学児親子対象プログラムとして「カンガルー」「きりん」「おたんじょうび会」を行い、安心して参加できる活動になるよう内容や声かけを工夫した。例年行っているプログラムもその都度、検討したうえで実施した。

（イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」の開催に向けこどもスタッフを募集し、まつりの準備、当日のブースを担当してもらった。小学生対象プログラムの「レッツのがみ」では、子どもたちが話し合いルールを決めて行った。自然体験では「尼崎の森中央緑地 パークセンター」に行き、丸太切りや植物採集の体験を行った。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

中高生タイムの利用は定着には至っていないが、子ども達同士が声を掛け合って利用する姿もある。また、学校に行きづらい子どもが、早退し来館するケースもあったが学校と連携し受け入れを行った。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

高校生ボランティアや、地域に学ぶ中学生「トライやる・ウィーク」を館として受け入れた。児童厚生員の実習生は例年通り受け入れを行う。児童館まつりでは、小児がん支援グループ「つながる7レモネード」のレモネードスタンド活動を実施し来館者にも好評であった。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間3回開催した。地域活動についての報告や意見交換の場となっている。

3. 職員の資質向上

新しい職員を採用したことで、それぞれが振り返る機会となった。一つ一つ丁寧に伝えることで各自のスキルアップにもつながった。また、日ごろ気になっている事を議題にあげて、職員会議で話し合うことで、互いの意見を尊重しながら仕事に取り組む意識が高まっている。

【数値実績】

利用状況 本館（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数 (日)	一日平均
4 月	227	251	31	1	510	222	732	24	30.5
5 月	201	85	12	0	298	192	490	24	20.42
6 月	263	135	7	0	405	238	643	26	24.73
7 月	254	400	9	1	664	304	968	25	38.72
8 月	334	540	14	0	888	369	1257	25	50.28
9 月	431	185	0	0	616	365	981	24	40.88
10 月	368	184	7	0	559	323	882	25	35.28
11 月	394	107	11	0	512	333	845	24	35.21
12 月	357	209	16	0	582	310	892	24	37.17
1 月	383	210	1	0	594	328	922	23	40.09
2 月	383	2058	0	1	592	330	922	24	38.42
3 月	568	323	11	2	904	432	1336	25	53.44
計	4163	2837	119	5	7124	3746	10870	293	37.10

利用状況 出前児童館（単位：名）

	常設 型				派遣 型				イベント型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	43	2	40	0	0	0	0	0
5 月	7	46	0	41	0	0	0	0	0
6 月	9	63	0	46	1	2	2	5	0
7 月	8	61	3	52	0	0	0	0	0
8 月	8	65	0	56	0	0	0	0	0
9 月	8	64	0	56	1	0	86	0	0
10 月	8	62	0	54	0	0	0	0	0
11 月	8	63	0	55	2	2	112	4	0
12 月	7	45	3	41	1	0	141	0	0
1 月	6	44	0	39	1	0	131	0	0
2 月	8	63	0	56	0	0	0	0	0
3 月	8	59	0	47	1	0	125	0	0
計	93	678	8	583	7	4	597	9	0

逆瀬川あゆみ保育園

保育の質向上を目指し、会議内容を見直す。子どもの姿や援助の仕方、肯定的な言葉について、職員一人ひとりがより意識できるようにグループワークを取り入れるようにする。事例に対して考え、意見交換をすることで、他者の考えも知ることができ職員間の風通しもよくなったと感じる。

また、簡単な食育を活動の中に積極的に取り入れ、子どもが香りや音、感触などを感じ取れる環境作りを意識し実施した。楽しみながら行うことでクッキングが身近なものとなり、2歳児や3歳児が園での活動を保護者に自ら伝える姿も見られた。幼い年齢の子ども達ではあるが、保育士も一緒に楽しむ中で、今後も体験活動を広げていきたい。

1. 入所状況

4月に新入园児0歳児6名、1歳児4名を迎え、計45名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容など

①キリスト教保育

職員が心穏やかに保育を始めて欲しいという願いを込めて、朝の祈りから一日をスタートすることを大切に実践している。また、乳児クラスは、育児担当保育を行うことで、子どもとの信頼関係をより深め、安心感をもって園生活を送れるようにしている。発達に合わせた玩具の入れ替えなども、こまめに行った。

②防災・危機管理

職員が年間計画にそって、ねらいや訓練内容を組み立て、実施するようにした。内容を組み立てることで災害時のイメージができ、新たな気づきや課題を共有することができた。役職者不在時の訓練も実施した。

また、不審者訓練として、宝塚警察に協力頂き、実践指導を学ぶ機会をもった。

③食育

園庭で夏野菜の栽培を行い、収穫した野菜を使うことで、香りや音を子ども達が直接感じられるように、クッキングを数多く行った。3歳児クラスでは、やしそば、黒豆、魚の骨格を見る、豆ごはん、うどん作りなど。2歳児クラスでは、玉ねぎのホイル焼き、かき氷、焼き芋など。

(イ) 保育ニーズに対応

①延長保育

18時16分～19時の延長保育を行った。延長登録児は1名。

②一時保育

保護者が自分の時間を欲しいなどの私的な理由での利用が多い傾向となり、登録の面接をタイムリーに行うようにし、保護者のニーズに応えられるようにした。

(ウ) 地域における公益的な取組

- ①地域に学ぶ中学生体験活動週間「トライやる・ウィーク」として市内 1 校の中学 2 年生 3 名、子育て支援員見学実習 2 名、保育実習生 3 名を受け入れた。
- ②室内開放・園庭開放を行なった。室内開放時に加え、足育、母親対象のハンドマッサージ、運動遊び等も行なった。園見学の方に子育て支援情報を伝えることで、利用者増に繋がる。年間の後半は、定員に達する日も多くあり、キャンセル待ちも発生した。また、担当者との信頼関係ができることで、子育てに対する疑問や不安などの相談も多数対応した。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

老朽化により、玄関シャッター、園庭フェンスを修繕した。また、園内の照明を LED に変更する準備として、LED を購入した。

3【数値指標】

歳児別入所保育児童数（名）

—	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	6	7	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	103	8.58
1 歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
2 歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
3 歳児	13	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13	160	13.3
合計	45	47	49	49	49	48	48	48	48	48	48	48	575	47.9

保育日数及び出席状況

—	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ人数（名）	867	835	868	951	771	832	964	879	841	826	834	857
保育日数（日）	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25
1 日平均（名）	34.7	34.8	34.7	36.6	29.7	36.2	37.1	36.6	35.0	35.9	37.9	34.3
一時保育（名）	62	58	60	62	49	71	89	84	75	96	97	87

職員の状況（名）

—	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	17	17	17	16	16	16	16	16	16	17	17	17
計	29	29	29	28	28	28	28	28	28	29	27	27
調理（委託）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

新たな体制の中、大きく保育や行事等を変更することなく進めたため、混乱もなく落ち着いた保育提供ができた。利用状況は、市内の0歳児クラスの待機が少ない状況であることが影響し、00歳児の入園で定員を満たすことができた。月齢差が大きくなったが、クラス内で自分より小さい子に対して玩具であやす姿があるなど、心が育つ瞬間が見られた。どの年齢も子どもたちへの保育は満たされており、今後の課題は職員間のコミュニケーションだと推測する。自身の思いを語り合う風土から相手の思いを受け入れられる職員集団となり、長期的に就労できる職場を目指していきたい。

1. 入所状況

4月に0歳児3名、1歳児19名、2歳児2名、3歳児1名、4歳児1名、5歳児1名、計27名の新入園を迎え120名でスタートし、定員120名に対して100.0%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

- ①統合保育…特別支援児は、5歳児1名、4歳児2名、3歳児1名、2歳児1名が在籍した。精神科医や臨床心理士による年5回の巡回指導を受け、専門機関と連携を取りながら、最善の支援を提供した。発達で悩まれている家庭とは適宜面接を行い2025年度に向けて進めるが、行政の判断で支援対象となったケースと対象外となったケースに分かれる結果となった。また、職員対象の研修を担当者が受けケース会議や資料で情報の共有を行った。
- ②防災…防災委員会を中心に避難時に必要な物品の確認を行う。また、土砂災害時対応として、屋上への避難訓練をすることで気づいた課題を持ち寄り、避難までの環境を整え、職員全体の意識向上に努めた。
- ③食育…夏野菜の栽培を通して、旬の食材を味わうことを楽しんだ。クラスでご飯を炊くことで、炊き上がる匂いを感じるなど食欲増進を図り、食べたいという気持ちを育んだ。また、聖隷福祉事業団の管理栄養士によるミールラウンドでは、子どもたちの関心を基に3大栄養についての話を聞く機会が持てた。

(イ) 地域のニーズに対応

- ①延長保育…19時までの延長保育を行う。申請者は季節限定も含めて4名程度であり、全体的に早い迎えであった。
- ②子育て支援…室内開放時の保育士によるプログラムや園庭開放、子育て世帯に向けてのイベント、保育士とあそぼう、給食・離乳食試食会、看護師によるぶち保健室や子育て相談を行った。プログラムを目的に児童館へ来館していることもあるが、目的なく来館した家族に向けて『絵本の日』を新たに設けたことで、楽しみにされている姿も見られた。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

砂場の枠が朽ちてきていたこともあり、園庭とフラットになる枠に変更する。また、外灯ポール等の色が落ち、錆びていたためペイントを行う。トイレが長年の利用で流れが悪いときや、薄く汚れがあったため、全体的に清掃し清潔を保てるようにした。

(エ) 職員研修

①あゆみ合同研修は、職員が学びたい研修を選択し、同じ研修を受けたメンバーでグループワークを行う初めての方法で開催した。自身で選択していることもあり、職員からは好評であった。年度末では、保育静岡エリア磐田地区で作成された資料を基に、聖隷の歴史や想い、キリスト教保育について職員間で共有した。

②宝塚保育学会は、奄美ブロックからも発表いただき、保育静岡エリア磐田地区から主任・副主任が参加し、共に分科会でグループワークを行うことで、聖隷福祉事業団としての意識を高く持つことができた。

3. 地域における公益的な取り組み

保育実習や学生ボランティア、地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」を受け入れた。卒園児が参加しており、地域に根差してきていることが実感できた。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	4	4	4	5	6	9	9	9	9	9	9	80	6.7
1歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
2歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
3歳児	19	20	20	20	20	20	20	21	22	22	22	22	248	20.7
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
5歳児	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	24	24	281	23.4
合計	120	122	122	122	123	124	127	129	130	130	130	130	1,509	125.8

保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	2,199	2,193	2,174	2,401	1,876	2,086	2,577	2,361	2,351	2,191	2,184	2,241
保育日数(日)	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25
一日平均(名)	88.0	91.4	87.0	92.3	72.2	90.7	99.1	98.4	98.0	95.3	99.3	89.6
一時保育(名)	80	63	72	65	51	58	64	60	53	57	53	50

職員数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	17	17	18	17	18	18	18	19	19	19	19	19
計	35	35	36	35	36	36	36	37	37	37	37	37
調理(委託)	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7

御殿山児童館

2024 年度は、様々な事業、プログラムに挑戦することができた。子育て支援では、来館者への丁寧なかかわりを心がけることで、子育ての大変さや悩み等を共有しつつ、子育ての楽しさを伝えることを大切に“仲間づくり”を行うことができた。また、個別に支援が必要な親子について職員間で共有し、他機関との連携も行った。児童健全育成では、子どもたちの意見を聞きながらプログラム実現に向けて一緒に考え、異学年交流や仲間づくり、自主性を育てる様々なプログラムを実施することができた。年長児童健全育成では、学校でも家庭でもない、児童館を第 3 の居場所としてもらえるように働きかけた。毎週木曜日実施の「中高生タイム」では、月に 1 回「生きる力」を目標にクッキングを継続。多くの中高生が参加し、クッキングを通じて異学年交流にもなっている。来館者も増加しており、“地域の居場所”として今後も尽力していきたい。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め、協力体制をとれるよう地域の会議に参加し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報共有と連携に努めた。

2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことができるよう、感染防止対策を講じ、環境作りを考えた。また安全管理と事故等、有事の際に備え、新規利用者は緊急連絡先等を登録、管理を行った。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、より成長に合わせたプログラム内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、異学年との交流や体験ができるような仕掛けを考え仲間作りを行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、中高生クッキングを再開し、先輩、後輩の垣根を越えたかかわりができた。

(オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がるよう、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件は話し合いをして対応した。

3. 職員の資質向上

(ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラム内容の向上に努めた。

(イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」では 3 校 11 名を受け入れた。市内中学校に乳幼児親子が出向き、中学生に赤ちゃんに触れ合う機会を設け、延べ 20 組の親子が中学校を訪問し生徒との交流を行った。

【数値実績】

延利用者数（名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人計	合 計	開館日	一日平均
4 月	700	1137	392	32	2261	564	2825	25	113.00
5 月	561	772	211	46	1590	446	2036	23	88.52
6 月	735	591	170	23	1519	509	2028	25	81.12
7 月	521	1223	340	48	2132	567	2699	26	103.81
8 月	461	1273	165	29	1928	489	2417	26	92.96
9 月	545	540	54	29	1168	430	1598	23	69.48
10 月	908	713	77	33	1731	527	2258	26	86.85
11 月	829	644	93	30	1596	492	2088	24	87.00
12 月	824	712	169	21	1726	482	2208	24	92.00
1 月	733	598	71	24	1426	407	1833	23	79.70
2 月	723	764	60	23	1570	475	2045	22	92.95
3 月	608	1043	150	19	1820	478	2298	25	91.92
計	8148	10010	1952	357	20467	5866	26333	292	90.18

出前児童館回数・利用者数（回）・（名）

	常 設 型				派 遣 型				イベント
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	9	99	0	93	3	3	0	3	0
5 月	7	63	0	59	4	7	45	6	0
6 月	8	68	0	65	5	8	92	8	0
7 月	8	83	2	75	4	4	42	3	0
8 月	8	40	0	36	3	5	0	5	0
9 月	9	80	0	76	4	8	30	8	0
10 月	7	64	0	61	5	4	72	4	0
11 月	7	85	0	79	5	8	93	8	0
12 月	8	97	0	90	5	5	63	4	0
1 月	7	70	0	65	3	5	36	5	0
2 月	7	83	0	77	5	9	61	9	0
3 月	9	124	0	108	4	11	18	10	0
計	94	956	2	884	50	77	552	73	0

在宅・福祉奄美ブロック

2024 年度は初めてブロック全体の事業計画を策定し、計画に基づき遂行した。外部環境では医療・介護・障害福祉のトリプル改訂であったが、障害福祉サービス改定の中で、児童発達支援センターの中核機能並びに就労支援事業の賃金向上が報酬上評価され、ブロック全体の経営安定化に大きく寄与した。一方介護保険事業は安定的な運営を目指し従来の個々の経験に頼る運営体制から脱却し、チームでの課題解決や、限られた職員数でもサービスを継続ができるよう生産性の向上を目指したが道半ばで年度が終了した。保育事業では 0 歳児の確保は従来と同程度確保することは困難と判断し定員数の変更(120 人→110 人)を決め、春日保育園の歴史的なテーマである、発達の気になる児童への対応強化の為の準備を始めた。

ブロック体制開始 1 年にも関わらず、ブロック全体視点で協力、連携が進んだことは大きな成果であった。奄美佳南園 50 周年記念では全ての施設の職員が協力して行い、高齢事業以外の団体も多数ご参加頂いた。職員の確保についてもブロック全体で取組み、学校訪問、施設見学ツアーを開催し、近年例を見ない 5 名もの新人職員の確保につながった。また報酬改定に伴う処遇改善加算の財源を使い、給与規則の一部見直しを行い、奄美地区の二つの給与規則の格差を是正した。これらの取組は今後、奄美地区で働く職員の愛着心の向上や、専門性の向上、働き続けられる仕組み作りであると考え、次年度も成長とやりがいを醸成していきたい。

【奄美佳南園】

1. 見守りシステム、インカム、ICT 機器の活用を始め、多くの職員が参加できるよう生産性向上委員会を設置した。業務負担軽減、サービス向上の可視化や効果検証を今後検証する。
2. 報酬改定に伴い、新たな加算の取得に努める。また、サービスの質の向上の為、排せつ・褥瘡の加算は 100%取得、看取り加算は 6 名の加算を取得した。
3. 奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの運営統合を実施し経営改善を進めた。
4. 通所介護、訪問入浴、居宅介護支援、訪問介護の担当で「奄美在宅会議」を開催し、互いの稼働率向上、訪問入浴の廃止、訪問看護の開始検討を決定する。
5. 聖隷チャレンジ工房の工賃向上を達成し報酬増を達成する。また、今後更なる賃金向上の為、新作業として、奄美の風土に名指した加工食品の開発検討をスタートする。就労継続支援の継続については引き続き検討する。

【春日保育園】

1. 園児の受入に努力したが明確な計画できず、稼働率も予算を達成できなかった。
2. 奄美市保健師やのぞみ園と連携し、地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち(13 名)を受入れ、個別支援計画を立案し個々に合わせた保育を実践した。
3. 奄美市と協議し 2025 年度より 0 歳児の定員を減らし 120 名から 110 名とすることを決定する。老朽化した園の大規模修繕について協議を行った。

【のぞみ園】

1. 児童福祉の中核機能として他機関との連携を継続したことが評価され、こども家庭庁が

作成した「障害児支援体制の手引き」の中での離島における中核的機能の事例としてのぞみ園の取り組みが掲載された。

2. 臨床心理士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等の専門職の採用活動を行うが直接雇用には至らなかった。但し、地域の臨床心理士との業務委託契約を締結することができた
3. サービス提供時間に基づく報酬改定に対応する為に長期休暇中のこどもの居場所作りとして放課後デイサービスを一部日中一時支援事業にすることで受け入れの確保と、安定した収益を確保することができた。
4. 春日保育園の定員減に伴う、空き部屋利用として児童発達支援事業（定員 10 名）の新たな拠点の計画の検討が始まった。

【聖隷かがやき】

1. 児童発達支援利用者の増加に伴い、子どもの年齢や特性に即した環境作りとして 3 編成クラスから 4 編成クラスとより丁寧な支援体制づくりを行った。
2. 5 領域における総合的な支援として個別支援計画をご家族に説明したり、ペアレントプログラムを実施する等家族支援の強化に努めた。

【共通】

1. ブロック全体で未収金管理マニュアルを策定し、過去の未収金について一度清算した。
2. 職員の超勤、有給取得、再検査受診について奄美ブロック会議で共有できなかった、報告する仕組みを次年度進めたい。
3. 事務集約拠点の奄美佳南園の機能の見直しや食事サービス部門の一体的な運営については主要人事の異動等で 1 年間延期した為 2025 年度に取り組む。

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
・訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・聖隷チャレンジ工房カナン

2024年度は介護・障害福祉サービス医療報酬の同時改定、人口減少に伴う人材確保、物価高騰、自然災害等の対応において、全職員が協力し地域の高齢者や障害者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員の努力の賜物である。

開園 50 周年記念式典を開催し、地域への感謝と地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めることを宣言した。

また、奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの統合、職員の業務効率化に向けた介護等記録方法の電子化、見守りシステム・インカムシステムの活用や、利用者の機能訓練の維持向上に向けた理学療法士の配置により、安全で快適な支援の実践、サービスの質の向上に努めた。

一方、年間 40 名の退所への対応が厳しく、今後の施設運営の大きな課題となり、全職員一丸となって入所待機者の早期入所へ向け取り組む。

2025 年度は聖隷の理念と先人たちの実践を継承し、職員のつながりを大切にし、利用者の自立支援に向け整備した ICT 機器の更なる活用やノーリフト化を推進した科学的介護の実践に共感する人材を確保・育成し、利用者の安全並びにさらなる業務の効率化やサービスの改革、職員のやりがいの向上に努めるとともに、経営基盤の強化のために在宅サービスの再編、奄美ブロック内の事務・給食等の共通業務の集約・効率化に向けた体制の整備に向けて検討・着手する。

【事業実績】

1. 利用者満足向上のための取組として

- (ア) 春日デイサービスセンターを奄美佳南園デイサービスのサテライト化とし、サービスの継続に努めた。
- (イ) 離島地域による職員の研修参加が厳しい中、外部講師を派遣し、利用者の尊厳を大切にした研修を実施し、職員の知識・技術向上のためにサービスの質の向上へと努めた。
- (ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために導入した ICT 機器・介護機器を活用し、録画した映像を確認・分析を実施し、事故の再発防止に努めた。
- (エ) 認定特定行為業務従事認定者 3 名増員し、夜間帯においても喀痰吸引等への体制整備を強化した。
- (オ) 離島奄美での希少職種となる理学療法士を静岡ブロックから異動・配置し、利用者の健康維持・安楽な姿勢に向けた支援に努めた。

2. 職員満足向上のための取組として

- (ア) 導入した ICT 介護機器のさらなる活用に向け、生産性向上委員会を設置し P・D・C・A サイクルを実施した業務の負担軽減や効率化に努めた。
- (イ) プリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、福祉サービスの質の向上と離職率の防止に努めた。
- (ウ) 求人活動として学校訪問、バスツアー、JOB カフェマッチング、ガイダンスを実施し、正規職員の採用（新規 3 名・中途 6 名）ができた。

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築として

- (ア) 利用者の健康・生活機能維持に向けた加算取得（看取り、褥瘡ケア）に向け、進捗管理を徹底し、排せつ・褥瘡の加算は100%取得、看取り加算は6名の加算を取得した。
- (イ) 利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問系サービス（身体介護中心のサービス 86.8%）の提供を実施した。
- (ウ) 就労支援事業では離島条件による就職困難な中において一般就職1名につなげることができた。
- (エ) 就労継続支援利用者の工賃向上を目標とした新規メニュー開発を開始した。
- (オ) 台風等における定期船の運航停止においても食事提供が継続可能となるようにローリングストックを実施した。
- (カ) 職員の健康推進の為、職員休憩室内にリクライニング式ソファ等を設置し、夜間に勤務する職員が休息できるよう環境の整備を実施した。

4. 地域における公益的な取組として

- (ア) 福祉拠点施設の経験や機能を活かし、行政と共に介護者教室・健康づくり教室等を毎月開催した。
- (イ) 地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮等への支援に関する課題の解決に向けた会議等を開催した。
- (ウ) 生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチとして職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供した。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		在宅介護支援センター	
	従来型	ユニット型	従来型	障害		
利用者定員	50 名	30 名	10 名			
利用者延べ人数	16,611 名	10,364 名	3,610 名	104 名	1,520 名	
一日平均利用者数	45.5 名	28.38 名	9.89 名	0.26 名		
稼働率	91.0%	84.06%	98.9%	2.85%		
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	237 日	
単価 （一人一日当り）	13,378 円	15,543 円	13,639 円	13,265 円		
職員数（常勤換算）	37.5 名	22.3 名	3.1 名		1.1 名	
	奄美佳南園デイサービス			就労支援		
	通所介護	総合事業	生活介護	移行支援	継続B	
利用者定員	30 名			6 名	14 名	
利用者延べ人数	4,559 名	1,678 名	531 名	769 名	3,879 名	
一日平均利用者数	17.67 名	6.50 名	2.06 名	2.99 名	12.59 名	
稼働率	58.9%	21.68%	6.86%	49.87%	89.96%	
稼働日数（延べ）	258 日	258 日	258 日	257 日	308 日	
単価 （一人一日当り）	9,715 円	5,708 円	5,446 円	13,318 円	12,670 円	
職員数（常勤換算）	10.1 名			8.1 名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		居宅介護支援	
	介護	障害	介護	障害	介護	予防
利用者延べ人数	216 名	124 名	3,898 名	792 名	650 名	108 名
一日平均利用者数	1.24 名	0.71 名	10.74 名	2.18 名		
稼働日数（延べ）	174 日	174 日	363 日	363 日	232 日	232 日
単価 （一人一日当り）	17,085 円	12,864 円	4,730 円	5,022 円	14,228 円	4,415 円
職員数（常勤換算）	2.6 名		6.6 名		2.3 名	

春日保育園

2024 年度は乳児、幼児ともに 109 名の受け入れとなった。0 歳、1 歳が当初予算に対し定員未達に加え 5 歳児が前年度人数に対し半分以上となり、運営は厳しいものであった。そのような状況下でも保護者参加型の保育や行事を開催することができ、こどものありのままの姿を保護者と共有できた時間はかけがえのないものとなった。そして、行事は日々の保育実践に対して保護者の理解を得る場であることから、目的やねらいを明確にし、こどもの育ちをどのように保護者に伝えるか等、職員間で考え発信できる機会となった。また、個別支援を必要とする園児も年々増加傾向にある中、療育や就学へのつながりを職員が真剣に取り組み、こども一人ひとりを大切に思い丁寧に対応することができた。保育システム（コドモン）の導入に向け、職員の業務省力化と保護者とのコミュニケーションツールとして準備を進めてきた。職員と共にシステムを最大限活用できるよう取り組んでいく。今後、個別支援が必要な園児の受け入れ体制強化として発達支援事業の開設を視野に 2025 年度は、利用定員を 110 名とし、こどもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い保育事業を継続する。

【事業実績】

1. 保育の質向上への取り組み

- (ア)施設理念を確認、意識することに努めた。また、個々の発達を考慮しながら保育を実践し、職員間で情報共有を重ね、こども一人ひとりに丁寧に関わることに努めた。
- (イ)保育研究を継続し奄美福祉学会や宝塚保育学会で成果発表することができた。また、キャリアアップ研修を職員 8 名が積極的に受講、取得し保育実践に努めた。
- (ウ)保護者参加型の保育や行事を計画的に開催し、園と保護者との相互理解に努めた。さらにこどもの発達において様々な経験をする事の大切さを保護者に伝えることができた。

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア)地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち（13 名）を積極的に受け入れると同時に、個別支援計画を立案し個々に合わせた保育を実践した。
- (イ)親子教室を月 1 回開催し、親子の時間を大切にしながら保護者同士のつながりも深めることが出来た。また職員が計画立案し進行、実践する経験を重ね、自信へと繋がっている。
- (ウ)2025 年度より定員 110 名の申請を奄美市へ提出した。
- (エ)奄美市保健師やのぞみ園との連携により、療育の必要な園児 6 名を 2025 年度利用へつなぐことが出来た。

3. 働きやすい職場環境の整備

- (ア)職員同士のコミュニケーションを促し、レクリエーション企画を実施し交流を図ることができた。
- (イ)業務内での事務作業を部分的に実施。保育記録業務の省力化に向け、コドモン勉強会を

定期的に行った。

(ウ)保育室を離れ休憩できるよう、休憩室を整備する。職員同士、声を掛け合い、休憩への意識付けを継続的に進める。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 保育園見学希望を随時受け入れた。また、地域子育て家庭への園庭開放を実施した。

(イ) 中高生の職場体験（5 校 14 名）やボランティア（2 名）を受け入れ、次世代育成へつなげるとともに保育の魅力を発信することに努めた。

(ウ) 地域自治会が開催する「こども祭り」、「夏祭り」、「敬老会」へ園児（年長）と参加し交流を図ることができた。

【経営実績】

歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳	5	5	7	7	8	9	10	10	11	11	11	11	105	8.7
1 歳	17	18	19	19	18	19	19	19	19	19	19	19	224	18.6
2 歳	22	24	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	278	23.1
3 歳	20	20	21	21	22	22	21	21	21	21	21	21	252	21
4 歳	21	22	22	22	23	23	23	23	23	23	22	22	269	22.4
5 歳	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
計	98	102	106	106	107	109	109	109	110	110	109	109	1284	107.0

保育日数及び出席状況（

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ数（名）	1756	1931	2034	2188	1664	1855	2206	2022	2046	1864	1851	2051
保育日数（日）	23	24	25	26	24	22	26	24	24	23	22	25
一日平均（名）	76.3	80.4	81.3	84.1	69.3	84.3	84.8	84.2	85.2	81.0	84.1	82.0
延長保育（名）	32	66	75	68	71	56	71	67	57	58	54	67

職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正. パ)	17.9	17.9	16.9	16.9	16.9	16.9	16.9	17.3	17.3	17.3	17.3	17.3
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.8	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
准看護師（パ）					1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助(パ)	1	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計（換算数）	24.7	25.9	24.9	24.9	25.9	25.9	26.9	27.3	27.3	27.3	27.3	27.3

のぞみ園

児童発達支援センター、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、相談支援

2024年度は、障害福祉サービスの報酬改定に加え、物価高騰や賃金上昇、人材確保の課題など様々な社会変化への対応と、児童発達支援センターとしての機能強化、次の組織編制に向けた体制作りに取り組んだ1年であった。また、こども家庭庁が作成した児童発達支援センターの役割を明確に示した「障害児支援体制の手引き」において、離島という環境で行政と連携しながら、地域における中核的機能を発揮している児童発達支援センターの事例としてのぞみ園の取り組みが掲載されたことは、開設当初から親子の願いに真摯に向き合い地域と共に発達支援に取り組んできた成果を実感する出来事であった。

2025年度は、2024年度の目標として掲げた「チームビルディング」を引き続き推し進めていくと同時に、人材確保や育成、共通業務の集約化など奄美ブロック各施設との連携体制を強化していくことで、継続的に発生するであろう社会変化への対応力を高め、安定した経営基盤の構築と、児童発達支援センターとしての更なる機能強化を推し進めていく。

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化

(ア) 発達検査や関係機関との情報交換などを通して、多職種・他機関と連携してこどもの発達段階や困り感に沿った発達支援を実践すると同時に、公開療育を通して地域の支援者に発達支援の大事さを伝えることができた。

(大学助教授との事例検討会：年3回・関係機関との情報交換会：6事業所・就学前児、学童期児童の発達検査：23名・公開療育：5回開催)

(イ) 親子登園や保護者向け勉強会（年3回）、就学前保護者面談、兄弟も参加できる行事の開催（運動会・わくわく放デイ交流会）などを通して、保護者支援に取り組むことができた。

(ウ) 地域支援の取り組みを、年間を通して実施することができた。

(自立支援協議会子ども部会運営委員、教育支援委員、奄美市こども子育て会議、保育人材確保に向けた官民連携円卓会議参画・奄美市親子教室職員派遣：年36回・乳幼児発育発達クリニック・療育等支援事業施設支援講師派遣・関係機関視察研修受入)

(エ) 報酬改定に対応した加算取得（中核機能強化加算）と、サービス提供時間に基づく改定に対応する為に長期休暇中のこどもの居場所作りとして放課後デイサービスを一部日中一時支援事業にすることで受け入れの確保と、安定した収益を確保することができた。

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

(ア) 職員の資格取得推進と、奄美ブロックとしての県内外求人活動を実施し、2025年度からの職員採用をすることができた。

(イ) 役職者育成（課長補佐：1名、係長：2名）、事業団のキャリア研修や外部研修参加に合わせた事業所視察（年8回）を実施した。

(ウ) 働きやすい職場作りを目標に掲げ、職員が自身や家庭のことで必要な休みを調整しやす

い職場風土づくり（有給消化率：57.99% 平均有給消化日数：12.7日）と職員交流（船漕ぎ大会出場・職員家族交流会・くろうさぎツアーの開催）を実践した。

3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

- （ア）公益的取組みとして地域向け親子教室を無料で開催し、地域の子育て支援や保護者の「気づき」へのアプローチを実践した。
- （イ）福祉体験・実習の受け入れ・保育祭りへの参加などを通して、療育支援についての理解を広める活動を実践できた。
- （ウ）防災備品の整備と保護者会合同の防災研修（地域の防災環境などを学ぶ）を開催した。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25 名	—	20 名	—	—
利用者延べ人数	6,029 名	31 名	4,315 名	17 名	364 名
一日平均利用者	25.1 名	—	18.0 名	—	—
稼働率	100.4%	—	90.2%	—	—
稼働日数（延べ）	240 日	—	239 日	—	—
単価（一人1日当り）	16,351 円	19,516 円	8,811 円	17,176 円	23,291 円
職員数	16.5 名	0.8 名	8.2 名	3.6 名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター

放課後等デイサービス

相談支援

2024 年度は報酬改定や制度の変化の対応に児童発達支援センターとしての中核機能の役割を果たすため地域へのニーズへの取り組みや研修への参加、勉強会など職員が一丸となって取り組んだ。また、「開かれた療育施設」として施設を開放し、情報交換や療育現場の見学など「療育」への理解促進にも努めた。不登校児への対応も学校や地域との連携を図り取り組むことで関係性を良好に保ち福祉と教育のかけ橋の支援施設として存在を確かなものにできた。これも職員一人ひとりが質の向上を目指し私たちにできることを精いっぱい取り組んできた結果である。

今後も聖隷かがやきが地域から必要とされ、なくてはならない施設としてあり続けられるように邁進していきたい。

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ①子どもの年齢や特性に即した環境作りとして児童発達支援では 3 編成クラスから 4 編成クラスとより丁寧な支援体制づくりができた。
- ②5 領域における総合的な支援として個別支援計画の説明を保護者へ行い、課題を共有することで家庭でも適切な関わりの支援につながった。
- ③早期療育から支援を積み上げ、学童期への移行にインクルージョンの推進として取り組むことができた。

(イ) 家族支援

- ①ペアレントプログラムに 5 名の保護者が参加。保護者同士の交流の場となり孤立感を抱える保護者支援となった。
- ②保護者勉強会では心理士による研修を対面やリモートで 3 回実施し、子どもの理解に結びつき、将来への見通しを持った子育てへの視点につながった。

(ウ) 地域支援

- ①地域の保育所、幼稚園、学校向けに施設を開放して支援の様子を見学してもらい、支援の取り組みを紹介した。療育施設の理解に結びついている。
- ②行政と連携し地域の保育所へ「遊びの広場」として親子遊びの提供を 9 回実施した。親子の触れ合いの場として定着してきた。

(エ) 経営の安定化

- ①早期療育の理解が広がり低年齢児新規が増加し稼働率が向上した。(前年度比 120.7%)
- ②地域における健診後のフォロー体制が構築され、新規 12 名の内 4 歳以下 9 名の受け入

れにつながった。

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

(ア) 事業所交流として奄美エリアツアーや子ども会議等を通し、顔の見える関係性が深まり職員の定着となっている。

(イ) 職員の人材育成や業務上必要とする資格取得に向けたリモートによる講習受講に 6 名が取り組むことができた。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て支援として、施設での親子遊びを提供した。

(イ) 隣接する地域の企業との防犯、災害時協定を結び協力体制を構築した。

(ウ) 奄美看護福祉専門学校実習生 1 名受け入れ、次世代の福祉人材育成に寄与した。

【数値実績】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名	—	10 名	—	—
利 用 者 延 べ 数	4,416 名	15 名	2,392 名	186 名	132 名
稼 働 延 日 数	242 日	240 日	243 日	240 日	240 日
一 日 平 均 利 用 者 数	18.2 名	—	9.8 名	—	—
稼 働 率	91%	—	98%	—	—
単価（1 人 1 日当り）※	15,395 円	16,200 円	10,645 円	22,280 円	21,083 円
職員数（常勤換算）	9.5 名	0.1 名	5.1 名	0.9 名	0.3 名

※障害児相談支援、特定相談の単価は 1 人 1 月当り

法人本部

2024 年度は、6 年ぶりの医療・介護・障害福祉のトリプル報酬改定が実施された。これに加え、大幅な人件費増、物価高騰と近年、類のない外部環境変化による非常に厳しい経営環境の中、社会的要請への継続的対応をするため、業務改革および組織基盤の強化に注力した 1 年であった。

総務部では法制度や労務環境の変化を受け、福利厚生制度や給付金の見直し、法務リスクへの対応力を高めるべく法務室を新設した。加えて、電子契約の導入や人事給与システムのベンダー変更を決定し、今後の DX 基盤の整備を本格化させた。

人事戦略では、多様な働き方を進め、育児短時間勤務制度の拡充、採用エントリーを容易にする応募書類の WEB 化（履歴書等）を導入した。さらに外国人材の確保・定着をより促進するため、「聖隷国際人材センター」の設置を決定した。また、「キャリアデザインⅡ研修」、「聖隷発祥の地 視察研修」、「リーダー1 研修」等、新たな研修コースを開始し各階層の育成体制の再構築を図った。

財務面では、分散投資による安定的な資産運用を継続しつつ、関連法人への財務支援体制の整備も進め、グループ全体の経営基盤を支える取り組みを行った。

IT 領域では、総合情報システム部で EDR の導入、SOC 監視体制の整備を行い情報セキュリティの強化を実現した。AI 議事録作成やノーコード開発の試行を通じ、業務の効率化にも着手した。

経営企画分野では、報酬改定対応、病床再編、施設整備の支援を通じて、中長期的な視点での機能の再構築を進めた。あわせて、地域連携の強化、広報体制の再編、「聖隷みらい創造プロジェクト」推進など、事業部間を超えた横断的な連携体制の構築にも取り組んだ。

健康推進室では保健指導、女性の健康、睡眠改善など具体的施策を展開し、職場の健康づくりとメンタルヘルス対応を強化した。その結果、「健康優良法人」認定も再取得した。

今後も、各部門が緊密に連携し、柔軟かつ持続可能な組織運営を通じて、社会的責任の遂行と地域への価値提供を推進していく。

※EDR(Endpoint Detection and Response)：パソコンやサーバーでの不正な動きを検知し、対応を支援するサービス。

※SOC(Security Operation Center)サービス：24 時間 365 日でサイバー攻撃を監視し、検出・対応するサービス。

【各部の報告】

《総務部》

2024 年度は、行政監査を契機として、福利厚生を担う聖隷互助会の在り方や各種給付金制度を見直しする 1 年であった。

大規模広域法人としての強みを活かした仕組化の推進については、2024 年 7 月に法務室を設置し、リーガルリスクに対するマネジメント体制を強化することができた。また、2026 年 2 月に更

新する人事給与システムのベンダー選定を実施し、BPO を推進していく。

ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進としては、福利厚生制度として選択制確定拠出年金（DC）が未導入であった奄美地区で開始することができた。全体での加入率は約 20%強であり、引き続き加入促進を行う。また、人事院勧告による処遇改善に対応し、多くの職員の処遇改善を実施した。

聖隷 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進については、ほぼ全ての施設で G ビス ID を取得し、行政手続きの効率化を推進した。また、法人本部内ではノーコード開発ツールの活用により、紙面管理を減らす取り組みを推進することができた。また、電子契約ツールの導入を決定し、2025 年度は活用拡大を進めていく。

《人事企画部》

2024 年度は人件費の高騰や物価の上昇などの影響を受け、人材確保の競争が激化した。医療・福祉業界も労働力不足は深刻な課題であり、様々な世代が働きやすく・働きたくなる環境づくりに注力した 1 年であった。

人事制度では育児・介護休業法の改定に伴った「短時間勤務」と「始業時間等の変更」の 2 つの措置を講じる。2024 年度は職種限定で育児短時間制度の対象者を「小学校就学前の子を養育する職員」まで拡大し、先行導入した。さらに育児短時間制度の対象者の拡大と「始業時間等の変更」について検討している。その他、役職定年制度の改定、エルダー制度の改定による処遇の改善を行った。

職員の採用は各施設の職員の充足を目指し活動した。新卒向けの採用活動では多くの学生と接点を持つため SNS を活用し、合同説明会等では施設見学を促進することで見学者数・応募者数の増加に努めた。中途採用は SEO（Search Engine Optimization：検索結果で自社のサイトを上位に表示させる取り組み）対策により応募の流入経路を拡大・強化した。また WEB 履歴書を導入し、応募者の 4 割が活用する状況になった。WEB 履歴書は採用課が速やかに介入でききるため、選考前の辞退にも効果がみられた。障がい者雇用は法定雇用率が未達の施設に働きかけ、在宅・福祉静岡ブロックの就労継続支援 A 型事業所利用者の直接雇用などに介入した。

外国人材の採用では、12 月に 2024 年度入職の EPA 介護福祉士候補者 6 名（インドネシア）を迎え入れた。9 月には 2025 年度入職予定の EPA 介護福祉士候補者 6 名（インドネシア）とマッチングが成立した。また EPA 介護福祉士候補者 1 名が特定技能 1 号外国人へ在留資格を切り替えて就労を継続した。2025 年 1 月に国家試験を受験した EPA 介護福祉士候補者のうち 3 名が在留資格を特定技能 1 号外国人に切り替えて就労を継続する。留学生から介護福祉士国家試験に合格し、在留資格を介護に切り替えた介護人材は 4 月に 8 名（ミャンマー 1 名、中国 3 名、ベトナム 2 名、タイ 2 名）入職した。2029 年度入職予定の留学生 16 名（ミャンマー 14 名、ベトナム 1 名、韓国 1 名）に対し、奨学金貸与が決定した。2025 年度から特定技能 1 号外国人の受け入れ拡大に向けて、特定技能 1 号外国人（介護）13 名（インドネシア 12 名、フィリピン 1 名）を採用する。外国人材に関しては 2025 年 4 月に聖隷国際人材センターを立ち上げ、事業団内のすべての在留資格に対する採用・育成・定着の業務を行う。

職員の育成では、計画に沿って階層別研修を実施した。2024 年度は新たに 50 歳の職員を対象に自分自身のキャリアを振り返る機会とする「キャリアデザインⅡ研修」、事業団の発祥の地で

その起源を知り、基本理念の理解を深める「聖隷発祥の地 視察研修」、経営者の育成を目的とした「リーダー1 研修」を開催した。外部研修事業では従来の研修に加え、外国人の介護職員を対象とした介護福祉士実務者研修を企画し、2025 年 4 月に開講する予定とした。

少子・高齢化の進展により、医療・福祉人材の確保は極めて重要な社会課題である。人事企画部では職員の採用・定着に向けて一層取り組みを強化する。また事業団の育て合う文化を継承し、より育成に注力できる組織のしくみを再考し、社会や地域の人々へ貢献できるよう努める。

《財務部》

物価高騰、金利上昇が続く経済環境の中、効果的な資金活用、経理業務の効率化、集約化に注力した一年であった。

効果的な資金活用としては、投資に対する資金調達時の金利状況や資金状況を踏まえた上で、自己資金とするか、外部からの調達とするかについて、柔軟に対応する事が出来た。また、物価高騰に対応する形で、短・中・長期のバランスを意識しながら、安全で効果的な資金運用を実施し、一定の成果を上げる事が出来た。今後、大型の投資案件も控え資金需要が高まっていく中、戦略的な財務管理を実現出来るよう取り組んでいきたい。

経理業務の効率化、集約化については、3 段階によるマスタープランを策定したが、関係部署との調整が進まず、まだ実行には移せていない。経理職員の高齢化などが進んでいる中で、効率化や将来の経理職員育成のためにも、推し進めていきたい。

最後に、関連法人支援については、今年度多くの時間を割いた。医療・福祉を取り巻く環境がますます厳しくなる中、事業団のみならず、関連法人も含めた支援を総合的に行っていきたい。

《総合情報システム部》

2024 年度事業計画では、情報セキュリティ対策の強化、インフラ整備、人材育成、DX 推進、IT-BCP の体制整備などを掲げ、多岐にわたる施策を実施した。事業団内の情報システム内部監査についても 15 施設へ実施した。

情報セキュリティ対策の強化としては、事業団内 11,000 台の端末に EDR を導入し、SOC による監視体制を確立した。1 年間を通して重大な事案は発生せず、情報セキュリティの向上に貢献していると考ええる。また、インターネット環境の全面更新を行い、回線速度の増速を実現した。静岡県内拠点を接続する専用回線の見直しも継続中であり、更なる速度向上とコスト削減が見込まれる。

職員への情報セキュリティ意識向上に関する取り組みとしては、毎月のセキュリティニュース発行や標的型メール攻撃訓練を実施し、職員の情報リテラシー向上に努めた。

人材の育成面では、若手職員の技術向上に注力し、プロジェクト参加や勉強会開催などの機会を提供した。情報部門職員アンケート（UISS）の結果を活用し、適正な人員配置に努めるとともに、高度な情報技術を持つ職員の採用強化と離職防止のため、情報技術手当を含めた処遇改善について検討した。

DX 推進に関しては、各事業部の将来構想実現に向けた支援を実施している。AI や IoT などの最新技術の活用も進め、AI 議事録システムの導入や生成系 AI の検証、見守りシステムの導入支

援などを行った。また、ノーコードツールを利用した業務システムの開発も着手した。

利用者サービスの向上として、浜松地区を対象に利用者情報統合の検証を実施し、特定範囲での効果が実証された。しかしながら、効果は特定の範囲に限られることも判明したため、今後の進め方は再度検討することとした。

IT-BCP では、CSIRT（セキュリティインシデント対応チーム）の体制整備も継続し、緊急時の情報システムメンバーの情報共有ツールを導入した。引き続き、事業団内における情報資産の適切な管理と、災害やサイバー攻撃などの緊急事態が発生しても、業務への影響を最小限に抑えられるような体制の構築に努めていく。

※UISS(Users' Information Systems Skill Standards)：情報処理推進機構で策定している情報システムユーザースキル標準。

《総合企画室》

報酬改定対応について在宅・福祉では速やかな情報収集・法人内算定状況の情報提供を行い、早期に安定化できた。医療事業では、外来患者の減少や病院機能の見直しが迫られる中、関連法人を含む病院支援を継続し、新設された地域包括医療病床の要件分析や取得支援を行い、聖隷淡路病院（兵庫県で5番目）、聖隷富士病院（静岡県で2番目）で算定を開始した。

将来の事業展開のため、他県の社会福祉法人事業譲受や既存施設近隣土地取得の検討も行った。特に関連法人恵愛会の事業継続支援では健診事業の譲渡企画を立案、計画し、健診事業部としても有益となる事業拡大の枠組みづくりをした。

2025年2月、聖隷三方原病院・聖隷浜松病院合同臨床研修制度20周年記念同窓会を支援し各病院の医師採用の機会づくりを行った。医療・介護連携実践では淡路地区で医療介護連携会議を開催し、退院支援の促進、福祉施設稼働率上昇等を実施した。「聖隷みらい創造プロジェクト」では、ブランディングアンケートの実施、利用者情報の統合化検討、総合相談でのチャットボット導入、副業・兼業制度の導入等、各部門で検討が継続されることとなった。

ICTの運用支援では介護保険基幹システム更新、並びに、訪問看護事業におけるオンライン資格認証・請求システムが開始され導入支援を行った。森町愛光園大規模修繕事業、宝塚就労支援事業等新規事業の補助金申請、整備の支援を行った。

秘書業務として外部団体役員業務、各種式典、講演資料等作成を行った。2024年度より理事長が静岡県西部経営者協議会会長に就任し、事務局業務並びに講演会を実施した。役員への速やかな情報提供として、モニタリング会議の開催、投資管理委員会の事務局を担った。「社内報聖隷編集委員会」を「聖隷広報委員会」へ名称変更し、機関紙、ホームページ、アプリを一体的に推進する体制を整えた。(2024年度末27,800件)

公益的な取組としてSDGs出前事業の実施（年5回）、日本骨髄バンクのドナー登録協力として、語り部講演会、ドナー登録会を3施設にて開催した（参加者113名、ドナー登録者20名）。また、就労支援として、総合情報システム部と協力し法人内PC（310台）レンタルiPadの初期設定（176台）、法人関連の書類のOCR化（721枚）を浜松学園に委託し、利用者の作業化を行った。

《健康推進室》

健康推進室は、①職員の安全と健康を確保②重症化予防③メンタルヘルス推進施策の実行を目

標とし活動した。

2023 年度健康経営優良法人認定制度の「ホワイト 500」を自主返納している。2024 年度は法令遵守を強化し、認定申請要件に抵触することなく「健康優良法人」に認定された。総合順位は、651～700 位/3869 社中であつた。全体の偏差値 59.7 であり、「ホワイト 500」取得の目安である 62～63 には及ばなかつた。制度・施策実行の偏差値が 58.4 と特に評価が低かつた。保健指導の強化、女性の健康推進、仕事と育児・介護の法律を上回る施策実行を強化することが必要である。一方で、健康保険組合が職員に提供しているペップアップを利用することで、ウォーキングラリーを開催し、職場におけるコミュニケーションの活性化、健康情報提供によるヘルスリテラシーの向上を図ることに繋がっている。

また、メンタルヘルス推進施策にも繋がる睡眠改善プログラムの提供は 2 年継続しており、利用者も増加した。睡眠のセミナーも視聴し、睡眠の最新情報を得ることで睡眠の新たな知見を得ることもできた。3 年目となる 2025 年度は成果を出す年として取り組んでいく。更にメンタルヘルス対策として、「インシビリティ」という新しい概念のセミナーを提供し、運営会議、看護責任者会の各メンバーにロールプレイを実施してもらった。動画研修も配信しこれを機に多くの職員に浸透させていくきっかけとなったと思われる。こちらも継続した施策を実行していく。

2025 年度は、「ホワイト 500」取得及び、健康管理の基盤となる健診システムの導入に向けて取り組んでいく。

《監査室》

2024 年度は当初の予定通り 58 施設に対して往査を実施した。総指摘数、一施設当たりの指摘数ともに前年度を下回り、良好な内部統制が維持されていることを確認した。

改善報告受領時に改善未完だった項目につき、年度末に一斉に進捗を確認する取り組みを開始した。これにより指摘が一過性に終わらず継続的な取り組みを促進することができた。

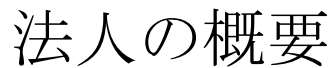
監査に使用するチェックシートを随時更新し、監査の精度を向上させることができた。

《シェアードサービスセンター》

シェアードサービスセンターは在宅・福祉各ブロック、保健事業部、法人本部の労務管理業務及び施設管理業務を集約する部署として新設され、2 年目を迎えた。2024 年度は業務移管時の混乱から体制を立て直し、人員も安定したことから、業務の標準化を進めることができた。

労務管理業務は、在宅・福祉各ブロックと協議をすることにより、業務分担を明確にし、ペーパーレス化、業務効率化を進めた。また、更なる集約化に向け高齢者公益事業部と労務業務の移管に向けて協議を開始した。

施設管理業務は、業務用車両、ベッドの共同購入に向け、全事業部に情報共有を行ったことにより、共同購入を進め費用削減に寄与することができた。また、2027 年 3 月に従来の蛍光灯製造及び輸出入が禁止となるため、照明器具の LED 化が急がれる中、静岡ブロック管内の施設や関西ブロック管内の施設において直営工事を施工し、省エネ効果や経費削減に寄与できた。



- 198-

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2025年3月31日現在

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地	施設長	職員数
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	24
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	74
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	14
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	12
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	64
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	145
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	64
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	10
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	76
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	40
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	70
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	57
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	43
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	65
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	35
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	35
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	61
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林 永美	62
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市	田村 健	20
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	伊藤 智之	4
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	34
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	5
障害者支援施設	障害者支援施設みんとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	11
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	39
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	201
障害児入所施設	聖隷チャレンジ工房浜松学園	60	2022年4月1日	静岡県浜松市	松井 亮	32

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地	施設長	職員数
医療保護施設	聖隷三方原病院	940	1942年11月9日	静岡県浜松市	山本 貴道	1,689
保育所	春日保育園	110	1972年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	21
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	20
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	19
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	20
地域子育て支援拠点事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	21
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	23
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	20
地域子育て支援拠点事業	野上あゆみ保育園	—	2008年11月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	19

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
地域子育て支援拠点事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	21
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	23
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	21
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	24
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	20
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	23
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市	高木 智美	19
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	25
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	19
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	20
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	—
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	—
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市	岡 俊明	—
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	10
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	75	1999年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	4
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	9
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	4
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	村上 和文	4
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	6
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	6
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	2
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市	副島 克行	2
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	15
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	7
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	7
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	5
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	35
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	4
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	3
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうっとこ	12	2015年8月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	1
老人デイサービスセンター	淡路栄光園デイサービスセンター	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	9
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人デイサービスセンター	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	8
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	金子 英里	14
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	93
老人短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	14
老人短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	12
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	98
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	145
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	72
老人短期入所事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	10
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	76
老人短期入所事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	40
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	101
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	82
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	57
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	74
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	75
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	35
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	35
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	61
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林 永美	75
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	64
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	高橋 等	6
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	2
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	8
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
老人居宅介護等事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	32
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	橋本 健	7
老人居宅介護等事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	7
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	20
老人居宅介護等事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
老人居宅介護等事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	6
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	7
障害福祉サービス事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	201
障害福祉サービス事業	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	12
障害福祉サービス事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	74
障害福祉サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	14
障害福祉サービス事業	障害者支援施設みとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	11

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	聖隷トライサポート和合	共生型	2019年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	10
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市	小野 英之	10
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	8
障害福祉サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	12
障害福祉サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	40	2021年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	39
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市	岡本 晃輔	7
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	24
障害福祉サービス事業	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	4
障害福祉サービス事業	福祉共同住宅 ファーストステップ	13	2019年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市	中道 景	10
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市	松井 亮	32
障害福祉サービス事業	聖隷ワース工房浜松学園	15	2022年4月1日	静岡県浜松市	山本 誠	5
障害福祉サービス事業	聖隷ステップサポート	20	2022年4月1日	静岡県浜松市	原 正子	5
障害福祉サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
障害福祉サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
障害福祉サービス事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	93
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市	後藤 里奈	10
障害福祉サービス事業	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	6
障害福祉サービス事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	2016年7月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市	長谷川 展之	5
障害福祉サービス事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	40
障害福祉サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
障害福祉サービス事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	70
障害福祉サービス事業	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	15
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	55
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	7
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	57
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	7
障害福祉サービス事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	43
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	32
障害福祉サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	35
障害福祉サービス事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	65

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	橋本 健	7
障害福祉サービス事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	61
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	基準 該当	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	8
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	7
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	8
障害福祉サービス事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害福祉サービス事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年5月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	20
障害福祉サービス事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年10月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
障害福祉サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2017年7月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	6
地域活動支援センター	地域活動支援センターナルド (受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市	白石 知代	3
地域活動支援センター	磐田市地域活動支援センター	—	2022年10月1日	静岡県磐田市	長谷川 展之	3
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	192
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市	大内 基史	—
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市	鈴木 理志	—
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市	松島 秀樹	83
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
障害児通所支援事業	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	8
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センター和合	50	2023年9月1日	静岡県浜松市	井上 佳子	20
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ森町	20	2017年4月1日	静岡県周智郡	望月 緒子	4
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	14
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市	小野田 樹	10
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市	猪原 裕子	7
障害児通所支援事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害児通所支援事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ富丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市	村井 三奈子	6
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	6
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	長谷川 展之	3
特定相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	6
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	3
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	長谷川 展之	3
特定相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	2
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	渡邊 亮介	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害児相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	6
障害児相談支援事業	浜松市障害者相談支援事業所浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	3
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	長谷川 展之	3
障害児相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	2
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	渡邊 亮介	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	23
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	21
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	235	1976年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	24
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	23
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市	高木 智美	19
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	25
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	23
病児保育事業	聖隷こども園めぐみ	4	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	28
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	20
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	23
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	25
放課後児童健全育成事業	オリーブ(聖隷こども園こうのとり東)	—	2015年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	20
放課後児童健全育成事業	野上あゆみ保育園	19	2014年6月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	6
子育て援助活動支援事業	磐田市子育て支援総合センター 「のびのび」	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	藤井 麻由美	2
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市	石川 綾乃	7
複合型サービス福祉事業	聖隷看護小規模多機能横須賀	25	2023年4月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	7

【公益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市	岡 俊明	2,183
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市	昆 博之	440
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市	林 泰広	192
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市	武藤 繁貴	183
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市	野畑 俊介	120
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	140
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	20
医療施設	地域・企業健診センター	—	2008年1月1日	静岡県静岡市	鳥羽山 滋生	149
医療施設	聖隷健康診断センター 東伊場クリニック	—	2023年5月1日	静岡県浜松市	丹羽 宏	—

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市	日置 弥之	3
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	飯田 俊博	13
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市	渡邊 弘美	10
医療施設	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	石田 泰史	25
医療施設	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	24
医療施設	聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市	宮城島 正行	5
有料老人ホーム	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	42
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市	溝口 啓	96
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	80
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市	橋本 美穂	40
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	87
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	43
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	高塚 由紀子	25
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野 智晴	32
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	94
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	82
有料老人ホーム	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	80
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1996年7月22日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	80
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	袴田 直樹	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	94
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイせいいい在宅介護サービス センターペル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	82
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	6
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	94
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	1
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	石田 泰史	25
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	70
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいいい在宅介護サービス センターペル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	8
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいいいケアプランセンター 西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	7
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	82
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	24
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	6

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
ケア付き高齢者住宅	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	80
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井 志乃	7
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	8
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市	山口 美津子	18
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	23
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	5
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	17
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	7
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	27
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口 智恵子	13
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	13
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	5
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	8
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	1
居宅介護支援事業	せいれいケアプランセンター佐倉	—	2019年6月1日	千葉県佐倉市	金子 綾子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市	紋谷 めぐみ	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	市原 夏織	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	澤田石 理恵	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三ヶ日	—	2023年4月1日	静岡県浜松市	百合嶋 征宏	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	深澤 和弘	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	加藤 勇	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市	牧野 光子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市	—	—
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター松戸	—	2004年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	平尾 康充	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	三木 薫	26
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市	筒井 裕美	8
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市	金子 英里	3
居宅介護支援事業	ニッセイせいれいケアプランセンター 西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	7
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	—

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	日下部 大輔	14
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	村田 孝弘	6
福祉用具貸与事業	ニッセイせいいらい在宅介護サービスセンターペル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	日下部 大輔	14
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	村田 孝弘	6
特定福祉用具販売事業	ニッセイせいいらい在宅介護サービスセンターペル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	日下部 大輔	14
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	村田 孝弘	6
特定介護予防福祉用具販売事業	ニッセイせいいらい在宅介護サービスセンターペル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
特定施設入居者生活介護事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	34
特定施設入居者生活介護事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	42
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2000年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	96
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	80
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2000年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	40
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2000年4月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	87
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	43
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野 智晴	32
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・ブラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	枘田 悦弘	94
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・ブラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2000年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	82
特定施設入居者生活介護事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2000年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	80
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松山 美津代	6
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市	石田 真規子	6
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	齋藤 広江	8
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 響子	5
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	4
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市	浅地 香織	6
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	5
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市	森川 亜矢子	15
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	原田 高紀	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島 秀樹	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷淡路病院	—	2014年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいらい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井 志乃	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいらい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	93
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	14
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷トライサポート和合	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	10

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園デイサービスセンター	75	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	山口 美津子	18
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター初生	50	2006年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション高丘	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション細江	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	23
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園 特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	64
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	17
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ほのぼのケアガーデン	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	村上 和文	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 特別養護老人ホーム	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	145
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 デイサービスセンター	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	18
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション貴布祢	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	17
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	72
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 デイサービスセンター	42	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	19
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション浅田	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市特別養護老人ホーム	50	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	133
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市高洲高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市猫実高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	40
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 特別養護老人ホーム	21	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	70
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 デイサービスセンター	34	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	15
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 特別養護老人ホーム	16	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	82
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 デイサービスセンター	30	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 特別養護老人ホーム	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	57
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	34
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	42

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚栄光園	15	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	43
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	32
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	33
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	27
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	18
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷栄光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	75
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	59	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口 智恵子	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	2006年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	35
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本 真史	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園	19	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	35
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園デイサービスセンター	35	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2006年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	橋本 健	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 特別養護老人ホーム	10	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	61
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 訪問入浴事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2006年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	96
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	80
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2006年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	40
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2006年4月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	87
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	43
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野 智晴	32
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	20
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	栢田 悦弘	94
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奈良ベテルホーム	116	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	70
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイせいいれ在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション西大和	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	林 弘美	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2006年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	82
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2006年4月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいう南大沢」(運営受託)	482	2006年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	80
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター (受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	藤川 晴海	6

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	—	2021年4月1日	兵庫県宝塚市	吉川 和幸	4
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	青木 善治	146
身体障害者向け住宅の事業	聖隷厚生園信生寮(シオンハウス)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	1
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	38
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 勇太	14
無料職業紹介事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 勇太	14
訪問リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	松島 秀樹	83
訪問リハビリテーションの事業	聖隷淡路病院	—	2019年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	6
訪問リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
訪問リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	—	2022年6月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
訪問リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	—	2018年10月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	70
通所リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	50	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島 秀樹	83
通所リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	54	2019年4月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
通所リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	45	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
通所リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	47	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	70
短期入所療養介護事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島 秀樹	83
短期入所療養介護事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	61
短期入所療養介護事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	70

【収益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市	青木 善治	146

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

	氏 名	役 職 名	理事会 開催日
理事長	青木 善治	代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長 (一財)芙蓉協会理事長 (一財)恵愛会理事長 (学)聖隷学園理事	4月 12日 4月 26日 5月 10日 5月 24日 6月 7日 6月 28日
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事	7月 12日 7月 26日
理事	鎌田 裕子	常務執行役員・人事企画部長 (福)さくま理事(公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (一財)日本老人福祉財団評議員(一財)恵愛会評議員(福)松浜	8月 9日 8月 23日
理事	服部 東洋男	常務執行役員・総合情報システム部長 (一財)芙蓉協会評議員(一財)恵愛会理事 (福)十字の園評議員	9月 13日 9月 27日
理事	彦坂 浩史	常務執行役員・総務部長 (医)聖愛会常務理事 (一財)恵愛会理事 (一財)日本老人福祉財団理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団理事 (福)小羊学園評議員	10月 11日 10月 25日 11月 15日 11月 29日
理事	平川 健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事 (一財)日本老人福祉財団理事 (医)聖愛会理事	12月 20日 1月 10日 1月 24日
理事	福田 崇典	常務執行役員・医師キャリア支援センター長 (一財)芙蓉協会評議員 (一財)恵愛会評議員	2月 14日 2月 28日
理事	山本 貴道	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事	3月 14日 3月 28日

	氏 名	役 職 名
監事	白木 政幸	
監事	鈴木 睦明	(一財)日本老人福祉財団監事
監事	津幡 佳伸	(福)松浜会理事長(福)神戸聖隷福祉事業団評議員 (福)十字の園理事
監事	松下 秀也	

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

	氏 名	役 職 名	評議員会 開催日
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長	6月 28日 10月 25日 3月 28日
評議員	内山 勝徳	浜松商工会議所理事・総務企画部長	
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま監事	
評議員	小口 明彦	一般財団法人日本老人福祉財団理事長	
評議員	小野田 全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長	
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長	
評議員	小林 信昭	東京海上日動バスターライフサービス株式会社代表取締役社長	
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長	
評議員	鈴木 貴之	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事	
評議員	豊田 泰輔	スズキ株式会社 常勤監査役	

(2025年3月31日時点・五十音順)

附属明細書

該当ありません。